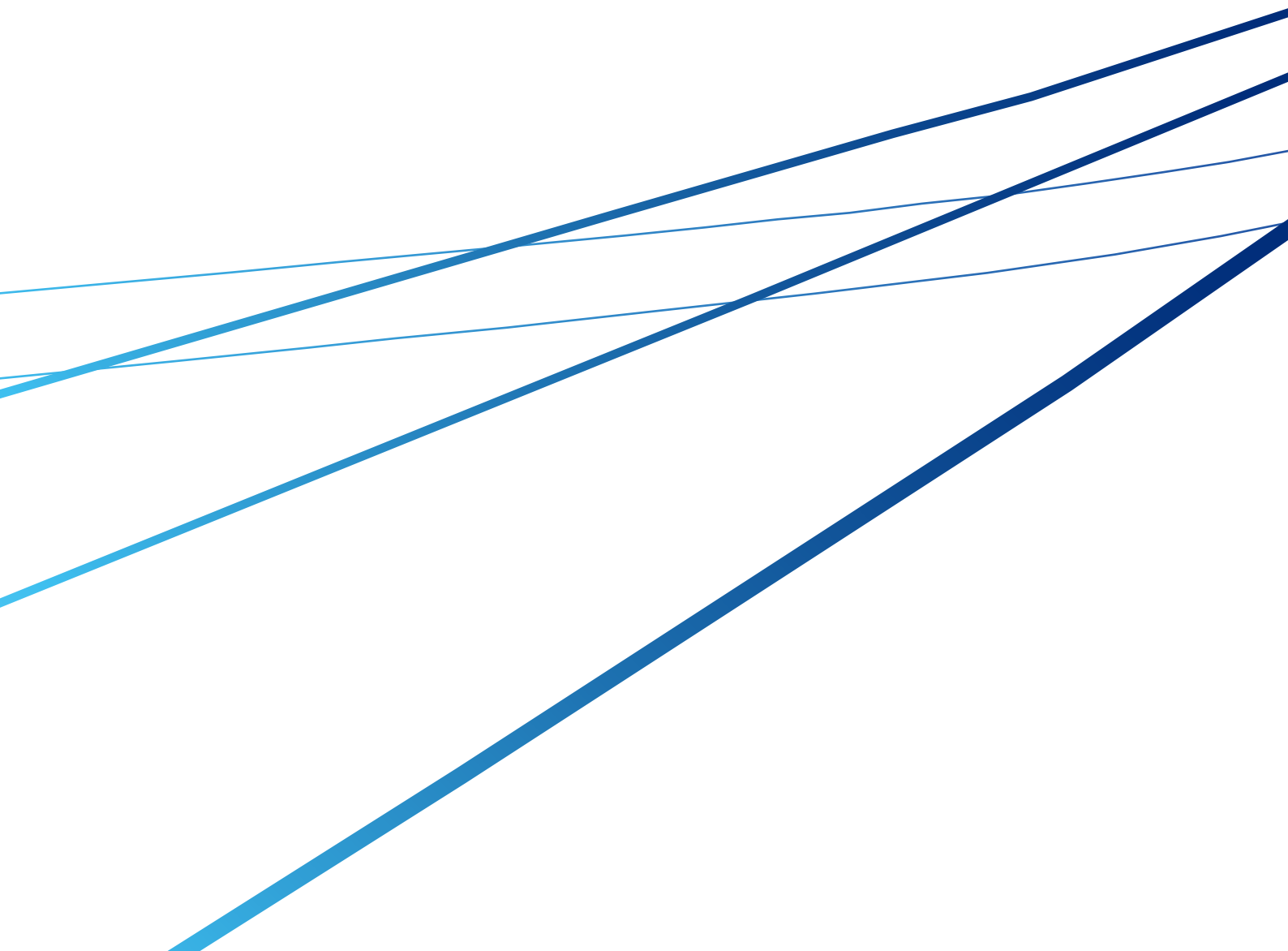


# 筑波大学体育系業績集

2015.1.1~2015.12.31



# 体育・スポーツ学分野

## 教授 岡出美則

### 研究業績

#### 1. 学会発表

中村賢・岡出美則，補助台を用いて振り上げ脚を大きく開く逆上がりの指導法についての研究．第66回日本体育学会，国士舘大学．2015年8月27日

岡出美則，体育・スポーツ担当大臣等国際会議(MINEPS)Ⅲ以降に見る体育の質保証をめぐる論議．国士舘大学．2015年8月27日

中嶋良太・岡出美則・西村三郎，学習者の認識を踏まえたフェアプレイの授業づくり．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会．日本体育大学．2015年9月19日

長谷川悦示・岡出美則・三木ひろみ・宮崎明世・三田部勇，体育授業改善に向けた学習指導過程の視覚化の試み．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会．日本体育大学．2015年9月19日

櫻庭敬己・岡出美則：現職教員の体育授業観の変容可能性の検討．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会，日本体育大学．2015年9月19日

松本祐介・宮崎明世・岡出美則，児童のつまづきを発見することを目的とした捕球動作の観察的評価規準の提案－これまでの評価規準の批判的検討から－．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会．日本体育大学．2015年9月19日

栗田昇平・大西祐二・西村三郎・三田沙織・三田部勇・岡出美則，体育授業における協同学習の学習従事に与える影響－小学校マット運動を対象として－．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会．日本体育大学．2015年9月20日

中原俊樹・岡出美則・栗田昇平・西村三郎，中学校2年生のマット運動の授業を対象とした協同学習モデルの効果の検討．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会．日本体育大学．2015年9月20日

大西祐二・三田沙織・岡出美則，表現リズム遊び・リズムダンス・現代的なリズムのダンスのダンスにおける現状と課題～学習指導要領も導入されてからの文献を対象に～．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会．日本体育大学．2015年9月20日

小磯 透・長岡 樹・中西 純・西嶋尚彦・岡出美則，中学校長距離走授業における生徒の愛校的態度の変化の可能性．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会．日本体育大学．2015年9月20日

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

四方田健二，須甲理生，岡出美則，英文学術誌掲載論文における体育科教師教育研究の研究方法の動向：2002-2011年の10年間を対象として．体育学研究，60(1):283-301，2015

住本 純，岡出美則，現職教員が大学での体育に関する長期研修に参加する動機と契機．スポーツ教育学研究，35(1):15-27，2015

#### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

岡出美則，専門職コミュニティで身に付けるべき知識や技術の創出と共有に向けて．体育授業研究会（編）よい体育授業をもとめて．大修館書店，20-26，2015

岡出美則（編・解説）戦後学校体育指導資料集 全7巻．クレス出版，2015

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

岡出美則：学ぶことの意味．体育科教育．63(7):9．2015

岡出美則：体育科教育学からみた保健科教育学への期待と展望．体育科教育．63(9)：22-25．2015

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

研修コース：2015年度「学校体育」(JICA)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

体育の教育課程に関する調査研究の協力者（2013～）

カンボジア小学校体育科教育 自立的普及に向けた人材育成及び体制構築のための事業 JICA 草の根技術協力事業（草の根パートナー型）協力者（2013年～）

ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂プロジェクト体育専門家（2014～）

スポーツ指導における暴力行為に関する第三者相談・調査委員会委員（委員長）（2014～）

日本フラッグフットボール協会理事長（2014年～）

日本体育科教育学会会長（2015～）

日本スポーツ教育学会副会長（2014年～）

公益財団法人日本学校体育研究連合会理事長（2014年～）

日本体育科教育学会会長（2015年～）

## 教 授 菊 幸 一

## 研究業績

### 1. 学会発表

菊 幸一：嘉納治五郎の魅力を語る—その現代性と先見性—．第98回日本スポーツ学会，東京，2015. 1.

菊 幸一：東京2020に向けたスポーツプロモーション—「ポスト東京2020」を展望する—．（コーディネーター），日本体育学会第66回大会組織委員会企画「学際的シンポジウムⅡ」，東京，2015. 8.

Koichi KIKU: "Melancholy' after Tokyo 2020: Characteristics of Japan's Sport Policy and 2020 Tokyo Olympics & Paralympics"（基調講演）Ostasienwissenschaften - Japanologie der Universität Wien und der Akademische Arbeitskreis Japan, Vienna, Austria, 2015. 11.

菊 幸一：スポーツ組織の公共性と自立性からみた課題と展望．（基調講演），日本体育・スポーツ経営学会第52回研究集会「スポーツ組織の経営を考える：スポーツシステムの新たな展望”ガバメント”から”ガバナンス”へ」，東京，2015. 12.

菊 幸一：スポーツ庁の開設とスポーツ政策—学校体育と生涯スポーツ推進に焦点づけて—．（コーディネーター），日本体育・スポーツ政策学会第25回大会シンポジウム，東京，2015. 12.

### 3. その他論文（報告書等）

菊 幸一：フロントライン教育研究：イギリスにおける体育・健康に関する指導．初等教育資料，922：66-69，2015.

菊 幸一：全体研佐賀大会を終えて—学習と組織のスパイラル—．第59回全国体育学習研究協議会佐

賀大会報告書「つみかさね」, 1, 2015.

- 菊 幸一ほか：体育・スポーツ社会学からみたスポーツ価値意識研究の現状と課題. 平成 26 年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告Ⅲ「新たなスポーツ価値意識の多面的な評価指標の開発—第 1 報—」, 5-31, 2015.
- 菊 幸一：書評・アイヴァン・ウォディングトン／アンディ・スミス著（大平章ほか訳）『スポーツと薬物の社会学』, 図書新聞, 3208（2015 年 5 月 30 日号）: 3, 2015.
- 菊 幸一：高等学校学習指導要領実施上の課題とその改善（保健体育）. 中等教育資料, 952（64-9）: 10-15, 2015.
- 菊 幸一：今こそ「楽しい体育」の原点に立ち返って. 子どもと体育, 169: 14, 2015.
- 菊 幸一, 山口 香, 宮嶋泰子, 高橋修一, 友添秀則: スポーツ庁の設置と学校体育への期待（座談会）. 体育科教育, 83（13）: 20-27, 2015.
- 菊 幸一：セカンドキャリアの求人力. 週刊ベースボール, 71（1）: 71, 2015.

#### 4. 専門家, 学生向け著書（事典, 翻訳書等を含む）

- 菊 幸一：スポーツと学習・教育組織. メディアイベントにおけるスポーツの公共性. 暴力. モノの開発と近代スポーツ. 科学の発達と近代スポーツ. 先端技術開発が及ぼすスポーツへの影響. 科学技術の開発の影響とスポーツの課題. 中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則（編集主幹）, 21 世紀スポーツ大事典, 大修館書店, 420-422, 797-800, 828-830, 872-874, 874-877, 901-903, 903-905, 2015.
- 菊 幸一：体育カリキュラムの社会的構成をめぐる諸相：その政治的性格を問う. 岡出美則・友添秀則・松田恵示・近藤智靖編, 新版体育科教育学の現在, 創文企画, 41-56, 2015.
- 菊 幸一：スポーツと身体社会学—Physical Happiness を求めて—. 聖カタリナ大学人間健康福祉学部編, 聖カタリナ大学「風早の塾」現代を生きる叡智—生老病死をこえて—, ぎょうせい, 39-63, 2015.
- 菊 幸一: 東アジアを貫く時間軸とスポーツ政策. 土佐昌樹編著, 東アジアのスポーツ・ナショナリズム, ミネルヴァ書房, 239-267, 2015.

#### 5. 受賞

平成 27 年度第 17 回秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞 嘉納治五郎の成果と今日的課題に関する歴史社会学的研究（研究代表者）

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等（科研費を除く）  
「新たなスポーツ価値意識の多面的な評価指標の開発」（公益財団法人日本体育協会スポーツ医・科学研究委員会）

#### 教育活動

##### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

- 「昭島市体育協会ジュニア育成地域推進事業指導者連絡会講演 体罰・パワーハラスメント・暴力行為について考える—スポーツ指導の根本原理を求めて—」（昭島市, 2 月 21 日）
- 「プロ野球選手のセカンドキャリア問題（NHK サタデースポーツ）」（2 月 21 日放送）
- 「大塚製薬（株）OSLO 放送講演 嘉納治五郎に学ぶ現代スポーツのこれから—現代スポーツのビジョンと企業—」（東京都港区, 3 月 19 日）

- 「第 17 回秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞受賞記念講演 嘉納治五郎の成果と今日的課題に関する歴史社会学的研究について」(東京都港区, 3 月 25 日)
- 「東京オリンピック・パラリンピック組織委員会第 1 回研究ミーティング講演 スポーツ政策を考えるために—「スポーツ」という発明と政策—」(東京都港区, 5 月 18 日)
- 「スポーツネットワーク・ジャパン講演会&映画上映会講演 スポーツと原発—スポーツという『文化』から考える原発『問題』—」(東京都文京区, 7 月 11 日, 15 日)
- 「横浜市中学校保健体育科理論研修会講演 体育理論の重要性とその実践—スポーツの意義と価値—」(横浜市, 7 月 31 日)
- 「横浜市高等学校保健体育科研修会(理論講習会)講演 高校における体育理論の重要性とその実践」(横浜市, 8 月 5 日)
- 「岡山県小教研体育部会夏季研修会講演 子どもとスポーツ・運動のこれまでとこれから—現行学習指導要領の課題と 21 世紀型能力に向けた体育授業—」(岡山市, 8 月 24 日)
- 「かながわ保健体育・スポーツ学習会講演 スポーツ庁の設置と学校体育」(湯河原町, 8 月 29 日)
- 「全日本学生柔道連盟教養講座講演 暴力は柔道を滅ぼす!?!—嘉納治五郎による「柔道」の発明から—」(東京都文京区, 10 月 2 日)
- 学習院女子大学・特別総合科目Ⅺ「オリンピックの探求」(招聘講義)「日本におけるオリンピックと嘉納治五郎」(東京都新宿区, 10 月 5 日)
- 「福岡県体育研究所専門研修短期講座講演 体育理論の重要性と独自性—スポーツの意義と価値—」(福岡市, 10 月 8 日)
- 大阪体育大学 2015 年度スポーツ科学セミナー(第 4 回)「スポーツの未来を考えるために:嘉納治五郎の先見性とポスト 2020 の行方—イベントから組織化へ—」(熊取町, 10 月 19 日)
- 「(公財)日本体育協会公認コーチ・教師・AT 養成共通科目講習会講義 社会の中のスポーツ」(東京都千代田区, 11 月 1 日)
- 「全国体育学習研究協議会第 60 回大会岐阜大会シンポジウム演者 全体研のこれまでとこれから;この 10 年の全体研の歩みを振り返って—運営面から—」(岐阜市, 11 月 21 日)
- 「日本スポーツ学会第 3 回スポーツ・セカンドキャリア・シンポジウム講演 スポーツ選手の第二の人生を考える」(東京都渋谷区, 12 月 8 日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

- 日本体育学会代議員(2015 年~)
- 日本体育学会体育社会学専門領域代表(2015 年~)
- 日本スポーツ社会学会会長(2015 年~)
- 日本体育科教育学会理事(2006 年~)
- 日本体育・スポーツ政策学会理事(2005 年~)
- 東京体育学会常任理事(2011 年~)
- 社会学系コンソーシアム評議員(2011 年~)
- 全国体育学習研究会会長(2015 年)
- 文部科学省中央教育審議会専門委員(初等中等教育分科会)(2015 年~)
- 国立教育政策研究所教育課程センター高等学校「体育」学習指導要領実施状況調査問題作成委員会委員長(2014 年~)
- 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会委員(1999 年~)

日本体育協会 B 級・C 級コーチ養成研修講座講師（2001 年～，共通科目・科目別主任講師 2010 年～）  
日本体育協会国民体育大会委員会委員（2005 年～）  
日本体育協会国民体育大会検討小委員会委員（2005 年～）  
日本体育協会秩父宮記念スポーツ医・科学賞選考委員会作業部会委員（2005 年～）  
全日本柔道連盟柔道 MIND 特別委員会委員（2014 年～）  
日本バレーボール協会役員候補者推薦委員会委員（2015 年）  
日本アンチ・ドーピング機構学術委員会委員（2015 年～）  
日本オリンピック委員会アントラージュ専門部会部会員（2015 年～）  
杉並区体育施設指定管理選定委員会委員長（2005 年～）

## 教授 齋藤 健 司

### 研究業績

#### 1. 学会発表

Patrick Trabal, (Academic Partner: Stigger M, Pardo R, **Saito K**, Goncalves) : Comparative Research in Social Sciences for an Evaluation of Anti-Doping Policies. UNESCO COP5, France, 2015.  
10

#### 3. その他論文（報告書等）

Patrick Trabal, Stigger M, Pardo R, Goncalves C, **Saito K**, Charitas P : Comparative Research in Social Sciences for an Evaluation of Anti-Doping Policies, Intermediate report supported by the UNESCO Fund for the Elimination of Doping in Sport and the French Ministry of Sports, 1-69, 2015

齋藤健司：スポーツをめぐるリスクマネジメント。みんなのスポーツ，413:12-14, 2015

#### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

齋藤健司：スポーツ政策と国際動向。21 世紀スポーツ大事典。大修館書店，pp.43-45, 2015

齋藤健司：③フランスのスポーツ政策。21 世紀スポーツ大事典。大修館書店，p.75, 2015

齋藤健司：スポーツと法体系。21 世紀スポーツ大事典。大修館書店，pp.84-87, 2015

齋藤健司：スポーツ放送（契約）をめぐる法的問題。21 世紀スポーツ大事典。大修館書店，pp.102-103, 2015

齋藤健司：ドーピングをめぐる法的問題。21 世紀スポーツ大事典。大修館書店，pp.114-117, 2015

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）  
「Comparative Research in Social Sciences for an Evaluation of Anti-Doping Policies」(UNESCO, University of Paris Ouest)

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

財団法人日本バドミントン協会平成 26 年度公認コーチ専門科目「バドミントンと法的な知識」（講師）（1 月 10 日）

公益社団法人全国スポーツ推進委員連合平成 26 年度スポーツ推進委員リーダー養成講習会講義「リスクマネジメント」(講師) (2月15日)  
筑波大学体育系研究倫理委員会研修会 講師 (7月22日, 12月15日)  
平成 27 年度千葉県日体協上級指導員講習会「スポーツと法」(10月31日)  
第 2 回つくばスポーツスタディグループ「つくば市スポーツ基本計画とつくばにおける「するスポーツ」」  
(12月15日)

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学バドミントン部男子部長 (2010 ~)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

JOC ゴールドプラン委員会 委員 (2010 年~ 2015 年)  
日本スポーツ法学会 事務局長 (2014 年~), 理事 (2006 年~)  
日本体育・スポーツ政策学会 理事 (2003 年~)  
公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 仲裁人候補者 (2004 年~)  
一般社団法人日本スポーツ法支援・研究センター 理事 (2014 年~)  
NPO 法人日本バドミントン指導者連盟 理事 (2005 年~)

## 教授 酒井利信

## 研究業績

### 1. 学会発表

**Toshinobu SAKAI, Junko OHISHI, Yoshitaka KARUKOME, Balázs SZABÓ, Raita MURAKAMI, Timea-Silvia KENGYEL**: Budo Study as International Japanology. HHP research weeks 2015, Ibaraki JAPAN, 2015.3.15

**Toshinobu SAKAI**: Exploring Japanese Culture through Kendo Equipment. Special prpject for the 16<sup>th</sup> WKC – Division of Kendo, Japanese Academy of Budo, Tokyo JAPAN, 2015.5.27

軽米克尊・酒井利信・大石純子・Balázs SZABÓ・村上雷多・Tímea Szilvia KENGYEL・Julia Kim: ジャパノロジーとしての武道学. 身体運動文化学会創立 20 周年記念国際大会, 兵庫, 2015.7.5

**Toshinobu SAKAI**: Japanese Culture - The heart and technique of Kendogu Craftsmen. Russo-Japanese cultural exchange programs, Japan Russia Youth Exchange Center, Saint Petersburg RUSSIA, 2015.7.23

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

軽米克尊・酒井利信: 直心影流の成立とその伝系及び伝承に関する一考察. 武道学研究, 47-3, 119-138, 2015.3

大石純子・酒井利信・原口理恵子・軽米克尊・村上雷多: 『古事記』にみられる武道関係用語に関する一考察. 身体運動文化研究, 20-1, 45-64, 2015.4



## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

酒井利信：体育学．螢雪時代，954～955，2015.4

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

筑波大学公開講座「剣道」（4～7，9～12，延べ16日間）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本武道学会理事	2011	～	現在
日本武道学会剣道専門文化会事務局長	2014	～	現在
身体運動文化学会 副理事長	2010	～	現在
全日本剣道連盟 総務・資料小委員会 委員	2003	～	現在
茨城県剣道連盟 審査委員会 委員	2015	～	現在

### 3. 競技会引率・帯同等

第16回世界剣道選手権大会，男子団体戦；優勝・竹ノ内佑也（日本）．副部長，日本武道館，2015.5.29-31.

第16回世界剣道選手権大会，男子個人戦；準優勝・竹ノ内佑也（日本）．副部長，本武道館，2015.5.29-31.

第63回全日本学生剣道優勝大会，優勝．副部長，日本武道館，2015.10.25.

第34回全日本女子学生剣道優勝大会，第3位．副部長，春日井市総合体育館，2015.11.8.

第64回関東学生剣道優勝大会，準優勝．副部長，日本武道館，2015.9.13.

第41回関東女子学生剣道優勝大会，準優勝．副部長，東京武道館，2015.9.19.

第62回全日本学生剣道選手権大会，優勝・林田匡平（4年）．大副部長，阪府立体育会館，2015.6.28.

第62回全日本学生剣道選手権大会，第3位・竹ノ内佑也（4年）．副部長，大阪府立体育会館，2015.6.28.

第47回関東女子学生剣道選手権大会，準優勝・佐々木奈緒（4年）．副部長，東京武道館，2015.5.16.

## 教授 坂入洋右

## 研究業績

### 1. 学会発表

雨宮 怜，坂入洋右：競技シーズンにおける大学生スポーツ競技者のバーンアウト得点の変化．九州スポーツ心理学会第28回大会，鹿児島，2015.3.

Amemiya, R. & Sakairi, Y. : Does trait mindfulness and burnout affect future burnout among athletes ? 14th European Congress of Sport Psychology (FEPSAC), Bern, Switzerland, 2015.7.

金ウンビ，大須賀洋祐，田中喜代次，坂入洋右：高齢者の運動教室への参加による気分改善効果の短期・長期的検討．日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

坂入洋右：東洋的行法の効果とメカニズム．日本マインドフルネス学会第2回大会，東京，2015.8.

雨宮 怜，坂入洋右：競技者の内発的動機づけ向上へのマインドフルネスの活用－調和的・執着的情熱

- を基準とした競技者のタイプ別比較－, 日本マインドフルネス学会第2回大会, 東京, 2015.8.
- 坂入洋右**: 自律訓練法によるスポーツ選手のメンタルサポート. 日本催眠医学心理学会第61回大会, 東京, 2015.9.
- 稲垣和希, 雨宮 怜, 松浦佑希, 金ウンビ, **坂入洋右**: 作業パフォーマンスの予測指標としての心理的『活性度』. 日本健康心理学会第28回大会, 東京, 2015.9.
- 松浦佑希, 雨宮 怜, **坂入洋右**: 運動の楽しさとパフォーマンスを指標としたモデル習得学習と感覚経験学習の有効性比較. 日本健康心理学会第28回大会, 東京, 2015.9.
- 雨宮 怜, **坂入洋右**: パフォーマンス発揮の障害とマインドフルネスとの関係性. 日本健康心理学会第28回大会, 東京, 2015.9.
- 伊藤佐陽子, 山口喜久雄, 北 千恵, 藤本 靖, 稲垣和希, 相馬花恵, **坂入洋右**: ヨーガ実践前後の気分変化について－「くまモンとヨーガ」気分調査の結果報告: 高校生へのストレスケア・プログラム－. 日本健康心理学会第28回大会, 東京, 2015.9.
- 坂入洋右**: 痛みに対する自律訓練法の効用. 日本健康心理学会第28回大会, 東京, 2015.9.
- 元嶋菜美香, 宮良俊行, 熊谷賢哉, 金 相勲, 田井健太郎, **坂入洋右**: スポーツ教室でのスポーツ体験が児童生徒の気分にあぼす影響－子ども版二次元気分尺度を用いた効果の検証－. 第63回九州体育・スポーツ学会, 大分, 2015.9.
- 稲垣和希, 雨宮 怜, **坂入洋右**: 姿勢の調整による心理的活性度の改善効果. 第79回日本心理学会, 名古屋, 2015.9.
- 中塚健太郎, **坂入洋右**: 積極的休息法としての軽運動とGボール椅子の組合せが監視時の心身の状態及びパフォーマンスに与える影響. 日本海洋人間学会第4回大会, 東京, 2015.9.
- 宣 輔瓊, 稲垣和希, 金ウンビ, **坂入洋右**: 自律訓練法と筋弛緩法の心理状態調整効果の比較: 覚醒水準の違いによる効果の差の比較. 第38回自律訓練学会, 東京, 2015.10.
- 高野美穂, 雨宮 怜, 松浦佑希, **坂入洋右**: ペアと身体的交流体験を付加した自律訓練法の効果－体ほぐし運動の活用－. 第38回自律訓練学会, 東京, 2015.10.
- 坂入洋右**: アウトカムを重視した応用科学独自の研究法－個人差と複雑な要因を無視しないための包括的媒介変数の活用－. 日本理論心理学会第61回大会, 大阪, 2015.11.
- 雨宮 怜, **坂入洋右**: スポーツ競技者のパフォーマンス低下体験に対するマインドフルネスの抑制効果. 第42回スポーツ心理学会, 福岡, 2015.11.
- 稲垣和希, 高野美穂, **坂入洋右**: 走運動時における心理・生理状態の経時的変化－二次元気分尺度を用いた検討－. 第42回スポーツ心理学会, 福岡, 2015.11.
- 松浦佑希, 金ウンビ, **坂入洋右**: ペア運動における身体接触の違いが心理状態および自己と他者の心身への意識に与える影響. 第42回スポーツ心理学会, 福岡, 2015.11.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- 雨宮 怜, 遊佐安一郎, **坂入洋右**: スポーツ競技者版マインドフルネス傾向尺度の開発. 認知療法研究, 8(1): 106-115, 2015.
- Kim, E. & Sakairi, Y.: A comparison of mood regulation effects induced by different types of exercise and music. The Japanese Journal of Health Psychology, 28(1): 1-13, 2015.

## 3. その他論文 (報告書等)

- 元嶋菜美香, 宮良俊行, 熊谷賢哉, 金 相勲, 田井健太郎, **坂入洋右**: スポーツ教室でのスポーツ体験が児童生徒の気分にあぼす影響－子ども版二次元気分尺度を用いた効果の検証－. 九州体育・ス

スポーツ学研究, 29(1): 46, 2015.

#### 4. 著書 (事典, 翻訳書等を含む)

坂入洋右: 女性アスリートのメンタル課題. 日本女性心身医学会 (編), 最新女性心身医学, ぱーそん書房, pp.107-108, 2015.

#### 5. 受賞

雨宮 怜, 坂入洋右: 最優秀研究賞, 日本マインドフルネス学会第2回大会, 東京, 2015

中塚健太郎, 坂入洋右: 奨励研究発表賞, 日本海洋人間学会第4回大会, 東京, 2015

#### 教育活動

筑波大学心身統一合気道会 顧問

筑波大学卓球同好会 顧問

日本プロゴルフ協会 A級講習会 講師

日本カウンセリングカレッジ 講習会 講師

#### 社会貢献活動

##### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本マインドフルネス学会第2回大会 大会長 (2015年8月29日~30日)

日本心理医療諸学会連合 理事長

日本心理学会 代議員

茨城体育学会 理事

日本スポーツ心理学会 理事

日本自律訓練学会 理事

日本健康心理学会 理事

日本交流分析学会 評議員

日本マインドフルネス学会 副理事長

教 授 真 田 久

#### 研究業績

##### 1. 学会発表

Hisashi Sanada: The Teachings of Jigoro Kano and Tsukuba International Academy for Sport Studies.

筑波大学人文社会国際比較研究機構・フランス国立社会科学高等学院主催国際会議, Fragmentation and Divergence: Towards the Management of Social Transformation. Paris, 2015.3.11

真田 久: Physical Activity and Sport-Sport Event and Sport for All-. World Health Summit Kyoto Conference. 京都, 2015.4.14

Hisashi Sanada: Olympics, Paralympics and Sport Education. WISE, ローザンヌ, 2015.5.6

真田 久: 2020東京大会に向けての教育プログラム. 文化経済学会第11回大会パネルディスカッション, 東京, 2015.7.4

真田 久: 日本体育学会・全国大学体育連合共催シンポジウム, 東京オリンピック・パラリンピックと

大学連携. 東京, 2015.8.27

**真田 久**: 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた体育への期待. 全国学校体育研究会広島大会特別講義, 広島, 2015.11.12

**Hisashi Sanada**: The Olympic and Paralympic Education for 2020. The Olympic Conference. National Taiwan University of Sport. 2015.12.6

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

**真田 久**: 第12回オリンピック競技大会(1940年)の東京招致に関わる嘉納治五郎の理念と活動. マス・コミュニケーション研究 86: 63-80, 2015

**真田 久**: オリンピック・ムーブメントとオリンピック教育. 日本スポーツ教育学会, スポーツ教育学研究 34(2):9-33, 2015

## 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

**真田 久**: 人類の進化とスポーツ, 古代の体育・スポーツ. 木村吉次編「体育・スポーツ史概論」改訂3版, 市村出版, pp.1-25, 2015

**真田 久**: オリンピックとオリンピズム. 「21世紀スポーツ大事典」大修館書店, p.672, 2015.

## 5. 受賞

日本体育協会秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞 嘉納治五郎の成果と今日的課題に関する歴史社会学的研究 (共同)

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

**真田 久**: 東京オリンピック・パラリンピックへの目線と期待. みんなのスポーツ 410, pp.12-15, 2015

**真田 久**: 五輪・パラリンピック教育へ「ゲットセット」. 内外教育 6434:2-5, 2015.7.28

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

第3回スポーツ健康系学科長協議会「東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて大学体育に期待すること」全国大学体育連合 (日本大学, 2015.2.28)

東京商工会議所第3ベンチャーグループ定例会「オリンピック学習がもたらす日本社会への影響」(東京商工会議所特別会議室 A, 2015.3.18)

第1回みやざきオリンピックセミナー 2015「オリンピック・パラリンピックの文化・教育プログラム」みやざき東京オリンピック・パラリンピックおもてなしプロジェクト連携会議, 宮崎市, 2015.3.26

文京区職員向け講演会「オリンピック・パラリンピックの理念」文京区, 2015.6.11

オリンピック・パラリンピック教育推進のための教員研修会「2020年に向けたオリンピック・パラリンピック教育について」, 「長野オリンピックから始まった一校一国運動について」東京, 2015.8.8-10

筑波大学附属学校教育局主催オリンピック・パラリンピック教育研修会「大学から発進するオリンピック・パラリンピック教育」東京, 2015.8.28

パナソニック教育フォーラム「いまなぜ オリンピック・パラリンピック教育なのか」パナソニック株

式会社主催, 東京, 2015.10.5  
平成 27 年度文化庁補助金事業スポーツミュージアム連携・啓発事業シンポジウム, これからのスポーツ博物館のあり方について「スポーツ博物館と Sport for All-」東京, 2015.10.10  
筑波大学附属中学校研究協議会「これからのオリンピック・パラリンピック教育」東京, 2015.11.14  
日本財団パラリンピック研究会主催国際シンポジウム「パラリンピック・ムーブメントーレガシーを通して考える 2020 年東京大会のあり方」総合討論コーディネーター, 東京, 2015.12.19  
「東京五輪へ『日本』アピール (産経新聞)」(3 月 30 日掲載)  
「New academy targets future sports leaders (THE JAPAN TIMES)」(8 月 13 日掲載)  
「オリンピック・パラリンピック教育の意義と展開 (都政新報)」(12 月 4 日掲載)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与 (2014 年～)  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大学連携検討会委員長 (2014 年～)  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会文化教育委員会委員 (2015 年～)  
東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議座長 (2014 年～)  
東京都オリンピック・パラリンピック教育読本編集委員会委員 (2014 年～)  
オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議 (2015 年～)  
台東区区長アドバイザー (2013 年～)  
日本オリンピック・アカデミー副会長 (2015 年～)  
嘉納治五郎記念国際スポーツ研究交流センター理事長 (2015 年～)  
日本体育学会代議員 (2013 年～)  
日本スポーツ人類学会監事 (2013 年～)

## 教授 清水 諭

## 研究業績

### 1. 学会発表

**S.Shimizu:** The History of Urawa Reds Supporter Cultures: The Last Two Decades. Panel Discussion and Public Forum “Football Codes in the Asian Century: Understanding the Past and Predicting the Future for Players, Teams, Clubs, Officials and Fans”, The World Football Conference III, State Library of Victoria, 2015.1.20. (招待講演)

**S.Shimizu:** The Transformation of Asian Football Cultures in the Last Two Decades: A View from Urawa, Japan. Keynote Address, The World Football Conference III, Victoria University, 2015.1.21. (Keynote Address: 招待講演)

**S.Shimizu:** Disaster, Memory and the Value of Sport: Tokyo and the Olympic. International Conference, Fragmentation and Divergence Towards The Management of Social Transformation, L'Ecole des Hautes Etude en Sciences Sociales (EHESS), Paris, 2015.3.11.

**S.Shimizu:** The City of Tokyo: From 1964 to 2020. Panel “Moving Forward?: A Critical Examination of the Olympics and Paralympic Movements in Japan”, AAS-IN-ASIA Conference 2015, Academia Sinica, Taipei, Taiwan, 2015.6.22.

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

清水 諭: 女性によるリーダーシップが生起するスポーツ界に向けて: 社会構造と男性目線の諸問題.  
清水諭 (責任編集) 『現代スポーツ評論』 33: 8-15, 創文企画, 2015.

### 教育活動

#### 1. 受賞

嘉納治五郎の成果と今日的課題に関する歴史社会学的研究班(菊幸一ら): 第17回秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞, 公益財団法人日本体育協会, 2015.3.25.

#### 2. 一般向け著書等

清水 諭: いたづらが空振り三振しない理由. 広告, 398: 67, 博報堂, 2015.

清水 諭: 女子力磨く男たち. 「広角鋭角」欄, 日本経済新聞, 2015.5.20 (水) 夕刊.

清水 諭: 2020年オリンピック・パラリンピックのレガシーを考える. 全国障害者総合福祉センター(編) 『戸山サンライズ』 267: 10-12, 日本障害者リハビリテーション協会.

#### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

S. Shimizu: Tokyo and the 1964 Tokyo Olympics. TIAS Lecture Series, Master of Advanced Studies in Sport Administration and Technology (AISTS), Lausanne, 2015.3.13.

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体育学会代議員; 日本体育学会体育社会学専門領域評議員 (研究委員会委員長) (2015.6.13. ~ 2017.6.10.)

日本スポーツ社会学会理事 (2015.4.1 ~ 2017.3.31.)

茨城体育学会理事 (2015.4.1. ~ 2017.3.31)

Member of the academic editorial team for Asia in the International Journal of the History of Sport, Routledge. (2013.10.~)

## 教授 清水紀宏

### 研究業績

#### 1. 学会発表

清水紀宏: 成長する地域スポーツクラブの条件. 日本体育・スポーツ経営学会第50回研究集会, 東京, 2015.1.

朝倉雅史, 清水紀宏: 体育教師の認識変容過程—長期研修を通じた経験と学びに着目して—. 日本体育・スポーツ経営学会第38回大会, 栃木, 2015.3. -

林下敏裕, 清水紀宏: 運動部活動改革を推進する教師の持論に影響を与えた経験の分析. 日本体育・スポーツ経営学会第38回大会, 栃木, 2015.3.

鈴木美沙都, 清水紀宏, 今宿裕, 熊田吾一: 総合型地域スポーツクラブ設立後の時系列分析—東京都のクラブを事例として—. 日本体育・スポーツ経営学会第38回大会, 栃木, 2015.3.

今宿裕, 清水紀宏, 熊田吾一, 鈴木美沙都: 地域スポーツ経営体としてのクラブにおける会員規模拡大

に関する研究—実態把握を中心に—。日本体育・スポーツ経営学会第38回大会，栃木，2015.3。  
熊田吾一，柳沢和雄，**清水紀宏**，今宿 裕，鈴木美沙都：地域スポーツ経営体としてのクラブにおける  
経営管理者に関する研究 1—特に，経営管理者像について—。日本体育・スポーツ経営学会第38  
回大会，栃木，2015.3。

**清水紀宏**：多様性を肯定するスポーツと社会—「真の共生社会」とは何か—。日本体育学会第66回大  
会学会本部企画，東京，2015.8。

**清水紀宏**，島崎雅規：学校運動部活動の外部化をめぐる諸相と経営課題，日本体育学会第66回大会体  
育経営管理専門領域シンポジウム，東京，2015.8。

熊田吾一，柳沢和雄，**清水紀宏**：地域スポーツ経営体としてのクラブにおける経営管理者に関する研究  
Ⅱ—クラブ経営管理者の行動に着目して—。日本体育学会第66回大会，東京，2015.8。

### 3. その他論文（報告書等）

**清水紀宏**・柳沢和雄：地域スポーツクラブの成長性分析と経営指標の開発。筑波大学体育系紀要，38：  
111-116，2015。

**清水紀宏**：総合型地域スポーツクラブの評価指標試案—エクセレントクラブの評価観点と規準—。体育・  
スポーツ経営学研究，28：81-89，2015。

日本体育学会政策検討・諮問委員会：体育系若手研究者の生活・研究・就職および職場環境に関する現  
状と課題—日本体育学会若手会員への調査報告書—。2015.8。（執筆代表）

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）  
「地域スポーツクラブに関する調査研究報告書」2015.3。（公益財団法人東京都スポーツ文化事業団委託  
研究 研究代表者）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育学会理事（平成25年～）

日本体育・スポーツ経営学会理事（昭和60年～）

茨城体育学会理事（平成25年～）

日本体育協会マネジメント資格部会員（平成19年～）

教授 中 込 四 郎

## 研究業績

### 1. 学会発表

**Shiro Nakagomi** and Tomoyuki Asano, Reconsidering the process of ‘Kotsu’ acquisition in athletes  
through Zen Buddhism’s “Ten Oxherding Pictures.”14th European Congress of Sport Psychol-  
ogy, Bern, Switzerland, 2015.7

Aiko Okuda and **Shiro Nakagomi**, Genetics and environment in the developmental history of top ath-  
letes: A comparative analysis based on autobiographical memories. 14th European Congress  
of Sport Psychology, Bern, Switzerland, 2015.7

Atsushi Suzuki and **Shiro Nakagomi**, Psychological characteristics of injured athletes satisfied with

social support in rehabilitation process. 14th European Congress of Sport Psychology, Bern, Switzerland, 2015.7

**中込四郎**, スポーツカウンセリングの現場から. 日本臨床スポーツ医学学術集会(ワークショップ), 神戸, 2015.11

**中込四郎**, アスリートの心理サポートにおける私の変遷—心理スキル, 内界探索そしてカウンセリングアプローチ. 第2回臨床スポーツ心理学研究会(レクチャー), 岐阜, 2015.10

**中込四郎**, スポーツ心理学における現象学的アプローチ再考. 第42回日本スポーツ心理学会大会(ラウンドテーブルディスカッション), 福岡, 2015.12

奥田愛子, **中込四郎**, 後年の競技への態度や意欲における自伝的記憶の連続性. 第42回日本スポーツ心理学会大会, 福岡, 2015.12

浅野友之, **中込四郎**, 「能の極意」獲得過程に伴う個性化過程の検討—世阿弥の伝記分析を通して—. 第42回日本スポーツ心理学会大会, 福岡, 2015.12

千葉陽子, **中込四郎**, スポーツ版攻撃性投映尺度の開発. 第42回日本スポーツ心理学会大会, 福岡, 2015.12

大木雄太, 國部雅大, **中込四郎**, 遠投運動のパフォーマンス発揮における内的焦点の細分化. 第42回日本スポーツ心理学会大会, 福岡, 2015.12

## 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

奥田愛子, **中込四郎**: トップアスリートの自伝から「原風景」を読む. びわこ学院大学・びわこ学院大学短期学部研究紀要, 6: 69-78, 2015.

鈴木 敦, **中込四郎**: 相談事例における受傷アスリートのソーシャルサポート享受による対処行動の変容過程. 臨床心理身体運動学研究, 17: 37-48, 2015.

## 3. その他論文(報告書等)

**中込四郎**: 服部論文へのコメント: クライアントと治療者の相似形における落とし穴. 岐阜大学心理教育相談研究, 14: 27-29, 2015.

**中込四郎**: 平成26年度国民体育大会茨城県監督・選手の心理サポート(調査結果へのコメント). 茨城県スポーツ医・科学報告書(第20集), pp.14, 2015.

## 4. 専門家, 学生向け著書(事典, 翻訳書等を含む)

**中込四郎**: こどものメンタルケア—〈後年〉カウンセリングルームを訪れるアスリートのジュニア期の特徴. 田中康仁・笠次良爾(編) こどものスポーツ外来—親もナットク! このケア・説明—, 全日本病院出版会, pp. 225-230, 2015.

**中込四郎**: 第7章 内的成長や心理的課題解決による競技力向上の心理的機序. 三林浩二(監修) スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発, シーエムシー出版, pp. 145-152, 2015.

**中込四郎**: 序. 中込四郎・鈴木 壯(編著) スポーツカウンセリングの現場から—アスリートがカウンセリングを受けるとき—. 道和書院, pp. iv-x, 2015.

**中込四郎**: アスリートがカウンセリングルームを訪れるとき. 中込四郎・鈴木 壯(編著) スポーツカウンセリングの現場から—アスリートがカウンセリングを受けるとき—. 道和書院, pp. 17-32, 2015.

**中込四郎**: スポーツカウンセリングの課題. 中込四郎・鈴木 壯(編著) スポーツカウンセリングの現場から—アスリートがカウンセリングを受けるとき—. 道和書院, pp. 200-220.



鈴木 敦, 中込四郎: カウンセリングルームからソーシャルサポートの獲得. 中込四郎・鈴木 壯 (編著)  
スポーツカウンセリングの現場から—アスリートがカウンセリングを受けるとき—. 道和書院,  
pp. 159-177, 2015.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本スポーツ心理学会会長

日本体育学会体育心理学専門領域会長

茨城県臨床心理士会会長

日本体育学会代議員

日本臨床心理身体運動学会副理事長, 資格認定会委員長

国立スポーツ科学センター客員研究員

茨城いのちの電話理事, 運営協議会議長

茨城県ひきこもり相談支援連絡協議会委員

龍ヶ崎市いじめ問題再調査委員会委員

茨城県いじめ再調査委員会委員

スポーツを行う者を暴力から守るための第三者相談・調査制度構築に関する実践調査協力者会議委員 (文部科学省)

健康運動指導士養成校認定専門部会委員

茨城県体育協会スポーツ医・科委員会スポーツ科学委員会委員長

## 教授 松村和則

## 研究業績

### 1. 学会発表

松村和則: 「山」を忘れた山村のしのぎあい—「スキー・リゾート開発」以後の山村の生活組織化をめぐって—. 日本村落研究学会第 63 回大会, 岐阜県郡上市, 2015.11.7

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

松村和則: 自然村的精神—鈴木栄太郎『日本農村社会学原理』—, 井上 俊・伊藤公雄編 (中国語訳) 『日本の社会与文化』 1-10, 世界知識出版社 (北京), 2015

### 3. その他論文 (報告書等)

松村和則: スポーツと地域振興の結節—産業廃棄物と共存する「少年野球」—, 体育の科学, Vol.65, No.2, 86-90, 2015

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本スポーツ社会学会理事 (2011 年～ 2015 年)

## 教授 柳沢和雄

### 研究業績

#### 1. 学会発表

柳沢和雄：基調講演 体育・スポーツ経営学における人とスポーツの関わり．日本体育・スポーツ経営学会第38回大会，栃木，2015.3.

山口昂久，柳沢和雄：総合型地域スポーツクラブ会員をめぐる信頼の構築に関する研究．日本体育・スポーツ経営学会第38回大会，栃木，2015.3.

熊田吾一，柳沢和雄，清水紀宏，今宿 裕，鈴木美沙都：地域スポーツ経営体としてのクラブにおける経営管理者に関する研究．日本体育・スポーツ経営学会第38回大会，栃木，2015.3.

熊田吾一，柳沢和雄，清水紀宏：地域スポーツ経営体としてのクラブにおける経営管理者に関する研究Ⅱークラブ経営管理者の行動に着目してー．日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

#### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

柳沢和雄：コミュニティスポーツと生涯スポーツ．編集主幹．中村敏雄，高橋建夫，寒川恒夫，友添秀則．21世紀スポーツ大事典．大修館書店，56-59，2015

### 教育活動

#### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

柳沢和雄：地域スポーツの推進をめぐる連絡調整の位置．みんなのスポーツ，412，12-14，2015.

柳沢和雄：スポーツ推進委員の選任と委嘱をめぐる課題．みんなのスポーツ，418，12-14，2015.

#### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

「長野県生涯スポーツ研修講座」講師：長野県体育センター（5月，延べ1日間）

「子どもの体力向上指導者養成研修」講師：独立行政法人教員研修センター（5月，延べ1日間）

「関東スポーツ推進委員研究大会千葉大会」講師：千葉県教育委員会（6月，延べ1日間）

「東京都生涯スポーツ担当者研修会」講師：東京都（6月，延べ1日間）

「健康教育指導者養成研修」講師：独立行政法人教員研修センター（7月，延べ3日間）

「鳥取県スポーツ推進委員リーダー研修会」講師：（鳥取県，9月，延べ1日間）

「東京都スポーツクラブマネージャー養成講習会」講師：東京都広域スポーツセンター（11月，延べ1日間）

「長野県総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー養成講習会」講師：（長野県，11月，延べ2日間）

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

一般社団法人日本体育学会代議員（平成15年～）

体育経営管理専門領域会長（平成20年～）

茨城体育学会理事長（平成25～）

日本体育・スポーツ経営学会会長（平成24～）

公益社団法人全国スポーツ推進委員連合理事

茨城県スポーツ推進審議会副委員長

第74回国民体育大会茨城県準備委員会施設整備専門委員会委員

千葉県広域スポーツセンター運営委員  
目黒区体育施設運営評価委員会委員長  
目黒区スポーツ推進計画策定委員会委員長

教授 ラクワール ランディープ

研究業績

1. 学会発表

**Rakwal R**: Unraveling Low-Level Gamma Radiation-Responsive Molecular Changes in Rice at Iitate Village, Fukushima. The 27<sup>th</sup> Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference “Innovative Biotechnology”, Bangkok, Thailand, 2015.11.

Agrawal GK, **Rakwal R**, Masi A, Kim ST, Gupta R: Proteomics evolution and integration with OMICS-based technologies. Special Workshop-The 27<sup>th</sup> Annual Meeting of the Thai Society for Biotechnology and International Conference “Innovative Biotechnology”, Bangkok, Thailand, 2015.11.

2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Yook JS, Shibato J, **Rakwal R**, Soya H: DNA microarray-based experimental strategy for trustworthy expression profiling of the hippocampal genes by astaxanthin supplementation in adult mouse. *Genomics Data*, 7, 32-37, 2016.

Yook JS, Okamaoto M, **Rakwal R**, Shibato J, Lee MC, Matsui T, Chang HK, Cho JY, Soya H: Astaxanthin supplementation enhances adult hippocampal neurogenesis and spatial memory in mice. *Molecular Nutrition Food Research*, 2015 (in press).

Kobayashi Y, Kulikova SP, Shibato J, **Rakwal R**, Satoh H, Pinault D, Masuo Y: DNA microarray unravels rapid changes in transcriptome of MK-801 treated rat brain. *World Journal of Biological Chemistry*, 6(4), 389-408, 2015.

Kwon YS, Lee DY, **Rakwal R**, Baek SB, Lee JH, Kwak YS, Seo JS, Chung WS, Bae DW, Kim SG: Proteomic analyses of the interaction between the plant-growth promoting rhizobacterium *Paenibacillus polymyxa* E681 and *Arabidopsis thaliana*. *Proteomics*, 16, 122-135, 2015.

Hayashi G, Moro CF, Rohila JS, Shibato J, Kubo A, Imanaka T, Kimura S, Ozawa S, Fukutani S, Endo S, Ichikawa K, Agrawal GK, Shioda S, Hori M, Fukumoto M, **Rakwal R**: 2D-DIGE-based proteome expression changes in leaves of rice seedlings exposed to low-level gamma radiation at Iitate village, Fukushima. *Plant Signaling and Behavior*, 10(12), e1103406, 2015.

Min CW, Gupta R, Kim SW, Lee SW, Kim YC, Bae DW, Han WY, Lee BW, Ko JM, Agrawal GK, **Rakwal R**, Kim ST: Comparative biochemical and proteomic analyses of soybean seed cultivars differing in protein and oil content. *Journal of Agricultural Food Chemistry*, 63, 7134-7142, 2015.

Kubo H, Shibato J, Saito T, Ogawa T, **Rakwal R**, Shioda S: Unraveling the rat intestine, spleen and liver genome-wide transcriptome after the oral administration of lavender oil by a two-color dye-swap DNA microarray approach. *PLoS One*, 10(7), e0129951, 2015.

Correction: Inoue K, Okamoto M, Shibato J, Lee MC, Matsui T, **Rakwal R**, Soya H: Long-term mild,

- rather than intense exercise enhances adult hippocampal neurogenesis and greatly changes the transcriptome profile of the hippocampus. *PLoS One*, 10(7), e0133089, 2015.
- Inoue K, Okamoto M, Shibato J, Lee MC, Matsui T, **Rakwal R**, Soya H: Long-term mild, rather than intense exercise enhances adult hippocampal neurogenesis and greatly changes the transcriptome profile of the hippocampus. *PLoS One*, 10(7), e0133089, 2015.
- Shi Q, Araie H, Bakku RK, Fukao Y, **Rakwal R**, Suzuki I, Shiraiwa Y: Proteomic analysis of lipid body from the alkenone-producing marine haptophyte alga *Tisochrysis lutea*. *Proteomics*, 15, 4145-4158, 2015. doi: 10.1002/pmic.201500010.
- Cho K, Han J, **Rakwal R**, Oksoo H: Calcium modulates membrane association, positional specificity, and product distribution in dual positional specific maize lipoxygenase-1. *Bioorganic Chemistry*, 60, 13-18, 2015.
- Mahajan R, Zargar SM, Aezum AM, Farhat S, Gani M, Aftab Hussain IS, Agrawal GK, **Rakwal R**: Evaluation of iron, zinc, and protein contents of common bean (*Phaseolus vulgaris* L.) genotypes: a collection from Jammu & Kashmir, India. *Legume Genomics and Genetics*, 3, 1-7, 2015.
- Hori M, Shibato J, Nakamachi T, **Rakwal R**, Ogawa T, Shioda S, Numazawa S: Two-color dye-swap DNA Microarray approach toward confident gene expression profiling in PMCAO mouse model for ischemia-related and neuropeptide PACAP38-influenced genes. *Genomics Data*, 3, 148-154, 2015.
- Hori M, Nakamachi T, Shibato J, **Rakwal R**, Shioda S, Numazawa S: Unraveling the specific ischemic core and penumbra transcriptome in the permanent middle cerebral artery occlusion mouse model brain treated with the neuropeptide PACAP38. *Microarrays*, 4, 2-24, 2015.
- Lee HM, Gupta R, Kim SH, Wang Y, **Rakwal R**, Agrawal GK, Kim ST: Abundant storage protein depletion from tuber proteins using ethanol precipitation method: suitability to proteomics study. *Proteomics*, 15, 1765-1769, 2015.
- Zargar SM, Kurata R, Inaba S, Oikawa A, Fukui R, Ogata Y, Agrawal GK, **Rakwal R**, Fukao Y: Quantitative proteomics of Arabidopsis shoot microsomal proteins reveals a cross-talk between excess zinc and iron deficiency. *Proteomics*, 15, 1196-1201, 2015.
- Kim YJ, Wang Y, Gupta R, Kim SW, Min CW, Kim YC, Park KH, Agrawal GK, **Rakwal R**, Choung MG, Kang KY, Kim ST: Protamine sulfate precipitation method depletes abundant plant seed-storage proteins: a case study on legume plants. *Proteomics*, 15, 1760-1764, 2015.
- Tamogami S, Noge K, Agrawal GK, **Rakwal R**: Methyl jasmonate elicits the production of methyl (E)-2-hexenoate from (Z)-2-hexenol via (Z)-2-hexenal in *Achyranthes bidentata* plant. *FEBS Letters*, 589, 390-395, 2015.
- Moro CF, Fukao Y, Shibato J, **Rakwal R**, Timperio AM, Zolla L, Agrawal GK, Shioda S, Kouzuma Y, Yonekura M: Unraveling the seed endosperm proteome of the lotus (*Nelumbo nucifera* Gaertn.) utilizing 1DE and 2DE separation in conjunction with tandem mass spectrometry. *Proteomics*, 15, 1717-1735, 2015.
- Gupta R, Min CW, Kim SW, Wang Y, Agrawal GK, **Rakwal R**, Kim SG, Lee BW, Ko JM, Baek IY, Bae DW, Kim ST: Comparative investigation of seed coats of brown- versus yellow-colored soybean seeds using an integrated proteomics and metabolomics approach. *Proteomics*, 15, 1706-1716, 2015.

- Gupta R, Lee SE, Agrawal GK, **Rakwal R**, Park S, Wang Y, Kim ST: Understanding the plant-pathogen interactions in the context of proteomics-generated apoplastic proteins inventory. *Frontiers in Plant Science*, 6, 252, 2015.
- Sharma TK, Ramanathan R, **Rakwal R**, Agrawal GK, Bansal V: Moving forward in plant food safety and security through NanoBioSensors: Adopt or adapt biomedical technologies? *Proteomics*, 15, 1680-1692, 2015.
- Luthje S, Renaut J, Job D, Hajduch M, Carpentier S, Sarkar A, Agrawal R, Dunn MJ, **Rakwal R**, Agrawal GK: INPPO2014, First INPPO world congress on “plant proteomics: methodology to biology”- A global platform for involving, gathering and disseminating knowledge. *Proteomics*, 15, 1631-1637, 2015.
- Masi A, Trentin AR, Agrawal GK, **Rakwal R**: Gamma-glutamyl cycle in plants: a bridge connecting the environment to the plant cell. *Frontiers in Plant Science*, 6, 252, 2015.
- Zargar SM, Nazir M, Hajduch M, **Rakwal R**, Agrawal GK: Towards a common bean proteome atlas: looking at current state of research and need for a comprehensive proteome. *Frontiers in Plant Science*, 6, 201, 2015.
- Gupta R, Wang Y, Agrawal GK, **Rakwal R**, Jo IH, Bang KH, Kim ST: Time to dig deep into the plant proteome: a hunt for low-abundance proteins. *Frontiers in Plant Science* 6, 22, 2015.
- Zargar SM, Raatz B, Sonah H, Nazir M, Bhat JA, Dar ZA, Agrawal GK, **Rakwal R**: Recent advances in molecular marker techniques: Insight into QTL mapping, GWAS and genomic selection in plants. *Journal of Crop Science and Biotechnology*, 18, 293-308, 2015.
- Zargar SM, Kurata R, **Rakwal R**, Fukao Y: Peptide separation methodologies for in-depth proteomics, In: *Methods in Molecular Biology: Plant Cell Growth and Expansion* (Editor, Jose M. Estevez), 1242, 195-209, 2015.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

- Initiator/Founder member of the “International Plant Proteomics Organization (INPPO)”: 2011 年～
- Member of the “International Center for Green Biotechnology (Research Institute of Meijo University, Nagoya, Japan)”: 2011 年～
- Member of the “Iitate-Mura Society for Radioecology (IISORA; 飯舘村放射能エコロジー研究会 <http://iitate-sora.net/>)”: 2012 年～

准教授 大石純子

## 研究業績

### 1. 学会発表

- 大石純子: 国際開発における剣道の現状と可能性. 第2回スポーツ国際開発学研究会, 東京, 2015.8.
- Junko O**: Japanese swordsmanship in Korea: The Process of Acceptance. 2015 Korean Alliance of Martial Arts International Conference: Martial Arts and Traditional Sports in Asia: History, Politics and Culture, Korea, 2015. 11

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

大石純子，酒井利信，原口理恵子，軽米克尊，村上雷多：『古事記』にみられる武道関係用語に関する一考察．身体運動文化研究，Vol.20 No.1:45-64，2015

大石純子：東アジアにおける日本剣術の受容と変容．月刊武道，Vol.581：136-143，2015.

## 3. その他論文（報告書等）

大石純子：日本武道史．第2回 TIAS & AISTS 短期プログラム実施報告書：12，2015.

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

第2回 TIAS & AISTS 短期プログラム 第1部 TIAS セミナー日本武道史（5月26日）

身体運動文化学会創立20周年記念国際大会 一般研究発表第一会場 座長（7月5日）

日本武道学会剣道専門分科会 剣道とマスメディア—テレビ放送からみた剣道 司会（9月10日）

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学体育会剣道部副部長

第16回世界剣道選手権大会，男子団体戦；優勝・竹ノ内佑也（日本）．日本武道館，2015.5.29-31.

第16回世界剣道選手権大会，男子個人戦；準優勝・竹ノ内佑也（日本）．日本武道館，2015.5.29-31.

第63回全日本学生剣道優勝大会，優勝．日本武道館，2015.10.25.

第34回全日本女子学生剣道優勝大会，第3位．春日井市総合体育館，2015.11.8.

第64回関東学生剣道優勝大会，準優勝．日本武道館，2015.9.13.

第41回関東女子学生剣道優勝大会，準優勝．東京武道館，2015.9.19.

第62回全日本学生剣道選手権大会，優勝・林田匡平（4年）．大阪府立体育会館，2015.6.28.

第62回全日本学生剣道選手権大会，第3位・竹ノ内佑也（4年）．大阪府立体育会館，2015.6.28.

第47回関東女子学生剣道選手権大会，準優勝・佐々木奈緒（4年）．東京武道館，2015.5.16.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

財団法人全日本剣道連盟 総務・資料小委員会（東日本）委員 2009～現在

身体運動文化学会 常任理事 2010～現在

日本武道学会剣道専門分科会 幹事 2014～現在

### 2. ボランティア活動

#### 2-b. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

第47回関東女子学生剣道選手権大会 審判：東京武道館：5月

第41回関東女子学生剣道優勝大会 審判：東京武道館：9月

第34回全日本女子学生剣道優勝大会 審判：春日井市総合体育館：11月

第16回関東女子学生剣道新人戦大会 審判：東京武道館：11月

## 研究業績

### 1. 学会発表

齊藤まゆみ, 犀川桜: 中学校におけるインクルーシブ体育に関する事例研究(2) - 聴覚障害のある生徒の行動に着目して - . 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

榎本優子, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 棒高跳びにおいてデフアスリートが活用できる情報の検討 - デフポールボルターを対象としたケーススタディー. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

島 尚平, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 海浜における自閉症スペクトラム障害児のコミュニケーション行動について. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

牧 舞美, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 日本におけるパラリンピック教育の方向性 - プログラム内容の検討をもとに - . 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

鈴木杏奈, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 発達障害のある子どものバランス能力と運動遊びの関連性について. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

竹卷勇人, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 障害理解に及ぼす要因について - 障害のある人との関わりに着目して - . 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

齋藤宣子, 澤江幸則, 齊藤まゆみ, 村上祐介, 杉山文乃, 土井畑幸一郎: 発達障害児における運動活動参加行動の変容過程についての事例研究 - 発達性協調運動障害児に対する実践事例をもとに - . 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

土井畑幸一郎, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校小学部・中学部におけるトランポリン運動の実施状況. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

澤江幸則, 齊藤まゆみ, 栗原浩一, 渡邊百合子, 杉山文乃, 土井畑幸一郎, 柳澤佳恵, 島 尚平: 障害者支援施設に入居している知的障害者の健康維持増進を目的とした身体活動のあり方についての実践研究 - ポールウォーキングの導入による運動効果に着目して - . 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

岸本太一, 齊藤まゆみ: 競泳における全盲選手のターン局面の特徴について. 第 36 回医療体育研究会 / 第 19 回アダプテッド体育・スポーツ学会第 17 回合同大会, 厚木, 2015.12.

齊藤まゆみ: パラリンピック教育. 日本財団パラリンピック研究会主催国際シンポジウム「パラリンピック・ムーブメント レガシーを通して考える 2020 年東京大会のあり方」, 東京, 2015.12

### 3. その他論文 (報告書等)

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団: 2014 (平成 26 年度) 障害者スポーツ選手発掘・育成システムの現状と今後の方向性に関する調査研究報告書. ISBN 978-4-9907079-2-7, 2015.

### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

齊藤まゆみ: 障害のある人のスポーツの発展, 国際ろう者スポーツ委員会とデフリンピックの開催. 21 世紀スポーツ大辞典. 大修館書店, 947-948, 2015.

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「障がいのある児童生徒の体育活動における指導の在り方調査研究」(スポーツ庁)

「マルチサポート戦略事業 (パラリンピック競技)」(スポーツ庁)

「地域における障害者スポーツ普及促進事業 (障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」(文部科

学省，笹川スポーツ財団)

「障害者アスリートのスポーツキャリアに関する調査」(公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団)

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

茨城県障害者スポーツ指導員養成講座（笠間市，1月25日）

筑波大学公開講座 さまざまな障害の子どもたちの体育指導（8月5-7日）

平成27年度茨城県障害者スポーツ研究会シンポジウム 茨城大会の成功に向けて何をすべきか（12月6日）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育学会理事（2013年～）

Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise (ASAPE) Director（2012年～）

日本アダプテッド体育・スポーツ学会理事（2006年～）

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会，大学連携検討委員

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会科学委員会

第19回全国障害者スポーツ大会茨城県準備委員

茨城県障害者スポーツ研究会副会長

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

地域の障がい児を対象とした運動教室：茨城県・つくば市：4月から12月（毎週1回）

茨城県身体障害者スポーツ大会の運営および審判：茨城県・ひたちなか市：9月

パラ水泳におけるサポート：茨城県・つくば市：4月，7月，11月

三大学連携障がい者のためのスポーツイベント：茨城県・つくば市，阿見町：12月

准教授 嵯 峨 寿

## 研究業績

### 3. その他論文（報告書等）

嵯峨 寿，秋山 央，福田 崇，奈良隆章，朴 京眞，本間三和子：体育センターによる平成26年度筑波大学重点公開講座の計画に当たって，大学体育研究，37：59-61，2015

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

平成27年度日本体育協会公認コーチ養成講習会（バドミントン）（郡山市，10月31日）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本レジャー・レクリエーション学会常任理事（1996年～）



日本オリンピック委員会事業専門部会員（2005年～）

日本オリンピック・アカデミー理事（2006年～）

## 准教授 澤江幸則

### 研究業績

#### 1. 学会発表

澤江幸則：身体的「不器用さ」のある子どもに対する運動発達支援の取り組み（シンポジウム不器用な子どもたち～発達性協調運動障害という視点からの理解と支援～）. 第12回子ども学会議, 兵庫県, 2015.10.

杉山文乃, 澤江幸則：当事者インタビューをもとにした成人期の自閉症スペクトラム障害者の障害スポーツ実践への影響要因：M-GTAによる分析をもとに. 第19回日本アダプテッド体育・スポーツ学会, 神奈川県, 2015.11.

加藤彩乃, 澤江幸則：大学生における知的障害者とのスポーツ交流後のコメントから見た「障害」認識の変化. 第19回日本アダプテッド体育・スポーツ学会, 神奈川県, 2015.11.

澤江幸則, 村上祐介, 杉山文乃, 土井畑幸一郎, 齊藤宣子, 島尚平：身体的「不器用さ」のある子どもにおいて運動発達支援が日常生活に及ぼす影響についての研究(1). 第19回日本アダプテッド体育・スポーツ学会, 神奈川県, 2015.11.

Yukinori SAWAE: Paralympic Education and inclusive society. 2015 International Conference of Sports. Taiwan, 2015.12.

澤江幸則：障害のある子どもたちと障害のない子どもたちの協働活動の現状と課題（体育系学術連合第1回記念大会シンポジウム障がいのある子どもたちの身体活動・スポーツについて考える）. 2015.8.

障害者支援施設に入居している知的障害者における健康維持増進に及ぼす身体活動プログラムの開発について. 日本特殊教育学会第53回大会, 宮城県, 2015.9.

鈴木杏奈, 澤江幸則, 齊藤まゆみ：発達障害のある子どものバランス能力と運動遊びの関連性について. 日本体育学会第66回大会. 東京都, 2015.8.

杉山文乃, 澤江幸則, 村上祐介, 土井畑幸一郎：青年期・成人期における知的障害者の生涯スポーツ実践に関する実践研究:個別事例研究による要因の検討を中心に. 日本体育学会第66回大会. 東京都, 2015.8.

発達障害児における投動作の発達的变化についての研究

村上祐介, 澤江幸則, 杉山文乃, 土井畑幸一郎：発達障害児における投動作の発達的变化についての研究. 日本体育学会第66回大会. 東京都, 2015.8.

島尚平, 齊藤まゆみ, 澤江幸則：海浜における自閉症スペクトラム障害児のコミュニケーション行動について. 日本体育学会第66回大会. 東京都, 2015.8.

齋藤宣子, 澤江幸則, 齊藤まゆみ, 村上祐介, 杉山文乃, 土井畑幸一郎：発達障害児における運動活動参加行動の変容過程についての事例研究：発達性強調運動障害児に対する実践事例をもとに. 日本体育学会第66回大会. 東京都, 2015.8.

竹巻勇人, 澤江幸則, 齊藤まゆみ:障害理解に及ぼす影響について:障害のある人との関わりに着目して. 日本体育学会第66回大会. 東京都, 2015.8.

加藤彩乃, 澤江幸則：大学生の「障害」への認識に影響を与える授業スタイルの検討Ⅰ. 日本体育学会

第 66 回大会. 東京都, 2015.8.

牧舞美, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 日本におけるパラリンピック教育の方向性: プログラム内容の検討をもとに. 日本体育学会第 66 回大会. 東京都, 2015.8.

土井畑幸一郎, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校小学部・中学部におけるトランポリン運動の実施状況. 日本体育学会第 66 回大会. 東京都, 2015.8.

渡邊百合子, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 知的障害者の身体活動についての研究: 健康増進に効果的な身体活動プログラムの条件. 日本体育学会第 66 回大会. 東京都, 2015.8.

澤江幸則, 栗原浩一, 渡邊百合子, 杉山文乃, 土井畑幸一郎, 柳澤佳恵, 島 尚平, 齊藤まゆみ: 障害者支援施設に入居している知的障害者の健康維持増進を目的とした身体活動のあり方についての実践研究: ポールウォーキングの導入による運動指標の変容に着目して. 日本体育学会第 66 回大会. 東京都, 2015.8.

Y. Sawae, Y. Murakami & A. Sugiyama: Kinematic Assessment of the Catching Movement of a Child with Motor Difficulties: A Single Case Study. The 11th International Conference on Developmental Coordination. Toulouse (France), 2015.7.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

澤江幸則: 小学校における不器用さに配慮した体育科教育の工夫. チャイルドヘルス, 18 (6), 2015.

## 3. その他論文 (報告書等)

藤田紀昭, 内田若希, 大日方邦子, 加藤木紳克, 澤江幸則, 高山浩久, 富栄さやか, 中島秀夫, 水原由明, 渡邊一利: 平成 26 年度 文部科学省『健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業 (地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』報告書. 笹川スポーツ財団, 2015

## 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「身体的不器用さのある子どもにおいて運動発達支援による変容が学校体育評価に及ぼす影響について」 (公益財団博報児童教育振興会)

「障害者の健康増進活動推進を目的としたエクササイズに関する研究」 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構)

「障害のある児童生徒の体育活動における指導の在り方調査研究」 (スポーツ庁)

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

横浜市都筑区子育て支援センター発達相談 (1 月～12 月, のべ 6 回)

アインシュタインクラブ主催家族参加型スポーツ教室「アインげんきキッズ」指導 (1 月～12 月, のべ 12 回)

筑波大学公開講座 平成 27 年度筑波大学公開講座「さまざまな障害の子どもたちの体育指導～知的障害児を中心に～」 (8 月 5 日から 7 日)

茨城県障害者スポーツ・文化協会主催 平成 26 年度茨城県障がい者スポーツ指導員養成講習会 (2 月 1 日)

公益財団法人発達協会主催 春のセミナー「不器用な子への理解とその支援」 (2 月 22 日)

東京都障害者総合スポーツセンター主催 平成 26 年度初級障がい者スポーツ指導員養成講習会 (2 月 23 日)

NPO 法人トラッソス主催「障害のある子どもの運動の不器用さについて」(3月28日)  
茨城県障がい者スポーツ指導者協議会主催「知的障害・発達障害のある選手の心理的特性と指導方法」(5月16日)  
足立区主催 初級障害者スポーツ指導者講習会「障害の理解とスポーツ(知的障害)～障害に応じたスポーツの工夫・理解～」(6月13日)  
東京都障害者総合スポーツセンター主催 平成26年度初級障がい者スポーツ指導員養成講習会(6月26日)  
東京都自閉症協会主催 講演会「発達障害のある子どもの運動の困難さと支援」(7月7日)  
千葉県立富里特別支援学校 研修会「基礎的な動きを育てる運動」(7月27日)  
千葉県立八千代特別支援学校 授業研究会(7月30日)  
公益財団法人発達協会主催 実践セミナー「特別な関わりが必要な子への保育・教育」(7月31日)  
名古屋市教育研究指導(8月1日)  
茨城県立伊奈特別支援学校 特別支援学校機能強化事業「ADHD, 発達性協調運動障害の支援の実際」(8月5日)  
指定福祉型障害児入所施設 群馬県立しろがね学園主催 研修会「運動の不器用さの理解と支援」(8月17日)  
茨城県立伊奈特別支援学校主催 特別支援教育研究会「自立活動における体育的指導の実際」(8月18日)  
初級障害者スポーツ指導者講習会「障害の理解とスポーツ(知的障害)～障害に応じたスポーツの工夫・理解～」(8月22日)  
茨城県立健康プラザ主催 平成27年度健康づくり指導者研修会【健康運動研修会】「障害のある人のための運動の意義と指導方法」(10月20日)  
土浦市「土浦市療育支援センター」主催 講演会「運動発達とその支援」(10月27日)  
日本トランポリン協会主催 全国研修会「発達障害のある子どもが運動・スポーツを楽しむための指導・支援」(10月31日)  
筑波大学附属中学校主催 研究授業協議会 助言者(11月14日)  
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会主催 第11回障がい者スポーツ指導者全国研修会「知的障害・発達障害児者のスポーツ指導」(11月21日・22日)  
調布市主催 調布市子ども発達センター市民講演会「運動が苦手・不器用な子どもの運動遊びと体づくり」(12月1日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員、役員

日本発達心理学会「発達障害」分科会 監事(2015年～)  
日本体育学会 アダプテッド・スポーツ科学専門領域 評議員(2014年～)  
日本アダプテッド体育・スポーツ学会 理事(2014年～)  
日本臨床発達心理士会 埼玉支部 役員(2006年～)  
日本臨床発達心理士会 「臨床発達心理実践研究」常任編集委員会 委員(2014年～)  
横浜市戸塚地域療育センター運営委員会 会長(2008年～)  
附属大塚特別支援学校 学校研究 講師(2009年～)  
障害者ディスクゴルフ協会 会長(2011年～)  
東京都立南花畑特別支援学校運営委員会 委員(2014年～) 調査委員会委員長(2014年～)  
東京都立調布特別支援学校 分科会研修「動きの良い体づくり」分科会 講師(2014年～)

東京自閉症協会主催「エンジョイアウトドアスポーツ」プログラム監修（2015年）

## 2. ボランティア活動

### 2-a. 日常的、定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

つくば市内の発達障害のある青年のための余暇活動支援活動主催（つくばMDC）・つくば市：1月から12月（毎月1回）

知的障害者支援施設でのポールウォーキング活動支援・つくば市：1月から12月（のべ8回）

NPO 法人調布心身障害児・者親の会みんなのサポートネット主催のボルタリング活動支援：1月と8月

### 公共機関、企業等からの委託業務（研究以外）

茨城県教育委員会：幼児児童生徒の教育的ニーズに応じた指導に関する専門家派遣事業（発達障害等に関する専門家派遣）（のべ3回）

准教授 高橋義雄

## 研究業績

### 1. 学会発表

Takahashi Y: The engagement in the Olympic and Paralympic movement (Chair). Tsukuba Global Science Week 2015, Japan, 2015.9.

高橋義雄：グローバルスポーツ4ビジネスと人材育成の課題（コーディネーター）。第2回つくば国際スポーツアカデミービジネスフォーラム，東京，2015.12.

高橋義雄：高校野球：これまでの100年，これからの100年～ここからどこへ向かうのか～（コーディネーター）。日本野球科学研究会第3回大会，名古屋，2015.12.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

塚本拓也，西脇智洋，吉野次郎，藤村慎也，高橋義雄：国際的なスポーツマネジメント人材を育成する大学院教育に関する考察—日欧4大学院の事例を比較して—。スポーツ産業学研究，25（2）：337-350，2015.

松田裕雄，小俣よしのぶ，渡 和由，高橋義雄，岡田幸彦，折笠 愛，濱崎元直，武田丈太郎，相原正道 "スポーツ産業市場を活性化する起業家的人材育成プログラムの開発と実践—筑波大学未来構想大学講座「プロフェッショナルマネジメント—スポーツで学ぶビジネスとキャリア」(全16単位)より—"，VENTURE REVIEW，25：67-72，2015.

高橋義雄：スポーツで地域の観光振興を図るために。市政，64：10-15，2015.

### 3. その他論文（報告書等）

松田裕雄，小俣よしのぶ，武田丈太郎，渡 和由，高橋義雄，相原正道，岡田幸彦：スポーツ産業市場を活性化する起業家的人材育成プログラムの開発と実践。筑波大学リサーチグループ「スポーツ産業人育成プロジェクト」，2015.

### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

高橋義雄，青木淑浩，岡星竜美，工藤康宏，二宮浩彰，原田宗彦，松岡宏高，山下玲：スポーツツーリズム・

ハンドブック．学芸出版社，2015.

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

スポーツ新産業創出促進シンポジウム「スポーツ産業が未来を拓く」(1月19日)

日本トップリーグ連携機構GM研修会「企業とのパイプを強くする(ファシリテーター)」(5月16日)

日本トップリーグ連携機構GM研修会「トップレベルチームの地域との関係づくり(ファシリテーター)」  
(5月17日)

豊田市経営戦略塾「スポーツコミッション，スポーツによる観光，地域創生」(8月21日)

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会第15回シンポジウム「スポーツにおける地域振興のねらい  
<世界と日本の姿>」(9月3日)

鹿角市プロジェクト事後評価アドバイザー検討会「鹿角市プロジェクト事後評価」(10月5日)

北海道オホーツク振興局スポーツ合宿ブランド化推進事業「スポーツによる街づくり」(10月19日)

東海ラジオ「矢野きよ実の朝は矢野流「もしもし，矢野ですけど」」(4月～12月毎週火曜日，延べ38回)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本卓球協会評議員(2012年～)

日本バレーボール協会理事会運営委員(2015年)

日本スポーツツーリズム推進機構理事(2012年～)

准教授 仲澤 眞

## 研究業績

### 1. 学会発表

吉田政幸・仲澤 眞・古橋佳子(2015) スポーツファンの誇り：プロサッカーとプロ野球における検証。  
日本スポーツマネジメント学会第8回大会，東京，2015.12.20

岡野雅夫・清雲栄純・小宮山悟・仲澤 眞(2015) シンポジウムⅡ：プロスポーツイベントのマネジメント。  
日本スポーツマネジメント学会第8回大会，東京，2015.12.20

### 2. 学術論文(原著論文，総説，研究資料，実践研究等)

仲澤 眞・吉田政幸(2015) ファンコミュニティの絆：プロスポーツにおけるファンコミュニティ・アイデンティフィケーションの先行要因および結果要因の検証。スポーツマネジメント研究，7(1):  
23-38.

Inoue, Y., Funk, D.C., Wann, D.L., Yoshida, M., & Nakazawa, M. (2015). Team identification and post-disaster social well-being: The mediating role of social support. *Group Dynamics: Theory, Research, and Practice*, 19(1), 31-44.

Yoshida, M., & Nakazawa, M. (2016). Innovative sport consumption experience: An empirical test in spectator and participant sports. *Journal of Applied Sport Management*, 8(1), forthcoming. doi:http://dx.doi.org/10.18666/JASM-2016-V8-I1-6024.

### 3. その他論文（報告書等）

仲澤 眞（監修）：Jリーグスタジアム観戦者調査 2014 サマリーレポート，公益社団法人日本プロサッカーリーグ，1-64，2015.

仲澤 眞（2015）プロサッカー・スタジアムの観戦者：Jリーグにおける観戦者対応から．体育の科学，65(10): 720-727.

### 5. 受賞

平成 27 年度学会奨励賞（日本スポーツマネジメント学会）

仲澤 眞・吉田政幸・岩村 聡（2014）Jリーグ観戦者の動機因子：Jリーグの導入期における二次的データの検証．スポーツマネジメント研究，6(1): 17-35.

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「プロサッカーの観戦行動に関する調査研究」（(公社)日本プロサッカーリーグ）仲澤 眞，青山優香

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

テレビ東京系「フットブレイン」（観戦者市場の分析から女性観戦者への対応方策を示唆した）2015.7.4  
(23:30-23:55)

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

(公財) 日本体育協会・公認スポーツ指導者養成講師（スポーツと社会）

(公財) 日本体育協会・生涯スポーツ推進専門委員会委員

(公財) 日本体育協会・日本スポーツマスターズ委員会委員

(独) 日本スポーツ振興センター・スポーツ振興基金助成審査委員会委員，

日本スポーツマネジメント学会 理事，ジャーナル編集委員長

日本フットボール学会 ジャーナル編集委員

准教授 長谷川 悦 示

### 研究業績

#### 1. 学会発表

長谷川悦示，岡出美則，三木ひろみ，宮崎明世，三田部勇：体育授業改善に向けた学習指導過程の視覚化の試み．日本スポーツ教育学会第 35 回記念国際大会，日本体育大学，東京，2015.9.19.

川戸湧也，長谷川悦示：中学校体育におけるマット運動授業と連結した柔道単元の授業実践及びその効果と課題．日本スポーツ教育学会第 35 回記念国際大会，日本体育大学，東京，2015.9.19.

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

長谷川悦示：わが国の学習指導法の展開と学習指導モデル論の概要．体育科教育学研究，31(2)，33-41，2015.

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

長谷川悦示: 英語圏にみる体育科の学習指導論. 「新版体育科教育学の現在」, 岡出美則, 友添秀則, 松田恵示, 近藤智靖編, 創文企画, pp.75-91, 2015

長谷川悦示: 学習指導法の展開. 「21世紀スポーツ大事典」, 中村敏雄, 高橋健夫, 寒川恒夫, 友添秀則編, 大修館書店, pp.539-544, 2015.

長谷川悦示: 指導力量を高める体育授業研究の方法. 「よい体育授業を求めて」, 体育授業研究会編, 大修館書店, pp.82-92, 2015.

#### 教育活動

##### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

東京都江東区立東砂小学校授業研究会講師 (6月24日, 7月7日, 9月16日, 10月23日, 11月18日)

東京都江東区立豊洲西小学校授業研究会講師 (6月25日, 9月7日, 10月14日, 11月19日, 12月10日)

東京都大田区千鳥小学校授業研究会講師 (6月19日)

埼玉県杉戸町立西小学校研究授業講師 (1月27日, 10月28日)

埼玉県行田市立北小学校研究授業講師 (1月30日, 5月5日, 11月13日)

埼玉県行田市立南川原小学校研究授業講師 (6月22日)

#### 競技活動

##### 2. 指導業績

男子・女子アイスホッケー部顧問

#### 社会貢献活動

##### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本スポーツ教育学会理事 (2000年4月～現在)

准教授 深澤浩洋

#### 研究業績

##### 1. 学会発表

深澤浩洋: 競技スポーツにおける尊敬の意義とそれを生み出す経験. 日本体育・スポーツ哲学会第37回大会, 刈谷市, 2015.8.

Fukasawa K: What experience in competitive sports generates a sense of respect? 43rd Annual Conference of International Association for Philosophy of Sport, Cardiff, U.K., 2015.9

#### 5. 受賞

平成27年度第29回河本体育科学研究奨励賞

#### 教育活動

##### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

生涯スポーツ・体力づくり全国会議2015 シンポジウム「スポーツにおける高潔性とは何か」—第一分科会「スポーツの高潔性を考える」(盛岡市:2015年2月6日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育学会指導者育成・資格特別委員会委員（2015年～）

日本体育学会代議員（2013年～）

日本体育学会体育哲学専門領域運営委員会委員長（2013年～）

日本体育・スポーツ哲学会理事（将来計画委員会委員長）（2013年～）

准教授 三木ひろみ

## 研究業績

### 1. 学会発表

三木ひろみ：体育学部生の論理的・批判的思考力とメタ認知を考える教材開発．日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

三木ひろみ：中学生の体育授業における学習動機づけの検討—自己決定理論に基づく動機づけの観点から．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会，東京，2015.9.

佐賀僚・三木ひろみ：体育における思考力・判断力—思考力・判断力を高める授業実践と学習指導要領等の検討から—．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会，東京，2015.9.

長谷川悦示・岡出美則・三木ひろみ・宮崎明世・三田部勇：体育授業改善に向けた学習指導過程の視覚化の試み．日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会，東京，2015.9.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

宮尾夏姫・三木ひろみ：小学校教師の体育授業実践に対する支援の検討—実施状況と指導上の困難さに着目して—．びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要，12，37-47，2015.

宮尾夏姫・三木ひろみ・柴田俊和：体育科模擬授業における学習成果—授業・授業づくりの要点の理解と学習を促す授業体験の事例的検討．びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要，12，93-104，2015.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等

三木ひろみ：スポーツを通して学ぶ：「スポーツを通して身につけている力」．アスリートライフスタイルガイドブック「パフォーマンスを最大限に高めるための考え方や習慣」，28-30，2015.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本スポーツ教育学会理事（平成24年～）

日本体育科教育学会常任理事（平成24年～）

「体育科教育学研究」編集委員長（平成27年～）

日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会組織委員会・学術委員会・事務局（平成27年）

学習指導要実施状況調査委員会委員（平成25年～）

平成27年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査検討委員会委員（平成27年～）

文部科学省委託事業「地域を活用した学校丸ごと子どもの体力向上推進事業」（平成27年～）

日本体育学会学会賞選考委員会委員長（平成26年～）



## 研究業績

### 1. 学会発表

三田部勇：保健体育科教師として教員採用選考試験で問われる専門教養の現状．日本スポーツ教育学会 第35回記念国際大会，東京，2015.9.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

三田部勇：保健体育科教師として教員採用選考試験で問われる専門教養の現状．筑波大学体育系紀要，38：77-85，2015.

### 3. その他論文（報告書等）

三田部勇：「年間指導計画の見直し及び修正」について．大日本図書 教育フォーラム，36-37，2015

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）  
「学校体育活動における指導の在り方調査研究」（文部科学省）

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

茨城県小学校体育主任研修会講師（茨城県民文化センター 1月30日）

学校保健委員会講師（土浦市立荒川沖小学校 3月5日）

親子スポーツ教室講師（石岡市立高浜小学校 6月13日）

体育授業アドバイザー派遣事業講師（つくば市立上郷小学校 7月2日）

私立認定こども園協会土浦支部研修会講師（筑波保育医療専門学校 7月8日）

茨城県学校体育実技指導者講習会講師「ゴール型」（笠松運動公園 7月29日）

茨城県牛久市教育研究会体育・保健体育研究部研修会講師「体づくり運動」（牛久市立牛久第三中学校 7月31日）

茨城県体育授業アドバイザー派遣事業講師（笠間市立岩間第一小学校 8月3日）

茨城県土浦市教育研究会全員研究協議会講師（土浦市立土浦第五中学校 8月5日）

茨城県阿見町教育研究会研究発表会講師（阿見町立舟島小学校 8月5日）

茨城県学校体育サポート事業講師（水戸市立大場小学校 10月19日）

茨城県学校体育サポート事業講師（つくば市立上郷小学校 10月28日）

茨城県学校体育サポート事業講師（大洗町立大洗小学校 11月20日）

茨城県学校体育サポート事業講師（潮来市立大生原小学校 12月11日）

茨城県教育研修センター研究発表会講師（茨城県教育研修センター 12月25日）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

茨城県学校体育推進委員会委員（平成27年5月～）

つくばマラソン審判員（11月22日）

## 2. ボランティア活動

### 2-a. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

小学校体育授業いきいきプロジェクト (筑波大学社会貢献プロジェクト) (平成 27 年 7 月～)

准教授 宮 崎 明 世

## 研究業績

### 1. 学会発表

**Akiyo Miyazaki** : A Review of Practices of Olympic and Paralympic Education in Japan - for TOKYO 2020.JSPS-JSC Collaborative Symposium Cultivating UK-Japan Research Collaboration through Sports, December 2015, London.

### 3. その他論文 (報告書等)

宮崎明世：オリンピック・パラリンピック教育授業づくりワークショップ. Journal of Olympic Education vol.3, 5, 2015.

宮崎明世：日本スポーツ教育学会第 34 回学会大会参加報告. Journal of Olympic Education vol.3, 8, 2015.

### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

宮崎明世, 中学 1・2 年生段階における長距離走の技術指導のポイント, 投運動の発達と指導のポイント. 体育科教育別冊 26, 新しい走・跳・投の運動の授業づくり, 24-29, 48-54, 119, 121, 大修館書店, 2015

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

JAAF アスリート発掘育成プロジェクト U-13 クリニック (陸上教室) 高知会場 3 月

「オリンピックについて知ろう」東京都立山崎高等学校 講義

第 2 回オリンピック・パラリンピック教育授業づくりワークショップ 7 月

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本陸上競技連盟普及育成委員 (平成 10 年～)

日本スポーツ教育学会理事 (平成 23 年～)

助教 金 子 史 弥

## 研究業績

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

金子史弥：「2012 年ロンドンオリンピックにみるナショナリズム—スポーツの『国家戦略』化と『多民族国家』をめぐる表象に着目して」. 石坂友司, 小澤考人編, 『オリンピックが生み出す愛国心—

スポーツ・ナショナリズムへの視点』, かもがわ出版, 187-215, 2015.

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「特集 東京五輪若手選手の育成 (テレビ朝日モーニングバード!)」(7月28日放送)

## 助 教 國 部 雅 大

## 研究業績

### 1. 学会発表

**Kokubu M**: The effect of feedback system on eye movement properties in binocular gaze control, 14th European Congress of Sport Psychology, Switzerland, 2015. 7

**國部雅大**: 球技における実際の対人場面で素早い反応を行う際の瞬目生起タイミングの分析. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.

大木雄太, **國部雅大**, 中込四郎: 遠投運動のパフォーマンス発揮における内的焦点の細分化. 日本スポーツ心理学会第42回大会, 福岡, 2015.11.

越智清夏, 菊政俊平, 大木雄太, **國部雅大**: ハンドボールのペナルティスローにおける注視方向および注視回数とシュート位置正確性の関係. 日本スポーツ心理学会第42回大会, 福岡, 2015.11.

菊政俊平, **國部雅大**: 野球の捕手における実践場面での状況判断能力を規定する認知的要因及び時間的要因. 日本スポーツ心理学会第42回大会, 福岡, 2015.11.

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Kitayama S, Fujikake H, **Kokubu M**, Higuchi T: The relationship between spatial cognition and walking trajectory for passing through a doorway: evident in individuals with dominant right eye? *Experimental Brain Research*, 233(3): 797-807, 2015.

**國部雅大**: 眼球運動と手の協調. 体育の科学, 65(12): 882-885, 2015.

加藤貴昭, 中本浩揮, 福原和伸, **國部雅大**, 永野智久: 「先を見る」ための視覚システムと実践的な取り組み. *バイオメカニクス研究*, 19(3): 150-157, 2015.

### 3. その他論文 (報告書等)

**國部雅大**: 視野空間における両眼眼球運動および注視安定性に関する実験的検討. 筑波大学体育系紀要, 38: 139-142, 2015.

## 社会貢献活動

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

新日本スポーツ連盟・2015年度6人制男子全国バレーボール競技大会: 「gravity」監督

## 助教 成瀬和弥

### 研究業績

#### 1. 学会発表

成瀬和弥：文部省生涯スポーツ課・競技スポーツ課の設置に関する研究. 日本体育・スポーツ政策学会 第25回大会，東京，2015.12.

Naruse K: Establishment of the Ministry of Ministry of Education, Science and Culture Sports-for-All Division and Competitive Sports Division. Society of policy for Physical Education and Sport, Japan, 2015.12

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

パナソニックセンター東京 Active Learning Camp 特別ワークショップ (11月8日)

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育・スポーツ政策学会理事 (2009年～)

## 助教 山口拓

### 研究業績

#### 1. 学会発表

山口 拓，カンボジア王国における体育科教育の変遷 III，一教育開発の崩壊・復興期 (1975-1993年) における体育・スポーツ，第66回日本体育学会，東京，2015.08.

鈴木 聡，内田雄三，近藤智靖，山口 拓，体育科授業研究組織の教員及び研究成果をつなぐネットワーク構築のための実証的研究—体育科授業研究組織におけるミドルリーダーの存在に視点を当てて—，第20回日本体育科教育学会，横浜，2015.06.

#### 2. 学術論文 (原著論文，総説，研究資料，実践研究等)

山口 拓：カンボジア王国における障がい者スポーツにみる日本の国際貢献の可能性，日本財団パラリンピック研究会紀要，3：79-106，2015.

#### 3. その他論文 (報告書等)

山口 拓，メコン流域諸国における障害者スポーツの現状と2020東京パラリンピックに向けた支援の可能性に関する調査研究，2015年12月，委託調査報告書 (日本財団オリンピック研究会)

山口 拓，開発と平和のためにスポーツが果たす役割，NPO法人サロン2002公開シンポジウム「2015スポーツで『ゆたかなくらし』を！」，東京，2015.07.04.

山口 拓，「体育×国際×イノベーション」，カタリバ大学第74講 イノベーション学部，2015.10.07.

山口 拓，国際支援によるムーブメント，国際シンポジウム「パラリンピック・ムーブメント-レガシーを通して考える2020年東京大会のあり方」，東京，2015.12.19

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

認定 NPO ハート・オブ・ゴールド，顧問（2012 年～）

National Olympic committee of Cambodia, Advisor（2012 年～）

スポーツ・フォー・トゥモロー事務局，顧問（2014 年～）

学生団体 WorldFut Tsukuba, 顧問（2012 年～）

つくばワールドフットサル大会運営委員，委員（2012 年～）

NPO フュージョン社会力創造パートナーズ，パートナー（2012 年～）

### 2. ボランティア活動

#### 2-b. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

つくばワールドフットサル大会（つくば市，11 月）：大会運営ボランティアスタッフ。

霞ヶ浦マラソン（茨城県・かすみがうら市，4 月）：大会運営ボランティアスタッフ。大会パートナーとして協力している NPO ハート・オブ・ゴールドのボランティアとして大会コンセプトを説明するブースで趣旨説明を行ったり，募金活動を行うなどの対応を行った。

### 3. 競技会引率・帯同等（部活顧問としての活動は除く）

短期学生ボランティア派遣帯同：カンボジア：3 月，9 月（毎月 2 回）

## 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

The 14th UNOSDP Youth Leadership Camp, 2015 年 3 月 3~14 日，東北エリア，協力業務（嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター）

開発と平和のためのスポーツ国際デー記念シンポジウム，2015 年 4 月 16 日，東京，協力業務（日本スポーツ振興センター）

JICA 課題別研修（学校体育・本邦研修），2015 年 8 月 30 日～9 月 12 日，つくば，委託業務（JICA 筑波国際センター）

## 助 教 李 燦 雨

## 研究業績

### 1. 学会発表

李 燦雨：近世朝鮮式曲馬術「馬上才」の具象－江戸時代における朝鮮通信使関連諸史料の解説を通して－. 日本体育学会 66 回大会，東京，2015

李 燦雨：史料から蘇る幻の朝鮮武芸「馬上才」－日本側の史料から見る朝鮮曲馬の残像－. 東北アジア体育・スポーツ史学会第 11 回大会，韓国釜山，2015

岡村拓・李 燦雨：昭和初期から中期における千葉縣市原市戸田校の体育実践－戸田小学校体育資料室所蔵史料の検討を通して－. 体育史学会第 4 回学会大会，大分，2015

咸章鉉・李 燦雨：戦後における在日コリアンのスポーツ活動－在日朝鮮蹴球団(1961-1999)を通して－. 体育史学会第 4 回学会大会，大分，2015

李 燦雨：江戸時代の馬上才を掘る－通信使の武文化をめぐる史料調査の現在と研究構想. 筑波大学体育史研究会平成 26 年度研究集会，茨城，2015

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

村井友樹・李 燦雨：全国壮丁皆泳必成訓練の実施背景と特徴：大日本体育会の軍事予備教育への関与，  
体育学研究，60：565-575，2015

李 燦雨：江戸時代における朝鮮馬術の伝来と継承－藤森神社の駟馬神事を中心に－．筑波大学体育科学系紀要，38：87-91，2015

村井友樹・李 燦雨・李驍瀟・岡村拓：アジア・太平洋戦争末期における軍事体育の受容－茨城県土浦市真鍋国民学校の航空体育に着目して－．筑波大学体育科学系紀要，38：1-8，2015

## 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「日本と韓国の体育・スポーツ（身体運動文化）交流史に関する共同研究」（公益財団法人韓昌祐・哲文化財団）

「朝鮮半島から日本に渡った「武」文化に関する研究－朝鮮通信使が伝えた馬上才と弓術－」（公益財団法人三菱財団）

「アジア・太平洋戦争時における学校体育のミリタリズムに関する史的研究－千葉県市原市戸田小学校の体操と航空体育の展開に着目して－」（筑波大学体育系）

「日本の遊戯史における『戸外遊戯法：一名戸外遊戯法』（1885）出版の意義に関する研究」（公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

東北アジア体育・スポーツ史学会理事（2015年～）

### 3. 競技会引率・帯同等

平成26年度日韓交流学生剣道親善試合（関東学生剣道連盟・韓国大学剣道連盟）：司会・通訳

## 特任助教 荒牧 亜衣

## 研究業績

### 1. 学会発表

和田浩一，荒牧亜衣：2020年東京オリンピック・パラリンピック大会を見据えたスポーツ政策の理念的モデルの検討 IOC 会長辞任直後のピエール・ド・クーベルタンによるスポーツ教育改革の分析を通して．2014年度笹川スポーツ研究助成研究成果発表会，東京，2015.4.

荒牧亜衣：オリンピック・ムーブメントとこれからのミュージアムを考える．特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー第38回JOAセッション（コーディネーター），東京，2015.12.

### 2. その他論文（報告書等）

大津克哉，荒牧亜衣，本間恵子，舛本直文，菅井達哉：日本体育学会第65回大会体育哲学専門領域シンポジウムB報告 オリンピック・レガシー研究の現状と課題．体育哲学研究，45：47-66，2015

荒牧亜衣：オリンピック・パラリンピック教育の可能性．オリンピック教育，3：26-29，2015

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)  
「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント調査研究事業」(平成 27 年度スポーツ庁委託事業プロジェクトメンバー)  
「21 世紀の国際スポーツイベントのあり方に関する調査研究」(日本スポーツ振興センター文部科学省委託事業外部サポートメンバー)

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

葛飾区立高砂小学校 校内研究会講師 (葛飾区, 10 月 28 日)

パナソニックセンター東京主催 Active Learning Camp 特別ワークショップ Excellence 編 (江東区, 11 月 3 日)

福岡県オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校セミナー「小中学校におけるオリンピック・パラリンピック教育」(福岡市, 11 月 16 日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー幹事 (2012 ~)

特任助教 松 畑 尚 子

## 研究業績

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

松畑尚子: 平成 23 (2011) 年社会生活基本調査 (総務省統計局): スポーツ人口の地域差. 体育の科学, 65(10):739-746

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

アジアスポーツ法学会 2015 大会組織委員会委員 (平成 27 年)

茨城体育学会幹事 (平成 25 年~)

茨城体育学会「いばらき健康・スポーツ科学」編集委員会幹事 (平成 24 年~ )

特任助教 村 上 祐 介

## 研究業績

### 1. 学会発表

Saswae, Y., Murakami, Y., Sugiyama, A. ; Kinematic Assessment of the Catching Movement of a Child with Motor Difficulties: A Single Case Study. 11<sup>th</sup> International Conference on Developmental Coordination Disorder, Toulouse (France), 2<sup>nd</sup>-4<sup>th</sup> July 2015.

村上祐介, 澤江幸則, 杉山文乃, 土井畑幸一郎; 発達障害児における投動作の発達的变化に関する研究. 日本体育学会第 66 回大会, 国士舘大学, 2015.8.

杉山文乃，澤江幸則，**村上祐介**，土井畑幸一郎；青年期・成人期における知的障害者の生涯スポーツ実践に関する実践研究 ―個別事例研究による要因の検討を中心に―。日本体育学会第 66 回大会，国士舘大学，2015.8.

澤江幸則，**村上祐介**，杉山文乃，土井畑幸一郎，齋藤宣子，島 尚平；身体的「不器用さ」のある子どもにおいて運動発達支援が日常生活に及ぼす影響についての研究 (1)。第 36 回医療体育研究会／第 19 回日本アダプテッド体育・スポーツ学会第 17 回合同大会，神奈川工科大学，2015.11.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

スポーツとのかかわりが子どもの成長を変える 一人ひとりの子どものに合ったスポーツ活動の実現に向けて。実践障害児教育，42 (8)：10-11，2015.

用語解説 発達障害。みんなのスポーツ，37 (7)：24，2015.

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

筑波大学公開講座 「さまざまな障害の子どもたちの体育指導～知的障害児を中心に～」(8月6日)

スポーツボランティア技術指導講習会「発達障がい児の運動指導に携わるスポーツボランティア育成事業」(NPO 法人スマイルクラブ，柏市，7月19日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

第 19 回全国障害者スポーツ大会茨城県選手育成・強化検討委員会委員，2015 年 6 月～

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

茨城県下妻市 親子サークル「ひまわり」運動指導（下妻市，月 1 回，計 12 日）

特任助教 **笠野英弘**

## 研究業績

### 1. 学会発表

**笠野英弘**：スポーツ組織研究におけるスポーツ行為者の社会的性格。日本体育学会第 66 回大会，東京，2015.8.

清水紀宏，**笠野英弘**：民間スポーツ組織（中央競技団体）の公共性に関する実態調査報告。日本体育・スポーツ経営学会第 52 回研究集会，東京，2015.12.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

**笠野英弘**：日本サッカー協会が生成する制度的構造に関する研究―スポーツ組織とスポーツ行為者との関係に着目して―。筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻博士論文，2015.



## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

NPO 法人スマイルクラブ スマイルスポーツサミット “Smile Sport Summit” (S.S.S.) 講演 (事例報告)  
「サッカーを事例とした愛好者の組織化について～会員増のためのヒント～」(7月5日)

# 健康体力学分野

## 研究業績

### 1. 学会発表

阿江通良：スポーツ競技力の向上をサポートする。日本体育学会第66回大会学際シンポジウム，東京，2015.8.

小林育斗，阿江通良，中谷英樹：標準動作モデルを用いた練習による小学生の投動作の変化。日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

橋爪 純，阿江通良，大津卓也：バスケットボールにおけるフェイントの成否に関するバイオメカニクス的研究。日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

清水 悠，阿江通良，小山宏之：跳躍タイプ別にみた走幅跳の成功試技と失敗試技の比較。日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

Shimizu Y, **Ae M**, Koyama H: The takeoff preparation and takeoff motions for elite male long jumpers. The 33<sup>rd</sup> International Conference on Biomechanics in Sports, Poitiers, France, 2015.6

Kadono H, **Ae M**: Changes in the running motion with fatigue during middle-distance running. The 33<sup>rd</sup> International Conference on Biomechanics in Sports, Poitiers, France, 2015.6

Shibayama1 K, Fujii N, **Ae M**: Acute effects of training on hurdle configuration during sprint hurdle motion. The 33<sup>rd</sup> International Conference on Biomechanics in Sports, Poitiers, France, 2015.6

Kobayashi1 Y, **Ae M**, Miyazaki A, Fujii N, Iiboshi A, Nakatani H: Changes in kinematics of throwing arm joints in elementary school children due to training of a distance throw. The 33<sup>rd</sup> International Conference on Biomechanics in Sports, Poitiers, France, 2015.6

Ishii T, **Ae M**: Comparison of kinetics of the leg joints in Seoi-nage between elite and college judo athletes. The 33<sup>rd</sup> International Conference on Biomechanics in Sports, Poitiers, France, 2015.6

**Ae M**: A biomechanical approach to sport technique research. Keynote, 7<sup>th</sup> Asia-Pacific Conference on Exercise and Sports Science, Faridabad, India, 2015.10

尾崎 大，加藤謙一，阿江通良：男子児童の走幅跳動作の横断的発達。陸上競技学会第14回大会，東京，2015.11.

阿江通良：スポーツ科学からの材料科学への期待。第25回日本MRS年次大会。スポーツにおける材料科学セッション。基調講演，神奈川（横浜），2015.12.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

石井孝法，阿江通良：キネティクスからみた柔道の背負投：一流競技者と学生競技者の比較。バイオメカニクス研究，19(2)：84-88，2015.

### 3. その他論文（報告書等）

阿江通良：より開かれた学校保健学への期待。巻頭言。学校保健研究，57：1，2015.

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）  
「マルチサポート事業：研究開発プロジェクト」（文部科学省委託）

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

第 11 回筑波大学産学連携会 ニーズ・シーズ情報交換会「マルチサポート事業について」(大塚キャンパス, 2015 年 12 月 9 日)

つくば科学出前レクチャー「体育・スポーツを通して学んだこと: 自分の頭で考え, 覚悟を決め, 身体を使う」(つくば市立竹園東中学校, 2015 年 12 月 19 日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体育学会会長 (平成 25 年~)

日本バイオメカニクス学会理事 (平成 23 年~)

国際スポーツバイオメカニクス学会第 34 回大会組織委員会委員長 (2015 年 1 月~)

日本学術会議 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会委員 (平成 25 年~)

日本陸上競技学会理事 (平成 23 年~)

日本コーチング学会理事 (平成 23 年~)

日本体育協会医科学委員会委員 (平成 23 年~)

独立行政法人日本学生支援機構 選考委員 (平成 24 年~)

日本オリンピック委員会医科学サポート部会委員 (平成 24 年~)

アスリートのキャリア形成支援方策の在り方に関する有識者会議 委員 (平成 25 年~)

日本スポーツ振興センター・スポーツ振興事業助成審査委員会委員 (平成 27 年 4 月~)

新国立競技場改築設計に係わる技術委員会委員 (平成 27 年 6 月~ 12 月)

つくば市総合運動公園基本計画策定委員会委員長 (平成 25 年 1 月~ 12 月)

茗溪会理事 (平成 25 年~)

大学基準協会基準委員会委員 (平成 27 年 4 月~)

文部科学省・コーチング推進コンソーシアム委員 (平成 27 年 4 月~)

2020 年に向けた社会全体の ICT 化推進に関する懇談会幹事会: スポーツ×ICT ワーキンググループ委員 (平成 27 年 4 月~)

## 教授 大森 肇

## 研究業績

### 1. 学会発表

宮崎照雄, 石倉恵介, 本多 彰, 羅 成圭, 宮本和宣, 小峰昇一, 宮川俊平, **大森 肇**, 松崎靖司 (口頭発表): 持久性運動によるアセチルタウリンの生成. 第 1 回国際タウリン研究会日本部会, 神戸, 2015.2

羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, **大森 肇**, 前田清司 (口頭発表): タウリン摂取は伸張性レジスタンス運動後の遅発性筋肉痛と動脈スティフネスの増加を抑制する. 第 1 回国際タウリン研究会日本部会, 神戸, 2015.2

石倉恵介, 宮崎照雄, 松坂 賢, 羅 成圭, 竹越一博, 宮川俊平, **大森 肇**, 松崎靖司 (口頭発表): 長時間持久性パフォーマンスに及ぼすタウリン投与の影響. 第 1 回国際タウリン研究会日本部会, 神戸, 2015.2

- 大森 肇**, 小峰昇一, 三好貴士, 松井 崇, 石倉恵介, 羅 成圭, 宮崎照雄, 正田純一, 宮川俊平, 征矢英昭 (口頭発表): 長時間運動の持続時間と血糖レベルの関係に及ぼすタウリン投与の影響. 第1回国際タウリン研究会日本部会, 神戸, 2015.2
- 海老名 慧, 小峰昇一, 大野貴弘, 時野谷勝幸, 石倉恵介, 松井 崇, 羅 成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, 征矢英昭, **大森 肇** (ポスター発表): 長時間運動時の血糖低下をタウリン投与が抑制する機序～遊離アミノ酸を基質とした糖新生からの検討～. 第1回国際タウリン研究会日本部会, 神戸, 2015.2
- 時野谷勝幸, 石倉恵介, 小峰昇一, 海老名慧, 羅 成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, **大森 肇** (口頭発表): 運動様式の違いによって生じる遅発性と速発性の筋痛・筋損傷の違い～伸張性運動とフルマラソンによる検討～. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015.7
- 海老名慧, 小峰昇一, 大野貴弘, 時野谷勝幸, 石倉恵介, 松井 崇, 羅 成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, 征矢英昭, **大森 肇** (口頭発表): 長時間運動時の血糖低下をタウリン投与が抑制する機序～遊離アミノ酸を基質とした糖新生からの検討～. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015.7
- Miyazaki T, Ishikura K, Honda A, Ra SG, **Ohmori H** and Matsuzaki Y (Oral Presentation): Serum concentrations of 3-hydroxyisobutyrate and 3-hydroxy-3-methylbutyrate as skeletal muscular BCAA metabolites in endurance exercise. The 14<sup>th</sup> International Congress on Amino Acids, Peptides and Proteins, Vienna, Austria, 2015.8
- 海老名慧, 小峰昇一, 大野貴弘, 時野谷勝幸, 石倉恵介, 松井 崇, 羅 成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, 征矢英昭, **大森 肇** (口頭発表): 長時間運動時の遊離アミノ酸の動態にタウリン投与が及ぼす影響. 第8回脳・神経・内分泌系から運動の意義を考える会, 和歌山, 2016.9
- 石倉恵介, 時野谷勝幸, 海老名慧, 小峰昇一, 川口優大, 黒岩貴信, 水島隆規, 山本大介, 鍋倉賢治, 宮川俊平, **大森 肇** (口頭発表): 経験の違いがフルマラソン後の筋損傷・炎症マーカーならびに筋肉痛に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2016.9
- 海老名慧, 小峰昇一, 大野貴弘, 時野谷勝幸, 石倉恵介, 松井 崇, 羅 成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, 征矢英昭, **大森 肇** (口頭発表): 長時間運動時の遊離アミノ酸の動態にタウリン投与が及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2016.9
- 大野貴弘, 海老名慧, 時野谷勝幸, 小峰昇一, 鈴木貴視, 西村明仁, 宮川俊平, **大森 肇** (口頭発表): L-シトルリン投与がラットの走運動パフォーマンスに及ぼす影響～中強度運動と高強度運動での比較～. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2016.9
- 時野谷勝幸, 石倉恵介, 海老名慧, 小峰昇一, 羅 成圭, 川口優大, 黒岩貴信, 水島隆規, 山本大介, 鍋倉賢治, 宮川俊平, **大森 肇** (口頭発表): フルマラソンにおける遅発性筋痛および筋損傷の特徴. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2016.9
- 羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, **大森 肇**, 前田清司 (ポスター発表): タウリン摂取が一過性伸張性運動後の非運動肢血管内皮機能に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2016.9
- 大森 肇** (座長): 代謝⑤, 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2016.9
- Ohmori H** (Symposium Speaker): Combined effect of branched-chain amino acids and taurine intake on delayed onset muscle soreness and muscle damage in high-intensity eccentric exercise. Symposium of Sports Nutrition. The 7<sup>th</sup> Asia Pacific Conference on Exercise and Sports Science, Faridabad, India, 2015.10
- Ohmori H** (Chairperson of Plenary Session): Session VIII: Health promotion with exercise training and socio educational needs. The 7<sup>th</sup> Asia Pacific Conference on Exercise and Sports Science, Faridabad, India, 2015.10

## 2. 学術論文

Miyazaki T, Ishikura K, Honda A, Ra SG, Komine S, Miyamoto Y, **Ohmori H** and Matsuzaki Y: Increased N-acetyltaurine in serum and urine after endurance exercise in human, *Advances in Experimental Medicine and Biology*, 803: 53-62,2015

Ra SG, Akazawa N, Choi Y, Matsubara T, Oikawa S, Kumagai H, Tanahashi K, **Ohmori H** and Maeda S: Taurine supplementation reduces eccentric exercise-induced delayed onset muscle soreness in young men, *Advances in Experimental Medicine and Biology*, 803: 765-772,2015

羅 成圭, 赤澤暢彦, 崔 英珠, 竹越一博, **大森 肇**, 前田清司: レジスタンス運動時のタウリン摂取の有効性. *タウリンリサーチ*, 1:36-38, 2015

海老名 慧, 小峰昇一, 大野貴弘, 時野谷勝幸, 石倉恵介, 松井 崇, 羅 成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, 征矢英昭, **大森 肇**: 長時間運動時の血糖低下をタウリン投与が抑制する機序 ~遊離アミノ酸を基質とした糖新生からの検討~. *タウリンリサーチ*, 1:53-55, 2015

**大森 肇**, 小峰昇一, 三好貴士, 松井 崇, 石倉恵介, 羅 成圭, 宮崎照雄, 正田純一, 宮川俊平, 征矢英昭: 長時間運動の持続時間と血糖レベルの関係に及ぼすタウリン投与の影響. *タウリンリサーチ*, 1:56-58, 2015

石倉恵介, 宮崎照雄, 松坂 賢, 羅 成圭, 宮川俊平, **大森 肇**: 骨格筋糖代謝ならびにアミノ酸代謝関連の遺伝子発現に及ぼすタウリン投与の影響. *タウリンリサーチ*, 1:59-62, 2015

## 6. 奨学寄付金, 共同研究, 研究助成

**大森 肇**: 運動後の筋痛・筋損傷に及ぼすアミノ酸投与の効果に関する研究 (2) <奨学寄附金>. (株)生活文化舎: 500,000 円, 平成 22 年度受入 (継続中)

**大森 肇**: マナーキッズ®テニス教室における指導が中高年指導者自身の感情とストレスマーカーに及ぼす影響に関する研究 <奨学寄附金>. 認定 NPO 法人マナーキッズ®プロジェクト: 390,600 円. 平成 23 年度受入 (継続中)

**大森 肇**: 運動に伴う筋痛・筋損傷に及ぼす分岐鎖アミノ酸摂取の効果に関する研究 <奨学寄附金>. テルモ (株): 1,060,000 円, 平成 24 年度受入 (継続中)

**大森 肇**: L-シトルリンおよび L-アルギニン摂取が運動パフォーマンスに及ぼす影響の検討 <共同研究>. 協和発酵バイオ (株): 1,188,000 円, 平成 26 年度受入 (平成 27 年 5 月 31 日まで)

**大森 肇**: L-シトルリンおよび L-アルギニン摂取が運動パフォーマンスに及ぼす影響の検討 <共同研究>. 協和発酵バイオ (株): 594,000 円, 平成 27 年度期間延長

**大森 肇**: 文部科学省特別経費「ヒューマン・ハイ・パフォーマンスを実現する次世代スポーツ科学の国際研究教育拠点事業 (HHP プロジェクト)」平成 27 年度 HHP 研究プロジェクト助成: 400,000 円, 平成 27 年度受入

## 3. その他論文 (報告書等)

**大森 肇**: マナーキッズ®テニス教室は子供の感情を改善する <5 研究報告>. 公益財団法人マナーキッズ®プロジェクトについて 第 8 版: 5, 2015.7

## 教育活動

### 3. 一般向け教室、講演、マスコミ出演等

**大森 肇**, 角川隆明: 第 1 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.3.26

**大森 肇**, 角川隆明: 第 2 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.3.26

大森 肇, 角川隆明: 第 3 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.3.27  
 國房 尚, 大森 肇: 米国での滞在留意事項, 公益財団法人マナーキッズ®プロジェクト マナーキッズ大使事前研修, 柏, 2015.3.29

大森 肇, 内藤 景: 第 4 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.4.21  
 大森 肇, 内藤 景: 第 5 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.4.24  
 大森 肇, 内藤 景: 第 6 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.4.30

Ohmori H and Naito: The 7<sup>th</sup> Orientation for Users of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2015.5.26

大森 肇, 内藤 景: 第 8 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.5.27  
 大森 肇, 内藤 景: 第 9 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.8.28

Ohmori H and Naito: The 10<sup>th</sup> Orientation for Users of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2015.8.31

大森 肇, 内藤 景: 第 11 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.11.9  
 Ohmori H and Naito: The 12<sup>th</sup> Orientation for Users of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2015.11.10

大森 肇, 内藤 景: 第 13 回筑波大学中央体育館第 1・第 2 トレーニング場利用者講習会, 2015.11.19  
 <日本語・英語> (Ohmori H and Naito: The 13<sup>th</sup> Orientation for Users of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2015.11.19)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本運動生理学会 評議員 (平成 5 年～)  
 日本運動生理学会 理事 (平成 27 年～)  
 日本運動生理学会 学会賞選考委員 (平成 27 年～)  
 日本体力医学会 評議員 (平成 7 年～)  
 日本体力医学会 学術委員・プロジェクト研究委員 (平成 21 年～ 27 年)  
 日本体育学会 学会賞選考委員 (平成 26 年～)  
 日本健康行動科学会 評議員 (平成 14 年～)  
 公益社団法人マナーキッズ®プロジェクト 理事 (平成 26 年～)  
 文部科学大臣杯マナーキッズ®シヨートテニス全国小学生団体戦 マナーキッズ大使選考委員 (平成 23 年～)

「マナーキッズ®」調べ表彰者発表会 審査員 (平成 26 年～)  
 東京都杉並区三谷小学校学校運営協議会 顧問 (平成 25 年～)  
 国際タウリン研究会 理事 ((平成 26 年～)

The Members of the Selection Committee of Best Paper/Poster Award in The 7<sup>th</sup> Asia Pacific Conference on Exercise and Sports Science, Faridabad, India, 2015.10

## 研究業績

### 1. 学会発表

Hayami T, Hayashi Y, Hirono J and **Kizuka T**: Influence of instruction with or without numerical value on the grip force grading, 20th Annual Congress of the European College of Sport Science, Sverige, Malmo, 2015. 6.

**木塚朝博**, 大田 穂, 飯嶋裕美, 岩見雅人, 小野誠司: リフティング技能の評価に用いる不安定面の有用性, 第 24 回バイオメカニズムシンポジウム, 新潟, 2015.7.

小野誠司, **木塚朝博**, 岡田守彦: 滑動性追跡眼球運動におけるヒトのタイミング適応の特性, 第 24 回バイオメカニズムシンポジウム, 新潟, 2015.7.

大田 穂, 岩間圭祐, **木塚朝博**: ランナーの状況判断を伴うゴロ捕球時の視覚探索, 第 24 回バイオメカニズムシンポジウム, 新潟, 2015.7.

柴山久美, 鍋山隆弘, 有田祐二, 香田郡秀, **木塚朝博**: 剣道における下肢の踏み切り動作の違いが打突時間に及ぼす影響, 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

眞里谷健司, 大山卞圭悟, **木塚朝博**: 男子やり投競技者を対象とした体幹部筋パワーの測定, 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

巖 善娥, 大田 穂, 岩間圭祐, **木塚朝博**: 子どもの一致予測タイミングに移動指標の速度が及ぼす影響, 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

岩間圭祐, 小野誠司, **木塚朝博**: 一致タイミング課題の誤差と被験者の立ち位置の関係, 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

板谷 厚, **木塚朝博**, 遠藤卓郎: 呼吸法が立位中の身体動揺に及ぼす影響, 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

大田 穂, **木塚朝博**: ゴロ捕球技能レベルの異なるソフトボール選手における視野制限に対する動作適応の相違, コーチング学研究, 28(2): 103-114, 2015.

**木塚朝博**: デュアルタスクで見積もる子どもの身体性コンピテンシー, 体育の科学, 65 (5): 342-349, 2015.

速水達也, **木塚朝博**: 主観的運動強度を用いた疲労課題後における力覚変化の検証, 長野体育学研究, 22: 9-14, 2015.

### 3. その他論文 (報告書等)

**木塚朝博**: デュアルタスクの守備範囲, 体育の科学, 65 (5): 306-307, 2015.

### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

**木塚朝博**: 発達の中の子どもの身体: 幼児期; 澤江幸則, **木塚朝博**, 中込四郎 (編著): 身体性コンピテンシと未来の子どもの育ち, 明石書店, 日本, 50-67, 2015.

澤江幸則, **木塚朝博**: 未来につながる子どもの身体とその育ち: プロジェクトの取組とその成果; 澤江幸則, **木塚朝博**, 中込四郎 (編著): 身体性コンピテンシと未来の子どもの育ち, 明石書店, 日本, 212-231, 2015.



6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)  
「未来の子ども育ち総合調査研究」(つくば市教育委員会)

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

木塚朝博: 幼児期に運動能力を高めるキーワード「デュアルタスク」, 野球太郎育児. 1(1): 34-39, 2015.

木塚朝博: 体育会系学生の今. Campus Life Vol.42: 14-17, 2015.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

日立戸塚ソフトボール部研修講座「力を入れること⇔抜くこと」(7月1日)

つくば市体づくり運動研修講座「デュアルタスク系運動遊びの実践」(7月30日)

平成27年度保健学習協議会「保健体育を通して再確認する状況認知の重要性」(8月26日)

筑波大学附属坂戸高等学校出前講座「スポーツに必要な無駄の少ない体の動き」(11月6日)

筑波大学高大連携模擬講義 (東京都立三鷹中等教育学校)「スポーツスキルの向上につながる無駄の少ない体の動き」(11月12日)

G ボールセッション2015 (日本Gボール協会)「体験ワークショップ: G ボールでデュアルタスク運動遊び」(11月21日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体力医学会評議員 (2002 ~)

身体運動文化学会常任理事 (2003 ~)

茨城体育学会理事 (2003 ~)

日本体育学会代議員 (2005 ~)

日本武道学会評議員 (2011 ~)

バイオメカニズム学会常任理事 (2012 ~)

体育の科学編集委員 (2013 ~)

日本Gボール協会副理事長 (2004 ~)

茨城県つくば市立吾妻小学校評議員 (2010 ~)

社会福祉法人尚恵学園評議員 (2011 ~)

茨城県つくば市立吾妻中学校評議員 (2013 ~)

教授 久野 譜也

## 研究業績

### 1. 学会発表

Chijiki Shoko, Kai Tanabe, Noriko Yokoyama, Akiko Tsukao, **Shinya Kuno**: Effectiveness of incentive to promote physical activity in the middle-aged and elderly containing people with no intention to exercise for health promotion -SWC Project 39-. 6<sup>th</sup> NACK 2015, Shin-Matsudo, July, 2015.

Bang Eunji, Kai Tanabe, Noriko Yokoyama, Shoko Chijiki, **Shinya Kuno**: Relationship between the accumulation of thigh intermuscular adipose tissue and number of metabolic syndrome risk factor in middle-aged Japanese people. 6<sup>th</sup> NACK 2015, Shin-Matsudo, July, 2015.

方 恩知, 田辺 解, 横山典子, 千々木祥子, **久野譜也**: 中高齢者における大腿部筋間・筋内脂肪がメタボリックシンドロームリスク保有数に及ぼす影響. 日本体力医学会第 70 回大会, 和歌山, 9 月, 2015.

田辺 解, 横山典子, 千々木祥子, 村瀬陽介, 塚尾晶子, **久野譜也**: インセンティブを用いた健康増進モデル社会実証実験の成果-SWC プロジェクト 33. 日本体力医学会第 70 回大会, 和歌山, 9 月, 2015.

横山典子, 田辺 解, 千々木祥子, 村瀬陽介, 齋藤直美, 塚尾晶子, **久野譜也**: インセンティブ付健康事業への参加の契機となった広報活動-SWC プロジェクト 34-. 日本体力医学会第 70 回大会, 和歌山, 9 月, 2015.

千々木祥子, 田辺 解, 横山典子, 村瀬陽介, 塚尾晶子, **久野譜也**: 自治体主体の運動事業の参加動機に寄与するインセンティブ-SWC プロジェクト 35-. 日本体力医学会第 70 回大会, 和歌山, 9 月, 2015.

江原義智, 田辺 解, 王チュウレイ, 王薪チン, 方 恩知, 砂塚 亘, **久野譜也**: 男子プロゴルファーにおけるドライバーパフォーマンスと体力との関係-エリート大学生との比較-. 日本体力医学会第 70 回大会, 和歌山, 9 月, 2015.

横山典子, 田辺 解, 千々木祥子, 塚尾晶子, **久野譜也**: インセンティブ付健康事業が健康意識の変容にもたらす効果-SWC プロジェクト 36-. 第 74 回日本公衆衛生学会, 長崎, 11 月, 2015.

千々木祥子, 田辺 解, 横山典子, 塚尾晶子, **久野譜也**: 金銭的インセンティブが運動継続に及ぼす効果の検討-SWC プロジェクト 37-. 第 74 回日本公衆衛生学会, 長崎, 11 月, 2015.

田辺 解, 横山典子, 千々木祥子, 塚尾晶子, **久野譜也**: 運動実施と健診受診を促す至適なインセンティブ内容の検討-SWC プロジェクト 38-. 第 74 回日本公衆衛生学会, 長崎, 11 月, 2015.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

(原著論文)

Youngju Choi, Masahiro Miura, Yoshio Nakata, Takehito Sugasawa, Sumiko Nissato, Takeshi Otsuki, Jun Sugawara, Yasushi Kawakami, Hitoshi Shimano, Yoshimi Iijima, Kiyoji Tanaka, **Shinya Kuno**, Nitish R. Mahapatra, Seiji Maeda and Kazuhiro Takekoshi: A common genetic variant of the chromogranin a-derived peptide catestatin is associated with atherogenesis and hypertension in a Japanese population. advance publication, Jul. 10, 2015. (DOI: 10.1507/endocrj. EJ15-0471) in press

(総説)

**久野譜也**: Smart Wellness City には課題解決型の人材育成が必要. 自治体ソリューション 1 月号, 16-18, 2015.

**久野譜也**: 健幸ポイント実証実験, 健康づくりへの意識喚起を図る. 時評 2 月号, 時評社, 98-105, 2015.

**久野譜也**: 健幸を核とした新しいまちづくり~賢い都市づくりで健康寿命を延伸~. 時評 3 月号, 時評社, 150, 2015.

**久野譜也**: 生活習慣病のリスクが上がる「サルコペニア肥満」にご注意. 日経ヘルス 2015 春号, 日経 BP 社, 32, 2015.

久野譜也：寝たきり老人にならない！「大腰筋」トレーニング．一個人5月号，KKベストセラーズ，90-97，2015.

久野譜也：超高齢・人口減社会に挑戦する健「幸」まちづくり～スマートウエルネスシティを目指して～．熊本市都市政策研究所ニューズレター第8号，熊本市都市政策研究所，1，2015.

恒松美香子，久野譜也：中高齢者の健康・体力づくり．中高齢者の鍼灸療法，12-21，2015.

久野譜也，方 恩知，金 正訓：高齢社会におけるサルコペニア肥満の実態と対策．臨床整形外科，50：845-848，2015.

久野譜也：健康無関心層の行動変容をもたらすインセンティブ制度—健康ポイント付与の方向性—．保健師ジャーナル，医学書院，71:746-751，2015.

久野譜也：健幸長寿社会を創造する Smart Wellness City のベクトル．病院 74 卷 7 号，498-501，2015.

久野譜也：地域は健康づくり無関心層をターゲットにしたポピュレーション戦略への転換を．国保ひょうご5月号，2-5，2015.

久野譜也：歩いて暮らせるまちづくり「Smart Wellness City」の促進を！．新都市8月号，3-5，2015.

久野譜也，方 恩知：健康寿命延伸に向けたサルコペニア肥満の現状と対策．月刊神経内科 11 月号，83：378-383，2015.

久野譜也：健康寿命延伸のためにサルコペニア肥満の予防が重要．神奈川のこくほ・かいご 12 月号，3-6，2015.

久野譜也：「歩かざるをえないまちづくり」に転換し，疾病予防と医療費削減の実現を．金融財政事情 12 月 7 日号，14-17，2015.

久野譜也：健康づくり無関心層の行動変容をもたらすインセンティブ策．地方議会人 8 月号，13-16，2015.

久野譜也：健康づくり無関心層の行動変容をもたらす新しいアプローチ - 「健康ポイント」．月刊 / 保険診療 7 月号，37-40，2015.

## 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「健康ポイント制度社会実証実験事業」平成 26 年度総合特区推進費補助金「インセンティブの制度化を見据えた健幸ポイント等の予防事業の類型化のための調査検討（SWC 総合特区）」（厚生労働省）

「特定のトレーニング効果に関する研究」（つくばウエルネスリサーチ）

「総合特区住民アンケート（POST 調査）に係る調査・分析」（新潟県三条市）

「6 市連携健幸ポイントプロジェクトに係る調査業務」平成 27 年度「スポーツによる地域活性化推進事業（スポーツを通じた健康寿命長寿社会等の創生）」（文部科学省）

「健康まちづくり政策効果の把握業務」健康まちづくり政策効果の把握業務（国土交通省）

「健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区の施策効果の検証」（つくばウエルネスリサーチ）

「スポーツウエルネスサービスによる地域活性化モデルの構築に係る調査業務」平成 27 年度「スポーツによる地域活性化推進事業」（スポーツ庁）

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

久野譜也：寝たきりにならない！1日5分大腰筋エクササイズ（監修）．宝島社，1-79，2015.

久野譜也：筋トレをする人が10年後、20年後になっても老けない46の理由。(単著). 毎日新聞出版, 1-240, 2014.

田辺解, 久野譜也：「認知症」「寝たきり」になりたくなければ筋肉を鍛えなさい(監修). PHP 研究所, 1-111, 2015.

久野譜也：寝たきり老人になりたくないならダイエットはおやめなさい(単著). 飛鳥新社, 1-214, 2015.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等(講演)

久野譜也：歩いてポイント貯めて健幸長寿！(招待講演). 高石市健幸ポイントシンポジウム, 高石, 1月, 2015.

久野譜也：SWCで健幸長寿へ(招待講演). 大田原市健康セミナー スマートウエルネスおたわら, 大田原, 2月, 2015.

久野譜也：歩かされてしまうまちを目指してー Smart Wellness Cityの創造ー(招待講演). 日本みち研究所主催 第19回道路空間高度化研究会, 東京, 2月, 2015.

久野譜也：健康寿命を伸ばそう！(招待講演). つくばウエルネスパーク講演会, つくば, 2月, 2015.

久野譜也：超高齢・人口減社会に挑戦する健「幸」まちづくり～スマートウエルネスシティを目指して～(招待講演). 熊本市都市政策研究所第11回講演会, 熊本, 2月, 2015.

久野譜也：健幸を核とした新しいまちづくり～スマートウエルネスシティ～(招待講演). 時評社主催 国土強靱化実務セミナー, 奈良, 2月, 2015.

久野譜也：今すぐ始めたい中高年齢者の“簡単若返り筋トレ”～ダイエットにも効果大!!～(招待講演). 三菱東京UFJ銀行OB会「楽友会」講演会, 名古屋, 2月, 2015.

久野譜也：エビデンスに基づく健康づくりとその指導ーサルコペニア及びサルコペニア肥満ー(招待講演). 埼玉県栄養士会主催平成26年度第4回生涯教育研修会, さいたま, 2月, 2015.

Kuno Shinya: The Smart Wellness City for Aging and society(招待講演). 2015 Annual and International Conference of Taiwan Association of Gerontology: Ageing and Social Participation, 台北, 3月, 2015.

久野譜也：自然と歩かされてしまう街を目指してー Smart Wellness Cityの創造ー(招待講演). 第10回名桜大学人間健康学部公開シンポジウム, 名護, 3月, 2015.

久野譜也：健康長寿はままつ～太らない！転ばない！若返る！実践法～(招待講演). 杏林堂薬局主催健康セミナー, 浜松, 3月, 2015.

久野譜也：e-wellnessを活用した健康事業の成果～ポピュレーションアプローチの重要性～(招待講演). 埼玉県内市町村及び保健所担当職員対象 平成27年度健康長寿課事業説明会, さいたま, 4月, 2015.

久野譜也：このまちに住むと自然と健康になれる Smart Wellness Cityとは(招待講演). 復興庁 第5回福島12市町村の将来像有識者検討会, 東京, 5月, 2015.

久野譜也：健康寿命延伸と社会保障抑制の両立を可能とする政策ー Smart Wellness Cityー(招待講演). 自由民主党清和政策研究会講演, 東京, 5月, 2015.

久野譜也：寝たきりにならないなら大腰筋を鍛えなさい～10歳若返るための5つの運動～(招待講演). 朝日カルチャーセンター1日講座, 大阪, 5月, 2015.

久野譜也：超高齢・人口減社会に挑戦する「健幸」まちづくり～スマートウエルネスシティ～(招待講演). 多摩市 健幸まちづくりフォーラム, 多摩, 5月, 2015.

久野譜也：Smart Wellness Cityによる健幸長寿世界一へのプロトコル(招待講演). 自由民主党衆議院

議員中川俊直シンポジウム，東京，6月，2015.

**久野譜也**：健康寿命を延伸するための総合的な予防法のベクトル～歩いて暮らすことを基本とする Smart Wellness City – (招待講演)．第26回日本スポーツ歯科医学会学術大会，新潟，6月，2015.

**久野譜也**：プロから聞ける！正しいダイエットと健幸づくり～知らないと損！毎日できる簡単筋トレ～ (招待講演)．サンキュードラッグスマイルクラブ主催 第3回体操教室，北九州，6月，2015.

**久野譜也**：スマートウェルネスシティの取組について (招待講演)．取手市スマートウェルネス市民ネットワーク講演会，取手，6月，2015.

**久野譜也**：サルコペニア・ロコモティブシンドロームと高齢者指導 (招待講演)．日本フィットネス協会主催 高齢者運動指導エクセレンスセミナー，東京，7月，2015.

**久野譜也**：住民の健康寿命を延ばすまちづくり (招待講演)．建設コンサルタンツ協会中部支部 技術部会 平成27年度「都市計画検討グループ」総会，名古屋，7月，2015.

**久野譜也**：超高齢社会を克服するための社会技術とは～ Smart Wellness City を目指す自治体との取組成果より～ (招待講演)．日経地方創生フォーラムシンポジウム，東京，7月，2015.

**久野譜也**：健康長寿社会を可能とする社会技術の構築 (招待講演)．Smart Wellness Community 協議会発起人会・総会，東京，7月，2015.

**久野譜也**：若返るためのカラダ改造～「やせる」「動ける」体になれる！ (招待講演)．芳賀町健幸づくり講演会，芳賀，7月，2015.

**久野譜也**：健康長寿を可能とするためには総合政策と自助の強化が求められる (招待講演)．第2回東京のランドデザイン検討委員会，東京，8月，2015.

**久野譜也**：地域包括ケアシステムの構築に向けて～健康づくりを基盤としたまちづくりの重要性～ (招待講演)．平成27年度 福島県地域包括ケアシステム構築トップセミナー，郡山，8月，2015.

**久野譜也**：あなたのからだは若返る！～後半人生をいきいき生きるヒント～ (招待講演)．指宿市健幸づくり講演会，指宿，8月，2015.

**久野譜也**：スマートウェルネスコミュニティ協議会の取組について (招待講演)．内閣府 歳出効率化に資する優良事例の横展開のための健康増進・予防サービス・プラットフォーム，東京，9月，2015.

**久野譜也**：健康づくりによる地方創生 (招待講演)．日経 地方創生フォーラム，東京，9月，2015.

**久野譜也**：認知症を予防する秘訣とは (招待講演)．長岡市すこやかともしびまつり「認知症予防イベント」，長岡，9月，2015.

**久野譜也**：まちづくりと公衆衛生 (招待講演)．第47回沖縄県公衆衛生大会，那覇，10月，2015.

**久野譜也**：地域全体の健康度アップを目指せ！～住民を動かすために保健師として何ができるかを考える～ (招待講演)．平成27年度全国保健師長会埼玉県支部第2回研修会，さいたま，10月，2015.

**久野譜也**：いつまでも現役！自分の足で歩き続けるための秘訣 (招待講演)．第2次健康あきた市21促進事業 市民健康フォーラム，秋田，10月，2015.

**久野譜也**：自然と歩いて健康になるまちづくり (招待講演)．熊野市市制施行10周年記念式典，熊野，10月，2015.

**久野譜也**：健幸になれるまちづくり (招待講演)．取手市ウェルネスプラザオープン記念講演会，取手，10月，2015.

**久野譜也**：自治体・企業連携で社会イノベーションを実現～健康長寿社会を実現する社会技術の開発～ (招待講演)．Toppan Experience Fair 2015 特別講演，東京，10月，2015.

**久野譜也**：「人」・「都市」と「社会システム」による三位一体の健康づくりー生き生きとした生活のためには健康づくりを促進する医療制度改革を！ー（招待講演）．内閣官房 一億総活躍社会に関する意見交換会，東京，11月，2015.

**久野譜也**：健康づくり無関心層を動かすインセンティブと健康まちづくり(招待講演)．厚生労働省 データヘルス・予防サービス見本市 2015，東京，12月，2015.

**久野譜也**：健康長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ（招待講演）．茨城県市長会・町村会，水戸，11月，2015.

**久野譜也**：スポーツ無関心層へのスポーツウエルネス浸透策の具体化ーポピュレーションアプローチの重要性ー（招待講演）．平成 27 年度 JAPAN SPORT NETWORK セミナー，東京，11月，2015.

**久野譜也**：スポーツ無関心層へのスポーツウエルネス浸透策の具体化ーポピュレーションアプローチの重要性ー（招待講演）．平成 27 年度 JAPAN SPORT NETWORK セミナー，盛岡，11月，2015.

**久野譜也**：費用対効果の高い保健事業の進め方（招待講演）．アルバック健康保険組合主催 健保連神奈川 湘南部会幹部職員セミナー，熱海，11月，2015.

**久野譜也**：地域包括ケアにおける予防事業の方向性（招待講演）．日本薬局共励会東北合同支部研修会，仙台，11月，2015.

**久野譜也**：寿命と健康寿命のギャップを小さくする秘訣（招待講演）．平成 27 年度退職準備セミナー（つくば地区），つくば，12月，2015.

**久野譜也**：今日から始める歩く健幸づくり～ガソリンを燃やしますか？脂肪を燃やしますか？～（招待講演）．金ヶ崎町平成 27 年度第 5 回元気 100 歳プロジェクト推進大会・第 6 回医療・健康を考えるフォーラム，金ヶ崎，12月，2015.

**久野譜也**：あなたの体は若返る！（招待講演）．新庄村健康づくり講演会，新庄，12月，2015.

**久野譜也**：健康長寿を可能とするコンパクト&公共交通の方向性(招待講演)．第 5 回日経地方創生フォーラム，東京，12月，2015.

(マスコミ出演等)

**久野譜也**：日本テレビ「あのニュースで得する人損する人」．1月15日，2015.

**久野譜也**：フジテレビ「ホンマでっか!? TV」．1月21日，2015.

**久野譜也**：東京 FM「クロノスープレックファーストニュース」．2月18日，2015.

**久野譜也**：サントリー Youtube チャンネル「伊右衛門特茶 Web サイト」．4月28日，2015.

**久野譜也**：NHK テレビ「あさイチ」．7月8日，2015.

**久野譜也**：TBS テレビ「駆け込みドクター」．11月1日，2015.

(新聞)

見附新聞・2015年1月1日

山陽新聞・2015年1月13日夕刊

産経新聞・2015年1月23日朝

フジ産経ビジネスアイ・2015年1月23日

下野新聞・2015年1月30日

日本経済新聞・2015年2月13日

下野新聞・2015年2月18日

毎日新聞・2015年2月20日

山陽新聞・2015年2月22日

日本経済新聞・2015年2月23日  
下野新聞・2015年3月3日朝刊  
日本経済新聞・2015年3月23日夕刊  
見附新聞・2015年6月18日  
日本経済新聞・2015年6月25日  
新潟日報・2015年6月26日  
日刊工業新聞・2015年7月2日  
科学新聞・2015年7月10日  
下野新聞・2015年7月10日  
日経産業新聞・2015年7月16日  
金融経済新聞・2015年7月13日  
日本経済新聞・2015年8月6日  
公明新聞・2015年8月19日  
見附新聞・2015年8月20日  
日本経済新聞・2015年9月18日  
日本経済新聞・2015年10月19日

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

学会活動：

日本体育学会会員（1985年～）

アメリカ生理医学会会員（1994年～）

日本体力医学会会員 評議員（1996年～）

日本介護福祉・健康づくり学会 副会長（2013年～）

社会活動（公職）等

Smart Wellness City 首長研究会 事務局（2009年～）

公益財団法人 国際交通安全学会（2012年～）

公益社団法人 日本フィットネス協会 理事（2012年～）

公益社団法人 日本フィットネス協会 理事（2013年～2016年）

内閣官房 IT 戦略本部・新戦略推進専門調査会 医療・健康分科会 委員（2013年～2016年）

奈良県 なら健康長寿基本計画推進戦略会議 委員（2013年～2015年）

奈良県 日本と東アジアの未来を考える委員会 委員（2014年～2015年）

独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び 国際事業委員会書面審査員 書面  
評価員（2014年～2015年）

独立行政法人 日本スポーツ振興センター情報・国際室外部専門員（2014年）

内閣官房 環境未来都市推進委員会 委員（2014年～2015年）

独立行政法人 産業技術総合研究所 研究ユニット評価委員会（デジタルヒューマン工学研究センター）  
委員（2014年～2015年）

奈良県トレーニングセンター構想検討委員会 委員（2014年～2016年）

国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部アドバイザーボード 委員（2014年）

経済産業省 健康サービス標準化委員会 及び 検討WG 委員（2014年）

国土交通省 スマートウェルネス住宅等推進調査委員会 委員（2014年）

茨城県総合計画審議会 住みよいいばらきづくり専門部会 専門委員 (2015年)  
文部科学省 今後の地域スポーツ推進体制の在り方に関する有識者会議 委員 (2015年)  
内閣官房地方創生推進室 環境未来都市推進員会 委員 (2015年～2016年)  
スマートウエルネスコミュニティ協議会 副会長 (2015年)  
総務省 クラウド時代の医療 ICT の在り方に関する懇談会 委員 (2015年)  
文部科学省 スポーツ庁の創設に向けた検討会議 委員 (2015年～2016年)  
厚生労働省 個人への予防インセンティブ検討ワーキンググループ 委員 (2015年)  
国土交通省 スマートウエルネス住宅等推進調査委員会 委員 (2015年)  
高石市行政計画審議会 専門員 (2015年)

## 教授 白木 仁

### 研究業績

#### 1. 学会発表

市原 英, 下野俊彦, 白木 仁, 福田 崇: 大腿四頭筋柔軟性の変化量とジャンパー膝との関連. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.  
藤尾 司, 真下苑子, 藁科侑希, 白木 仁: 体幹トレーニングにおける体幹および下肢筋活動. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.  
可西泰修, 真下苑子, 藁科侑希, 鎌田浩史, 白木 仁: 2014年度茨城県 T 市内の小中学生児童における運動器検診の結果. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.  
長濱雄二, 真下苑子, 藁科侑希, 白木 仁: 大学野球選手の指屈曲筋力の特性. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.  
柵木聖也, 宮川俊平, 白木 仁, 金森章浩: 下腿の回旋可動域に左右差および性差は存在するか. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2015.11.

#### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

藁科侑希, 笹井浩行, 中田由夫, 白木 仁, : バドミントン競技者における肩関節痛に関する記述疫学的研究. 運動疫学研究 17:29-36, 2015.

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

白木 仁: 股関節コアストレッチ. 新生出版社. 1-175. 2015

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ初級」(5月, 延べ7日間)  
筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ中級Ⅰ」(6月, 延べ7日間)  
筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ初級中級Ⅱ」(9月, 延べ7日間)  
筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ初級上級」(10月, 延べ7日間)



## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本ゴルフ協会競技者育成強化推進本部 シニアディレクター（平成 27 年度～）

日本ゴルフ協会アンチドーピング普及委員（平成 23 年度～）

日本オリンピック委員会強化スタッフ（ゴルフ）（平成 23 年度～）

日本ゴルフ協会競技者育成強化推進本部医科学 副部長（平成 25 年度～）

日本ゴルフ協会オリンピックゴルフ競技対策本部強化委員会委員（平成 25 年度～）

日本ゴルフ協会オリンピックゴルフ競技対策本部医科学部会 副本部長（平成 25 年度～）

### 2. ボランティア活動

#### 2-b. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

ワールドレディースチャンピオンシップサロンパスカップでのメディカルサポート 5月

NEC 軽井沢 72 ゴルフトーナメントでのメディカルサポート 8月

日本女子プロゴルフ選手権大会コニカミノルタ杯でのメディカルサポート 9月

日本女子オープンゴルフ選手権競技でのメディカルサポート 10月

日本オープンゴルフ選手権競技でのメディカルサポート 10月

## 教授 征矢英昭

## 研究業績

### 1. 学会発表

Oharazawa A, Lee MC, Okamoto M, **Soya H**: Benefit of high intensity interval training for enhancing spatial leaning and memory. European College of Sport Science 2015, Malmo Sweden, 2015. 6.

Bamba A, Okamoto M, Ochi G, Hyodo K, Okazaki K, Enomoto Y, **Soya H**: Increased hair cortisol levels in female endurance athletes through altitude training: A useful diagnostic tool for overtraining. European College of Sport Science 2015, Malmo, Sweden, 2015. 6.

Fukuie T, Suwabe K, Hyodo K, **Soya H**: Does Stretching Have a Facilitate Effect on Recovery from Acute Stress Response?. European College of Sport Science 2015, Malmo, Sweden, 2015. 6.

Yook JS, Okamoto M, Lee MC, Shibato J, Matsui T, Rakwal R, Yassa M, **Soya H**: Synergistic effects of mild exercise and astaxanthin supplementation on hippocampaldependent spatial memory and neurogenesis in adult mice. Cell symposia; Exercise Metabolism, Amsterdam, Nederland, 2015. 7.

Matsui T, Omuro H, Liu YF, Shima T, Soya M, Hamasaki M, Miyakawa S, **Soya H**: Brain glycogen fuels the exercising brain to maintain endurance capacity. Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015. 10.

Suwabe K, Hyodo K, Byun K, Ochi G, Yassa M, **Soya H**: Acute moderate exercise improves pattern separation in young adults. Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015. 10.

Byun K, Hyodo K, Suwabe K, Ochi G, **Soya H**: Acute mild exercise boosts executive performance in older adults by eliciting positive-arousal-related prefrontal activations: an fNIRS study. Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015. 10.

**Soya H**: Mild exercise as a potential tool for hippocampal remodeling. Tsukuba-UCI Science

Partnership Conference 2015, California, USA, 2015. 12.

征矢英昭：基調講演 脳と身体活動と学校体育．第 13 回日本発育発達学会大会，日本大学文理学部，2015.3.

征矢英昭：特別講演 海馬の機能を高める軽運動効果：新たな運動プログラムの開発をめざして．第 42 回日本神経内分泌学会・第 23 回日本行動神経内分泌研究会合同学術集会，宮城，2015.9.

陸 彰洙，岡本正洋，松井 崇，征矢英昭：アスタキサンチンと低強度運動による海馬の認知機能の向上．第 8 回脳・神経・内分泌系から運動の意義を考える会，和歌山，2015.9.

征矢英昭，兵頭和樹，邊 垓鎬：運動による介護予防のメカニズムー身心の活力増進への基礎研究からのアプローチ．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

島 孟留，征矢英昭：Ⅱ型糖尿病で低下する認知機能と運動効果．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

諏訪部和也，兵頭和樹，福家健宗，邊 垓鎬，征矢英昭：一過性中強度運動で高まる海馬歯状回のパターン分離．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

兵頭和樹，諏訪部和也，邊 垓鎬，越智元太，征矢英昭：3 ヶ月間の中強度運動は高齢者の前頭前野活動効率を高める．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

島 孟留，松井 崇，征矢茉莉子，征矢英昭：海馬内セロトニンは 2 型糖尿病の認知機能障害に関与するのか？：海馬グリコゲン代謝不全との関係．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

福家健宗，諏訪部和也，兵頭和樹，征矢英昭：ストレッチングは一過性ストレス反応からの回復を早めるか？．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

小原沢明彦，イミンチョル，征矢英昭：海馬機能を高める高強度インターバルトレーニング．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

番場 愛，岡本正洋，越智元太，榎本 靖，岡崎和伸，征矢英昭：毛髪中コルチゾールを用いた高地トレーニングのモニタリング：持久性適応を損なう慢性ストレス．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

小泉 光，濱崎元直，小原沢明彦，高橋佳那子，岡本正洋，征矢英昭：ストレス耐性を高める発育期の低強度運動の効果：急性ストレス時の血液成分動態への影響．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

Inoue K, Hanaoka Y, Nishijima T, Okamoto M, Chang H, Saito T, **Soya H**: Long-term mild exercise training enhances hippocampus-dependent memory in rats. *International Journal of Sports Medicine*, 36 (4): 280-285, 2015.

Inoue K, Okamoto M, Shibato J, Lee MC, Matsui T, Rakwal R, **Soya H**: Long-Term, rather than intense exercise enhances adult hippocampal neurogenesis and greatly changes the transcriptomic profile of the hippocampus. *PLoS One*, 10 (6): e0128720, 2015.

Matsui T, Soya S, Kawanaka K, **Soya H**: Brain glycogen decreases during intense exercise without hypoglycemia: the possible involvement of serotonin. *Neurochemical Research*, 40(7): 1333-1340, 2015.

Okamoto M, Yamamura Y, Liu YF, Lee MC, Matsui T, Shima T, Soya M, Takahashi K, Soya S, McEwen BS, **Soya H**: Hormetic effects by exercise on hippocampal neurogenesis with glucocorticoid signaling. *Brain Plasticity*, 1:149-158, 2015.

Yook JS, Okamoto M, Rakwal R, Shibato J, Lee MC, Matsui T, Chang HK, Cho JY, **Soya H**:

Astaxanthin Supplementation Enhances Adult Hippocampal Neurogenesis and Spatial Memory in Mice. *Molecular Nutrition and Food Research*, 0:1-11, 2015.

Hyodo K, Dan I, Kyutoku Y, Suwabe K, Byun K, Ochi G, Kato M, **Soya H**: The association between aerobic fitness and cognitive function in older men mediated by frontal lateralization. *Neuroimage*, 125: 291-300, 2015.

#### 4. 専門家、学生向け著書（事典、翻訳書等を含む）

**征矢英昭**：特集 たくましい心身のための天然由来サプリメント 身心に作用する天然由来サプリメントの効用。体育の科学, vol. 65(1), 杏林書院, 2-5, 2015.1.

陸 彰洙, 岡本正洋, 島 孟留, **征矢英昭**：天然由来サプリメントと海馬の機能促進。体育の科学, vol. 65(1), 杏林書院, 21-27, 2015.1.

**征矢英昭**：東北被災地小学校体育への SPARTS プログラム支援。筑波大学東日本大震災復興支援活動記録集, 66-67, 2015.1.

**征矢英昭**, 岡本正洋, 征矢茉莉子, 島 孟留, 陸 彰洙：海馬の可塑性を高める軽運動効果：新たな運動プログラムの開発をめざして。日本生物学的精神医学会誌, vol. 26(1), 59-62, 2015.3.

兵頭和樹, 岡本正洋, 陸 彰洙, **征矢英昭**：アンチエイジング（抗加齢）医学の老年精神医学への寄与と運動と脳のアンチエイジング。老年精神医学雑誌, vol. 26(6), 株式会社ワールドプランニング, 2015.6.

**征矢英昭**：特集臓器円環と運動効果 運動効果にみる臓器円環—筋—脳軸を基盤とした臓器間コミュニケーション。体育の科学, vol. 65(9), 杏林書院, 610-614, 2015.9.

松井 崇, 大室秀樹, **征矢英昭**：特集臓器円環と運動効果 運動時の脳でエネルギーとなる乳酸。体育の科学, vol. 65(9), 杏林書院, 633-639, 2015.9.

**征矢英昭**：前書き 特集からだの成長と調節機能。子どもと発育発達, vol. 13(2), 杏林書院, 2015.9.

諏訪部和也, **征矢英昭**：特集からだの成長と調節機能 前頭葉の発達と機能。子どもと発育発達, vol. 13(2), 杏林書院, 68-73, 2015.9.

**征矢英昭**, 三好耕太, 岡本正洋：海馬の神経可塑性を高める軽運動。Medical Science Digest, vol. 42(1), ニューサイエンス社, 17-20, 2015.12.

諏訪部和也, 兵頭和樹, **征矢英昭**：脳とアンチエイジング（抗加齢）医学 認知機能のアンチエイジング：運動。アンチエイジング医学の基礎と臨床, 第3版, MEDIAL VIEW, 133-134, 2015.7.

#### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等（科研費を除く）

「復興教育支援事業」（文部科学省）

「スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト（SRIP）」（スポーツ庁）

「フルスルチアミン投与が運動時中枢性疲労に及ぼす効果：脳グリコゲン代謝に着目して」（武田薬品工業株式会社）

「脳内グリコーゲン等を指標とした運動パフォーマンスや集中力の向上に寄与する食品成分の有効性確認と作用機序の解明」（キリンビバレッジ株式会社）

「アスタキサンチンが脳フィットネスに及ぼす効果に関する研究」（アスタリアル株式会社）

「認知機能を高めるアスタキサンチンの効果」（アスタリアル株式会社）

「運動意欲を高める音楽に合わせた中強度運動が高齢者の実行機能に及ぼす影響」（公益財団法人スズキ財団）

「スローエアロビックの監修と身体効果の検証に関する学術指導」（公益社団法人日本エアロビック連盟）

「運動が心身の美と健康に及ぼす影響」(株式会社資生堂)

「スポーツ神経科学の国際研究拠点」(頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム)

「ヒューマン・ハイ・パフォーマンスを実現する次世代健康スポーツ科学の国際研究教育拠点」(文部科学省特別経費研究教育プロジェクト)

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等(翻訳書等を含む)

征矢英昭: 実は、筋肉と同じように脳は鍛えられる。それは誰でもできる軽い運動でも効果はあるのだろうか?。Cyclingood 004, 2, シマノ, 2015.1.

征矢英昭: 認知症予防 自分でチェックできる気づきチェックリスト付 年代別 症状別決定版。週刊文春, 40-45, 2015.2.

征矢英昭: 働くオトコよ「オフィスポ」に注目だ! 簡単で、快適な運動で脳を元気に。リクルートR25, 4, 2015.2.

征矢英昭: 研究 走るとなぜ爽快に? アイデアが浮かぶの? ランナーの脳内模様を科学的に覗いてみました!。ランナーズ, 20-21, 2015.9.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「東日本大震災 運動量確保に工夫」, 読売新聞, 3月9日掲載

「楽しく効率的に全身運動ができる方法」, NHKBS, TOMORROW~遊び場を失った子供たち, 3月14日放送

「認知症予防法 フリフリグッパ―体操解説・実演」, テレビ東京, 主治医が見つかる診療所, 3月16日放送

「脳機能を高める運動として注目 フリフリグッパ―体操解説」, TBS, あさチャン, 3月18日放送

「縄跳び 宝の動き磨く~手足連動 跳躍力が向上」, 読売新聞, 5月15日掲載

「軽く運動すると海馬で新たな神経細胞の産生が促されるー筑波大が認知機能の仮説実証」, 日刊工業新聞, 6月21日掲載

「日本プロゴルフ協会 ゴルフ生理学 ティーチングプロ B級講習会 後期1学期」, 7月17日

「北区社会福祉協議会 フリフリグッパ―体操のやり方と効果について」, 8月17日

「イマドキ脳活事情」, 関西テレビ, 気になるワード, 8月24日放送

「桐畑町会 地域フリフリグッパ―体操クラブ 健康講座 楽しい軽運動で認知症予防」, 9月3日

「Physical Activity Keeps The Brain Young; The Brain Regions That Benefit From Exercise」, Medical Daily, 10月23日掲載

「Active body, active mind: The secret to a younger brain may lie in exercising your body」, Science Daily, 10月23日掲載

「Active body, active mind: The secret to a younger brain may lie in exercising your body」, EurekAlert, 10月23日掲載

「持久力が高い高齢者ほど、脳の認知能力が高い」, 財経新聞, 11月3日掲載

「体に持久力 脳若返りの鍵」, 東京新聞, 11月7日掲載

「スローエアロビック研修会 スローエアロビックで脳フィットネス」, 11月21日

「守谷市認知症講習会 認知症を予防し、いつまでも若々しく~フリフリグッパ―体操からはじめよう~」, 11月29日

「はだしラン “文武良好”, 大野城市・御笠の森章 学力, 体力とも全国平均上回る」, 西日本新聞, 12

月 3 日掲載

「Dose Exercise Help Keep Our Brains Young」, The New York Times, 12 月 9 日掲載

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

国際誌 Journal of Physiological Science, Editor

国際誌 Journal of Exercise Nutrition & Biochemistry, Editor

国際誌 Baltic Journal of Health and Physical Activity, Editor

国際誌 Journal of Sports Science, Editor

「体育の科学」(日本体育学会編集) 編集委員

「子どもの発育発達」(日本発育発達学会編集) 編集委員

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

筑波大学社会貢献プロジェクト 筑波大学発 SPARTS プログラムで東北被災地の子供たちを元気にする

教授 田 神 一 美

## 研究業績

### 1. 学会発表

田神一美: クロボシヒラタシテムシを利用するヒゲダニについて. 日本ダニ学会第 24 回大会, 東京, 2015.8.

### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Suzuki K, and Tagami K: Role of nasal *Staphylococcus aureus* carriage in transmission among contact athletes. International Journal of Sports Medicine 36(14):1186-1191, 2015.

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等(科研費を除く)

「健康スポーツ科学に関する研究」(名工建設株式会社)

「競技者の健康増進に関する研究」(株式会社 ぬちまーす)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本ダニ学会評議員

## 研究業績

### 1. 学会発表

Ozawa S, Abe M, Monma T, Soya H, **Takeda F**: Evaluation of effectiveness of the exercise program in “Rework” services. Human High Performance International Forum 2015, Ibaraki, Japan, 2015. 3.

安部美恵子, 小澤咲子, 大澤美和, 岩渕倫彩, 高橋るみ子, 渡部芳徳, 門間貴史, 諏訪部和也, 兵頭和彦, 征矢英昭, **武田 文**: リワーク運動プログラム参加による身体活動量の増加. 第8回うつ病リワーク研究会年次研究会, 東京, 2015.4.

門間貴史, **武田 文**, 香田泰子, 小澤咲子, 安部美恵子, 山口陽子: 知的障害者施設職員における仕事満足度の心理社会的要因—年齢層別による検討—. 第88回日本産業衛生学会, 大阪, 2015.5.

山口陽子, **武田 文**, 門間貴史, 安部美恵子, 小澤咲子: 看護職者の精神健康およびワーク・エンゲイジメントと属性との関連. 第88回日本産業衛生学会, 大阪, 2015.5.

安部美恵子, **武田 文**, 小澤咲子, 門間貴史, 山口陽子: リワークの運動プログラムにおけるウォーキングの身体活動量と心理的効果. 第88回日本産業衛生学会, 大阪, 2015.5.

小澤咲子, **武田 文**, 安部美恵子, 門間貴史, 山口陽子: 復職支援(リワーク)プログラム前後における利用者の抑うつ・不安症状およびリワーク目標達成度の変化とリワーク利用頻度との関連. 第88回日本産業衛生学会, 大阪, 2015.5.

北田勝浩, 藤原愛子, 近藤悠美, 中野恵美子, 有泉祐吾, **武田 文**: 園児の乳歯う蝕と家族の世代構成との関連. 第64回日本口腔衛生学会・総会, 茨城, 2015.5.

浅沼徹, **武田 文**, 門間貴史, 木村健太郎, 鈴木真紀子: 女子大学生陸上競技選手における高地トレーニング前後の首尾一貫感覚, 精神健康, およびソーシャルサポートの変化. 第24回日本健康教育学会学術大会, 群馬, 2015.7.

鈴木真紀子, **武田 文**, 門間貴史, 浅沼 徹, 木村健太郎: 定時制高校生の性意識と性行動に関する性別, 学年別検討. 第24回日本健康教育学会学術大会, 群馬, 2015.7.

木村健太郎, **武田 文**, 浅沼徹, 鈴木真紀子, 門間貴史: 地域バドミントンクラブに所属する小学校高学年児童の精神健康と心理社会的要因. 第24回日本健康教育学会学術大会, 群馬, 2015.7.

藤原愛子, **武田 文**, 浅沼 徹, 門間貴史, 朴峠周子, 北田勝浩: 小学校低学年児の幼若永久歯う蝕と保護者の意識・行動との関連. 第24回日本健康教育学会学術大会, 群馬, 2015.7.

山根真紀, 徳山性友, **武田 文**: マスターズスキー参加者の参加動機の特徴—インタビュー調査による検討—. 第26回冬季スポーツ科学フォーラム2015, 新潟, 2015.8.

山根真紀, 徳山性友, **武田 文**: マスターズスポーツ参加者のスポーツキャリアと楽しさの関係—マスターズスキー参加者の検討—. 日本スキー学会 2015年度研究会, 東京, 2015.9.

Kishi K, **Takeda F**, Suzuki J, Monma T, Asamuna T: Psychosocial and criminological factors related to recidivism among Japanese criminals at offender rehabilitation facilities. The 3rd International Conference on Global Aging, Ibaraki, Japan, 2015. 9.

Monma T, **Takeda F**, Tsunoda K, Kitano N, Kishi K, Ozawa S, Okura T: The effects of sense of coherence on mental health among community-dwelling older adults. The 3rd International Conference on Global Aging, Ibaraki, Japan, 2015. 9.

Ozawa S, **Takeda F**, Monma T, Abe M, Furutani N, Tamiya N: Age differences in psychosocial factors of work engagement among company employees. The 3rd International Conference on Global

Aging, Ibaraki, Japan, 2015. 9.

浅沼徹, 武田 文, 門間貴史, 木村健太郎, 羽田智香: 女子大生アスリートにおける食行動異常の関連要因の検討. 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11.

鈴木淳子, 武田 文, 浅沼 徹, 門間貴史: 都市部在住の中年期女性の精神健康と心理社会的特性に関する年齢層別検討. 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11.

門間貴史, 武田 文, 浅沼 徹, 角田憲治, 北濃成樹, 大藏倫博: 地域在住高齢者における運動・スポーツ活動が首尾一貫感覚に及ぼす効果. 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11.

小澤咲子, 武田 文, 門間貴史, 安部美恵子: プレゼンティーズム 2 指標に関わる心理社会的要因の相違. 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11.

木村健太郎, 武田 文, 浅沼 徹, 門間貴史, 羽田智香: バドミントンクラブに所属する小学校高学年児童の精神健康の関連要因－競技成績別検討－. 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11.

羽田智香, 武田 文, 門間貴史, 浅沼 徹, 木村健太郎: 育児休業中の就労女性における産前産後の精神健康の変化と産後の心理社会的要因. 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

浅沼徹, 武田 文, 門間貴史, 朴峠周子: 大学生アスリートの精神健康と競技ストレスとの関連－首尾一貫感覚のレベルによる違い－. 健康支援, 17(1), 7-14, 2015.

木田春代, 武田 文, 門間貴史, 朴峠周子, 浅沼 徹, 藤原愛子, 香田泰子: 母親の就業状況別にみた幼児の偏食とその関連要因. 民族衛生, 81(1), 3-14, 2015.

Kohda Y, Monma T, Takeda F: The Relationship between the Mental Health of Visually Impaired Students and Sports Activities in Schools. The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba, 38, 117-121, 2015.

朴峠周子, 武田 文, 浅沼 徹, 門間貴史, 木田春代, 香田泰子, 藤原愛子: 小学校高学年児童におけるストレス対処力 (SOC) とストレス対処方略との関連. 民族衛生, 81(2), 45-55, 2015.

Monma T, Takeda F, Tsunoda K, Kitano N, Hotoge S, Asanuma T, Okura T: Age and Gender Differences in Relationships between Physical Activity and Sense of Coherence in Community-dwelling Older Adults. Japanese Journal of Health and Human Ecology, 81(5), 159-169, 2015.

Monma T, Takeda F, Noguchi H, Tamiya N: Age and Sex Differences of Risk Factors of Activity Limitations in Japanese Older Adults. Geriatrics & Gerontology International, online publication. doi:10.1111/ggi.12533

Takeda F, Noguchi H, Monma T, Tamiya N: How Possibly Do Leisure and Social Activities Impact Mental Health of Middle-Aged Adults in Japan? : An Evidence from a National Longitudinal Survey. PLOS ONE, 10(10), e0139777, 2015. doi:10.1371/journal.pone.0139777

## 3. その他論文 (報告書等)

武田 文, 野口晴子, 田宮菜奈子: 中年者の社会参加活動が精神健康・日常生活活動に及ぼす影響. 「人口構造・世帯構造の変化に伴う新たなニーズに対する社会保障政策の効果測定に関する理論的・実証的研究」平成 26 年度報告書, 国立社会保障・人口問題研究所, 137-144, 2015.

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)  
「ラージボール卓球実践者の心身健康に関する研究」(茨城県卓球連盟), 2015.

「労働者の健康とパフォーマンスに関する研究」(株式会社クオレ・シー・キューブ), 2013 ~ 2015.

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

朝日新聞「中年期の心の健康に必要なのは…趣味か仲間との運動」(10月19日掲載)

保健指導リソースガイド「ウォーキングや運動がメンタルヘルスを高める 仲間と一緒にだと効果的」(10月22日掲載)

財経新聞「中高年のメンタルヘルスには, 趣味や人と一緒にの運動が有効」(10月25日掲載)

筑波大学新聞「中年期の余暇活動 心の健康保つ」(11月2日掲載)

筑波大学重点公開講座主催・講演「ストレスを乗り越えて超高齢社会を生きる」(10月31日)

株式会社コニカミノルタ講演「ハイ・パフォーマンスを実現する健康職場づくり」(11月12・13日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本公衆衛生学会評議員 (2014年~)

日本健康教育学会代議員 (2014年~)

日本公衆衛生学会査読委員 (2012年~)

日本健康支援学会編集委員 (2012年~)

日本歯科衛生教育学会倫理審査委員 (2012年~)

日本口腔衛生学会査読委員 (2011年~)

## 教授 武政 徹

## 研究業績

### 1. 学会発表

徳永祐一, 武田紘平, **武政 徹**: テーパーが運動パフォーマンスと骨格筋の生理学的指標に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会, 東京, 2015.7

藤巻慎, 若林玲実, 桑原知子, **武政 徹**: 糖尿病条件下での骨格筋幹細胞の量的・質的变化. 2015日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9

白井隆長, 鈴木啓人, 沼田治, **武政 徹**: シトルリン摂取が代償性過負荷による骨格筋の再生に与える影響. 2015日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9

徳永祐一, 武田紘平, 白井隆長, **武政 徹**: テーパーが運動パフォーマンスと骨格筋の解糖系代謝能に及ぼす影響. 2015日本体力医学会大会関東地方会, 東京, 2015.11

### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

原著論文

Kohei Takeda and **Tohru Takemasa**: Expression of Ammonia Transporter Rhbg and Rhcg in Mouse Skeletal Muscle and Effect of 6-week Training on these Proteins. *Physiological Reports*, 2015 Oct;3(10). pii: e12596. doi: 10.14814/phy2.12596.

Takaaki Abe, Yu Kitaoka, Dale Kikuchi, Kohei Takeda, Osamu Numata, and **Tohru Takemasa**: High-intensity interval training-induced metabolic adaptation coupled with an increase in Hif-1  $\alpha$



and glycolytic protein expression. *Journal of Applied Physiology*, 2015 Dec 1;119(11):1297-302. doi: 10.1152/jappphysiol.00499.2015. Epub 2015 Oct 1.

Fujimaki S, Machida M, Wakabayashi T, Asashima M, **Takemasa T**, Kuwabara T: Functional Overload Enhances Satellite Cell Properties in Skeletal Muscle. *Stem Cells International*, in press.

#### 総説

村上生馬, 西平賀昭, 沼田 治, **武政 徹**: 筋損傷後の運動介入が治癒過程に及ぼす影響. 筑波大学体育科学系紀要, 38: 149-152, 2015

Fujimaki S, Wakabayashi T, **Takemasa T**, Asashima M, Kuwabara T: Diabetes and Stem Cell Function. *Biomed Research International*, 2015;2015:592915. doi: 10.1155/2015/592915. Epub 2015 May 17.

Fujimaki S, Wakabayashi T, **Takemasa T**, Asashima M, Kuwabara T: The regulation of stem cell aging by Wnt signaling. *Histology and Histopathology*, 2015 Dec;30(12):1411-30. doi: 10.14670/HH-11-657. Epub 2015 Aug 31.

#### 教育活動

##### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

**武政 徹**: トレーニング適応のメカニズムを探る分子運動生理学—これで日本を救えるのか?— . 第18回学習院大学生命科学シンポジウム「生命の秘密を解く鍵をもとめて」, 東京, 2015.11

#### 社会貢献活動

##### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本運動生理学会・理事, 幹事 (2009年～現在)

日本体力医学会・理事 (2012年～現在)

日本体育学会・代議員 (2008年～現在)

教 授      田 中 喜代次

#### 研究業績

##### 1. 学会発表

**Tanaka K** and Jung S. Senior Health Index & Longevity Age. *Health 2.0 Asia- South Korea 2015*, Health & Wellness IT, Seoul, 2015.4.14-15.

Wakaba K, Katayama Y, Tsujimoto T, Nagao Y, **Tanaka K**. Effects of SMART diet weight-loss program on weight loss and adherence based on surveys of common preferences. 22nd European Congress on Obesity (ECO2015), Prague, Czech Republic, 2015.5.6-9.

Tsujimoto T, So R, Kim B, Suzuki S, **Tanaka K**. How many steps/day are required to meet the physical activity guidelines? The 62th annual meeting of American College of Sports Medicine, San Diego, California, 2015. 5.26-30.

Okubo Y, Kim T, Yabushita N, Satoshi S, Osuka Y, Jung S, Nemoto M, Figueroa R, **Tanaka K**. An adverse interaction between joint pain and habitual walking on incidence of falls among community-dwelling older adults. The ISPG (international society of posture and gait research) World Congress 2015, Seville, Spain, 2015.6.28-7.2.

- Jung S, Seino S, Osuka Y, Okubo Y, **Tanaka K**. Development of a physical function index to identify mobility limitation among community-dwelling older Japanese and Korean adults. 第 16 回日韓健康教育シンポジウム 兼 第 63 回日本教育医学会大会, 兵庫, 2015.8.22-23.
- Sasai H, Nakata Y, Hashimoto K, **Tanaka K**. Sedentary behavior patterns during weight regain in overweight Japanese adults. The 8Th Asia-Oceania Conference on Obesity, Nagoya, 2015.10.2-4.
- Tanaka K**, So R, Sasai H, Tsujimoto T, Eto M, Matsuo T. A prediction equation for visceral adipose tissue volume via anthropometric measures in Japanese men. Obesity Week 2015, Los Angeles, 2015.11.2-7.
- Sasai H, Nakata Y, **Tanaka K**. Reallocation of time from prolonged sedentary activity to non-prolonged sedentary, non-locomotive, or locomotive activity is associated with beneficial effects on metabolic risk factors in overweight/obese Japanese adults. Obesity Week 2015, Los Angeles, 2015.11.2-7.
- 辻本健彦, 大久保善郎, 藪下典子, 大須賀洋祐, 根本みゆき, 金 泰浩, **田中喜代次**: 高齢者における歩行中の身体動揺と歩行速度との関連～転倒リスク別の検討～. 第 14 回日本体育測定評価学会大会, 石川, 2015.2. 28-3. 1.
- 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 大久保善郎, 藪下典子, 根本みゆき, 清野 諭, **田中喜代次**: 地域在住高齢者における運動習慣の種目特性と移動能力制限の関係. 第 16 回日本健康支援学会学術集会, 福岡, 2015.3. 7-8.
- 大須賀洋祐, 鄭 松伊, 金 泰浩, 大久保善郎, **田中喜代次**: 高齢夫婦を対象とした運動教室が運動実践頻度に及ぼす効果. 第 16 回日本健康支援学会学術集会, 福岡, 2015.3. 7-8.
- 大久保善郎, 金 泰浩, 藪下典子, 清野 諭, 大須賀洋祐, 鄭 松伊, 根本みゆき, フィゲロア・ラファエル, **田中喜代次**: 疼痛を複数有する地域在住高齢者の運動習慣が転倒に及ぼす影響. 第 16 回日本健康支援学会年次学術大会, 福岡, 2015.3. 7-8.
- 相羽達弥, 大須賀洋祐, 大久保善郎, 鄭 松伊, 金 泰浩, **田中喜代次**: 加速度トレーニングと自重負荷による筋力運動が高齢者の体力に及ぼす効果. 第 16 回日本健康支援学会年次学術大会, 福岡, 2015.3. 7-8.
- 金 泰浩, 大久保善郎, 藪下典子, 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 根本みゆき, フィゲロア・ラファエル, 清野諭, **田中喜代次**: 地域在住高齢者における筋骨格系の痛みと運動種目との関係. 第 16 回日本健康支援学会学術集会, 福岡, 2015.3. 7-8.
- 根本みゆき, 藪下典子, 金 泰浩, 奥野純子, 堀田和司, **田中喜代次**: フレイルに対する運動介入が認知機能に及ぼす影響—時計描画テストによる評価—. 第 66 回日本体育学会大会, 東京, 2015.8. 25-27.
- 濱崎 愛, 大須賀洋祐, 窪田 大, **田中喜代次**: 栄養補助食品と軽運動の組合せ効果—高齢者の活力年齢に着目して—. 第 66 回日本体育学会大会, 東京, 2015.8. 25-27.
- 蘇 リナ, 辻本健彦, 金 甫建, **田中喜代次**: Multiple-slice 法を用いた腹部脂肪変化の検討—生活習慣改善法による比較—. 第 16 回日韓健康教育シンポジウム 兼 第 63 回日本教育医学会大会, 兵庫, 2015.8. 22-23.
- 笹井浩行, 金 美芝, 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 中田由夫, 金 憲経, **田中喜代次**: 高齢者の日常生活下ケイデンスに関する記述的研究: 歩行イベント解析. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20.
- 笹井浩行, 蘇 リナ, 松尾知明, 江藤 幹, 辻本健彦, **田中喜代次**: 内臓脂肪体積を評価する意義と基

- 準値の提案. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20. (日本体力医学会プロジェクト研究の成果報告)
- 蘇 リナ, 笹井浩行, 松尾知明, 江藤 幹, 辻本健彦, **田中喜代次**: 内臓脂肪体積推定式の構築と交差妥当性の検証. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20. (日本体力医学会プロジェクト研究の成果報告)
- 金 美芝, 笹井浩行, 鄭 松伊, 大須賀洋祐, 中田由夫, 金 憲経, **田中喜代次**: 2つの傾斜計を用いて測定した高齢者の臥位・座位・立位・歩行の配分時間. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20.
- 蘇 リナ, 志田隆史, 呉 世昶, 金 甫建, 松尾知明, **田中喜代次**, 正田純一: ランダム化比較試験による非アルコール性脂肪性肝疾患に効果的な運動方法の検討. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20.
- 鄭 松伊, 金 美芝, 笹井浩行, 大須賀洋祐, 中田由夫, 金 憲経, **田中喜代次**: 地域在住高齢者における日常生活下の歩行頻度, 継続時間, ケイデンスの性差. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20.
- 澤野友里子, 膳法(宮木)亜沙子, 赤澤暢彦, 小崎恵生, 蘇 リナ, **田中喜代次**, 前田清司: 中高齢女性における全身振動刺激を用いた一過性の静的スクワット運動は Augmentation Index を低下させる. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20.
- 熊谷 仁, 膳法(宮木)亜沙子, 吉川 徹, 蘇 リナ, 西保 岳, **田中喜代次**, 前田清司: 肥満者における生活習慣改善が動脈ステイフネスと炎症性因子に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20.
- 吉川 徹, 膳法(宮木)亜沙子, 熊谷 仁, 辻本健彦, **田中喜代次**, 前田清司: 定期的な有酸素性運動が肥満男性の脈圧増幅に与える影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20.
- 新村由恵, 中垣内真樹, 重松良祐, 大藏倫博, 小森康加, **田中喜代次**: 脳トレを意識したスクエアステップエクササイズ介入が高齢者の認知機能および生活関連体力に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9. 18-20.
- 小澤多賀子, **田中喜代次**, 小室明子, 大田仁史: 介護予防の高齢ボランティア「シルバーリハビリ体操指導士」の地域資源としての有益性. リハビリテーション・ケア合同研究大会, 兵庫, 2015.10. 1-3.
- 根本みゆき, 藪下典子, 金 泰浩, 深作貴子, 堀田和司, 藤田好彦, 中野聡子, 塚田昌子, 奥野純子, **田中喜代次**: フレイルにおける認知機能評価のための時計描画テストの有用性. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11. 4-6.
- 金 泰浩, 藪下典子, 根本みゆき, 濱崎 愛, 深作貴子, 堀田和司, 藤田好彦, 中野聡子, 塚田昌子, 奥野純子, **田中喜代次**: 介護予防教室に参加した高齢者における主観的な痛み改善効果. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11. 4-6.
- 藪下典子, 奥野純子, 根本みゆき, 金 泰浩, 濱崎 愛, 深作貴子, 堀田和司, 藤田好彦, 中野聡子, 塚田昌子, **田中喜代次**: 介護予防教室終了後における介護認定リスク要因の検討. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11. 4-6.
- 濱崎 愛, 藪下典子, 根本みゆき, 金 泰浩, 深作貴子, 堀田和司, 藤田好彦, 中野聡子, 塚田昌子, 奥野純子, **田中喜代次**: 虚弱高齢者における短期運動教室終了後の運動支援とその効果. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11. 4-6.
- 辻本健彦, 西連地利己, 入江ふじこ, 磯 博康, 山岸良匡, 渡辺 宏, 小橋 元, **田中喜代次**, 大田仁史. 乳・乳製品摂取と高血圧発症との関連に性・年齢・肥満度が及ぼす影響: 茨城県健康研究. 第74

回日本公衆衛生学会総会，長崎，2015.11. 4-6.

若葉京良，片山靖富，長尾陽子，辻本健彦，**田中喜代次**：減量教室における講義形態の違いが減量維持効果に及ぼす影響．日本介護福祉・健康づくり学会第3回大会，東京，2015.11. 15.

趙曉光，辻本健彦，金 甫建，**田中喜代次**：成人男性における足のアーチの高さが足関節筋力へ与える影響．日本介護福祉・健康づくり学会第3回大会，東京，2015.11. 15.

以下は発表抄録

藪下典子，大久保善郎，根本みゆき，**田中喜代次**：東日本大震災・原発被災地域への運動を通じた健康支援～福島県楢葉町・茨城県北茨城市の事例から～．体力科学 64(1)：106，2015.

**田中喜代次**，正田純一：メディカルフィットネス：過去，現在，未来．体力科学 64(1)：39，2015.

正田純一，呉 世昶，**田中喜代次**：肥満者の肝臓，筋肉，インスリン抵抗性：運動の効果．体力科学 64(1)：42，2015.

佐藤真治，**田中喜代次**，木村 穰：CEPA Japan と EIM．体力科学 64(1)：88，2015.

**田中喜代次**：介護予防のためのエクササイズ．第1回健幸華齢な生き方のためのエクササイズ．みんなのスポーツ 413：30-31，2015.

**田中喜代次**，大月直美：介護予防のためのエクササイズ．第2回エクササイズ種目の選び方．みんなのスポーツ 414：30-31，2015.

**田中喜代次**，大月直美：介護予防のためのエクササイズ．第3回エクササイズの強度，時間，頻度など．みんなのスポーツ 415：30-31，2015.

**田中喜代次**，大月直美：介護予防のためのエクササイズ．第4回「スマートエクササイズ：運動の組み合わせの勧め」．みんなのスポーツ 416：30-31，2015.

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

原著論文

Okubo Y, Seino S, Yabushita N, Osuka Y, Jung S, Nemoto M, Figueroa R, **Tanaka K**. Longitudinal association between habitual walking and fall occurrences among community-dwelling older adults: analyzing the different risks of falling. Archives of Gerontology and Geriatrics 60(1): 45-51, 2015.

Rafael F, Seino S, Yabushita N, Okubo Y, Osuka Y, Nemoto M, Jung S, **Tanaka K**. Cross-validity and reliability of the age scale for assessing activities of daily living among Japanese community-dwelling adults aged 75 years or older. Journal of Aging and Gerontology 3(1): 1-7, 2015.

Rafael F, Seino S, Yabushita N, Okubo Y, Osuka Y, Nemoto M, Jung S, **Tanaka K**. Age scale for assessing activities of daily living. International Journal of Statistics in Medical Research 4(2): 48-56, 2015.

Maeda S, Zempo-Miyaki A, Sasai H, Tsujimoto T, So R, **Tanaka K**. Lifestyle modification decreases arterial stiffness in overweight and obese men: dietary modification vs. exercise training. International Journal of Sport Nutrition and Exercise Metabolism 25(1): 69-77, 2015.

Osuka Y, Yabushita N, Kim M, Seino S, Nemoto M, Jung S, Okubo Y, Figueroa R, **Tanaka K**. Association between habitual light-intensity physical activity and lower-extremity performance: a cross-sectional study of community-dwelling older Japanese adults. Geriatrics & Gerontology International 15(3): 268-275, 2015.

Kumagai H, Zempo-Miyaki A, Yoshikawa T, Tsujimoto T, **Tanaka K**, Maeda S. Lifestyle modification increases serum testosterone level and decrease central blood pressure in overweight and

obese men. *Endocrine Journal* 62(5): 423-30, 2015.

Matsuo T, So R, Shimojo N, **Tanaka K**. Effect of aerobic exercise training followed by a low-calorie diet on metabolic syndrome risk factors in men. *Nutrition, Metabolism & Cardiovascular Diseases* 25(9): 832-838, 2015.

Choi Y, Miura M, Nakata Y, Sugasawa T, Nissato S, Otsuki T, Sugawara J, Iemitsu M, Kawakami Y, Shimano H, Iijima Y, **Tanaka K**, Kuno S, Allu PK, Mahapatra NR, Maeda S, Takekoshi K. A common genetic variant of the chromogranin a-derived peptide catestatin is associated with atherogenesis and hypertension in a Japanese population. *Endocrine Journal* 62(9): 797-804, 2015.

Rafael F, Seino S, Yabushita N, Osuka Y, Okubo Y, Nemoto M, Jung S, **Tanaka K**. The applicability of the activities of daily living age scale in Japanese community-dwelling adults aged 75 years or older. *Family Medicine and Medical Science Research* 4(2): 1-7, 2015.

Okubo Y, Seino S, Yabushita N, Osuka Y, Jung S, Nemoto M, Rafael F, **Tanaka K**. Longitudinal association between habitual walking and fall occurrences among community-dwelling older adults: analyzing the different risks of falling. *Archives of Gerontology and Geriatrics* 60(1): 45-51, 2015.

Kim B, Tsujimoto T, So R, Zhao X, Suzuki S, Kim T, **Tanaka K**. Weight loss may be a better approach for managing musculoskeletal conditions than increasing muscle mass and strength. *Journal of Physical Therapy Science* 27(12): 3787-3791, 2015.

小澤多賀子, **田中喜代次**, 清野 諭, 重松良祐, 大森葉子, 大田仁史: 高齢の介護予防ボランティアによる体操普及活動の有益性. *健康支援* 17(1): 15-26, 2015.

相羽達弥, 大久保義郎, 大須賀洋祐, 辻本健彦, 鄭 松伊, フィゲロア・ラファエル, 金 甫建, 金 泰浩, 石井直方, **田中喜代次**: 多関節複合動作の下肢筋力測定~高齢者における負担軽減プロトコルの開発~. *健康支援* 17(2): 23-30, 2015.

大須賀洋祐, 藪下典子, 清野 諭, 大久保善郎, 鄭 松伊, 根本みゆき, フィゲロア・ラファエル, **田中喜代次**: 高齢者の身体活動基準に相当する1日あたりの歩数. *体力科学* 64(2): 243-250, 2015.

大須賀洋祐, 鄭 松伊, 金 泰浩, 大久保善郎, 金ウンビ, **田中喜代次**: 高齢夫婦向けの運動教室が運動アドヒアランスと体力に及ぼす効果. *体力科学* 64(4): 407-418, 2015.

総説

正田純一, 呉 世昶, 志田隆史, **田中喜代次**: 肥満者の肝臓, 筋肉, インスリン抵抗性: 運動効果. *体力科学* 64(2): 217-226, 2015.

小澤多賀子, **田中喜代次**, 大田仁史: 住民ボランティアによる介護予防体操普及活動の成果. *高齢者ケアリング学研究会誌* 6(1): 11-19, 2015.

### 3. その他論文 (報告書等)

高田彰, **田中喜代次**, 松本典子, 箱崎栄里, 梅田陽子, 小澤多賀子, 田沢光正: 『食』と『運動』はソーシャルキャピタル醸成のキーワード. 第18回日本健康福祉政策学会学術大会報告集, 43-44, 2015

**田中喜代次** (分担): 15年以上の長期に亘る運動習慣化支援が有疾患者の健康度に及ぼす影響. 身体活動・不活動量, 運動量の実際とその変化が生活習慣病発症に及ぼす影響と運動介入支援の基盤構築に関する研究 平成26年度 分担研究報告書, 厚生労働科学研究補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業, 44-49, 2015 (代表 熊谷秋三)

**田中喜代次**（分担）：PTSD 及びうつ病等の環境要因等の分析及び介入手法の開発と向上に資する研究  
～被災地用運動教室プログラムの提案～. 平成 26 年度 総括・分担研究報告書, 厚生労働科学研究補助金 障害者対策総合研究事業, 92-99, 2015 (代表 朝田隆)

**田中喜代次**（分担）：PTSD 及びうつ病等の環境要因等の分析及び介入手法の開発と向上に資する研究.  
平成 26 年度～平成 26 年度 総合研究報告書, 厚生労働科学研究補助金 障害者対策総合研究事業, 2015-3 (代表 朝田隆)

大須賀洋祐, 鄭松伊, **田中喜代次**：高齢夫婦を対象とした運動教室が運動アドヒアランスおよび体力に及ぼす長期的な効果—地域在住高齢者を対象とした1年間にわたる長期介入研究—. 第30回(2013年度)若手研究者のための健康科学研究助成 成果報告書, 69-74, 2015-4

**田中喜代次**, 井上まや, 大月直美：元気長寿のための生活習慣～運動および栄養に関して～. 介護福祉・健康づくり 2(1)：6-10, 2015.

## 5. 受賞

第1回日本健康支援学会優秀論文賞 食事改善または運動実践が肥満男性の活力年齢に及ぼす影響 江藤幹ら

筑波大学大学院人間総合科学研究科長賞 Association between difficulty initiating sleep in older adults and the combination of leisure-time physical activity and consumption of milk and milk products: a cross-sectional study. 北農成樹ら

第16回日本健康支援学会年次学術大会ポスター発表優秀賞 加速度トレーニングと自重負荷による筋力運動が高齢者の体力に及ぼす効果 相羽達弥ら

日本体育測定評価学会第14回大会優秀発表賞 高齢者における歩行中の身体動揺と歩行速度との関連～転倒リスク別の検討～. 大久保善朗ら

第28回日本体力医学会奨励賞 肥満男性における食事改善, 有酸素性運動, 食事改善と有酸素性運動の併用が中心および末梢動脈スティフネスに与える影響 宮木あさこ

## 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「身体活動・不活動量, 運動量の実態とその変化が生活習慣病発症に及ぼす影響と運動介入支援の基盤構築に関する研究」(国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)

「住民主導による健康減量教室の運営支援と効果検証」(太陽生命厚生財団)

「ベッドレスト試験を用いた MFGM 配合食品による筋機能回復効果に係る共同研究」(国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構)

「栄養強化ミルクの飲用効果を高める運動プログラムの作成—高齢者の筋量・筋力に着目して—」(一般社団法人 J ミルク 牛乳乳製品健康科学会議)

「介護予防のための身体活動と栄養改善の促進に関する研究」(茨城県八千代町)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本肥満学会	国内	理事
日本体力医学会	国内	理事, 編集委員長
日本体育学会	国内	評議員
日本教育医学会	国内	常任理事
日本健康支援学会	国内	常任理事, 理事長

日本介護福祉・健康づくり学会 副会長  
 日本民族衛生学会 国内 評議員  
 医療体育研究会 国内 監事  
 日本臨床運動療法学会 国内 評議員  
 国際スポーツロジック学会 国外 評議員  
 アメリカスポーツ医学会 国外 評議員  
 国際老年運動学会 国外 理事  
 茨城県立健康プラザ スーパーバイザー  
 茨城県循環器系疾患予防対策委員会 委員  
 日立市 健康づくりスーパーバイザー  
 行方市 健康づくり計画「なめがたメディカルフィットネスまちづくり」, 委員長  
 袖ヶ浦市 健康づくり運営委員会 委員  
 大子町 健康づくり運営委員会 委員  
 筑西市 生活習慣改善指導運営委員会 委員  
 (公財) 日本体育協会 スポーツ医・科学委員会 委員  
 (公財) 日本体育協会 日本スポーツグランプリ選考委員会 部会委員  
 (公財) 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成検討委員会 委員  
 (公財) 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導研究助成選考委員会 委員  
 (公財) 体力づくり指導協会 理事  
 (公社) 日本プロボウリング協会 理事  
 日本学術振興会 審査委員  
 学術誌編集・査読委員 国際誌 3 件 国内誌 6 件  
 メディア解説多数 新聞, 雑誌, 市報など

## 2. ボランティア活動

### 2-a. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

宮城県山元町, 茨城県北茨城市にて被災地支援を継続中.

福島県会津美里町にて被災地支援(楢葉町より避難している住民を主な対象に)を継続中.

茨城県つくば市, 土浦市, 取手市, 八千代町, 福島県会津美里町, 千葉県袖ヶ浦市, 野田市などにて,  
中高齢者を対象にした体力づくりや介護予防関連の健康支援活動を継続中.

## 教授 徳山 薫 平

### 研究業績

#### 1. 学会発表

Iwayama K., Y.Nabekura, R.Kurihara, R.Kawabuchi, I.Park, H.Ogata, A.Ogawa, A.Ando, M.Kayaba, **K.Tokuyama**. Exercise acts as fat burning pills if it is taken before breakfast. Cell Symposia “Exercise Metabolism”. July 12-14, 2015 (Amsterdam, The Netherland)

#### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Iwayama K, Kawabuchi R, Park I, Kurihara R, Kobayashi M, Hibi M, Oishi S, Yasunaga K, Ogata

H, Nabekura Y, **Tokuyama K**. Transient energy deficit induced by exercise increases 24-h fat oxidation in young trained men. J Appl Physiol. 118:80-85, 2015.

Usui C, T.Ando, K.Ohkawara, R.Miyake, Y.Oshima, M.Hibi, S.Oishi , **K.Tokuyama**, S.Tanaka. Validity and reproducibility of a novel method for time - course evaluation of diet - induced thermogenesis in a respiratory chamber. Physiological Reports. 3: e12410, 2015.

Iwayama K., R.Kurihara, Y.Nabekura, R.Kawabuchi, I.Park, M.Kobayashi, H.Ogata, M.Kayaba, M.Satoh, **K.Tokuyama**. Exercise increases 24-h fat oxidation only when it is performed before breakfast. EBioMedicine 2:2003-2009, 2015.

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)  
「生体リズムの積極的改善を目指す生活習慣の開発」(上原記念生命科学財団 平成 26 年度研究助成)

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

徳山薫平, 萱場桃子 睡眠と健康: 健康づくり政策への多角的アプローチ, 第 4 章 93-113 ミネルヴァ書房 2015

## 教授 鍋倉賢治

## 研究業績

### 1. 学会発表

Shirai Y, Hiura M, **Nabekura Y**: Contribution of aerobic and anaerobic capacity to 2000 m rowing performance. Sports science and medicine conference for the world's leading sports scientists and medical practitioners in rowing "Improving performance naturally", Marlow, United Kingdom, 2015.1.

**鍋倉賢治**: 坂を走る身体負荷と技術 (招待講演). 日本オリエンテーリング協会 森を走ろう 2015 シンポジウム, 立正大学, 東京, 2015.1.11

**鍋倉賢治**: 「大学体育」との闘いの自分史. 高度大学体育スポーツ指導者養成共同学位プログラムシンポジウム, 筑波大学, 東京, 2015.2.8.

森 寿仁, **鍋倉賢治**, 山本正嘉: 市民マラソンの成績を推定する上でどのような回帰式が妥当か? ~ 年齢, 体格, 経験, 練習量を指標として~. 第 27 回ランニング学会, 日本女子体育大, 東京, 2015.2.28.

丹治史弥, 白井祐介, 黒川 心, 榎本靖士, **鍋倉賢治**: 中長距離ランナーのパフォーマンスと生理応答の関係~ VO2max と Running Economy に着目して~. 第 27 回ランニング学会, 日本女子体育大, 東京, 2015.2.28.

中村和照, 半田佑之介, **鍋倉賢治**: トレイルランニングレースにおける心拍数の推移について. 第 27 回ランニング学会, 日本女子体育大, 東京, 2015.2.28.

**鍋倉賢治**, 藤牧利昭, 井筒紫乃, 河合美香, 吉岡利貢, 瀧澤一騎: ランニング継続が心身の健康に及ぼす効果. 第 27 回ランニング学会, 日本女子体育大, 東京, 2015.2.28.

Sengoku,Y., Ando,A., Enomoto,Y., **Nabekura,Y.**, Tokuyama,K: Comparison of daily core temperature fluctuation between swimmer and middle distance runner – Pilot Study, HHP,Tsukuba,2015.3.



- Iwayama, K., Kawabuchi, R., Park, I., Kurihara, R., Nakamura, K., Kobayashi, M., Oishi, S., Hibi, M., Yasunaga, K., Ogata, H., **Nabekura, Y.**, Omi, N., and Tokuyama, K. : Transient energy deficit after exercise performed in a postabsorptive state increase 24-h fat oxidation. ACSM, San Diego(USA), 2015.5.
- Kiuchi A, Nakagawa A, Shiraki H, Takagi H, **Nabekura Y**, Zushi M: University of Tsukuba and NIFS to Launch a Specialized PhD Programme to Advance Physical Education Instructors in Higher Education Institutions. International Conference of AIESEP 2015 (International Association for Physical Education in Higher Education), Madrid (Spain), 2015.7.11.
- 森 寿仁, **鍋倉賢治**, 山本正嘉: 起伏の程度が異なる市民マラソン大会における走パフォーマンスの差異—一回帰式を用いた検討—. 第70回日本体力医学会, 和歌山県民文化会館, 2015.9.18.
- 中村和照, **鍋倉賢治**: 漸増負荷走時の血糖値の動態と長距離走種目の相対的走速度との関係性. 第70回日本体力医学会, 和歌山県民文化会館, 2015.9.18.
- 鍋倉賢治**, 岩山海渡, 丹治史弥, 河合謙一, 黒川 心, 木下なつみ, 嶋津 航: 短時間・高強度走後にちなう長距離走中のエネルギー代謝. 第70回日本体力医学会, 和歌山県民文化会館, 2015.9.18.
- 時野谷勝幸, 石倉恵介, 海老名慧, 小峰昇一, 羅 成圭, 川口優大, 黒岩貴信, 水島隆規, 山本大介, **鍋倉賢治**, 宮川俊平, 大森 肇: フルマラソンにおける速発性筋痛および筋損傷の特徴. 第70回日本体力医学会, 和歌山県民文化会館, 2015.9.18.
- 石倉恵介, 時野谷勝幸, 海老名慧, 小峰昇一, 川口優大, 黒岩貴信, 水島隆規, 山本大介, **鍋倉賢治**, 宮川俊平, 大森 肇: 経験の違いがフルマラソン後の筋損傷・炎症マーカーならびに筋肉痛に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会, 和歌山県民文化会館, 2015.9.19.
- 岩山海渡, 小川彩音, 萱場桃子, 安藤 啓, 朴 寅成, 丹治史弥, 緒形ひとみ, **鍋倉賢治**, 山本公平, 徳山薫平: 運動実施時間帯の違いが血中遊離脂肪酸組成に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会, 和歌山県民文化会館, 2015.9.20.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- 岩山海渡, 河合美香, **鍋倉賢治**, 伊藤静夫: 朝練習のトレーニング効果. ランニング学研究. 26:17-23, 2015.
- Iwayama, K., Kawabuchi, R., Park, I., Kurihara, R., Kobayashi, M., Hibi, M., Oishi, S., Yasunaga, K., Ogata, H., **Nabekura, Y.** and Tokuyama, K. : Transient energy deficit induced by exercise increase 24-h fat oxidation in young trained men. J. Appl. Physiol. 118:80-85, 2015.
- Iwayama, K., Kurihara, R., **Nabekura, Y.** Kawabuchi, R., Park, I., Kobayashi, M., Ogata, H., Kayaba, M., Satoh, M., and Tokuyama, K. : Exercise increases 24-h fat oxidation only when it is performed before breakfast. EBioMedicine. 2:2003-2009, 2015.
- Nakamura, K., Sengoku, Y., Ogata, H., Watanabe, K., Shirai, Y. and **Nabekura, Y.** : Blood glucose threshold is not consistent with blood lactate threshold by different evaluation methods. Adv. Exerc. Sports Physiol., 21:17-24, 2015.
- Sengoku, Y., K.Nakamura, H.Ogata, **Y.Nabekura**, S.Nagasaka, K.Tokuyama. Continuous glucose monitoring during a 100 km race – A case study in an elite ultra-marathon runner. Int J Sports Physiol. Perform. 10:124-127, 2015.

## 3. その他論文 (報告書等)

- 鍋倉賢治**: 事前のトレーニングをフォローする「つくばマラソン」—コンセプトの創意工夫と大会の育

成一. ランニングの世界. 19:96-101, 2015.

鍋倉賢治: テクノロジー vs 人間の知恵. ランニングの世界. 20:80-87, 2015.

## 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「女子長距離ランナーの体力とパフォーマンスの関係に関する研究」(日立製作所)

「ボート選手の体力に関する研究」(中央大学漕艇部)

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

鍋倉賢治: 坂を走る身体負荷と技術①, 意外に難しい下り走 ~坂を走る身体負荷と技術②, 下り走のメカニズム 坂を走る身体負荷と技術③, 上り下りのペース戦略 ~坂を走る身体負荷と技術④, 仲間を救う準備はできていますか?, 歳をとることで低下しやすい能力 ~身体のメンテナンスの重要性, 新たな潮流となるかウェーブスタート, ウェーブスタート つくばマラソンでの導入効果, 楽しく走ってステップアップ講座. JogNote, <http://www.jognote.com/>, 2015.

鍋倉賢治: カラダの偏差値 あなたのカラダは平均より上?, Tarzan, 670, 20-25, 2015.

鍋倉賢治: 痛み撲滅には筋トレしかない!, ランナーズ, 515, 40-41, 2015.

鍋倉賢治: ランニングで健康寿命を延ばす!, ランナーズ, 517, 29, 2015.

鍋倉賢治: 「筋力を落とさない」秋のフルマラソン 50歳からは8月が勝負. ランナーズ, 521, 25-28, 2015.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

鍋倉賢治: 天地人, 北日本新聞, 2015.3.23.

鍋倉賢治: 上級インストラクター講習, 日本ノルディックウォーキング協会, 大阪, 2015.6.27

鍋倉賢治: 「つくば市スポーツ教室 トレイルランニング」指導 (つくば市, 5~6月, 延べ3日間)

鍋倉賢治: 「つくばマラソン大会 つくばマラソン練習会」指導 (つくば市, 9~11月, 延べ4日間)

鍋倉賢治: モーニングバード, テレビ朝日, 2015.7.13.

鍋倉賢治: タイム別スタート導入, 読売新聞, 2015.11.12.

鍋倉賢治: つくばモーニングフラッシュ, ラジオつくば, 2015.11.19.

鍋倉賢治: つくばマラソン祭り, 茨城放送, 2015.11.21.

鍋倉賢治: 明日のレースに向けたワンポイントアドバイス, つくばマラソン 2015 マラソン祭り, つくば市, 2015.11.21.

鍋倉賢治: つくば路 1万 5000人快走 タイム順スタート初の導入で「成功」, 読売新聞, 2015.11.23.

鍋倉賢治: 走れば心も前向き ポイントは息切れしないペース保つ, 朝日新聞, 2015.11.30.

鍋倉賢治: サンタ姿で街なか疾走, 常陽新聞, 2015.12.24.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体力医学会評議員 (平成 5年~)

ランニング学会理事 (平成 15年~, 同副理事長: 平成 23年~)

つくばマラソン大会組織委員・実行委員 (平成 23年~)

つくばリレーカーニバル実行委員 (平成 25年~)

NPO 法人 日本ノルディックウォーキング協会 理事 (平成 24年~)

## 研究業績

### 1. 学会発表

- 小林優希, 安藤 梢, 増地克之, **西嶋尚彦**: 中学校保健体育における柔道技能の評価のための学習ノートの構成. 身体運動文化学会創立 20 周年記念国際大会, 神戸学院大学, 神戸, 2015.7.5.
- 澤村信哉, 中野貴博, 大澤啓亮, 澤村さやか, **西嶋尚彦**: 幼児期の生まれ月による身体活動量の差異. 日本体育学会第 66 回大会, 国士舘大学, 東京, 2015.8.25.
- 大澤啓亮, 徐 広孝, 澤村信哉, 鈴木宏哉, 安藤 梢, **西嶋尚彦**: テニスのショットデータからの攻撃特性尺度の構成. 日本体育学会第 66 回大会, 国士舘大学, 東京, 2015.8.25.
- 宮代賢治, 山元康平, 谷川 聡, **西嶋尚彦**: 女子スプリンターにおける走力・身長別の標準ステップ変数. 日本陸上競技学会, 日本女子体育大学, 東京, 2015.11.28.
- 松岡弘樹, 見汐翔太, 猶本 光, **西嶋尚彦**: サッカーゲームにおける守備戦術パフォーマンスの計量. 日本統計学会第 5 回スポーツデータ解析コンペティションからの推薦, SAP スポーツアナリティクス甲子園, スポーツアナリティクスジャパン 2015, 日本科学未来館, 東京, 2015.12.19.
- 松岡弘樹, 見汐翔太, 猶本 光, **西嶋尚彦**: サッカーゲームにおける守備戦術パフォーマンスの計量. サッカートラッキング部門, 日本統計学会第 5 回スポーツデータ解析コンペティション, 立教大学, 東京, 2015.12.26.

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- Chuman K, Yoshioka K, Jo H, Yamada D, Mishio S, Ando K, **Nishijima T**: Reference values for the 3200-m run test on soccer pitch for pubescent soccer players. *Football Science* 12: 33-42, 2015. <http://www.shobix.co.jp/jssf/tempfiles/journal/2015/088.pdf>
- 小林優希, 安藤 梢, **西嶋尚彦**: 項目反応理論を用いた柔道の後ろ受け身動作技能の目標に準拠した評価基準, 身体運動文化研究 20: 11-24, 2015. Kobayashi Y, Ando K, **Nishijima T**: Criterion-referenced evaluation basis on the Ushiro-ukemi movement skill of Judo using item response theory, *J Physical Movement Culture* 20: 11-24, 2015. (In Japanese except abstract)
- 宮代賢治, 山元康平, 内藤 景, 谷川 聡, **西嶋尚彦**: 男子 100m 走における記録・身長・風速別の標準通過時間および標準区間時間, *スポーツパフォーマンス研究*, 1537, 2015. <http://sports-performance.jp/paper/1537/1537.pdf>. Miyashiro K, Yamamoto K, Naito H, Tanigawa S, **Nishijima T**: Average split times and segment times by race time, body height, and wind speed in men's 100-m sprint. *Research Journal of Sports Performance*, 1537, 2015. (In Japanese except abstract)

### 3. その他論文 (報告書等)

- 文部科学省: 平成 27 年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査報告書, 2015.12.
- 文部科学省: 平成 27 年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査集計結果, 2015.12.

### 5. 受賞

- 日本統計学会, 第 4 回スポーツデータ解析コンペティション, サッカー自由部門優秀賞, 2015.3.12.
- 徐 広孝, 大澤啓亮, 見汐翔太, 横尾智治, 猶本 光, 熊谷紗希, 安藤 梢, **西嶋尚彦**: サッカーの攻撃プレー分析, 2015.3.12.

身体運動文化学会，平成 27 年度身体運動文化研究優秀論文賞，2015.7.5.

小林優希，安藤 梢，**西嶋尚彦**：項目反応理論を用いた柔道の後ろ受け身動作技能の目標に準拠した評価基準，身体運動文化研究 20：11-24，2015. Kobayashi Y, Ando K, **Nishijima T**: Criterion-referenced evaluation basis on the Ushiro-ukemi movement skill of Judo using item response theory, J Physical Movement Culture 20: 11-24, 2015. (In Japanese except abstract)

日本スポーツアナリスト協会賞，2015.12.19.

松岡弘樹，見汐翔太，猶本 光，**西嶋尚彦**：サッカーゲームにおける守備戦術パフォーマンスの計量．日本統計学会第 5 回スポーツデータ解析コンペティションからの推薦，SAP スポーツアナリティクス甲子園，スポーツアナリティクスジャパン 2015，日本科学未来館，東京，2015.12.19.

**6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）**  
「運動学習のための ICT 活用に関する研究」（ペンギンシステム株式会社）

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

山崎正志，安藤 梢，**西嶋尚彦**ほか，記者会見，つくばスポーツ医学・健康科学センター開設，筑波大学，つくば，2015.7.24.

**西嶋尚彦**ほか，NHK ニュースほか，平成 27 年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査報告，スポーツ庁，東京，2015.12.11.

## 競技活動

FIFA（国際サッカー連盟）女子ワールドカップ 2015 カナダ大会，準優勝，フェアプレー賞：サッカー女子日本代表（なでしこジャパン），バンクーバー，カナダ，2015 年 7 月 5 日．安藤梢，熊谷紗希，育成指導．

EAFF（東アジアサッカー連盟）女子東アジアカップ 2015，3 位：サッカー女子日本代表（なでしこジャパン），武漢市，中国，2015 年 8 月 8 日．猶本光，育成指導．

2015 年第 28 回ユニバーシアード競技大会サッカー女子，銅メダル：サッカー女子ユニバーシアード日本代表，光州市，韓国，2015 年 7 月 12 日．山守杏奈，育成指導．

日本女子サッカーリーグ（プレナスなでしこリーグ）2015，新人賞受賞，2015 年 11 月 11 日，清家貴子，育成指導．

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

スポーツ庁（文部科学省）全国体力・運動能力，運動習慣等調査委員（2008 年～）

日本体育測定評価学会理事（2000 年～）

## 教授 西平賀昭

### 研究業績

#### 1. 学会発表

福本寛之, **西平賀昭**, 酒本夏輝, 岡部秀平, 碓井外幸: 二重課題の遂行が皮質抑制性に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 日本体育大学(東京), 2015.7

酒本夏輝, **西平賀昭**, 福本寛之, 岡部秀平, 碓井外幸: サッカーPK時のシュート方向予測に伴う事象関連電位の特徴. 第23回日本運動生理学会大会, 日本体育大学(東京), 2015.7

東浦拓郎, **西平賀昭**, 八田有洋, 金田健史: 長期運動トレーニングとディトレーニングが認知機能に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 日本体育大学(東京), 2015.7

麓正樹, 碓井外幸, 小宮山伴与志, **西平賀昭**: 間欠の全力ペダリング運動前後の脳波解析. 第23回日本運動生理学会大会, 日本体育大学(東京), 2015.7

#### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

黒岩一雄, **西平賀昭**, 福本寛之, 碓井外幸: 局所的な高強度運動が運動抑制過程に及ぼす影響. 日本運動生理学雑誌第23巻第1号, 2016

Hiroyuki FUKUMOTO, **Yoshiaki NISHIHIRA**, Natsuki SAKEMOTO, Syuhei OKABE, Kazuo KUROIWA, Sotoyuki USUI, Young Su Jung: Influence of performing dual-task on cortical inhibition. *Advances in Exercise and Sports Physiology*, Vol.21, No.3, pp. 53-58, 2015

#### 5. 受賞

臨床神経生理学会第17回優秀論文賞, 2015.11.5 (該当論文: 河原靖典, **西平賀昭**, 福本寛之, 八田有洋, 碓井外幸: 随意的な筋弛緩動作に先行する運動関連脳電位の変化. 臨床神経生理学第42巻第1号(日本臨床神経生理学会) pp.1-10, 2014)

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本運動生理学会 理事長 (2012年~)

日本臨床神経生理学会 評議員 (2005年~)

日本体力医学会 理事・評議員・編集委員会委員 (2008年~)

日本体力医学会 副理事長 (2015年~)

## 教授 西保 岳

### 研究業績

#### 1. 学会発表

**西保 岳**, 藤井直人, 辻 文, 林 恵嗣, 本田 靖, 近藤徳彦 (特別招待講演): 熱中症予防に関わる新しい視点 - 換気反応と体温, 第29回 運動と体温の研究会, 和歌山, 平成27年9月

Yosuke Sasaki, Hideki Takagi, Bun Tsuji, Yosuke Murase, Shozo Tsubakimoto, **Takeshi Nishiyasu**: Effect of having floats on cardiorespiratory response during eggbeater kick., 16th International Conference on Environmental Ergonomics, Portsmouth, UK., 平成27年7月

- Tomomi Fujimoto, Yosuke Sasaki, Hitoshi Wakabayashi, Yasuo Sengoku, Shozo Tsubakimoto, **Takeshi Nishiyasu**: The effects of water temperature on physiological responses and exercise performance during incremental exercise., 16th International Conference on Environmental Ergonomics, Portsmouth, UK., 平成 27 年 7 月
- Kohei Dobashi, Kazuhito Watanabe, Bun Tsuji, Yosuke Sasaki, Tomomi Fujimoto, **Takeshi Nishiyasu**: Effects of hypobaric hypoxia and voluntary hypocapnic hyperventilation on metabolic response during high-intensity intermittent exercise., 16th International Conference on Environmental Ergonomics, Portsmouth, UK., 平成 27 年 7 月
- Masashi Ichinose, Tomoko Ichinose, Kazuhito Watanabe, **Takeshi Nishiyasu**: Pressor threshold of muscle metaboreflex is modulated during unloading of carotid baroreceptors in humans., 16th International Conference on Environmental Ergonomics, Portsmouth, UK., 平成 27 年 7 月
- Teruhiro Hanamaru, Tsuyoshi Yoshikawa, **Takeshi Nishiyasu**, Takeshi Ogawa: Respiratory mechanics influence VO<sub>2</sub>max in acute hypoxia in females., 16th International Conference on Environmental Ergonomics, Portsmouth, UK., 平成 27 年 7 月
- Tatsuro Amano, Yoshimitsu Inoue, **Takeshi Nishiyasu**, Glen P Kenny, Narihiko Kondo: Effects of forearm muscle metaboreceptors activation on sweating and cutaneous vascular responses during passive heating and cycle exercising in humans, 16th International Conference on Environmental Ergonomics, Portsmouth, UK., 平成 27 年 7 月
- Bun Tsuji, Yorinobu Chinda, Yasushi Honda, Naoto Fujii, Narihiko Kondo, **Takeshi Nishiyasu**: Effects of cold air inhalation on body temperature, respiratory and cerebrovascular responses during exercise in the heat., 16th International Conference on Environmental Ergonomics, Portsmouth, UK., 平成 27 年 7 月
- Kazuhito Watanabe, Masashi Ichinose, Bun Tsuji, **Takeshi Nishiyasu**: Time-dependent changes in individual differences in components of the pressor responses to isometric handgrip exercise., The 62nd Annual Meeting of the American College of Sports Medicine., San Diego, California, USA., 平成 27 年 5 月
- Masashi Ichinose, Tomoko Ichinose, Kazuhito Watanabe, **Takeshi Nishiyasu**: Carotid baroreflex modifies pressor threshold of muscle metaboreflex in humans., The 62nd Annual Meeting of the American College of Sports Medicine., San Diego, California, USA., 平成 27 年 5 月
- Kazuhito Watanabe, Masashi Ichinose, Bun Tsuji, **Takeshi Nishiyasu**: Time-dependent changes in individual differences in components of the pressor responses to isometric handgrip exercise in humans.: Human High Performance International Forum 2015., Ibaraki, Japan, 平成 27 年 3 月
- Yosuke Sasaki, Hideki Takagi, Bun Tsuji, Yosuke Murase, Shozo Tsubakimoto, **Takeshi Nishiyasu**: Respiratory characteristics during eggbeater kick., Human High Performance International Forum 2015., Ibaraki, Japan, 平成 27 年 3 月
- Tomomi Fujimoto, Yosuke Sasaki, Hitoshi Wakabayashi, Yasuo Sengoku, Shozo Tsubakimoto, **Takeshi Nishiyasu**: Effects of water temperature on physiological responses and exercise performance during incremental exercise., Human High Performance International Forum 2015., Ibaraki, Japan, 平成 27 年 3 月
- 渡邊和仁, 一之瀬真志, 辻 文, 前田清司, **西保 岳**: ハンドグリップ運動時における血圧上昇要因の個人差: 運動様式の違いに着目して, 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 平成 27 年 9 月

佐々木洋輔, 高木英樹, 吉田浩基, 椿本昇三, **西保 岳**: 上肢スカーリングが水中下肢巻き足運動時の呼吸循環応答及びパフォーマンスに及ぼす影響, 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 平成27年9月

藤本知臣, 渡邊和仁, 佐々木洋輔, 辻 文, 若林 斉, 仙石泰雄, **西保 岳**: 冷水環境下におけるふるえ産熱反応の深部体温閾値: 安静時と運動時の比較, 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 平成27年9月

土橋康平, 渡邊和仁, 辻 文, 佐々木洋輔, 藤本知臣, **西保 岳**: 高強度間欠的運動時の呼吸代謝応答に関する研究 - 低酸素環境と自発的過換気との比較 -, 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 平成27年9月

天野達郎, 一之瀬昌志, 井上芳光, **西保 岳**, 近藤徳彦: 前腕部における筋代謝受容器活動が自転車運動時の熱放散反応に及ぼす影響, 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 平成27年9月

熊谷 仁, 膳法亜沙子, 吉川 徹, 妙園園香苗, 蘇 リナ, **西保 岳**, 田中喜代次, 前田清司: 肥満者における生活習慣改善が動脈ステイフネスと炎症性因子に及ぼす影響, 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 平成27年9月

花園晃洋, 吉川剛史, **西保 岳**, 小川剛司: 低酸素下での呼吸応答が最大酸素摂取量低下の男女差に及ぼす影響, 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 平成27年9月

一之瀬昌志, 一之瀬智子, 渡邊和仁, **西保 岳**: 頸動脈圧受容器反射が筋代謝受容器反射の昇圧閾値に及ぼす影響, 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 平成27年9月

Kazuhiro Watanabe, Masashi Ichinose, Bun Tsuji, **Takeshi Nishiyasu**: Time-dependent changes in individual differences in components of the pressor responses to isometric handgrip exercise in humans., Sports Science Seminar, (University of Birmingham), Birmingham, UK., 平成27年2月

Tomomi Fujimoto, Yosuke Sasaki, Hitoshi Wakabayashi, Yasuo Sengoku, Shozo Tsubakimoto, **Takeshi Nishiyasu**: The effects of water temperature on physiological responses and exercise performance during incremental exercise., Sports Science Seminar, (University of Birmingham), Birmingham, UK., 平成27年2月

Kazuhiro Watanabe, Masashi Ichinose, Bun Tsuji, **Takeshi Nishiyasu**: Time-dependent changes in individual differences in components of the pressor responses to isometric handgrip exercise in humans., Sports Science Seminar, (Brunel University), London, UK., 平成27年2月

Tomomi Fujimoto, Yosuke Sasaki, Hitoshi Wakabayashi, Yasuo Sengoku, Shozo Tsubakimoto, **Takeshi Nishiyasu**: The effects of water temperature on physiological responses and exercise performance during incremental exercise., Sports Science Seminar, (Brunel University), London, UK., 平成27年2月

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Ichinose M, Ichinose-Kuwahara T, Kondo N, **Nishiyasu T**. Increasing blood flow to exercising muscle attenuates systemic cardiovascular responses during dynamic exercise in humans. *American Journal of Physiology, Regulatory, Integrative and Comparative Physiology*, 309(10):R1234-42, 2015.

Fujii N, Tsuji B, Honda Y, Kondo N, **Nishiyasu T**. Effect of short-term exercise-heat acclimation on ventilatory and cerebral blood flow responses to passive heating at rest in humans. *Journal of Applied Physiology*, 119(5):435-44, 2015.

- Fujii N, Tsuchiya S, Tsuji B, Watanabe K, Sasaki Y, **Nishiyasu T**. Effect of voluntary hypocapnic hyperventilation on the metabolic response during Wingate anaerobic test. *European Journal of Applied Physiology*. 115(9):1967-74, 2015.
- Amano T, Inoue Y, Koga S, **Nishiyasu T**, Kondo N. Influence of exercise training with thigh compression on heat-loss responses. *Scandinavian Journal of Medicine and Science in Sports*, 25 (S1):173-82, 2015.
- Delliaux S, Ichinose M, Watanabe K, Fujii N, **Nishiyasu T**. Cardiovascular responses to forearm muscle metaboreflex activation during hypercapnia in humans. *American Journal of Physiology, Regulatory, Integrative and Comparative Physiology*, 309(1):R43-50, 2015.
- Amano T, Ichinose M, Inoue Y, **Nishiyasu T**, Koga S, Kondo N. Modulation of muscle metaboreceptor activation upon sweating and cutaneous vascular responses to rising core temperature in humans. *American Journal of Physiology, Regulatory, Integrative and Comparative Physiology*, 308(12):R990-7, 2015.
- Tsuji B, Honda Y, Ikebe Y, Fujii N, Kondo N, **Nishiyasu T**. Voluntary suppression of hyperthermia-induced hyperventilation mitigates the reduction in cerebral blood flow velocity during exercise in the heat. *American Journal of Physiology, Regulatory, Integrative and Comparative Physiology*, 308(8):R669-79, 2015.

## 競技活動

筑波大学カヌークラブ（レーシング）部長

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

European Journal of Applied Physiology, Editorial Board

Frontiers in Exercise physiology, Associate Editor

体力科学 編集員

Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, Associate Editor

トヨタ車体ラリーチーム低酸素講習（11月17日）

## 教授 野津有司

## 研究業績

### 1. 学会発表

**野津有司**：学校の保健学習で育成すべき学力と臓器移植（シンポジウム「わが国の脳死臓器移植のあゆみと今後の展望」）。第29回日本医学会総会，京都，2015.4.

岩田英樹，**野津有司**，片岡千恵，工藤晶子，久保元芳，中山直子，渡部 基：飲酒および喫煙の誘いへの断り方に関連する要因—高校生を対象として—。一般社団法人日本学校保健学会第62回学術大会，岡山，2015.11.

久保元芳，**野津有司**，片岡千恵，工藤晶子，谷口志緒里，中山直子，佐藤 幸，渡部 基，岩田英樹：小中学生におけるノンアルコール飲料の摂取の実態および飲酒との関連。一般社団法人日本学校保健学会第62回学術大会，岡山，2015.11.



谷口志緒里, 野津有司, 片岡千恵, 工藤晶子, 久保元芳, 佐藤 幸, 中山直子, 岩田英樹, 渡部 基:  
我が国の高校生における Small Screen Time と危険行動との関連. 一般社団法人日本学校保健学  
会第 62 回学術大会, 岡山, 2015.11.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Kubo M, Nozu Y, Kataoka C, Kudo M, Taniguchi S, Sato Y, Nakayama N, Watanabe M: Correlation  
between Non-Alcoholic Beverage Consumption and Alcohol Drinking Behavior among  
Japanese Youths. Open Journal of Preventive Medicine, 5: 31-37, 2015.

## 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

植田誠治, 野津有司ほか (公益財団法人日本学校保健会): 小学校保健学習の指導と評価の工夫—目標  
の確実な実現を目指した実践例—. 2015

渡邊正樹, 野津有司ほか (公益財団法人日本学校保健会): 中学校保健学習の指導と評価の工夫—知識  
の習得と活用を重視した実践例—. 2015

今関豊一, 野津有司ほか (公益財団法人日本学校保健会): 高等学校保健学習の指導と評価の工夫—思  
考力の育成を目指した実践例—. 2015

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

野津有司: 保健教育. 平成 27 年度版学校保健の動向, 公益財団法人日本学校保健会, 2015.

野津有司: 保健科教育学への道. 体育科教育 8 月号, 2015.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

平成 27 年度健康教育指導者養成研修 (健康コース) 独立行政法人教員研修センター, つくば市, 7 月  
14 ~ 15 日)

平成 27 年度全国養護教諭研究大会「生きる力を育む健康教育の推進と養護教諭の役割—学校保健活動  
を円滑に推進するための組織的な取組—」(文部科学省 他, 富山市, 8 月 6 日)

平成 27 年度全国学校保健・安全研究大会「性に関する指導の考え方と進め方」(文部科学省 他, 松山市,  
12 月 4 日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

中央教育審議会臨時委員 (スポーツ・青少年分科会)

中央教育審議会専門委員 (初等中等教育分科会)

文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会協力者

国立教育政策研究所「学習指導要領実施状況調査 (高等学校・保健)」分析委員

公益財団法人日本学校保健会「保健学習推進委員会」委員

公益財団法人日本学校保健会「保健学習授業推進委員会」委員長

公益財団法人日本学校保健会「学校保健情報提供委員会・統括委員会」委員

## 研究業績

### 1. 学会発表

- Kinoshita M, **Fujii N**: Preparatory motions of roundhouse kick according to different target distance. 5th International Symposium for Taekwondo Studies. Russia, 2015. 5.
- Kinoshita M, **Fujii N**: A kinematic study on how to kick quickly in taekwondo. 33rd International Conference on Biomechanics in Sports, France, 2015. 6.
- Miyazaki S, **Fujii N**: Biomechanical study of landing motion on a spring surface. 33rd International Conference on Biomechanics in Sports, France, 2015. 6.
- Numazu N, **Fujii N**: Biomechanical analysis of saving motion for soccer goalkeepers focused on the function of lower extremities. 33rd International Conference on Biomechanics in Sports, France, 2015. 6.
- Shibayama K, **Fujii N**: Acute effects of training on hurdle configuration during sprint hurdle motion. 33rd International Conference on Biomechanics in Sports, France, 2015. 6.
- Kobayashi Y, Ae M, **Fujii N**: Change in kinetics of throwing arm joints in elementary school children due to training of a distance throw. 33rd International Conference on Biomechanics in Sports, France, 2015. 6.
- Kinoshita M, **Fujii N**: A kinematic study on how to kick quickly in taekwondo. 25th Congress of the International Society of Biomechanics, United Kingdom, 2015. 7.
- Oshima Y, **Fujii N**: Function of the adductor muscles during maximal velocity sprinting. 25th Congress of the International Society of Biomechanics, United Kingdom, 2015. 7.
- Otsu T, **Fujii N**: Proposal of a three-dimensional tennis forehand model. 25th Congress of the International Society of Biomechanics, United Kingdom, 2015. 7.
- 宮崎彰吾, **藤井範久**: 弾性床サーフェス上への着地動作に関するバイオメカニクス的研究. 第24回バイオメカニズムシンポジウム, 新潟, 2015. 7.
- 船橋祐美子, **藤井範久**: 連続スクワットにおける膝サポーターによる動作変容について. 第24回バイオメカニズムシンポジウム, 新潟, 2015. 7.
- 木下まどか, **藤井範久**: テコンドーの前回し蹴り動作準備局面におけるリズム運動. 第24回バイオメカニズムシンポジウム, 新潟, 2015. 7.
- 船橋祐美子, **藤井範久**: 膝サポーター着用による動作変容に関するバイオメカニクス的研究. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.
- 宮崎彰吾, **藤井範久**: ドロップ着地における弾性床上での着地動作. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.
- 大島雄治, **藤井範久**: 最大疾走速度局面における股関節筋群の作用. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.
- 藤井範久**: 不整地における走動作のキネマティクスに関する基礎的研究. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.
- 水野裕介, **藤井範久**: 陸上競技400mリレーにおけるバトンパス方法の違いが疾走動作に及ぼす影響. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.
- 沼津直樹, **藤井範久**: ゴールキーパーのセービング動作に関するキネマティクス的研究—伸展動作の動作方向に着目して—. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.

村田宗紀, 藤井範久: 硬式テニスのキックサーブにおけるヘッドスピードの低下を抑制する動作要因. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015. 8.

木下まどか, 藤井範久: テコンドーの前回し蹴り動作における「はやさ」に関する主観的要素. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015. 8.

近藤 俊, 藤井範久: 柔道における受の防御が背負投動作に及ぼす影響. 日本武道学会第 48 回大会, 東京, 2015. 9.

宮崎彰吾, 藤井範久: 弾性床上への着地動作に関する緩衝能の検討. 第 36 回バイオメカニズム学術講演会. 長野, 2015. 11.

木下まどか, 藤井範久: テコンドーの前回し蹴りに関する蹴り出しタイミング. 第 36 回バイオメカニズム学術講演会. 長野, 2015. 11.

船橋祐美子, 藤井範久: 膝サポーター着用による動作変容に関するバイオメカニクスの研究 (キネティクスに着目して). 第 36 回バイオメカニズム学術講演会. 長野, 2015. 11.

藤井範久: スポーツバイオメカニクスから見た超人スポーツ. 第 1 回超人スポーツ学術研究会. 茨城, 2015. 12.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

木下まどか, 藤井範久: テコンドーの前回し蹴りに関する力学的エネルギーフロー. バイオメカニズム学会誌, 39(1): 37-46, 2015.

村田宗紀, 藤井範久, 鈴木雄太: 硬式テニスサーブにおけるエネルギー形態に着目したラケット保持腕の力学的エネルギーフロー. 体育学研究, 60(1): 177-195, 2015.

Kinoshita M, Fujii N: Biomechanical case study of taekwondo roundhouse kick focused on preparatory motion. Journal of the International Association of Taekwondo Research, 2(2): 15-25, 2015.

## 3. その他論文 (報告書等)

木下まどか, 藤井範久: テコンドー一回し蹴りのバイオメカニクス. バイオメカニクス研究, 19(2): 94-100, 2015.

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)  
文部科学省委託事業マルチサポート事業 (B) 研究開発「競技・用具に関する研究開発」プロジェクト主任 (平成 22 年～)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

バイオメカニクス学会理事 (平成 17 年～)

日本オリンピック委員会選手強化本部委員 (平成 25 年～)

日本オリエンテーリング協会理事 (平成 17 年～), 業務執行理事 (平成 24 年～)

## 研究業績

### 1. 学会発表

本田 靖, 橋爪真弘. 気温と死亡との関連評価における総死亡と非外因死亡との相違. 第 85 回日本衛生学会総会, 和歌山, 3 月, 2015

**Yasushi Honda**, Ho Kim. Climate change impact on heat-related mortality under some RCP scenario. Our Common Future under Climate Change, Paris, France, July 2015

**Yasushi Honda**, Kiyoshi Takahashi, Minoru Yoshikawa, Kazutaka Oka, Saneyuki Takano, Ho Kim, Yue-Leon Guo. Projection of heat-related excess mortality using new climate and population scenarios. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Emiko Minakuchi, **Yasushi Honda**. THE ASSOCIATION BETWEEN EXTERNAL CAUSES OF DEATH AND HIGH TEMPERATURE IN SIX PREFECTURES IN JAPAN. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Ho Kim, **Yasushi Honda**, Masahiro Hashizume, Yue Leon Guo, Chang-Fu Wu, Haidong Kan, Kweon Jung, Youn-Hee Lim, Seungmuk Yi. SEASON-SPECIFIC EFFECT OF FINE PARTICULATE MATTER ON MORTALITY IN 11 EAST ASIAN CITIES. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Sari Kovats, Joacim Rocklov, **Yasushi Honda**, Simon Lloyd. GLOBAL RISK ASSESSMENT OF THE EFFECT OF CLIMATE CHANGE ON SELECTED CAUSES OF DEATH IN 2030s AND 2050s. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Yoonhee Kim, Antonio Gasparrini, Masahiro Hashizume, **Yasushi Honda**, Ben Armstrong. EFFECT OF REDUCED ELECTRICITY CONSUMPTION ON HEATRELATED MORTALITY AFTER FUKUSHIMA NUCLEAR POWER PLANT ACCIDENT IN JAPAN. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Antonio Gasparrini, Yuming Guo, Masahiro Hashizume, Eric Lavigne, Aurelio Tobias, Antonella Zanobetti, Joel Schwartz, Shilu Tong, **Yasushi Honda**, Ho Kim, Ben Armstrong. WITHIN-SUMMER ADAPTATION TO HEAT: A MULTI-COUNTRY ANALYSIS. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Antonio Gasparrini, Masahiro Hashizume, Antonella Zanobetti, Aurelio Tobias, Shilu Tong, Joacim Rocklov, Michela Leone, Manuela De Sario, Michelle L. Bell, Yue-Liang Leon Guo, Chang-Fu Wu, Haidong Kan, Seung-Muk Yi, Michline De Sousa Zanotti Stagliorio Coelho, Paulo Hilario Nascimento Saldiva, **Yasushi Honda**, Ho Kim, Ben Armstrong. QUANTITATIVE COMPARISON OF MORTALITY ATTRIBUTABLE TO HEAT AND COLD IN A MULTI-COUNTRY ANALYSIS. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Jayeun Kim, Jihye Shin, Youn-Hee Lim, **Yasushi Honda**, Masahiro Hashizume, Yue Leon Guo, Haidong Kan, Seungmuk Yi, Ho Kim. COMPREHENSIVE APPROACH TO UNDERSTAND THE ASSOCIATION OF DIURNAL TEMPERATURE RANGE ON MORTALITY IN EAST ASIA. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Chris Fook Sheng, Melanie Boeckmann, Kayo Ueda, Hajo Zeeb, Hiroshi Nitta, Chiho Watanabe, **Yasushi Honda**. EFFECT MODIFICATION BY PREFECTURE CHARACTERISTICS ON THE DECLINE OF EAT-RELATED MORTALITY IN JAPAN, 1972 TO 2010. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Yuming Guo, Antonio Gasparrini, Xiaoyu Wang, Eric Lavigne, Antonella Zanobetti, Aurelio Tobias, Michela Leone, Michelle L Bell, Masahiro Hashizume, **Yasushi Honda**, Ho Kim, Micheline De Sousa Zanotti Stagliorio Coelho, Paulo Hilario Nascimento Saldiva, Ben Armstrong, Shilu Tong. THE EFFECTS OF HEATWAVES ON MORTALITY: A MULTI-COUNTRY STUDY. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

Antonio Gasparrini, Yuming Guo, Masahiro Hashizume, Patrick Kinney, Elisaveta P. Petkova, Eric Lavigne, Antonella Zanobetti, Joel Schwartz, Aurelio Tobias, Michela Leone, Shilu Tong, **Yasushi Honda**, Ho Kim, Ben Armstrong. TEMPORAL VARIATION IN HEAT-MORTALITY ASSOCIATIONS: A MULTI-COUNTRY STUDY. Twenty-seventh Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Sao Paulo, Brazil, August-September, 2015

**本田 靖**. わが国における熱関連死亡数の将来予測. 第74回公衆衛生学会, 長崎, 11月, 2015

**本田 靖**. 熱関連死亡の将来予測. 第54回日本生気象学会, 名古屋(招待講演)11月, 2015

**本田 靖**. 気温と死亡との関連を評価するモデルにおける交絡. 第80回日本民族衛生学会, 11月, 2015

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Yeonseung Chung, Youn-Hee Lim, **Yasushi Honda**, Yue-Liang Leon Guo, Masahiro Hashizume, Michelle L Bell, Bing-Yu Chen, Ho Kim. Mortality Related to Extreme Temperature for 15 Cities in Northeast Asia. *Epidemiology* 2015; 26(2): 255-262.

Lim Y, Bell ML, Kan H, **Honda Y**, Guo YL, Kim H. Economic status and temperature-related mortality in Asia, *I J Biometeorol* 2015:1-6.

Noriko Takahashi, Rieko Nakao, Kayo Ueda, Masaji Ono, Masahide Kondo, **Yasushi Honda**, Masahiro Hashizume. Community Trial on Heat Related-Illness Prevention Behaviors and Knowledge for the Elderly. *Int J Environ Res Public Health* 2015; 12: 3188-3214.

Bun Tsuji, **Yasushi Honda**, Yusuke Ikebe, Naoto Fujii, Narihiko Kondo, Takeshi Nishiyasu. Voluntary suppression of hyperthermia-induced hyperventilation mitigates the reduction in cerebral blood flow velocity during exercise in the heat. *American Journal of Physiology-Regulatory, Integrative and Comparative Physiology* 2015 Epub ahead of print]

Kayaba M, Kondo M, **Honda Y**. Characteristics of elderly people living in non-air-conditioned homes. *Environ Health Prev Med.* 2015 Jan;20(1):68-71.

- Antonio Gasparrini, Yuming Guo, Masahiro Hashizume, Patrick Kinney, Elisaveta P. Petkova, Eric Lavigne, Antonella Zanobetti, Joel D. Schwartz, Aurelio Tobias, Michela Leone, Shilu Tong, **Yasushi Honda**, Ho Kim, Ben G. Armstrong. Temporal Variation in Heat-Mortality Associations: A Multi-Country Study. *Environ Health Perspect* 2015 May 1 [Epub ahead of print]
- Gasparrini A, Guo Y, Hashizume M, Lavigne E, Zanobetti A, Schwartz J, Tobias A, Tong S, Rocklöv J, Forsberg B, Leone M, De Sario M, Bell ML, Guo YL, Wu CF, Kan H, Yi SM, de Sousa Zanotti Stagliorio Coelho M, Saldiva PH, **Honda Y**, Kim H, Armstrong B. Mortality risk attributable to high and low ambient temperature: A multi-country study. *The Lancet* 2015 Jul 25;386(9991):369-75.
- Bae S, Lim YH, Kashima S, Yorifuji T, **Honda Y**, Kim H, Hong YC. Non-Linear Concentration-Response Relationships between Ambient Ozone and Daily Mortality. *PLoS One*. 2015 Jun 15;10(6):e0129423
- Seposo XT, Dang TN, **Honda Y**. Evaluating the Effects of Temperature on Mortality in Manila City (Philippines) from 2006-2010 Using a Distributed Lag Nonlinear Model. *Int J Environ Res Public Health* 2015 Jun 16;12(6):6842-57.
- Kim Y, Kim H, **Honda Y**, Guo YL, Chen BY, Woo JM, Ebi KL. Suicide and Ambient Temperature in East Asian Countries: A Time-Stratified Case-Crossover Analysis. *Environ Health Perspect* 2015 Jun 12. [Epub ahead of print]
- T Yorifuji, S Bae, S Kashima, T Tsuda, H Doi, **Y Honda**, H Kim, YC Hong. Health Impact Assessment of PM10 and PM2.5 in 27 Southeast and East Asian Cities. *J Occup Environ Med*. 2015 Jul;57(7):751-6.
- Naoto Fujii, Bun Tsuji, **Yasushi Honda**, Narihiko Kondo, Takeshi Nishiyasu. Effect of short-term exercise-heat acclimation on ventilatory and cerebral blood flow responses to passive heating at rest in humans. *Journal of Applied Physiology* [Epub ahead of print]
- Youn-Hee Lim, Michelle L. Bell, Haidong Kan, **Yasushi Honda**, Yue-Liang Leon Guo, Ho Kim. Economic status and temperature-related mortality in Asia. *Int J Biometeorol* 2015 59:1405-1412
- Lee H, **Honda Y**, Hashizume M, Guo YL, Wu CF, Kan H, Jung K, Lim YH, Yi S, Kim H. Short-term exposure to fine and coarse particles and mortality: A multicity time-series study in East Asia. *Environ Pollut*. 2015 Sep 1;207:43-51. doi: 10.1016/j.envpol.2015.08.036. [Epub ahead of print]

### 3. その他論文（報告書等）

- 本田 靖**, 高橋 潔. IPCC 第5次評価報告書を読み解く－WG2「影響・適応・脆弱性」を中心に. *環境技術* 2015; 44:2-7.

### 4. 専門家, 学生向け著書（事典, 翻訳書等を含む）

- 本田 靖**. シンプル衛生公衆衛生学 2015. 南江堂, 195-205, 2015.

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等（科研費を除く）

環境研究総合推進費 S-10 地球規模の気候変動リスク管理戦略の構築に関する総合的研究（環境省）

環境研究総合推進費 S-14 気候変動の緩和策と適応策の統合的戦略研究（環境省）

Global Research Laboratory Health risk assessment of climate change and air pollution (National

Research Foundation of Korea)

環境保健サーベイランス解析手法に関する研究（一般社団法人環境情報科学センター）

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

本田 靖. 気候変動による熱ストレスへの影響. 平成 27 年度茨城大学・茨城県・茨城産業会議連携講演会「気候変動による健康への影響・猛暑への適応」水戸（招待講演）11 月, 2015

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

環境省委託 環境保健サーベイランス調査検討会委員（1996 年～）

環境省委託 環境保健サーベイランス・局地的大気汚染健康影響検討会委員（1996 年～）

環境省委託 ジフェニルアルシン酸等のリスク評価に係るワーキンググループ委員（2010 年～）

Intergovernmental Panel on Climate Change 第 5 次報告書第 2 作業部会 国内幹事会メンバー（2011 年～）

国立研究開発法人国立環境研究所 医学研究倫理審査委員会委員（2015 年～）

## 教授 前田清司

## 研究業績

### 1. 学会発表

前田清司（招待講演）:定期的な運動と動脈硬化. 日本トレーニング指導者協会第 9 回総会・研修会, 東京, 2015.5.

前田清司（招待講演）:定期的な有酸素性運動が動脈硬化度を低下させるメカニズム. 呼吸研究会（第 29 回）・運動と循環研究会合同研究会, 和歌山, 2015.9.

Kosaki K, Sugawara J, Akazawa N, Matsubara T, Zempo-Miyaki A, **Maeda S**: Effect of single bout of lower leg heating on aortic pulse wave reflection in postmenopausal women. *Experimental Biology* 2015, USA, 2015. 3.

Tanahashi K, Akazawa N, Choi Y, Kosaki K, **Maeda S**: Resting brachial artery shear rate is associated with exercise habituation in middle aged and older adults. *Experimental Biology* 2015, USA, 2015. 3.

Tomoto T, Sugawara J, Nogami Y, Aonuma K, **Maeda S**: Effect of left ventricular-central artery coupling on cerebrovascular hemodynamics: insights from endurance training intervention. *Experimental Biology* 2015, USA, 2015. 3.

Yoshikawa T, Zempo-Miyaki A, Kumagai H, Tsujimoto T, So R, Tanaka K, **Maeda S**: Effect of lifestyle modification on pulse pressure amplification in overweight and obese men. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Sweden, 2015. 6.

Akazawa N, Kumagai H, Nakamura Y, Myoenzono K, Choi Y, **Maeda S**: Effect of sleep quality on cognitive function during exercise in athletes. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Sweden, 2015. 6.

Nakamura Y, Choi Y, Akazawa N, Park IS, Tokuyama K, **Maeda S**: Effect of sleep quality on cognitive

- functions during exercise in healthy young men. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Sweden, 2015. 6.
- Tagawa K, Ra SG, Choi Y, **Maeda S**: Lactotripeptides supplementation affects brachial arterial diameter and maximal isometric force following high-intensity eccentric exercise. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Sweden, 2015. 6.
- Nogami J, Naruto T, Otsuki T, **Maeda S**, Ajisaka R: The effect of acute moderate intensity exercise on land and that in warm water on arterial stiffness in elderly subjects. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Sweden, 2015. 6.
- Ra SG, Tagawa K, Choi Y, **Maeda S**: Hemodynamic response to unilateral eccentric exercise with and without lactotripeptides ingestion in healthy young men. Cell Symposia: Exercise Metabolism, Netherlands, 2015. 7.
- 羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, 大森 肇, **前田清司**: タウリン摂取は伸張性レジスタンス運動後の遅発性筋肉痛と動脈ステイフネスの増加を抑制する. 第1回国際タウリン研究会日本部会, 神戸, 2015.2.
- 吉川 徹, 膳法亜沙子, 熊谷 仁, 辻本健彦, 蘇 リナ, 田中喜代次, **前田清司**: 成人男性における脈圧増幅と肥満の関連 - 脈圧増幅の評価部位に着目した検討 -. 第15回臨床血圧脈波研究会, 大阪, 2015.6.
- 赤澤暢彦, **前田清司**: 女性アスリートにおける睡眠の質が代謝産物に及ぼす影響. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.
- 澤野友里子, 赤澤暢彦, 蘇 リナ, 田中喜代次, **前田清司**: 中高齢女性における全身振動刺激を用いた一過性の筋力運動が動脈ステイフネスに及ぼす影響. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.
- 吉川 徹, 膳法亜沙子, 熊谷 仁, 辻本健彦, 田中喜代次, **前田清司**: 肥満男性における定期的な有酸素性運動が脈圧増幅に与える影響. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.
- 熊谷 仁, 膳法亜沙子, 吉川徹, 蘇 リナ, 西保 岳, 田中喜代次, **前田清司**: 肥満者における生活習慣改善が動脈ステイフネスと炎症性因子に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.
- 山本皓策, 崔 英珠, 中村優希, 赤澤暢彦, 朴 寅成, 川名ふさ江, 佐藤 誠, 徳山薫平, 宮川俊平, **前田清司**: 若年男性における高反発マットレスの使用が睡眠の質に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.
- 小崎恵生, 菅谷 健, 羅 成圭, 棚橋嵩一郎, 赤澤暢彦, **前田清司**: 中高齢者における尿中 L-FABP 濃度と運動能力の関連性. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.
- 菅原 順, 東本 翼, 今井智子, **前田清司**, 小河繁彦: 下半身陰圧負荷刺激が大動脈・脳循環伝達特性に与える影響: 周波数領域解析による検討. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.
- 赤澤暢彦, 及川哲志, 棚橋嵩一郎, 小松美保, 小崎恵生, 熊谷 仁, **前田清司**: 中高齢者における有酸素性運動トレーニングがメンタルヘルスおよび動脈ステイフネスに及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.
- 棚橋嵩一郎, 赤澤暢彦, 小崎恵生, 崔 英珠, **前田清司**: 中高齢者における血中 ADMA 濃度を低下させる運動強度の検討. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.
- 中村優希, 崔 英珠, 赤澤暢彦, 朴 寅成, 川名ふさ江, 佐藤 誠, 徳山薫平, **前田清司**: 若年男性における睡眠質の低下が安静時および運動時の認知機能に与える影響. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.
- 田川 要, 赤澤暢彦, 吉川 徹, 羅 成圭, 棚橋嵩一郎, 熊谷 仁, 矢野未来, 金 美珍, 尹 智暎,



大藏倫博, 鈴木貴視, 小松美穂, 神村彩子, **前田清司**: 低体重高齢者における筋力トレーニングとL-シトルリン含有組成物摂取が動脈スティフネスに及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.

東本 翼, 菅原 順, 野上佳恵, 青沼和隆, **前田清司**: 16週間の持久性トレーニングが中心動脈伸展性と脳循環動態に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.

栃木悠里子, 羅 成圭, 赤澤暢彦, 菅村恵里香, 目崎 登, 宮川俊平, 福田 崇, **前田清司**: 女性アスリートにおける血清エストラジオールが安静時および運動中の認知機能に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.

羅 成圭, 崔 英珠, 赤澤暢彦, 大森 肇, **前田清司**: タウリン摂取が一過性伸張性運動後の非運動肢血管内皮機能に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.

澤野友里子, 膳法(宮木) 亜沙子, 赤澤暢彦, 小崎恵生, 蘇 リナ, 田中喜代次, **前田清司**: 中高齢女性における全身振動刺激を用いた一過性の静的スクワット運動は Augmentation Index を低下させる. 第71回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9.

栃木悠里子, 羅 成圭, 目崎 登, 宮川俊平, 福田 崇, **前田清司**: 月経周期に伴う性ホルモンの変動が女性アスリートの骨格筋および腱の柔軟性に与える影響. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11.

小崎恵生, 菅谷 健, 羅 成圭, 棚橋嵩一郎, 赤澤暢彦, **前田清司**: 中高齢者における尿中L-FABP濃度と心筋虚血(SEVR)の関連性. 第38回日本高血圧学会, 愛媛, 2015.10.

## 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

**Maeda S**, Zempo-Miyaki A, Sasai H, Tsujimoto T, So R, Tanaka K: Lifestyle modification decreases arterial stiffness in overweight and obese men: dietary modification vs. exercise training. *International Journal of Sport Nutrition & Exercise Metabolism*, 25: 69-77, 2015.

Kumagai H, Zempo-Miyaki A, Yoshikawa T, Tsujimoto T, Tanaka K, **Maeda S**: Lifestyle modification increases serum testosterone level and decrease central blood pressure in overweight and obese men. *Endocrine Journal*, 62: 423-430, 2015.

Kosaki K, Sugawara J, Akazawa N, Tanahashi K, Kumagai H, Ajisaka R, **Maeda S**: No influence of lower leg heating on central arterial pulse pressure in young men. *The Journal of Physiological Sciences*, 65: 311-316, 2015.

Tanabe Y, **Maeda S**, Akazawa N, Zempo-Miyaki A, Choi Y, Ra SG, Imaizumi A, Otsuka Y, Nosaka K: Attenuation of indirect markers of eccentric exercise-induced muscle damage by crucumin. *European Journal of Applied Physiology*, 115: 1949-1957, 2015.

Otsuki T, **Maeda S**, Mukai J, Ohki M, Nakanishi M, Yoshikawa T: Association between plasma sLOX-1 concentration and arterial stiffness in middle-aged and older individuals. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, 57: 151-155, 2015.

Tanaka H, Miyachi M, Murakami H, **Maeda S**, Sugawara J: Attenuated age-related increases in arterial stiffness in Japanese and American women. *Journal of the American Geriatrics Society*, 63: 1170-1174, 2015.

Tomoto T, Sugawara J, Hirasawa A, Imai T, **Maeda S**, Ogino S: Impact of short-term training camp on arterial stiffness in endurance runners. *The Journal of Physiological Sciences*, 65: 445-449, 2015.

Tomoto T, Sugawara J, Nogami Y, Aonuma K, **Maeda S**: The influence of central arterial compliance on

on cerebrovascular hemodynamics: insights from endurance training intervention. *Journal of Applied Physiology*, 119: 445-451, 2015.

Choi Y, Miura M, Nakata Y, Sugawara T, Nissato S, Otsuki T, Sugawara J, Iemitsu M, Shimano H, Iijima Y, Tanaka K, Kuno S, Mahapatra NR, **Maeda S**, Takekoshi K: A common genetic variant of the chromogranin a-derived peptide catestatin is associated with atherogenesis and hypertension in a Japanese population. *Endocrine Journal*, 62: 797-804, 2015.

Akazawa N, Ra SG, Sugawara J, **Maeda S**: Influence of aerobic exercise training on post-exercise responses of aortic pulse pressure and augmentation pressure in postmenopausal women. *Frontiers in Physiology* 6: 268, 2015

Otsuki T, Shimizu K, **Maeda S**: Changes in arterial stiffness and nitric oxide production with Chlorella-derived multicomponent supplementation in middle-aged and older individuals. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, 57: 228-232, 2015.

Ra SG, Akazawa N, Choi Y, Matsubara T, Oikawa S, Kumagai H, Tanahashi K, Ohmori H, **Maeda S**: Taurine supplementation reduces eccentric exercise-induced delayed onset muscle soreness in young men. *Advances in Experimental Medicine and Biology*, 803: 765-772, 2015.

羅 成圭, 赤澤暢彦, 崔 英珠, 竹越一博, 大森 肇, **前田清司**: レジスタンス運動時のタウリン摂取の有効性. *タウリンリサーチ*, 1: 36-38, 2015.

**前田清司**, 赤澤暢彦: 生活習慣と動脈硬化度 —クルクミン, *運動. FOODS & FOOD INGREDIENTS JOURNAL OF JAPAN*, 220: 318-322, 2015.

### 3. その他論文

**前田清司**: からだを動かそう. *くらしの豆知識* 2016, 204-205, 2015.

宮地元彦, 真田樹義, 田村好史, **前田清司**: 運動と予防医療. *予防医療 Aggressive* 2: 34-42, 2015.

### 4. 専門家, 学生向け著書

**前田清司**: スポーツバイオ科学と先進スポーツギアの開発 (運動と血管内皮由来生理活性物質). シーエムシー出版, 37-43, 2015.

### 5. 受賞

第28回日本体力医学会奨励賞

大塚スポーツ医・科学賞奨励賞

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究、委託研究、これらからの研究助成、奨励金等 (科研費を除く)

カルピス株式会社

協和発酵バイオ株式会社

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「模擬授業」茨城県立並木中等教育学校 (2015年2月)

「学部学科紹介模擬授業」茨城県立竹園高校 (2015年11月)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育学会理事（平成 27 年～）

日本運動生理学会理事（平成 24 年～）

日本体力医学会評議員（平成 12 年～）

日本運動生理学会評議員（平成 21 年～）

「International Journal of Sport and Health Science」編集委員会委員長（平成 27 年～）

「体力科学」編集委員会委員（平成 27 年～）

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine」編集委員会委員（平成 27 年～）

## 教授 水上勝義

## 研究業績

### 1. 学会発表

シンポジスト

水上勝義. 高齢者薬物治療ガイドライン 1. 不眠症，うつ病. 第 57 回日本老年医学会 2015 年 6 月，横浜

水上勝義. 薬剤性認知障害. 第 34 回日本認知症学会，2015 年 10 月，青森

水上勝義. レビー小体型認知症の治療と対応. 第 28 回日本総合病院精神医学会，2015 年 11 月，徳島  
一般演題

荒木完途，村上 真，水上勝義. ヨーガ療法によるストレスマネジメント介入への REBT の利用可能性  
の検討. 第 19 回日本人生哲学感情心理学会大会，2015/ 年 7 月，越谷

村上 真，橋本佐由理，水上勝義. 就労者に対するヨーガ療法介入の介入前時点ストレス反応水準別効果  
検討. 第 66 回体育学会，2015 年 8 月，東京

西村 恵，水上勝義. 注意欠如・多動性障害児に対する自律訓練法の効果—注意機能と脳 NIRS の検討—.  
第 62 回日本学校保健学会，2015 年 11 月，岡山

中村誠司，水上勝義. 介護職の労働価値観やワーク・エンゲイジメントに関する検討. 第 31 回日本産  
業組織心理学会，東京，2015 年 8 月

中村誠司，水上勝義. 若年介護職のストレス特性について. 第 62 回日本グループダイナミクス学会，  
奈良，2015 年 10 月

中村誠司，水上勝義. 介護職のワーク・エンゲイジメントと労働価値観についての検討. 第 23 回日本  
産業ストレス学会，京都，2015 年 12 月.

中村誠司，水上勝義. 介護職のワーク・エンゲイジメントに関わる要因の検討. 第 13 回人材育成学会，  
2015 年 12 月，東京

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

Tamura M, Nemoto K, Kawaguchi A, Kato M, Arai T, Kakuma T, Mizukami K, Matsuda H, Soya H, Asada T: Long-term mild-intensity exercise regimen preserves prefrontal cortical volume against aging. Int J Geriatr Psychiatry 30(7):686-946,2015.

石川裕子，水上勝義. ペアダンスを用いた一過性ダンスセラピープログラムの心理的効果について. ス  
トレス科学 29(4)389-400,2015

Yoshita M, Arai H, Arai H, Arai T, Asada T, Fujishiro H, Hanyu H, Iizuka O, Iseki E, Kashihara K, Kosaka K, Maruno H, **Mizukami K**, Mizuno Y, Mori E, Nakajima K, Nakamura H, Nakano S, Nakashima K, Nishio Y, Orimo S, Samuraki M, Takahashi A, Taki J, Tokuda T, Urakami K, Utsumi K, Wada K, Washimi Y, Yamashina S, Yamazaki J, Yamada M: Diagnostic accuracy of cardiac sympathetic imaging with <sup>123</sup>I-MIBG myocardial scintigraphy in dementia with Lewy bodies: a multicenter study. PLoS One. 10(3):e0120540, 2015.

中村誠司, **水上勝義**. 介護サービス職の職業性ストレスと首尾一貫感覚に関する研究。－介護パフォーマンスの違いに注目して－。高齢者ケアリング学研究誌 5(2)1-10, 2015

Uchida, K, Shana, L, Suzuki H, Tabuse Yo, Nishimura Y, Hirokawa Y, **Mizukami K**, Akatsu H, Meno K, Asada T: Amyloid- $\beta$  sequester proteins as blood-based biomarkers of cognitive decline. Alzheimer's & Dementia: Diagnosis, Assessment & Disease Monitoring 1270-280, 2015

**Mizukami K**, Akatsu H, Abrahamson EE, Mi Z, Ikonovic MD. Immunohistochemical analysis of hippocampal butyrylcholinesterase: Implications for regional vulnerability in Alzheimer's disease. Neuropathology. 2015 Aug 21. doi: 10.1111/neup.12241. [Epub ahead of print]

Hashimoto M, Yatabe Y, Ishikawa T, Fukuhara R, Kaneda K, Honda K, Yuki S, Ogawa Y, Imamura T, Kazui H, Kamimura N, Shinagawa S, **Mizukami K**, Mori E, Ikeda M. Relationship between Dementia Severity and Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia in Dementia with Lewy Bodies and Alzheimer's Disease Patients. Dement Geriatr Cogn Dis Extra. 5(2):244-52, 2015.

**水上勝義**. 多剤併用の高齢者における個々疾患に対する処方整理の考え方。うつ病・認知症。薬局 66(3)451-455, 2015

**水上勝義**. 特集. 認知症を診ていこう。アルツハイマー型認知症治療薬の使い分け。治療 97: 378-382, 2015

**水上勝義**. パーキンソン病とうつ。臨床精神医学 144(4)553-559, 2015

**水上勝義**. 認知症の薬物療法と服薬ケア。調剤と情報 21(11):1478-1481, 2015

**水上勝義**. 認知症患者の夜間にみられる精神症状および行動症状。認知神経科学 17(1), 12-17, 2015

**水上勝義**. 漢方薬。薬事 57(11); 1827-1832, 2015

**水上勝義**. 認知症の薬物療法と服薬ケア。調剤と情報 21(11)1478-1481, 2015

石川裕子, **水上勝義**. 老年期うつ病。新薬と臨床 64(9)1032-1035, 2015

**水上勝義**. 認知症の治療とケアの最前線。アルツハイマー病と漢方。脳神経外科と漢方 1;1-6, 2015

**水上勝義**. レビー小体型認知症のうつに対する薬物療法(Q&A)。日本医事新報 (0385-9215)4739号 60-61, 2015.

石川裕子, **水上勝義**. 神経認知障害群アルツハイマー病の軽度認知障害。精神科治療学 30(増刊):306-309, 2015.

#### 4. 専門家, 学生向け著書(事典, 翻訳書等を含む)

高橋晶, **水上勝義**. 外来で診る統合失調症(水野雅文編集)9章初老期認知症, 医学書院, p99-106, 2015.6

**水上勝義**. 睡眠薬の適切な使い方について教えてください。かかりつけ医のための老年病の解決法(秋下雅弘編)メディカルレビュー社, p80-81, 2015.

**水上勝義**. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン(日本老年医学会編)メディカルレビュー社, 2015

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「健康づくり指導者研修会 うつと認知症の予防における生活習慣の重要性」(水戸市, 6月9日)

「茨城県健康づくり指導者研修会うつと認知症の予防における生活習慣の重要性ー身体活動の効果を含めてー」(水戸市, 9月15日)

「こころ (読売新聞)」(1月15日掲載)

「おいとともに8朝日新聞」(5月5日掲載)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本うつ病学会評議員 (平成18年～)

日本老年精神医学会評議員 (平成20年～)

日本認知症学会評議員 (平成21年～)

レビー小体型認知症サポートネットワーク茨城顧問医 (平成27年～)

レビー小体型認知症サポートネットワーク東京協力医 (平成27年～)

レビー小体型認知症研究会世話人 (平成24年～)

日本高齢者ケアリング研究会理事 (平成27年～)

## 教授 宮川俊平

## 研究業績

### 1. 学会発表

石倉恵介, 時野谷勝幸, 海老名慧, 小峰昇一, 川口優大, 黒岩貴信, 水島隆規, 山本大介, 鍋倉賢治, **宮川俊平**, 大森 肇: 経験の違いがフルマラソン後の筋損傷・炎症マーカーならびに筋肉痛に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9

海老名慧, 小峰昇一, 大野貴大, 時野谷勝幸, 石倉恵介, 松井 崇, 羅 成圭, 宮崎照雄, **宮川俊平**, 征矢英昭, 大森 肇: 長時間運動時の遊離アミノ酸の動態にタウリン投与が及ぼす影響. 第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9

大野貴大, 海老名慧, 時野谷勝幸, 小峰昇一, 鈴木貴視, 西村明仁, **宮川俊平**, 大森 肇: L-シトルリン投与がラットの走運動パフォーマンスに及ぼす影響～中強度運動と高強度運動の比較～. 第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9

栃木悠里子, 羅 成圭, 赤澤暢彦, 菅村江里香, 目崎 登, **宮川俊平**, 福田 崇, 前田清司: 女性アスリートにおける血清エストラジオールが安静時及び運動中の認知機能に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9

下野俊彦, 春名 純, 三宅明子, 中西康巳, 板倉尚子, **宮川俊平**, 竹村雅裕: 定量的なインソール作成システム作り - バレーボール選手の一例 -. 第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9

福田 崇, 山元勇樹, 松元 剛, **宮川俊平**: アメリカンフットボールにおける装具が走力に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9

山本皓策, 崔 英珠, 中村優希, 赤澤暢彦, 朴 寅成, 川名ふさ江, 佐藤 誠, 徳山薫平, **宮川俊平**, 前田清司: 若年者における高反発マットレスの使用が睡眠の質に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9

- 有吉晃平, 辰見康剛, 大下和茂, **宮川俊平**: ダイナミックストレッチの実施方法に関する実態調査. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9
- 金 多允, 竹村雅裕, 福田 崇, **宮川俊平**: 競技特性と股関節外転・外旋筋力の関連性について. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9
- 関戸健一, **宮川俊平**, 竹村雅裕: 本邦における大学生女子ラクロス選手の傷害発生の傾向について. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9
- 鈴木大介, 田口直樹, 崔 英珠, **宮川俊平**, 竹村雅裕: 腰椎分離症既往のある大学野球選手の身体特性. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015, 9
- 鈴木啓太, 竹村雅裕, 永井 智, **宮川俊平**: ラグビー選手におけるバーナー症候群の受傷機転～タックルシーンの分析～. 第 26 回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 2015, 11
- 柵木聖也, **宮川俊平**, 白木 仁, 金森章浩: 下腿の回旋可動域に左右差及び性差は存在するか. 第 26 回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 2015, 11
- 立石智彦, 池田 浩, 福岡重雄, **宮川俊平**, 森川嗣夫, 松本秀男, 谷 諭, 島田和典, 土肥美智子, 加藤晴康, 福林徹: 全国高等学校サッカー選手権大会での外傷. 傷害調査報告. 第 26 回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 2015, 11
- 栃木悠里子, 羅 成圭, 目崎 登, **宮川俊平**, 福田 崇, 前田清司: 月経周期に伴う性ホルモンの変動が女性アスリートの骨格筋および腱の柔軟性に与える影響. 第 26 回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 2015, 11

## 2. 学術論文

- Kei Akiyama, Byungjoo Noh, Mako Fukano,; **Shumpei Miyakawa**, Norikazu Hirose, Toru Fukubayashi: Analysis of the talocrural and subtalar joint motions in patients with medial tibial stress syndrome. JOURNAL OF FOOT AND ANKLE RESEARCH, 8;25, 2015
- 大垣 亮, 竹村雅裕, 岩井浩一, **宮川俊平**: 大学ラグビー選手における肩関節外傷のリスクファクター. 体育学研究, 4 ; 1-8, 2015
- Manabu Shimoda, Mitsuhiro Enomoto, Mitsuhiro Horie, **Shumpei Miyakawa**, Kazuyoshi Yagishita: EFFECTS OF HYPERBARIC OXYGEN ON MUSCLE FATIGUE AFTER MAXIMAL INTERMITTENT PLANTAR FLEXION EXERCISE. JOURNAL OF STRENGTH AND CONDITIONING RESEARCH, 29(6); 1648-1656, 2015
- Byungjoo Noh, Akihiko Masunari, Kei Akiyama, Mako Fukano, Toru Fukubayashi, **Shumpei Miyakawa**: Structural deformation of longitudinal arches during running in soccer players with medial tibial stress syndrome. EJSS, 15(2); 173-181, 2015
- 成相美紀, 白木 仁, 吉田成仁, 荻山 靖, **宮川俊平**: 台高の異なる片脚リバウンドドロップジャンプのバイオメカニクスの分析. 日本臨床スポーツ医学会会誌, 23 (2) ; 252-259, 2015
- 仙石泰雄, 小林啓介, 今井智子, 渡部厚一, **宮川俊平**: 競泳選手の競技パフォーマンスをサポートする e-コンディショニング管理システムの開発. 筑波大学紀要, 38 ; 143-147, 2015
- 山元勇樹, 加藤 基, 福田 崇, 津賀裕喜, **宮川俊平**: 等尺性股関節伸展運動における膝関節角度の影響. 体力科学, 64 (3) ; 289-294, 2015
- Byungjoo Noh, Takeo Ishii, Akihiro Masunari, Yuhei Harada, **Shumpei Miyakawa**: Muscle activation of plantar flexors in response to different strike patterns during barefoot and shod running in medial tibial stress syndrome. J Phys Fitness Sports Med, 4; 133-141, 2015
- 福田 崇, **宮川俊平**, 松元 剛, 山元勇樹: アメリカンフットボールにおける装具が走力に及ぼす影響一

2年間の縦断的研究一。筑波大学体育系紀要, 38; 33-41, 2015

宮川俊平: スポーツ医学拠点の充実と増加に向けて一茨城県内のスポーツ活動におけるメディカルサポート体制の構築 筑波大学を起点に一。日本臨床スポーツ医学会誌, 23 (3); 402-404, 2015

宮川俊平: オリンピック選手のメディカルチェックから見えてくるもの。日本臨床スポーツ医学会誌, 23 (3); 367, 2015

## 准教授 足立和隆

### 研究業績

#### 1. 学会発表

足立和隆, 川田順造: マリ人と日本人の骨盤における最大前・後傾可動角度の比較。第69回日本人類学会大会, 東京, 2015.10.

足立和隆: 西アフリカ人の姿勢と骨盤前傾, 第69回日本人類学会大会キネシオロジー分科会 (ランニングと進化), 東京, 2015.10.

#### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Adachi K.: The Morphological Characteristics of the Two Ethnic Groups of the West Africa Compared with Japanese People. The Techniques of the Body and Morphological Characteristics of Five Ethnic Groups of West Africa (Ed. Kawada J), 3-42 and Supplement DVD, Kanagawa University, 2015.

#### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「Kinectを活用した簡易動作計測装置に関する研究」(HALデザイン研究所)

「保温, 発汗効果をもつウェアの着用が運動の効果に与える影響の研究」(株式会社 グッズマン)

「日本人用フットベッドの機能性」(エルデ)

### 教育活動

#### 1. 受賞

マーカーレス3次元動作計測システム (HALデザイン研究所との共同開発), 国際ユニバーサルデザイン競技会 (IAUD) アワード 2015 (実現技術部門) 受賞

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

ラヂオつくば相談役 (2008年~)

### 公共機関, 企業等からの委託業務 (研究以外)

「ランドセルの機能に対する検討」における実験 (株式会社羅羅屋)

「口唇圧測定装置の開発」(たかぎ歯科医院)

## 研究業績

### 1. 学会発表

Seki K, Yamamoto K, Kigoshi K, **Enomoto Y**: Mechanical work calculation methods to evaluate distance runners. The 33rd International Conference of Biomechanics in Sports, Poitiers, 2015.7.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

渡邊將司, 森丘保典, 伊藤静夫, 三宅 聡, 森 泰夫, 山崎一彦, **榎本靖士**, 遠藤俊典, 木越清信, 繁田 進, 尾縣貢: 日本代表選手におけるスポーツ・種目転向（トランスファー）の特徴－日本代表選手に対する軌跡調査－. 陸上競技研究紀要, 10, 13-21, 2014.

### 3. その他論文（報告書等）

伊藤静夫, **榎本靖士**: 競技者育成と生涯スポーツの融合モデルを求めて－カナダ LTAD 及びオーストラリア FTEM－. 陸上競技研究紀要, 10, 37-46, 2014.

山本真帆, 松林武生, 山中 亮, 小林 海, 松尾彰文, 柳谷登志雄, 広川龍太郎, 小山宏之, **榎本靖士**, 岡崎和伸, 門野洋介, 山元康平: 2014 年度競技会における男子 400m 走のレース分析. 陸上競技研究紀要, 10, 75-79, 2014.

門野洋介, **榎本靖士**: 世界一流ジュニア 800m 選手のパフォーマンスとレースパターン～第 15 回世界ジュニア選手権大会の分析～. 陸上競技研究紀要, 10, 80-86, 2014.

**榎本靖士**, 門野洋介, 岡崎和伸, 松林武生, 広川龍太郎: 2014 世界ジュニア陸上競技選手権大会における中長距離種目におけるラストスパート. 陸上競技研究紀要, 10, 87-92, 2014.

門野洋介, **榎本靖士**: 男子 800m 日本記録保持者・川元奨選手のレースパターンの変化. 陸上競技研究紀要, 10, 93-94, 2014.

広川龍太郎, 松尾彰文, 松林武生, 小林 海, 山本真帆, 高橋恭平, 柳谷登志雄, **榎本靖士**, 小山宏之, 門野洋介, 岡崎和伸, 土江寛裕, 伊東浩司, 杉田正明: 男子ナショナルチーム・4×100m リレーのバイオメカニクスサポート研究報告（第 4 報）. 陸上競技研究紀要, 10, 100-103, 2014.

小山宏之, 広川龍太郎, 清水 悠, **榎本靖士**: 助走スピードから見た世界ジュニア男子棒高跳選手と日本ジュニア選手の比較. 陸上競技研究紀要, 10, 109-112, 2014.

山中 亮, 松林武生, 山本真帆, **榎本靖士**, 佐伯徹郎, 山崎一彦, 荻原知紀, 杉田正明. 高校トップレベルの長距離選手におけるフィットネスチェックの内容と結果について－第二報 男子選手を対象に－. 陸上競技研究紀要, 10, 137-139, 2014.

岡崎和伸, **榎本靖士**: カナダにおけるジュニア選手育成の取り組み. 陸上競技研究紀要, 10, 167-170, 2014.

### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

**榎本靖士**: 中距離走. 21 世紀スポーツ大事典. 大修館書店

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「モーションセンサーを用いた長距離選手のデータ取得に関する研究」（カシオ）

「シューズとタイツの効果に関する研究」（ミズノ）



「iGrip ウォーカーの効果検証」(シューマート)

## 教育活動

### 1. 受賞

関東学生陸上競技連盟指導者功労賞

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会, 大阪会場, 共通科目Ⅲ, 「身体の仕組みと働き① 運動器の仕組みと働き」講師, 2015.9.16

日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会, 名古屋会場, 共通科目Ⅲ, 「身体の仕組みと働き① 運動器の仕組みと働き」, 「身体の仕組みと働き② 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給」, 「身体の仕組みと働き② スポーツバイオメカニクスの基礎」講師, 2015.11.23

日本陸上競技連盟公認コーチ養成講習会, 種目別指導法(中長距離走)講師, 2015.12.25

## 競技活動

### 2. 指導業績

日本陸上競技選手権 女子 800m 3位 平野綾子 コーチ

日本陸上競技選手権 女子 400m 8位 松本菜奈子 コーチ

国民体育大会陸上競技 女子 400m 2位 松本菜奈子 コーチ

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本陸上競技連盟科学委員会副委員長

日本陸上競技連盟強化委員会中距離委員

ランニング学会理事

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

つくばツインピークス小学生陸上競技教室: 4月から12月(計20回)

#### 2-b. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ, 大会運営など

つくばマラソン大会役員

### 3. 競技会引率・帯同等

JOC 韓国日本交流事業韓国研修合宿: 大邱・韓国: コーチ

## 公共機関, 企業等からの委託業務(研究以外)

中距離選手の学術指導契約(セレスポ)

中距離選手の学術指導契約(セレスポ)

## 研究業績

### 1. 学会発表

- Sigematsu R, **Okura T**, Nakagaichi M: A novel stepping test as a screening tool for mild cognitive impairment in older adults. The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, USA, 2015. 11.
- Yoon J, Kanamori A, Fujii K, Kim M, Yoon JY, Tsuji T, **Okura T**: Whole-body vibration training improves knee and lower limb function in older adults with knee pain. The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, USA, 2015. 11.
- Fujii K, Sato A, Kunika S, Jindo T, Kitano N, Tsunoda K, **Okura T**: Living alone and the risk of long-term care in Japanese older adults. The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, USA, 2015. 11.
- Kim M, Soma Y, Yoon JY, Yano M, Jindo T, Yoon J, **Okura T**: Novel tools to assess isometric knee extension strength and mobility limitation in elderly women. The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, USA, 2015. 11.
- Sato A, Fujii K, Kusuda M, Seol J, Kitano N, **Okura T**: Effects of a volunteer-managed group activity on physical function in community-dwelling older women. The Gerontological Society of America's 68th Annual Scientific Meeting, USA, 2015. 11.
- 門間貴史, 武田文, 浅沼徹, 角田憲治, 北濃成樹, **大藏倫博**: 地域在住高齢者における運動・スポーツ活動が首尾一貫感覚に及ぼす効果. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11.
- Soma Y, Tsunoda K, Kitano N, Jindo T, **Okura T**: Correlates to participation of preventive care exercises: a focus on distance to exercise facility and social networks. The 10th IAGG Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics, Thailand, 2015. 10.
- Abe T, Tsunoda K, Jindo T, Yano M, **Okura T**: "Trail Making Peg test" a useful and brief performance test for assessing cognitive function. The 10th IAGG Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics, Thailand, 2015. 10.
- Jindo T, Kitano N, Tsunoda K, Tsuji T, Abe T, Hotta K, **Okura T**: Effects of daily life physical activity on physical fitness changes during an exercise program in Japanese older adults. The 10th IAGG Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics, Thailand, 2015. 10.
- Tsunoda K, Soma Y, Jindo T, Tsuji T, Kai Y, Hotta K, **Okura T**: What distances are older adults willing to travel by walking and bicycling?. The 10th IAGG Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics, Thailand, 2015. 10.
- 内山朋香, 深山知子, **大藏倫博**: 高齢者の転倒経験の有無による体力テストおよび体組成の差の検討. 第2回サルコペニア・フレイル研究会, 東京, 2015.10.
- 阿部 巧, 相馬 樹, **大藏倫博**: 高齢者における巧緻性とMCI発症との関連に着目した縦断的検討—かさまスタディー—. 第5回日本認知症予防学会学術集会, 兵庫, 2015.9.
- 相馬優樹, 阿部 巧, **大藏倫博**: 立位姿勢保持課題時の足圧中心動揺パラメータを用いた認知機能の評価に関する検討. 第5回日本認知症予防学会学術集会, 兵庫, 2015.9.
- 深山知子, 酒井良雄, 阿部 巧, 慎 少師, 辻 大士, 池田義雄, **大藏倫博**: 下肢の筋力およびバランスの指標とロコチェック該当数との関連性. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 岡田真平, 井上 茂, 笹本和宏, 半田秀一, 深山知子, 阿部 巧, 慎 少師, **大藏倫博**: 椅子立ち上が

- り時地面反力と下肢機能評価等との関連. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 新村由恵, 中垣内真樹, 重松良祐, **大藏倫博**, 小森康加, 田中喜代次:脳トレを意識したスクエアステップエクササイズ介入が高齢者の認知機能および生活関連体力に及ぼす影響. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 田川 要, 赤澤暢彦, 吉川 徹, 羅 成圭, 棚橋高一朗, 熊谷 仁, 矢野未来, 金 美珍, 尹 智暎, **大藏倫博**, 鈴木貴視, 小松美穂, 神村彩子, 前田清司:低体重高齢者における筋力トレーニングと L-シトルリン含有組成物摂取が動脈ステイフネスに及ぼす影響. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 尹 智暎, 矢野未来, 金 美珍, 鈴木貴視, 小松美穂, 神村彩子, **大藏倫博**:筋力トレーニングと L-シトルリン高含有組成物摂取が低体重女性高齢者の筋量および筋力に与える影響. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 尹 之恩, 金森彰浩, 藤井啓介, 辻 大士, 北濃成樹, 磯田博子, **大藏倫博**:マズリン酸の摂取と全身振動トレーニングの併用が膝痛を有する高齢者の下肢機能および膝の腫脹に及ぼす影響. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 北濃成樹, 藤井悠也, 神藤隆志, 角田憲治, 薛 載勲, 堀田和司, **大藏倫博**:高齢者における運動仲間の存在と入眠の関連性の検討. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 藤井啓介, 北濃成樹, 藤井悠也, 佐藤文音, 堀田和司, **大藏倫博**:独居高齢者と非独居高齢者の身体・認知・心理社会機能の比較. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 藤井悠也, 神藤隆志, 北濃成樹, 藤井啓介, 角田憲治, **大藏倫博**:高齢者の運動実践と抑うつとの関連性—運動実践方法および性差に着目して—. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 矢野未来, 尹 智暎, 藤井啓介, 北濃成樹, **大藏倫博**:やせ型および過体重の高齢者における身体機能に関する検討. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 佐藤文音, 國香想子, 北濃成樹, 藤井啓介, 薛 載勲, **大藏倫博**:中高年者における運動サークルへの所属期間と抑うつ度および情緒的サポートとの関連性. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 薛 載勲, 北濃成樹, 相馬優樹, 神藤隆志, 佐藤文音, 阿部 巧, **大藏倫博**:地域在住高齢者の日常生活における身体活動量の日間変動と身体機能との関連性. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 阿部巧, 深山知子, 酒井良雄, 辻 大士, 慎 少帥, **大藏倫博**:高齢者の椅子立ち上がり動作から評価したバランス能力と身体機能との関連性. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- Tsunoda K, Soma Y, Kitano N, Abe T, Jindo T, Kai Y, Hotta K, **Okura T**: Environmental correlates of cognitive functions in older Japanese adults. The 9th International Congress of the Asian Society Against Dementia (ASAD), Japan, 2015. 9.
- Abe T, Tsunoda K, Kitano N, Yoon JY, Soma Y, Yoon J, Kim M, **Okura T**: Estimation of cognitive function by dexterity performance tests in older adults. The 9th International Congress of the Asian Society Against Dementia (ASAD), Japan, 2015. 9.
- 大藏倫博**:転倒予防と認知機能向上の運動としてのスクエアステップエクササイズ. シンポジウム—要介護防止のための実践的運動療法. 第 34 回日本臨床運動療法学会学術大会シンポジウム, 仙台, 2015.9.
- 大藏倫博**:基調講演—歩く脳トレ運動“スクエアステップ”の効果とその影響因子. 第 1 回スクエアステップ研究フォーラム, つくば, 2015.8.
- 重松良祐, **大藏倫博**, 中垣内真樹, 中田由夫:高齢者に認知機能向上の必要性を気づかせる運動課題.

- 日本体育学会第 66 回大会，東京，2015.8.
- 北濃成樹，角田憲治，堀田和司，藤井啓介，神藤隆志，佐藤文音，**大藏倫博**：高齢者におけるスクリーンタイムは身体活動と独立して不良な睡眠と関連するか．第 18 回日本運動疫学会学術集会，愛知，2015.6.
- 藤井啓介，佐藤文音，神藤隆志，北濃成樹，**大藏倫博**：脳卒中発症後の高齢者における地域活動への参加状況と抑うつとの関連．第 49 回日本作業療法学会，兵庫，2015.6.
- Yoon J, Kanamori A, Fujii K, Seol J, Tanaka K, **Okura, T**: The comparison of knee-function and the Physical-performance evaluation index according to different pain intensity level. The 62th Annual Meeting of American College of Sports Medicine, USA, 2015. 5.
- 阿部巧，相馬優樹，楠田美嬉子，城寶佳也，**大藏倫博**：認知症予防を目的とした介護予防教室プログラムの効果の包括的検討：かさまスタディー認知機能および心理社会機能の視点から－．第 16 回日本認知症ケア学会，北海道，2015.5.
- 國香想子，阿部 巧，北濃成樹，神藤隆志，**大藏倫博**：介護予防運動教室に参加する男性高齢者の意識調査－男性限定の運動教室参加者と一般男性高齢者との比較－．第 16 回日本健康支援学会年次学術集会，福岡，2015.3.
- 相馬優樹，神藤隆志，角田憲治，**大藏倫博**：地域における介護予防運動の認知に及ぼす社会交流状況と活動拠点までの距離の影響－茨城県笠間市における悉皆調査の事例より－．第 16 回日本健康支援学会年次学術集会，福岡，2015.3.
- 尹 之恩，辻 大士，藤井啓介，**大藏倫博**：自宅での筋力トレーニングと専門家による集団指導を組み合わせた運動プログラムが膝痛を有する高齢者の膝及び身体機能に与える効果．第 16 回日本健康支援学会年次学術集会，福岡，2015.3.
- 北濃成樹，角田憲治，金 美珍，相馬優樹，**大藏倫博**：高齢者の身体機能と筋量，認知機能との関連性に関する加齢の影響．日本体育測定評価学会第 14 回大会兼測定評価研究 50 周年記念大会，石川，2015.3.
- 阿部 巧，北濃成樹，**大藏倫博**：ロコモティブシンドロームと関連する身体機能の検討．日本体育測定評価学会第 14 回大会兼測定評価研究 50 周年記念大会，石川，2015.3.
- 大藏倫博**：日本における介護予防の運動介入研究－認知機能－．身体活動の科学の再構築に関するシンポジウム．第 6 回公開講演会，東京，2015.2.

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

- 相馬優樹，角田憲治，北濃成樹，神藤隆志，**大藏倫博**：介護予防運動の認知と関連する要因の検討－活動拠点までの物理的距離と社会交流状況に着目して．日本公衆衛生雑誌，62(11)：651-661，2015.
- Monma T, Takeda F, Tsunoda K, Kitano N, Hotoge S, Asanuma T, **Okura T**: Age and Gender Differences in Relationships between Physical Activity and Sense of Coherence in Community-dwelling Older Adults. Japanese Journal of Health and Human Ecology, 81(5): 159-169, 2015.
- 藤井啓介，神藤隆志，相馬優樹，北濃成樹，角田憲治，**大藏倫博**：地域在住高齢者の菌の状態と身体機能および転倒経験との関連性．厚生学の指標，62：9-14，2015.
- Saghazadeh M, Kitano N, **Okura T**: Gender differences of foot characteristics in older Japanese adults using a 3D fiit scanner. Journal of Foot and Ankle Research, 8: 29, 2015.
- Tsuiji T, Tsunoda K, Mitsuishi Y, **Okura T**: Ground reaction force in sit-to-stand movement reflects lower limb muscle strength and power in community-dwelling older adults. International

Journal of Gerontology, 9: 111-118, 2015.

Tsunoda K, Kitano N, Kai Y, Uchida K, Kuchiki T, **Okura T**, Nagamatsu T: Prospective study of physical activity and sleep in middle-aged and older adults. American Journal of Preventive Medicine, 48(6): 662-773, 2015.

辻 大士, 深山知子, 鈴木玲子, **大藏倫博**: 宮城県石巻市“大橋メンズクラブ”における, 体組成, 下肢筋機能, 歩数評価を活用した活動支援. 保健師ジャーナル, 71: 410-418, 2015.

Tsunoda K, Kai Y, Kitano N, Uchida K, Kuchiki T, **Okura T**, Nagamatsu T: Domains of physical activity and self-reported health. Bulletin of the Physical fitness Research Institute, 113: 9-14, 2015.

**大藏倫博**: 認知機能障害の予防・改善. 特集—健康長寿の実現を目指した身体機能障害の予防・改善. 体育の科学, 65: 198-203, 2015.

**大藏倫博**, 尹 智暎: 高齢者の認知機能を評価する新パフォーマンステスト“トレイルメイキングペグテスト”の提案. 体育測定評価研究. 体育測定評価研究, 14: 59-68, 2015.

阿部 巧, 神藤隆志, 相馬優樹, 角田憲治, 北濃成樹, 尹 智暎, **大藏倫博**: パフォーマンステストを用いた認知機能評価法“Trail Making Peg test”の妥当性と信頼性の検討. 日本老年医学会雑誌, 52: 71-78, 2015.

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

**大藏倫博**: サルコペニアに対する運動療法のあり方. (編) 荒井秀典. サルコペニアとフレイル—医療職間連携による多角的アプローチ—. 医薬ジャーナル, 158-165, 2015.

#### 5. 受賞

「ロコモティブシンドロームと関連する身体機能の検討」. 日本測定評価学会第14回大会 兼 測定評価研究50周年記念大会 優秀発表 受賞, 2015.3.

「高齢者における巧緻性とMCI発症との関連に着目した縦断的検討 - かさまスタディー」. 第5回日本認知症予防学会学術集会 浦上賞 受賞, 2015.9.

#### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「食と健康の達人拠点」(文部科学省 COI STREAM)

「世界初の卓越した健康度評価・改善システムを内蔵する体重計開発」(産学連携推進プロジェクト共同研究・株式会社タニタ)

「身体・認知機能を総合評価するための機器の開発」(株式会社 THF)

「軽度要介護高齢者の身体・認知機能改善プログラム及びその評価法の開発」(株式会社元気広場)

#### 教育活動

##### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

「スクエアステップで頭と体のパワーアップ (茨城県民大学講座・桜川市)」(1月9日)

「日本における介護予防の運動介入研究 (九州大学リサーチコア)」(2月7日)

「高齢者の転倒予防と認知機能賦活を企図したスクエアステップの理論と実技 (平成26年度ブルーシー・アンド・グリーンランド財団レベルアップ研修会)」(2月27日)

「楽しい運動による高齢者の健康づくりと生きがい支援 (平成27年度いなしき大学)」(6月9日)

「体力を学んで健康づくり (平成27年度第1回千葉県健康づくり県民講座)」(6月28日)

「スクエアステップで頭と体のパワーアップ（茨城県民大学講座・下妻市）」（7月9日）  
「歩く脳トレ運動で心と体のリフレッシュ（神奈川県パーキンソン病友の会）」（7月25日）  
「運動と健康長寿を目指したまちづくり（千葉大学・竹中工務店共同研究ステークホルダーコミュニケーション）」（9月7日）  
「健康に自信がない人が元気になるために（東京大学高齢者総合研究機構）」（10月9日）  
「認知機能と活動能力の向上をもたらす楽しい運動の実践（筑波大学重点公開講座）」（10月31日）  
「楽しい運動による高齢者の健康づくりと生きがい支援（平成27年度南相馬市成人大学）」（11月19日）  
「住民同士の健康づくり支援活動で個人と地域社会を元気にする（流山市コミュニティリーダー研修会）」（12月13日）  
「住民同士の介護予防活動で地域を元気に（燕市社会福祉協議会）」（12月17日）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育測定評価学会常任理事（平成24年～）

日本健康支援学会理事（平成25年～）

NPO 法人スクエアステップ協会理事長（平成18年～）

株式会社THF取締役（平成17年～）

筑波大学社会貢献プロジェクト 代表者（平成25年～）

茨城県笠間市地域クラウドモデル推進協議会 委員（平成25年～）

茨城県笠間市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定 委員長（平成26年～）

茨城県笠間市地域密着型介護サービス事業者選定委員会（平成27年～）

## 准教授 小野 誠 司

## 研究業績

### 1. 学会発表

小野誠司，木塚朝博，岡田守彦：滑動性追跡眼球運動におけるヒトのタイミング適応の特性．第24回バイオメカニズムシンポジウム，新潟，2015.7.

木塚朝博，大田穂，飯島裕美，岩見雅人，小野誠司：リフティング技能の評価に用いる不安定面の有用性．第24回バイオメカニズムシンポジウム，新潟，2015.7.

Ono S, Role of visual velocity and position error signals in smooth pursuit adaptation. Japanese Neural Network Society Workshop 2015, Tokyo, Japan, 2015. 8

Kudo D, Hiratsuka Y, Murakami A, Uchida Y, Ono S: Quantitative analysis of horizontal eye movements and concentration of serum and plasma BDNF level before and after vision training. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015. 9

岩間圭祐，小野誠司，木塚朝博：一致タイミング課題の誤差と被験者の立ち位置の関係．第70回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

Ono S: The neuronal basis of on-line visual control in smooth pursuit eye movements. Vision Research, 110: 257-264, 2015

小野誠司：動きを見るための視覚－眼球運動系のメカニズム．バイオメカニクス研究，19：139-143，2015

小野誠司：滑動性追跡眼球運動の特性と機能．体育の科学，651：868-872，2015

## 准教授 麻見直美

### 研究業績

#### 1. 学会発表

張 罌，神家さおり，角谷雄哉，麻見直美：保護者の健康的な食生活リテラシーと児童の食品群別摂取頻度の関連．日本発育発達学会第13回大会，東京，2015.3.

Maehara C, Endou Y, Ogata H, Omi N: Effects of repeated supplementation with alanine and proline and interval training on the post-exercise muscle glycogen accumulation. Asian Congress of Nutrition (ACN)(12<sup>th</sup>), Japan, 2015. 5

Aikawa Y, Agata U, Kakutani Y, Kato S, Noma Y, Hattori S, Ogata H, Omi N: Preventive effects of calcium and/or glucose supplementation on reducing bone fragility in a rat model of the female athlete triad. Asian Congress of Nutrition (ACN)(12<sup>th</sup>), Japan, 2015. 5

Kamiya S, Kakutani Y, Omi N: Parental versus child reporting of the child's food group intake. Asian Congress of Nutrition (ACN)(12<sup>th</sup>), Japan, 2015. 5

Iwayama K, Kurosawa N, Ogata H, Kayaba M, Park I, Yajima K, Kobayashi F, Nakamura K, Sato M, Omi N, Hibi M, Oishi S, Yasunara K, Tokuyama K: Transient deficit in energy and carbohydrate increases 24-h fat oxidation. Asian Congress of Nutrition (ACN)(12<sup>th</sup>), Japan, 2015. 5

Kato S, Maehara C, Ogata H, Omi N: Time-dependent changes in the glycogen levels of skeletal muscle and liver after exercise in a rat model. Asian Congress of Nutrition (ACN)(12<sup>th</sup>), Japan, 2015. 5

Noma Y, Agata U, Aikawa Y, Kato S, Omi N: Analysis of the chemical composition of the cortical tibial bone using ovariectomized rats. Asian Congress of Nutrition (ACN)(12<sup>th</sup>), Japan, 2015. 5

Shiba H, Kakutani Y, Omi N: Measurement of body composition on university American football players. Asian Congress of Nutrition (ACN)(12<sup>th</sup>), Japan, 2015. 5

Kakutani Y, Kamiya S, Omi N: Association of the frequency of meals combined “Shushoku”, “Shusai”, and “Hukusai” with dietary intake among Japanese young adults. Asian Congress of Nutrition (ACN)(12<sup>th</sup>), Japan, 2015. 5

服部聡士，野口彩花，笹川克己，石川修平，緒形ひとみ，麻見直美：イソマルチュロース含有ドリンク摂取が漸増負荷運動時の脂質代謝動態に及ぼす影響．第23回日本運動生理学会大会，東京，2015.7.

武田哲子，伊藤 慧，麻見直美：高校サッカー選手における食生活に関する問題点の自覚：テキストマイニングを用いた自由記述回答の分析．日本スポーツ栄養学会第2回大会，滋賀，2015.7.

津吉哲士，麻見直美：運動部活動における栄養教育の実態：指導者と専門家の連携に着目して．日本スポーツ栄養学会第2回大会，滋賀，2015.7.

武田哲子，伊藤 慧，神家さおり，角谷雄哉，麻見直美：高校男子サッカー選手が自覚している食生活に関する問題点の報告～自由記述回答を対象とした質的研究～．第62回日本栄養改善学会学術総会，福岡，2015.9.

- 大森恵美, 水野尚子, **麻見直美**, 廣田直子: 高校サッカー選手の食生活と食事準備者(母親)の働き方との関連. 第62回日本栄養改善学会学術総会, 福岡, 2015.9.
- 相川悠貴, 柴 秀樹, 野間優一, 小岩 茜, **麻見直美**: 陸上競技における種目分類別の記録と体組成の関係ーDXA法を用いた検討ー. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 服部聡士, 野口彩花, 笹川克己, 石川修平, 緒形ひとみ, **麻見直美**: 運動前のイソマルチュロース含有ドリンク摂取が血糖および脂質代謝に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.
- 津吉哲士, **麻見直美**: 高等学校運動部活動現場における栄養教育の実態: 指導者と専門家の連携に着目して. 日本学校保健学会第62回学術大会, 岡山, 2015.11.
- 服部聡士, 野口彩花, 笹川克己, 石川修平, 緒形ひとみ, **麻見直美**: 一過性のイソマルチュロース含有ドリンク摂取が漸増負荷運動中の脂質代謝に及ぼす影響. 女性スポーツ医学研究会第29回学術集会, 東京, 2015.12.

## 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- Imura Y, Agata U, Takeda S, Kobayashi Y, Yoshida S, Ezawa I, **Omi N**: The protective effect of lycopene intake on bone loss in ovariectomized rats. *J Bone Miner Metab* Jul 5, 33: 270-278, 2015.
- Kakutani Y, Kamiya S, **Omi N**: Association between the Frequency of Meals Combining “Shushoku, Shusai, and Hukusai” (Staple Food, Main Dish, and Side Dish) and Intake of Nutrients and Food Groups among Japanese Young Adults Aged 18-24 Years: a Cross-Sectional Study. *J Nutr Sci Vitaminol*, 61: 55-63, 2015.
- 神家さおり, 角谷雄哉, **麻見直美**: 自身の食生活に関する情報の獲得に対する主観的評価と食品群別摂取状況との関連ー神栖市の小中学生を対象とした横断調査ー. *日本食生活学会誌*, 25: 214-1249, 2015.
- 麻見直美**: 體という字にであって(第69回日本体力医学会大会シポジウム11: 日本体力医学会新評議委員の研究・キャリア). *体力科学*, 64: 65, 2015.
- 神家さおり, 角谷雄哉, 住友かほる, **麻見直美**: 小学校高学年における「バランスのとれた食事」に関する意思決定バランス尺度の開発. *日本健康教育学会*, 23: 123-133, 2015.
- Kakutani Y, Kamiya S, **Omi N**: Association between Regular Exercise and Dietary Intake among Japanese Young Adults Aged 18-24 Years: A Cross-Sectional Study. *J Nutr Sci Vitaminol*, 61: 255-262, 2015.
- Aikawa Y, Agata U, Kakutani Y, Higano M, Hattori S, Ogata H, Ezawa I, **Omi N**: The Interaction of Voluntary Running Exercise and Food Restriction Induces Low Bone Strength and Low Bone Mineral Density in Young Female Rats. *CALCIFIED TISSUE INTERNATIONAL*, 97: 90-99, 2015.
- 麻見直美**: 運動活動が味覚を変える!?. *コーチング・クリニック* (ベースボールマガジン社), 29: 20-23, 2015.
- Aikawa Y, Agata U, Kakutani Y, Kato S, Noma Y, Hattori S, Ogata H, Ezawa I, **Omi N**: The Preventive Effect of Calcium Supplementation on Weak Bones Caused by the Interaction of Exercise and Food Restriction in Young Female Rats During the Period from Acquiring Bone Mass to Maintaining Bone Mass. *Calcified Tissue International*, 28: online, 2015.
- Agata U, Park JH, Hattori S, Aikawa Y, Kakutani Y, Ezawa I, Akimoto T, **Omi N**: The Impact



of Different Amounts of Calcium Intake on Bone Mass and Arterial Calcification in Ovariectomized Rats. J Nutr Sci Vitaminol, 61: 391-399, 2015.

### 3. その他論文（報告書等）

システム情報系鈴木勉，システム情報系糸井川栄一，体育系麻見直美：筑波大学による震災復興支援活動（神栖市との連携による調査研究事業について．筑波大学東日本大震災復興支援活動記録集 2011-2015，56-57，2015

麻見直美：いばらきばらんすあつぷ大作戦！【活動地域：茨城県神栖市】．筑波大学社会貢献プロジェクト 2014-15，40-41，2015

### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

菅原園，辻ひろみ，内山麻子，小野友紀，麻見直美，新藤由喜子：発育期の子どもの食生活と栄養（第3版）2 栄養に関する基本的知識．株式会社学建書院，8-31，2015

麻見直美，塚原典子：好きになる栄養学（第2版）Part1 日常の食卓 第1章毎日，何を食べていますか？，第2章私たちの食生活／Part2 食品のおもな成分とそのはたらき 第3章三大栄養素，第4章無機質（ミネラル），第5章ビタミン，第6章その他の食品中成分の話食物繊維・水・機能性成分，第7章栄養素の相互関係／Part3 ヒトの一生と食生活 第8章母になることと食生活，第9章乳幼児の生理と食生活～成長期①，第10章乳幼児の生理と食生活～成長期②，第14章スポーツと栄養／Part4 健康づくりのための国の指針／Q&A．講談社，2-18，19-36，38-64，65-76，77-87，88-98，99-103，106-117，118-132，133-138，183-190，212-221，222-224，2015

麻見直美，飯塚美和子ら編集：基礎栄養学（改訂9版）6章エネルギー代謝／8章日本人の食事摂取基準と食品の選択／付表栄養学のあゆみ．南山堂，141-155,161-176,178-184，2015

麻見直美，高松薫ら編集：Nブックス 改訂運動生理・栄養学（第2版）日本人の食事摂取基準（2015年版）準拠 第2章運動・トレーニングと身体の応答 3. 運動・トレーニングによる生体内代謝の変化 3.5 ビタミン 3.6 無機質／第3章トレーニングと食生活 2 食生活の基本的な考え方．建帛社，82-86,86-92,102-110,153-158，2015

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

研究助成：「大規模災害発生時における隊員の活動食と補給食の実用化に向けた検証」（総務省，消防防災科学技術研究推進制度）

共同研究：「災害救援時活動食の開発に関する研究」（東京消防庁）（～28.3.31）

共同研究：「発育期における効果的な栄養サポートプログラムに関する研究」（～29.3.31）

共同研究：「サケに含まれる栄養成分の摂取が筋肉疲労に及ぼす効果に関する研究」（～27.3.31）

共同研究：「イソマルチュロースの運動パフォーマンスに対する評価研究」（～28.3.31）

共同研究：「運動部に所属する学生のコンディショニング・栄養摂取状況の実態調査」（～27.2.28）

共同研究：「プロテイン摂取がアスリートのからだづくりに及ぼす効果」（～28.3.31）

共同研究：「アラニン・プロリン転化糖質食摂取が肝臓及び筋グリコーゲン蓄積に及ぼす効果」に関する研究」（～27.6.30）

共同研究：「メープルシロップのスポーツ現場での有用性の検討」（～28.3.31）

学術指導：水分補給，スポーツ栄養およびスポーツ科学に関わる学術指導．

学術指導：スポーツ栄養に関する学術指導

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

講演：日本女子大学附属中学校キャリア教室「スポーツ・運動と栄養の仕事」（2015年2月7日）

講演：都立高島高等学校〈健康講話〉「スポーツと栄養・食生活との関係」（2015年3月20日）

講演：カナダ産メープルの機能性と栄養価　メープルシロップがランニングに果たす役割「スポーツにメープルの栄養価や特性をどう生かせるか」ケベック・メープル製品生産者協会主催（2015年3月26日）

講演：情報メディア創成学類　フレッシュマンセミナー「しっかりごはん計画」筑波大学情報メディア創成学類主催（2015年5月13日）

講演：平成27年度チームいばらきサポート事業（卓球競技）「スポーツ選手の食育」第74回国民体育大会茨城県競技力向上対策本部主催（2015年7月5日）

講演：つくば市立桜中学校家庭教育学級講座「部活メシ　成長メシ　いつ　何を　どう食べるか　どう飲むか」（2015年7月8日）

講演：つくば市立手代木中学校家庭教育学級講座「部活メシ」中学生の親が知っておきたい栄養の話」（2015年7月10日）

講演：アスレティックトレーナー養成講習会「スポーツ栄養学」学校法人杏文学園東京柔道整復専門学校主催（2015年7月12日）

講演：つくば市大穂中学校家庭教育学級講座「成長期における食育・栄養学講座」（2015年9月5日）

講演：平成27年度ジュニア選手育成強化プログラム「スポーツ選手の食事と栄養・演習」第74回国民体育大会茨城県競技力向上対策本部主催（2015年9月5日）

講演：メープルランナーズプロジェクト「食事簡易調査, 酸化ストレス測定の結果報告」ケベック・メープル製品生産者協会主催（2015年9月26日）

講演：平成27年度チームいばらきサポート事業（ホッケー競技）「アスリートの栄養摂取に関する講習会（茨城国体に向けた強化事業）」第74回国民体育大会茨城県競技力向上対策本部主催（2015年10月3日）

講演：平成27年度健康づくり指導者研修会〈健康運動研修会〉「運動・スポーツと栄養・食生活」茨城県立健康プラザ健康づくり情報部主催（2015年10月20日）

講演：メープルランナーズプロジェクト「よりよく走るための食事指導, 栄養学的な立場から」ケベック・メープル製品生産者協会主催（2015年11月1日）

講演：平成27年度チームいばらきサポート事業（水球競技）「アスリートの栄養摂取に関する講習会（茨城国体に向けた強化事業）」第74回国民体育大会茨城県競技力向上対策本部主催（2015年11月29日）

講演：(旧) 杉並区立永福南小学校講座（杉並区 NPO 支援基金助成事業）「しっかりとした骨のあるスポーツ好きな子ども達や選手を育てる」（2015年12月12日）

取材協力：「メープルシロップに詰まった栄養素が勝負レースの強い味方になる！」（ランナーズ, 2015年2月）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本栄養改善学会　評議員（2010年～）

日本体力医学会　男女共同参画推進委員会委員（2012年～）

日本体力医学会　評議委員（2013年～）

チームいばらきサポート事業コアメンバー（茨城県競技力向上対策本部）  
茨城体育学会 理事（2015年～）  
一般財団法人 YS市庭コミュニティ財団 理事（2013年～）  
一般財団法人 飯田財団 理事（2015年～）

## 准教授 小池 関也

### 研究業績

#### 1. 学会発表

Ae K, **Koike S**: Kinetic analysis of the upper limbs in baseball tee-batting under low hitting point height condition. The 33rd Conference of International Society of Biomechanics in Sport, Poitiers, France, 2014.6.

**Koike S**, Nagai Y: Dynamic contribution analysis on the propulsion mechanism of sprinter during initial acceleration phase. The 33rd Conference of International Society of Biomechanics in Sport, Poitiers, France, 2014.6.

**Koike S**, Sudo S: Dynamic contribution of joint torques to the generation of swing leg motion in sprint. The 33rd Conference of International Society of Biomechanics in Sport, Poitiers, France, 2014.6.

Ae K, **Koike S**: Kinetic analysis of rotational movement of lower trunk in baseball tee-batting. Glasgow, UK, 2015. 7.

見邨康平, **小池関也**: 野球打撃動作におけるバットヘッドスピード獲得メカニズムの動力的定量化. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.

須藤眞吾, **小池関也**: スプリント走最大速度局面の遊脚スウィング動作における関節機能—遊脚関節トルクの動力的貢献における被験者の違い—. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.

**小池関也**, 見邨康平, 阿江数通: 野球打撃動作におけるバットヘッドコントロール獲得メカニズムの動力的定量化. 日本機械学会2015年度年次大会, 札幌, 2015.9.

**小池関也**, 須藤眞吾: スプリント走最大速度局面における遊脚関節機能の定量化. 日本機械学会2015年度年次大会, 札幌, 2015.9.

**小池関也**, 須藤眞吾: 慣性センサ情報に基づくランニング動作における遊脚の動力的分析. 日本機械学会シンポジウム: スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス2015講演会, 草津, 2015.10.

**小池関也**, 酒井 紳, 永井悠樹, 高木英樹: 競泳スタート台上動作における身体推進メカニズム. 日本機械学会シンポジウム: スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス2015講演会, 草津, 2015.10.

**小池関也**, 見邨康平: 関節トルクの発揮様式を考慮した野球打撃動作の動力的分析. 日本機械学会シンポジウム: スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス2015講演会, 草津, 2015.10.

**Koike S**: Quantification of the motion generating mechanism for improving sports performance. JSPS-JSC Collaborative Symposium: Cultivating UK-Japan research, London, UK, 2015.12. (招待講演)

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

阿江数通, **小池関也**, 川村 卓: 打点高の異なる野球ティー打撃動作における体幹のキネティック的分析. 体育学研究, 60, 635-649, 2015.

### 3. その他論文（報告書等）

小池関也，見邨康平，阿江数通：野球打撃動作におけるバットヘッドコントロール獲得メカニズムの動力的定量化．日本機械学会 2015 年度年次大会講演論文集 USB，2015.

小池関也，須藤眞吾：スプリント走最大速度局面における遊脚関節機能の定量化．日本機械学会 2015 年度年次大会講演論文集 USB，2015.

小池関也，須藤眞吾：慣性センサ情報に基づくランニング動作における遊脚の動力的分析．日本機械学会シンポジウム：スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2015 講演会講演論文集 USB，2015.

小池関也，酒井 紳，永井悠樹，高木英樹：競泳スタート台上動作における身体推進メカニズム．日本機械学会シンポジウム：スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2015 講演会講演論文集 USB，2015.

小池関也，見邨康平：関節トルクの発揮様式を考慮した野球打撃動作の動力的分析．日本機械学会シンポジウム：スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2015 講演会講演論文集 USB，2015.

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「ボールの触感に関する研究」（株式会社モルテン）

「バイオメカニクスに関する研究」（株式会社ブリヂストン）

## 准教授 柴田 愛

### 研究業績

#### 1. 学会発表

石井香織，柴田 愛，栗田智史，矢野翔平，岡浩一朗：生活場面別座位行動尺度の信頼性および妥当性の検討．第 18 回日本運動疫学会学術総会，名古屋，2015.6.

栗田智史，矢野翔平，石井香織，柴田 愛，笹井浩行，中田由夫，福島教照，井上茂，田中茂穂，岡浩一朗：座位行動評価における Active style Pro HJA-350IT，ActiGragh™ GT3X+，activPAL3c の比較．第 18 回日本運動疫学会学術総会，名古屋，2015.6.

宮脇梨奈，柴田 愛，石井香織，岡浩一朗：がん情報源としてインターネットを利用する者の特徴．第 24 回日本健康教育学会学術大会，前橋，2015.7.

矢野翔平，栗田智史，石井香織，柴田 愛，岡浩一朗：身体活動・座位行動評価における Active style Pro HJA-350IT と ActiGragh™ GT3X+ の比較．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

Miyawaki R, Shibata A, Ishii K, Oka K: Meeting recommendations for cancer prevention among Japanese women: Prevalence and sociodemographic correlates. Population Health Congress 2015, Hobart, Australia, 2015. 10.

宮脇梨奈，柴田 愛，石井香織，岡浩一朗：がん予防情報に関する新聞記事の内容分析．第 74 回日本公衆衛生学会，長崎，2015.11.

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

Shibata A, Oka K, Sugiyama T, Salmon J, Dunstan DW, Owen N. Physical Activity, Television Viewing Time and 12-Year Changes in Waist Circumference. Medicine and Science in Sports and

Exercise, 2015 (in press).

**Shibata A**, Oka K, Sugiyama T, Ding D, Salmon J, Dunstan DW, et al. Perceived neighbourhood environmental attributes and prospective changes in TV viewing time among older Australian adults. *International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity*, 12:50, 2015.

Ishii K, **Shibata A**, Adachi M, Nonoue K, Oka K: Gender and grade differences in objectively measured physical activity and sedentary behavior patterns among Japanese children and adolescents: a cross-sectional study. *BMC Public Health*, 15(1):1254, 2015

Liao Y, **Shibata A**, Ishii K, Oka K: Independent and Combined Associations of Physical Activity and Sedentary Behavior with Depressive Symptoms Among Japanese Adults. *International Journal of Behavioral Medicine*, 2015 (in press). .

Miyawaki R, **Shibata A**, Ishii K, Oka K: Obtaining information about cancer: prevalence and preferences among Japanese adults. *BMC Public Health*, 15:145, 2015.

Sugiyama T, **Shibata A**, Koohsari MJ, Tanamas SK, Oka K, Salmon J, Dunstan DW, Owen N: Neighborhood environmental attributes and adults' maintenance of regular walking. *Medicine and Science in Sports and Exercise*, 47(6):1204-10, 2015.

Aoyagi K, Ishii K, **Shibata A**, Arai H, Oka K: Expected qualifications for external coaches in school-based extracurricular sports activities. *Journal of Educational and Social Research*, 5(3): 53-60, 2015.

青柳健隆, 石井香織, **柴田 愛**, 荒井弘和, 深町花子, 岡浩一郎: 運動部活動での外部指導者活用推進に向けた組織の取り組み事例. *体育学研究*, 60(1): 267-282, 2015.

青柳健隆, 石井香織, **柴田 愛**, 荒井弘和, 岡浩一郎: 運動部活動での外部指導者活用に向けた組織的実践の長所と問題点: 異なる実践モデルに対する教員の評価. *体育学研究*, 60(2): 783-792. 2015.

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

Miyawaki R, **Shibata A**, Ishii K, Oka K: Does newspaper coverage promote cancer prevention? *Physical Activity, Exercise, Sedentary Behaviour and Health*. Springer Japan. Chapter 4, 43-50, 2015.

#### 社会貢献活動

##### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体力医学会評議員 (2013年~)

日本行動医学会評議員 (2010年~)

日本運動疫学会編集委員 (2015年~)

准教授 竹村雅裕

#### 研究業績

##### 1. 学会発表

Mizohata J, Kimura H, **Takemura M**, Hayasaka K, Nada H, Hirose K, Takahashi H: The postural sway of center of gravity agitation in Japanese high school Rugby Union players. 8th World Con-

gress on Science and Football, Copenhagen, 2015.5.

Ogaki R, **Takemura M**, Nagai S, Imoo Y, Takaki S, Miyakawa S: Risk assessment of shoulder injuries using preseason muscle strength test in collegiate rugby union players. 8th World Congress on Science and Football, Copenhagen, 2015.5.

Ogaki R, Kuwahara K, Oda K, Murakami K, Yamaguchi T, Takahashi Y, Shirahata K, Suzuki S, **Takemura M**, Miyakawa S: Prevalence of risk factors for shoulder injuries in collegiate handball players during preseason screening. 20th Annual Congress of the European College of Sports Science, Malmo, 2015.6.

Suzuki K, **Takemura M**, Nagai S, Furukawa T, Miyakawa S: Mechanisms of head injury in college rugby player -tackle situation analysis- 6th Northeast Asia Conference of Kinesiology, Chiba, 2015.7.

Kim D, Noh B, Ha D, **Takemura M**: Validity and reliability of isometric hip abductor and external rotator strength measured using a pull-type hand held dynamometer. 6th Northeast Asia Conference of Kinesiology, Chiba, 2015.7.

下野俊彦, 春名 純, 三宅明子, 中西康巳, 板倉尚子, 宮川俊平, **竹村雅裕**: 定量的なインソール作成のシステムづくりーバレーボール選手の一例ー. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

吉田一也, 佃 文子, **竹村雅裕**: 野球競技者と未経験者の前鋸筋機能の比較. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

坂本絵梨, 遠江朋子, **竹村雅裕**: 股関節外転筋の筋機能が骨盤傾斜角度に与える影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

三好 匠, 古川啓介, 淵岡 聡, **竹村雅裕**: 等尺性トレーニングがRTDに与える影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

金 多允, **竹村雅裕**, 福田 崇, 宮川俊平: 競技特性と股関節外転・外旋筋力の関連性について. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

関戸健一, 宮川俊平, **竹村雅裕**: 本邦における大学生女子ラクロス選手の傷害発生の傾向について. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

澁谷泉美, 永井 智, **竹村雅裕**: 大学女子バスケットボール選手における疼痛発生状況について. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

鈴木大介, 田口直樹, 崔 英珠, 宮川俊平, **竹村雅裕**: 腰椎分離症既往のある大学野球選手の身体特性. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

鈴木啓太, **竹村雅裕**, 永井 智, 宮川俊平: ラグビー選手におけるバーナー症候群の受傷機転～タックルシーンの分析～. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 兵庫, 2015.11.

澁谷泉美, 永井 智, **竹村雅裕**: 大学女子バスケットボール選手における疼痛発生状況について. 第2回日本バスケットボール学会大会, 東京, 2015.12.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Kobayashi K, Kanekoka K, Sengoku Y, Takagi H, **Takemura M**: Lumber Alignment and Trunk Muscle Activity during the Underwater Streamline Position. Journal of Swimming Research 23, 33-43, 2015.

花岡裕吉, 清水和弘, 鷺谷浩輔, 田村 明, **竹村雅裕**, 古川拓生, 宮本俊和, 渡部厚一, 赤間高雄: MG2809 乳酸菌の摂取が大学ラグビー選手の口腔内免疫能に及ぼす影響. 体力科学 64, 315-322, 2015.

長谷川悦示, 中川 昭, 古川拓生, **竹村雅裕**, 嵯峨 寿: 小学校体育授業のためのラグビー教材の開発. 筑波大学体育系紀要 38, 123-128, 2015.

砂川憲彦, 広瀬統一, 倉持梨恵子, **竹村雅裕**, 土屋篤生, 福林 徹: ラグビー選手における Indirect 型 ACL 損傷の分析～受傷機転の分類～. 日本臨床スポーツ医学会誌 23, 427-432. 2015.

大垣 亮, **竹村雅裕**, 永井 智, 芋生祥之, 高木 祥, 宮川俊平: 大学ラグビー選手の肩関節傷害に関する疫学調査. 日本臨床スポーツ医学会誌 23, 543-551, 2015.

大垣 亮, **竹村雅裕**, 岩井浩一, 宮川俊平: 大学ラグビー選手における肩関節外傷のリスクファクター. 体育学研究 60, 807-814, 2015.

### 3. その他論文 (報告書等)

山田睦雄, **竹村雅裕**, 鈴木健太郎, 古谷正博: ジュニア期におけるスポーツ外傷・障害への取組み - 第 2 報 - (2. 各競技におけるスポーツ外傷・障害予防プログラムの検証, 2-4. ラグビー). 平成 26 年度 日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 I, 49-63, 2015.

### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

**竹村雅裕**: 膝関節靭帯損傷に対する対症的保存療法. ラグビー, アメリカンフットボールなどのコンタクト・コリジョン系競技種目. 臨床スポーツ医学, 文光堂, 884-888, 2015.

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)  
「ジャパンラグビートップリーグ外傷・障害調査及び分析」(日本ラグビーフットボール協会)

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学 Tsukuba Sports Association 「TSA トレーナーチーム」(年間)

## 競技活動

第 52 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会出場 筑波大学ラグビーフットボール部 (副部長)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本理学療法士協会 (1993 年～)

日本体育学会 (2004 年～)

日本体力医学会 (2004 年～)

日本臨床スポーツ医学会 (2005 年～)

日本フットボール学会 (2008 年～)

日本アスレティックトレーニング学会 評議員 (2012 年～)

日本整形外科スポーツ医学会 (2014 年～)

日本ラグビーフットボール協会メディカル委員会トレーナー部門委員 (2004 年～)

日本体育協会公認アスレティックトレーナー連絡会議茨城県代表委員 (2009 年～)

日本ラグビーフットボール協会トップリーグ事業部メディカルコントロール部会委員 (2012 年～)

茨城県体育協会スポーツ医・科学委員会 (2013 年～)

茨城県アスレティックトレーナー協議会代表 (2015 年～)

准教授 橋本 佐由理

研究業績

1. 学会発表

- 蓮井貴子, 橋本佐由理: ポスター発表 成人女性の月経随伴症状と自己イメージスクリプトと関連. 第22回日本未病システム学会学術総会, 北海道, 2015.10.
- 福田佳奈子, 蓮井貴子, 樋口倫子, 橋本佐由理: ポスター発表 女性糖尿病患者の生活習慣に関する心理特性. 第22回日本未病システム学会学術総会, 北海道, 2015.10.
- 橋本佐由理, 樋口倫子, 蓮井貴子, 福田佳奈子: ポスター発表 糖尿病患者の心理特性と食習慣や運動習慣との関連. 第22回日本未病システム学会学術総会, 北海道, 2015.10.
- 樋口倫子, 杉浦雄策, 橋本佐由理: ポスター発表 レジリエンス促進支援の電子自己学習システムの開発とその有効性. 第22回日本未病システム学会学術総会, 北海道, 2015.10.
- 杉浦雄策, 樋口倫子, 星野伸明, 橋本佐由理: ポスター発表 大学生による SNS を活用した健康・体力づくりプログラム内容の検討. 第22回日本未病システム学会学術総会, 北海道, 2015.10.
- 福田佳奈子, 蓮井貴子, 橋本佐由理: 口頭発表 更年期女性の QOL およびヘルスケアをとりまく課題に関する文献的検討. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 仁部ゆかり, 樋口倫子, 橋本佐由理: 口頭発表 気質コーチング法冊子配布によるストレスマネジメント介入効果—首都圏女子大学生を対象として—. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 宮入京子, 橋本佐由理: ポスター発表 保険薬局の現状に関する文献検討—心身における健康相談に関して—. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 磯田恭子, 橋本佐由理: ポスター発表 米国の聴覚障害学生支援における合理的配慮提供に関する課題の検討—2012年度調査研究報告による分析を中心に—. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 相木彩子, 橋本佐由理: ポスター発表 代理顔表象を用いた自己イメージ変容によるストレスマネジメント介入研究. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 向笠京子, 橋本佐由理: ポスター発表 若年女性の食行動と心理社会的要因及び気質に関する研究. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 蓮井貴子, 橋本佐由理: ポスター発表 大学生及び成人期女性の月経随伴症状と感情認知困難度の関連. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 眞崎由香, 橋本佐由理: ポスター発表 乳幼児の母親のウェルビーイングに関する調査研究—自己イメージや支援認知, ストレス気質, 被養育体験との関連—. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 橋本佐由理, 樋口倫子, 向笠京子: ポスター発表 糖尿病患者の心理特性と生活習慣との関連. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 竹下美貴代, 橋本佐由理: ポスター発表 生活習慣病予防における夫婦を対象とした支援を考える. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.
- 林哲也, 橋本佐由理: ポスター発表 学生の災害ボランティア経験に関する事例検討—不登校を経た高校中退経験者を対象として—. 第22回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2015.09.



- 松田基子, 山口 香, 小林好信, 岡田弘隆, **橋本佐由理**: 口頭発表 大学女子柔道選手の競技成績の変化と自己イメージや心理的要因との関連. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.08.
- 山口 香, 松田基子, 小林好信, 岡田弘隆, **橋本佐由理**: 口頭発表 大学男子柔道選手の競技成績の変化と自己イメージや心理的要因との関連. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.08.
- 橋本佐由理**: 口頭発表 乳幼児をもつ母親のウェルビーイングと自己イメージや支援認知, 被養育体験との関連. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.08.
- 林 哲也, **橋本佐由理**: 口頭発表 高校中退経験者に対するライフストーリーインタビューからの一考察. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.08.
- 村上 真, **橋本佐由理**, 水上勝義: 口頭発表 就労者に対するヨガ療法介入の介入前時点ストレス反応水準別効果検討. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.08.
- 小林好信, 山口 香, 松田基子, 岡田弘隆, **橋本佐由理**: 口頭発表 大学柔道選手のスポーツ傷害と自己イメージやレジリエンス, 心理的競技能力の変化との関連について. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.08.
- 仁部ゆかり, **橋本佐由理**: 口頭発表 関東圏の大学に通う女子学生の精神健康に影響する心理社会的要因の検討. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.08.
- 磯田恭子, **橋本佐由理**: ポスター発表 聴覚障害学生支援をとりまく課題に関する文献的検討. 第 30 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 京都, 2015.06.
- 樋口倫子, 杉浦雄策, 星野伸明, **橋本佐由理**: ポスター発表 大学生のレジリエンス促進のための電子自己学習システムの有効性. 第 30 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 京都, 2015.06.
- 相木彩子, **橋本佐由理**: ポスター発表 顔表象による視覚刺激を用いたストレスマネジメントの予備的介入. 第 30 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 京都, 2015.06.
- 蓮井貴子, **橋本佐由理**: ポスター発表 成人女性の月経随伴症状と慢性ストレス源認知及び悪循環的対処行動の関連. 第 30 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 京都, 2015.06.
- 眞崎由香, **橋本佐由理**: ポスター発表 乳幼児をもつ母親のウェルビーイングに関する検討—母親の自己イメージや支援認知, 被養育体験との関連—. 第 30 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 京都, 2015.06.
- 伊藤千春, **橋本佐由理**: ポスター発表 内心と行動の観点からみる労働者のレジリエンスについて. 第 30 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 京都, 2015.06.
- 林哲也, **橋本佐由理**: 口頭発表 災害ボランティアを経験した, 不登校, 高校中退経験者のライフストーリー研究. 第 30 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 京都, 2015.06.
- 橋本佐由理**, 樋口倫子, 向笠京子: 口頭発表 糖尿病患者の心理特性と食や運動を中心とした生活習慣との関連. 第 30 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 京都, 2015.06.
- 小林好信, **橋本佐由理**: 口頭発表 大学柔道選手の自己イメージとレジリエンスの変化が心理的競技能力やスポーツ競技特性不安に与える影響に関する研究. 第 30 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 京都, 2015.06.
- 橋本佐由理**, 樋口倫子, 向笠京子, 浜本幸江, 豊田正美, 舟岡実華, 鈴木美和子, 金城瑞樹, 篠田和明, 中島 茂, 秋山よしこ, 長谷川ときこ, 渡辺えり, 石川 雅: 口頭発表 糖尿病患者の心理特性と生活習慣の関連. 第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口, 2015.5.
- 浜本幸江, 豊田正美, 舟岡実華, 武藤郁子, 鈴木美和子, 中島 茂, 樋口倫子, **橋本佐由理**: ポスター発表 糖尿病患者の心理特性と運動行動および食行動との関連. 第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口, 2015.5.
- 樋口倫子, **橋本佐由理**, 浜本幸江, 鈴木美和子, 豊田正美, 舟岡実華, 武藤郁子, 篠田和明, 中島 茂,

竹馬康裕：口頭発表 糖尿病患者に対する単回型ライフキャリア変容集団健康教育の試み. 第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会, 山口, 2015.5.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

山口 香, 橋本佐由理, 小林好信：柔道選手の自己イメージやレジリエンスが心理的競技能力に与える影響. 日本バイオメカニクス学会機関誌 バイオメカニクス研究, Vol.19 No.2 : 65-68, 2015

## 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

前橋明編著, 橋本佐由理執筆, 他：幼児体育用語辞典. 大学教育出版, 2015

## 5. 受賞

第 22 回日本未病システム学会学術総会 優秀演題賞

日本体育学会第 66 回大会 発表賞

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

橋本佐由理：2016 年度えんじょいらいふぷろぐらむ 組合員同士をつなぎ, 職場の人間関係を良好にして, 愉しく前向きに過ごせるように～みんなでつくろう! パワーハラスメントやいじめのない職場を目指して～. ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふ通信, vol.30, 2015

橋本佐由理：2015 年度えんじょいらいふぷろぐらむ ～「あるがままの自分を大切にしたワーク・ライフ・バランス」を目指して～. ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふ通信, vol.29, 2015

橋本佐由理：2015 年度えんじょいらいふぷろぐらむ ～「あるがままの自分を大切にしたワーク・ライフ・バランス」を目指して～. ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふ通信, vol.28, 2015

橋本佐由理：2015 年度えんじょいらいふぷろぐらむ ～「あるがままの自分を大切にしたワーク・ライフ・バランス」を目指して～. ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふ通信, vol.27, 2015

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

津山市保育所職員研修会「相手の気持ちに寄り添うコミュニケーション方法」(津山市 1月13日)

高齢者体力づくり支援士資格検定講習会「高齢者の心理と運動」(横浜市 2月1日, 7月19日)

第7回茨城県作業療法学会 特別講演「心をつなげるコミュニケーション技法」(稲敷郡 3月1日)

平成 26 年度介護支援専門員支援事業 面接技術向上講座「自分の性格のタイプや相手の性格のタイプを知って 面接技術に活かそう」(水戸市 3月5日)

ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふセミナー「管理職のためのストレスマネジメント研修」(豊橋市 4月11日, 福岡市 6月6日, 千代田区 6月27日)

松徳学院中学校高等学校教育講演会「子どもの生まれもった良さを活かす関わり方～遺伝的気質を理解する～」(松江市, 7月4日)

大学図書館職員長期研修「対人ストレスマネジメントとしてのヒューマン・リレーションスキル」(つくば市, 7月17日)

春日乳幼児家庭教育学級「ファミリー円満のコツ」(つくば市, 9月4日)

茨城県市町村保健師連絡協議会日立ブロック専門研究会「自分と相手の性格のタイプを知って面接技法に活かそう」(那珂市, 9月10日)

竹園西幼稚園家庭教育学級「生きるエネルギーを支える魔法のスキル」(つくば市, 9月14日)

柳橋小学校家庭教育学級「ココロが軽くなる親子円満のコツ」(つくば市, 9月16日)  
岩崎幼稚園家庭教育学級「親子関係に関する講演」(つくば市, 9月18日)  
松代乳幼児家庭教育学級「ココロが軽くなるファミリー円満のコツ」(つくば市, 9月29日)  
健康づくり指導者研修会「運動指導のためのコミュニケーション」(水戸市, 9月30日)  
松代乳幼児家庭教育学級「ココロが軽くなるファミリー円満のコツ」(つくば市, 10月6日)  
勝浦市役所保健師研修会「アサーティブトレーニング」(勝浦市, 11月6日)  
栗原小学校家庭教育学級「人間関係 夫婦円満 親子円満のコツ」(つくば市, 12月10日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本保健医療行動科学会 理事 (平成12年～)  
ヘルスカウンセリング学会 副理事長 (平成18年～)  
未病システム学会評議員 (平成18年～)  
日本幼少児健康教育学会 理事 (平成19年～)  
横浜市中高一貫教育校教育顧問 教育支援アドバイザー (平成23年～)

## 准教授 向井直樹

## 研究業績

### 1. 学会発表

**向井直樹**: スポーツ整形におけるチーム医療 陸上(長距離・中距離・短距離)陸上競技種目におけるスポーツ外傷・障害の発生メカニズム, 第41回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 京都, 2015.9

菅澤威仁, **向井直樹**, 丹波泰子, 田村京子, 竹越一博: In vitroにて, 様々な温度での寒冷刺激が, ヒト細胞のミトコンドリア機能・生合成, 血管内皮細胞増殖因子のタンパク質発現に与える影響 (The effects of cold stimulations of various temperatures on mitochondrial functions and biogenesis and expression of vascular endothelial growth factor(VEGF) of human cells in vitro), 第24回日本柔道整復接骨医学会学術大会, 新潟, 2015.11

**向井直樹**: 女性アスリートの健康を考える 女性アスリートと外傷. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11

鎌田浩史, 山澤文裕, 鳥居 俊, 櫻庭景植, **向井直樹**, 菅原 誠, 前澤克彦, 真鍋知宏, 難波 聡, 田口素子, 松生香里: 陸上競技ジュニア選手のスポーツ外傷・障害調査(第2報). 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015.11

宮代祐希, 菅澤威仁, 森 慎太郎, 山口真未, **向井直樹**: 大学生女子ラクロス選手におけるコンディションの変動と疼痛発生との関連. 第165回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2015.11

山口真未, 菅澤威仁, 森 慎太郎, 宮代祐希, **向井直樹**: ジュニア層の七種競技者における外傷・障害調査. 第165回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2015.11

### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

菅澤威仁, 井上 知, 大塚絢香, **向井直樹**, 丹波泰子, 竹越一博: マッサージ療法のエビデンス. 理療 44巻 72-81, 2015

菅澤威仁, 向井直樹, 丹波泰子, 田村京子, 森山紀彦, 竹越一博: 異なる温度の冷却刺激が細胞の代謝活性および増殖に及ぼす影響 Rat Pheochromocytoma cell を用いた検討. 理療 45 巻 76-81, 2015

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

茨城県高等学校体育連盟研究大会研修講演 (2月19日)

茨城県国民体育大会選手団アンチドーピング講習会 (9月3日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本オリンピック委員会情報・医・科学専門部会医学サポート部門員 (2004年～)

日本体育協会国民体育大会委員会医事部会員 (2004年～)

日本体育協会ドーピング防止部会ドーピングデータベース作業班員 (2012年～)

日本陸上競技連盟医事委員会副委員長 (2011年～)

茨城県競技力向上対策本部普及強化委員 (2014年～)

茨城県体育協会スポーツ医・科学委員会総括副委員長 (2012年～)

茨城陸上競技協会医事委員長 (1998年～)

准教授 渡部厚一

## 研究業績

### 1. 学会発表

中嶋耕平, 土肥美智子, 半谷美夏, 能瀬さやか, 遠藤直哉, 渡部厚一, 真鍋知宏, 先場 瞬, 平野裕一: 次世代トップアスリートのメディカルチェック 東京都の取り組みから. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015. 11.

Sone R, Hayashi K, Shimizu K, Hanaoka Y, Watanabe K: Effects of physical and psychological stress on salivary nitric oxide in young male subjects. ACSM's 62<sup>nd</sup> annual Meeting, San Diego, USA, 2015. 5

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

仙石泰雄, 小林啓介, 今井智子, 渡部厚一, 宮川俊平: 競泳選手の競技パフォーマンスをサポートする e-コンディション管理システムの開発. 筑波大学体育系紀要, 38:143-147, 2015.

花岡裕吉, 清水和弘, 鷺谷浩輔, 田村 明, 竹村雅裕, 古川拓生, 宮本俊和, 渡部厚一, 赤間高雄: MG2809 乳酸菌の摂取が大学ラグビー選手の口腔内免疫能に及ぼす影響. 体力科学, 64(3):315-322, 2015

田中弥生, 本川佳子, 中澤 優, 田中友規, 横山典子, 渡部厚一, 宮川哲夫, 久野譜也: タブレット端末を使用した在宅酸素療養患者のセルフマネジメントの有用性について. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌, 25(3):446-452, 2015.

Nakamura K, Sengoku Y, Ogata H, Watanabe K, Shirai Y, Nabekura Y: Blood Glucose Threshold is Not Consistent with Blood Lactate Threshold by Different Evaluation Methods. Advanced Exer-

cise Sports Physiology, 21(1) : 17-24, 2015

Murase Y, Shimizu K, Tanimura Y, Hanaoka Y, **Watanabe K**, Kono I, Miyakawa S: Salivary extracellular heat shock protein 70 (eHSP70) levels increase after 59 min of intense exercise and correlate with resting salivary secretory immunoglobulin A (SIgA) levels at rest. Cell Stress and Chaperones, 2015.

### 3. その他論文（報告書等）

花岡裕吉, 清水和弘, 曾根良太, 村瀬陽介, **渡部厚一**, 河野一郎, 宮本俊和: メンタルヘルスに役立つ唾液中タンパクを用いたメンタルストレスおよびフィジカルストレスの新たな評価法の検討. 明治安田厚生事業団第30回若手研究者のための健康科学研究助成報告書, 30: 33-38, 2015.

### 4. 専門家, 学生向け著書（事典, 翻訳書等を含む）

**渡部厚一**: 国際大会参加時の注意点. ジュニアアスリートをサポートするスポーツ医科学ガイドブック. メジカルビュー社, 142-152, 2015

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

**渡部厚一**: DVD 「スポーツと熱中症」. 環境省, 2015

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

首都大学東京 非常勤講師

流通経済大学 非常勤講師

東京 YMCA 社会体育・保育専門学校 非常勤講師

筑波総合福祉専門学校 非常勤講師

テレビ取材 報道ステーション (8月3日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本オリンピック委員会

アンチ・ドーピング委員

情報医・科学委員会医学サポート部員

日本水泳連盟

医事委員

アンチ・ドーピング委員

国際委員

茨城県体育協会

スポーツ医・科学委員会 アンチ・ドーピング委員長

日本臨床スポーツ医学会

評議員

日本結核病学会

代議員

熱中症予防声かけプロジェクト

実行委員 (2011年～)

### 2. ボランティア活動

#### 2-d. その他のボランティア活動

全日本空道連盟におけるアンチ・ドーピング啓発活動

### 3. 競技会引率・帯同等

第 28 回ユニバーシアード競技大会（韓国・光州）：選手団本部（メディカルスタッフ）

## 助 教 赤 澤 暢 彦

### 研究業績

#### 1. 学会発表

羅 成圭, 崔 英珠, **赤澤暢彦**, 大森 肇, 前田清司. タウリン摂取は伸張性レジスタンス運動後の遅発性筋肉痛と動脈ステイフネスの増加を抑制する. 第 1 回国際タウリン研究会日本部会, 兵庫, 2015. 2

Tanahashi K, **Akazawa N**, Choi Y, Kosaki K, Sugawara J, Maeda S. Resting brachial artery shear rate is associated with exercise habituation in middle aged and older adults. Experimental Biology 2015, Boston, 2015. 3.

Kosaki K, Sugawara J, **Akazawa N**, Matsubara T, Zempo-Miyaki A, Maeda S. Effects of acute lower leg heating on aortic pulse wave reflection in postmenopausal women. Experimental Biology 2015, Boston, 2015. 3.

**Akazawa N**, Kumagai H, Nakamura Y, Myoenzono K, Choi Y, Maeda C. Effect of sleep quality on cognitive function during exercise in athletes. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science, Malmo, Sweden, 2015. 6.

Nakamura Y, Choi Y, **Akazawa N**, Park I, Kawana F, Satoh M, Tokuyama K, Maeda S. Effect of sleep quality on cognitive functions during exercise in healthy young men. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science, Malmö, Sweden, 2015. 6

**赤澤暢彦**, 前田清司. 女性アスリートにおける睡眠の質が代謝産物に及ぼす影響. 第 66 回日本体育学会, 東京, 2015. 8.

澤野友里子, **赤澤暢彦**, 蘇 リナ, 田中喜代次, 前田清司. 中高齢女性における全身振動刺激を用いた一過性の筋力運動が動脈ステイフネスに及ぼす影響. 第 66 回日本体育学会, 東京, 2015. 8

**赤澤暢彦**, 棚橋嵩一郎, 小崎恵生, 小松美保, 熊谷 仁, 前田清司. 有酸素性運動トレーニングがメンタルヘルスおよび動脈ステイフネスに及ぼす影響. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015. 9.

羅 成圭, **赤澤暢彦**, 崔 英珠, 大森 肇, 前田清司. タウリン摂取が一過性伸張性運動後の非運動肢血管内皮機能に及ぼす影響. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015. 9.

棚橋嵩一郎, **赤澤暢彦**, 小崎恵生, 崔 英珠, 前田清司. 中高齢者における血中 ADMA 濃度を低下させる運動強度の検討. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015. 9.

中村優希, 崔 英珠, **赤澤暢彦**, 朴 寅成, 川名ふさ江, 佐藤 誠, 徳山薫平, 前田清司. 若年男性における睡眠質の低下が安静時および運動時の認知機能に与える影響. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015. 9.

栃木悠里子, 羅 成圭, **赤澤暢彦**, 菅村恵里香, 目崎 登, 宮川俊平, 福田 崇, 前田清司. 女性アスリートにおける血清エストラジオールが安静時および運動中の認知機能に及ぼす影響. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015. 9.

田川 要, **赤澤暢彦**, 吉川 徹, 羅 成圭, 棚橋嵩一郎, 熊谷 仁, 矢野未来, 金 美珍, 尹 智暎, 大藏倫博, 鈴木貴視, 小松美穂, 神村彩子, 前田清司. 低体重高齢者における筋力トレーニングと L-シトルリン含有組成物摂取が動脈ステイフネスに及ぼす影響. 第 70 回日本体力医学会, 和

歌山, 2015. 9.

小崎恵生, 菅谷 健, 羅 成圭, 棚橋嵩一郎, **赤澤暢彦**, 前田清司. 中高齢者における尿中 L-FABP 濃度と運動能力の関連性. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015. 9.

澤野友里子, 膳法 (宮木) 亜沙子, **赤澤暢彦**, 小崎恵生, 蘇 リナ, 田中喜代次, 前田清司. 中高齢女性における全身振動刺激を用いた一過性の静的スクワット運動は Augmentation Index を低下させる. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015. 9.

山本皓策, 崔英珠, 中村優希, **赤澤暢彦**, 朴寅成, 川名ふさ江, 佐藤誠, 徳山薫平, 宮川俊平, 前田清司. 若年男性における高反発マットレスの使用が睡眠の質に及ぼす影響. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015. 9.

小崎恵生, 菅谷 健, 羅 成圭, 棚橋嵩一郎, 熊谷 仁, 吉川 徹, **赤澤暢彦**, 前田清司. 中高齢者における尿中 L-FABP 濃度と心筋虚血指標 (SEVR) の関連性. 第 38 回日本高血圧学会大会, 愛媛, 2015. 10.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Ra SG, **Akazawa N**, Choi Y, Matsubara T, Oikawa S, Kumagai H, Tanahashi K, Ohmori H, Maeda S. Taurine supplementation reduces eccentric exercise-induced delayed onset muscle soreness in young men. *Advances in Experimental Medicine and Biology* 803: 765-772, 2015.

Choi Y, **Akazawa N**, Miyaki A, Ra SG, Shiraki H, Ajisaka R, Maeda S. Acute effect of high-intensity eccentric exercise on vascular endothelial function in young men. *Journal of Strength & Conditioning Research* (in press)

Kosaki K, Sugawara J, **Akazawa N**, Tanahashi K, Kumagai H, Ajisaka R, Maeda S. No influence of lower leg heating on central arterial pulse pressure in young men. *The Journal of Physiological Sciences* 65: 311-316, 2015.

Tanabe Y, Maeda S, **Akazawa N**, Zempo-Miyaki A, Choi Y, Ra SG, Imaizumi A, Otsuka Y, Nosaka K. Attenuation of indirect markers of eccentric exercise-induced muscle damage by crucumin. *European Journal of Applied Physiology* 115(9): 1949-1957, 2015

**Akazawa N**, Ra SG, Sugawara J, Maeda S. Influence of aerobic exercise training on post-exercise response of aortic pulse pressure and augmentation pressure in postmenopausal women. *Frontiers in Physiology* 6:268, 2015

Sawano Y, Zempo-Miyaki A, **Akazawa N**, Kosaki K, So R, Tanaka K, Maeda S. Effect of static squat exercise with whole body vibration on arterial stiffness in older women. *Advances in Exercise and Sports Physiology*. (in press)

Ra SG, Choi Y, **Akazawa N**, Omori H, Maeda S. Taurine supplementation attenuates delayed increase in exercise-induced arterial stiffness. *Applied Physiology, Nutrition, and Metabolism*. (in press)

## 3. その他論文 (報告書等)

**赤澤暢彦**, 及川哲志, 熊谷 仁, 前田清司. 運動トレーニングがメンタルヘルスおよび動脈ステイフネスに及ぼす影響 - 生化学的アプローチによる検討 -. 第 30 回若手研究者のための健康科学研究助成. 30: 6-10, 2015

## 研究業績

### 1. 学会発表

**Okamoto M**: Mild exercise enhances adult hippocampal neurogenesis. Global Initiative for Sport Neuroscience kick-off forum, Tsukuba, Japan, 2015.3.

Oharazawa A, Lee MC, **Okamoto M**, Soya H: Benefit of high intensity interval training for enhancing spatial leaning and memory. European College of Sport Science 2015, Malmo Sweden, 2015. 6.

Bamba A, **Okamoto M**, Ochi G, Hyodo K, Okazaki K, Enomoto Y, Soya H: Increased hair cortisol levels in female endurance athletes through altitude training: A useful diagnostic tool for overtraining. European College of Sport Science 2015, Malmo, Sweden, 2015. 6.

Yook JS, **Okamoto M**, Lee MC, Shibato J, Matsui T, Rakwal R, Yassa M, Soya H: Synergistic effects of mild exercise and astaxanthin supplementation on hippocampal dependent spatial memory and neurogenesis in adult mice. Cell symposia; Exercise Metabolism, Amsterdam, Nederland, 2015. 7.

陸 彰洙, **岡本正洋**, 松井 崇, 征矢英昭: アスタキサンチンと低強度運動による海馬の認知機能の向上. 第8回脳・神経・内分泌系から運動の意義を考える会, 和歌山, 2015.9.

番場 愛, **岡本正洋**, 越智元太, 榎本 靖, 岡崎和伸, 征矢英昭: 毛髪中コルチゾールを用いた高地トレーニングのモニタリング: 持久性適応を損なう慢性ストレス. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

小泉 光, 濱崎元直, 小原沢明彦, 高橋佳那子, **岡本正洋**, 征矢英昭: ストレス耐性を高める発育期の低強度運動の効果: 急性ストレス時の血液成分動態への影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

**Okamoto M**, Yamamura Y, Liu YF, Lee MC, Matsui T, Shima T, Soya M, Takahashi K, Soya S, McEwen BS, Soya H: Hormetic effects by exercise on hippocampal neurogenesis with glucocorticoid signaling. *Brain Plasticity*, 1:149-158, 2015.

Inoue K, **Okamoto M**, Shibato J, Lee MC, Matsui T, Rakwal R, Soya H. Long-Term Mild, rather than intense, exercise enhances adult hippocampal neurogenesis and greatly changes the transcriptomic profile of the hippocampus. *PLoS One*, 10: e0128720, 2015.

Ikeda M, Hojo Y, Komatsuzaki Y, **Okamoto M**, Kato A, Takeda T, Kawato S. Hippocampal spine changes across the sleep-wake cycle: corticosterone and kinases. *J Endocrinol*, 226:M13-27, 2015.

Inoue K, Hanaoka Y, Nishijima T, **Okamoto M**, Chang H, Saito T, Soya H: Long-term mild exercise training enhances hippocampus-dependent memory in rats. *International Journal of Sports Medicine*, 36: 280-285, 2015.

Yook JS, **Okamoto M**, Rakwal R, Shibato J, Lee MC, Matsui T, Chang HK, Cho JY, Soya H: Astaxanthin Supplementation Enhances Adult Hippocampal Neurogenesis and Spatial Memory in Mice. *Molecular Nutrition and Food Research*, 0:1-11, 2015.



#### 4. 専門家、学生向け著書（事典、翻訳書等を含む）

陸 彰洙，岡本正洋，島 孟留，征矢英昭：天然由来サプリメントと海馬の機能促進．体育の科学，vol. 65(1)，杏林書院，21-27，2015.1.

征矢英昭，岡本正洋，征矢茉莉子，島 孟留，陸彰洙：海馬の可塑性を高める軽運動効果：新たな運動プログラムの開発をめざして．日本生物学的精神医学会誌，vol. 26(1)，59-62，2015.3.

兵頭和樹，岡本正洋，陸 彰洙，征矢英昭：アンチエイジング（抗加齢）医学の老年精神医学への寄与運動と脳のアンチエイジング．老年精神医学雑誌，vol. 26(6)，株式会社ワールドプランニング，606-614，2015.6.

征矢英昭，三好耕太，岡本正洋：海馬の神経可塑性を高める軽運動．Medical Science Digest，vol. 42(1)，ニューサイエンス社，17-20，2015.12.

### 助 教 片 岡 千 恵

#### 研究業績

##### 1. 学会発表

岩田英樹，野津有司，片岡千恵，工藤晶子，久保元芳，中山直子，渡部 基：飲酒および喫煙の誘いへの断り方に関連する要因－高校生を対象として－．一般社団法人日本学校保健学会第 62 回学術大会，岡山，2015.11.

久保元芳，野津有司，片岡千恵，工藤晶子，谷口志緒里，中山直子，佐藤 幸，渡部 基，岩田英樹：小中学生におけるノンアルコール飲料の摂取の実態および飲酒との関連．一般社団法人日本学校保健学会第 62 回学術大会，岡山，2015.11.

谷口志緒里，野津有司，片岡千恵，工藤晶子，久保元芳，佐藤 幸，中山直子，岩田英樹，渡部 基：我が国の高校生における Small Screen Time と危険行動との関連．一般社団法人日本学校保健学会第 62 回学術大会，岡山，2015.11.

##### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

Kubo M, Nozu Y, Kataoka C, Kudo M, Taniguchi S, Sato Y, Nakayama N, Watanabe M: Correlation between Non-Alcoholic Beverage Consumption and Alcohol Drinking Behavior among Japanese Youths. Open Journal of Preventive Medicine, 5: 31-37, 2015.

##### 3. その他論文（報告書等）

片岡千恵：我が国の青少年の危険行動防止における規範意識の重要性－学校における保健教育の視点から－．（博士論文，筑波大学）2015.

##### 5. 受賞

第 29 回筑波大学河本体育科学研究奨励賞（我が国の高校生における危険行動と睡眠時間との関連．『日本公衆衛生雑誌』第 61 巻・第 9 号，原著論文）

#### 社会貢献活動

##### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

国立教育政策研究所小学校学習指導要領実施状況調査結果分析委員会（保健）委員

## 研究業績

### 1. 学会発表

- 市原 英, 下野俊彦, 白木 仁, 福田 崇: 大腿四頭筋柔軟性の変化量とジャンパー膝との関連. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9
- 栃木悠里子, 羅 成圭, 赤澤暢彦, 菅村恵里香, 目先 登, 宮川俊平, 福田 崇, 前田清司: 女性アスリートにおけるエストロジオールが安静時および運動中の認知機能に及ぼす影響. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9
- 福田 崇, 山元勇樹, 松元 剛, 宮川俊平: アメリカンフットボールにおける装具が走力に及ぼす影響 - 2 年間の縦断的研究 -. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9
- 金 多允, 竹村雅裕, 福田 崇, 宮川俊平: 競技特性と股関節外転・外旋筋力の関連性について. 第 70 回日本体力医学会, 和歌山, 2015.9
- 栃木悠里子, 羅 成圭, 目先 登, 宮川俊平, 福田 崇, 前田清司: 月経周期に伴う性ホルモンの変動が女性アスリートの骨格筋および腱の柔軟性に与える影響. 第 26 回日本臨床スポーツ医学会, 兵庫, 2015.11
- 中山晴雄, 反町武史, 立石智彦, 福田 崇, 川原 貴, 岩淵 聡, 藤谷博人, 他 7 名: アメリカンフットボールにおける重症頭部外傷予防. 第 26 回日本臨床スポーツ医学会, 兵庫, 2015.11

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- 福田 崇, 宮川俊平, 松元 剛, 山元勇樹: アメリカンフットボールにおける装具が走力に及ぼす影響 - 2 年間の縦断的研究 -. 筑波大学体育系紀要, 38: 33-42, 2015
- 反町武史, 川原 貴, 藤谷博人, 月村泰規, 立石智彦, 中山晴雄, 麻生 敬, 福田 崇: アメリカンフットボールにおける熱中症および外傷発生とグラウンドでの環境変化の検討. 日本臨床スポーツ医学会誌, 23(3): 511-517, 2015
- 山元勇樹, 加藤 基, 福田 崇, 津賀裕喜, 宮川俊平: 等尺性股関節伸展運動における膝関節角度の影響. 体力科学, 64(3), 289-294, 2015
- 松葉 開, 功刀 峻, 吉田成仁, 増成暁彦, 福田 崇, 宮川俊平: 足関節バランストレーニング時の下腿活動量の検討～器具別の比較と足関節不安定性を有する脚の特性～. 日本臨床スポーツ医学会誌, 23(3): 452-459, 2015

### 3. その他論文 (報告書等)

- 嵯峨 寿, 秋山 央, 福田 崇, 奈良隆章, 朴, 本間三和子: 体育センターによる平成 26 年度筑波大学重点公開講座の計画に当たって. 大学体育研究, 37: 59-74, 2015

### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

- 福田 崇 (分担執筆): スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド 競技復帰直前のトレーニング アメリカンフットボール, 文光堂, pp.552-559, 2015

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

- 福田 崇: 痛み撲滅には筋トレしかない. 月刊ランナーズ, 40(3): 40-43, 2015

福田 崇：自分の足裏がハイアーチか扁平足かによって，選ぶべきシューズは変わる．月刊ランナーズ，40(6)：9，2015

福田 崇：ウォーミングアップとクーリングダウン．スピードスケート育成ハンドブック，公益財団法人日本スケート連盟，46-47，2015

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

大子町・筑波大学との連携・協力推進事業 大子町南中学校「中学生のトレーニング」(3月18日)

日本体育協会スケート指導者養成講習会(6月6日)

スポーツリーダー養成講習会(7月5日)

茨城県アスレティックトレーナー養成講習会(11月28,29日)

サンデースポーツ 脳振盪の特集(12月20日放送)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

筑波大学トレーナークリニック アスレティックトレーナー

筑波大学アメリカンフットボール部 アスレティックトレーナー

日本スケート連盟医事委員(2004年～)

JOC強化スタッフ(医・科学スタッフ)(2004年～)

関東大学アメリカンフットボール協会医学委員(2004年～)

2015 ワールドカップ(カナダ・アメリカ)帯同(スピードスケート日本代表)

## 助 教 松 井 崇

## 研究業績

### 1. 学会発表

**Matsui T**: Brain glycogen as a potential target in enhancing human performance. Human High Performance International Forum 2015, Tsukuba, Japan, 2015, 3.

**Matsui T**: Exercise-induced brain glycogen decrease and supercompensation. The Joint Conference of the 120<sup>th</sup> Annual Meeting of The Japanese Association of Anatomists and the 92<sup>nd</sup> Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Kobe, Japan, 2015, 3.

Yook JS, Okamoto M, Lee MC, Shibato J, **Matsui T**, Rakwal R, Yassa M, Soya H: Synergistic effects of mild exercise and astaxanthin supplementation on hippocampal-dependent spatial memory and neurogenesis in adult mice. Cell symposia; Exercise Metabolism, Amsterdam, Nederland, 2015. 7.

**Matsui T**: Activity-dependent hippocampal glycogenolysis during exercise: the role of dopamine. Sports Neuroscience Forum 2015, Madrid, Spain, 2015. 8.

**Matsui T**, Omuro H, Liu Y, Shima T, Soya M, Hamasaki M, Miyakawa S, Soya H: Brain glycogen fuels the exercising brain to maintain endurance capacity. Neuroscience 2015, Chicago, USA, 2015. 10.

**Matsui T**: Brain glycogen: A newly identified energy source of the exercising brain. Tsukuba-UCI Science Partnership Conference 2015, California, USA, 2015. 12.

- 陸 彰洙, 岡本正洋, **松井 崇**, 征矢英昭: アスタキサンチンと低強度運動による海馬の認知機能の向上. 第8回脳・神経・内分泌系から運動の意義を考える会, 和歌山, 2015.9.
- 島 孟留, **松井 崇**, 征矢茉莉子, 征矢英昭: 海馬内セロトニンは2型糖尿病の認知機能障害に関与するのか?: 海馬グリコゲン代謝不全との関係. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- Inoue K, Okamoto M, Shibato J, Lee MC, **Matsui T**, Rakwal R, Soya H: Long-Term, rather than intense exercise enhances adult hippocampal neurogenesis and greatly changes the transcriptomic profile of the hippocampus. *PLoS One*, 10 (6): e0128720, 2015.
- Matsui T**, Soya S, Kawanaka K, Soya H. Brain glycogen decreases during intense exercise without hypoglycemia: the possible involvement of serotonin. *Neurochemical Research*, 40(7): 1333-1340, 2015.
- Yook JS, Okamoto M, Rakwal R, Shibato J, Lee MC, **Matsui T**, Chang HK, Cho JY, Soya H: Astaxanthin Supplementation Enhances Adult Hippocampal Neurogenesis and Spatial Memory in Mice. *Molecular Nutrition and Food Research*, 0:1-11, 2015.
- 増地克之, 小林優希, 金丸雄介, 小野卓志, 秋本啓之, 法兼 真, 小倉大輝, **松井 崇**: 大学男子柔道選手のが宿練習時における生理的および精神的コンディション. 講道館柔道科学研究会紀要, 15: 103-114, 2015.

## 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

- 松井 崇**, 大室秀樹, 征矢英昭: 運動時の脳でエネルギーとなる乳酸. 体育の科学, vol. 65(9), 杏林書院, 633-639, 2015.

## 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

- 「スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト (SRIP)」(スポーツ庁)
- 「フルスルチアミン投与が運動時中枢性疲労に及ぼす効果: 脳グリコゲン代謝に着目して」(武田薬品工業株式会社)
- 「脳内グリコゲン等を指標とした運動パフォーマンスや集中力の向上に寄与する食品成分の有効性確認と作用機序の解明」(キリンビバレッジ株式会社)
- 「スポーツ神経科学の国際研究拠点」(頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム)
- 「ヒューマン・ハイ・パフォーマンスを実現する次世代健康スポーツ科学の国際研究教育拠点」(文部科学省特別経費研究教育プロジェクト)

特任助教 久保大輔

## 研究業績

### 1. 学会発表

- 久保大輔, 河内真紀子, 持丸正明, 萩原直道, 海部陽介: 欠損部へのつぎはぎと非剛体変形によるジャワ原人の脳容量推定. 第69回日本人類学会大会, 東京, 2015.10.

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

Kaifu Y, Kurniawan I, **Kubo D**, Sudiyabudi E, Putro GP, Prasanti E, Aziz F, Baba H: *Homo erectus calvaria from Ngawi (Java) and its evolutionary implications*. *Anthropological Science*, 123: 161-176, 2015.

## 3. その他論文（報告書等）

久保大輔，田邊宏樹，近藤 修，天野英輝，與儀 彰，村山貞之，石田 肇，荻原直道：エンドキャストから小脳・大脳容積を推定する手法の開発と旧人・新人化石への応用．ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究 研究項目 C01 研究報告書 3次元モデリング技術に基づく化石頭蓋の高精度復元，57-76，2015.

近藤 修，久保大輔，鈴木宏正，荻原直道：カフゼー 9号（解剖学的現代人）頭蓋の左右歪み評価とエンドキャスト作成．ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究 研究項目 C01 研究報告書 3次元モデリング技術に基づく化石頭蓋の高精度復元，41-56，2015.

## 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「千葉市加曽利貝塚出土縄文人骨の追加調査」（千葉市教育委員会）

## 特任助教 辻本健彦

### 研究業績

#### 1. 学会発表

辻本健彦，西連地利己，入江ふじこ，磯 博康，山岸良匡，渡辺 宏，小橋 元，田中喜代次，大田仁史．乳・乳製品摂取と高血圧発症との関連に性・年齢・肥満度が及ぼす影響：茨城県健康研究．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎，2015.11.4-6.

澤田宣行，辻本健彦，西連地利己，栗盛須賀子，入江ふじこ，山岸良匡，須能恵子，小室明子，渡辺 宏，大田仁史．産業別就業割合とCKD発症との関連（地域相関分析）：茨城県健康研究．第74回日本公衆衛生学会総会，長崎，2015.11.4-6.

大森翔英，内田文彦，蘇 リナ，辻本健彦，正田純一，田中喜代次，武川寛樹．身体活動が歯周病へ及ぼす効果についての検討．第70回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.18-20.

吉川 徹，膳法亜沙子，熊谷 仁，辻本健彦，田中喜代次，前田清司．定期的な有酸素性運動が肥満男性の脈圧増幅に与える影響．第70回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.18-20.

Tsujimoto T, So R, Kim B, Suzuki S, Tanaka K. How many steps/day are required to meet the physical activity guidelines? The 62th annual meeting of American College of Sports Medicine, San Diego, California, 2015. 5.26-30.

Nakata Y, Tsujimoto T, Sasai H, Miyawaki R, Ishii K, Shibata A, Tanaka S, Inoue S, Oka K. Compliance with physical activity guidelines among Japanese adults using an accelerometer and GPAQ. The 62th annual meeting of American College of Sports Medicine, San Diego, California, 2015. 5.26-30.

辻本健彦，大久保善郎，藪下典子，大須賀洋祐，根本みゆき，金 泰浩，田中喜代次．高齢者における歩行中の身体動揺と歩行速度との関連～転倒リスク別の検討～．日本体育測定評価学会，石川，

2015.2.28-3.1.

蘇 リナ, 呉 世昶, 志田隆史, **辻本健彦**, 田中喜代次, 正田純一. 肥満者における irisin の分泌動態と身体活動量の関連性. 第 163 回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2015.2.28.

Nakata Y, Sasai H, **Tsujimoto T**, Ohkawara K, Inoue S, Oka K, Tanaka S. Responsiveness of physical activity evaluated with GPAQ during a weight loss intervention in overweight Japanese adults. The 25th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological Association, Aichi, 2015.1.21-23.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

Kim B, **Tsujimoto T**, So R, Tanaka K. Changes in lower extremity muscle mass and muscle strength after weight loss in obese men: A prospective study. Obesity Research & Clinical Practice 9(4): 365-373, 2015.

Kumagai H, Zempo-Miyaki A, Yoshikawa T, **Tsujimoto T**, Tanaka K, Maeda S. Lifestyle modification increases serum testosterone level and decrease central blood pressure in overweight and obese men. Endocrine Journal 62(5): 423-430, 2015.

Maeda S, Miyaki A, Sasai H, **Tsujimoto T**, So R, Tanaka K. Lifestyle modification decreases arterial stiffness in overweight and obese men: dietary modification vs. exercise training. International Journal of Sport Nutrition & Exercise Metabolism 25(1): 69-77, 2015.

Oh S, Shida T, Yamagishi K, Tanaka K, So R, **Tsujimoto T**, Shoda J. Moderate to vigorous physical activity volume is an important factor for managing nonalcoholic fatty liver disease: a retrospective study. Hepatology 61(4): 1205-1215, 2015.

相羽達弥, 大久保善郎, 大須賀洋祐, **辻本健彦**, 鄭 松伊, ラファエルフィゲロア, 金 泰浩, 石井直方, 田中喜代次. 多関節複合動作の下肢筋力測定: 高齢者における負担軽減プロトコルの開発. 健康支援 17(2): 23-30, 2015.

## 5. 受賞

第 29 回筑波大学河本体育科学研究奨励賞. 「The dose-response relationship between body mass index and the risk of incident stage  $\geq 3$  chronic kidney disease in a general Japanese population: Ibaraki Prefectural Health Study (IPHS)」, 2015.11.

日本体育測定評価学会第 14 回大会優秀発表賞. 「高齢者における歩行中の身体動揺と歩行速度との関連～転倒リスク別の検討～」, 2015.03.

## 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「活動量計による客観的な身体活動指標を用いた全身持久性体力の推定」(茨城体育学会)

「働き盛り世代の男性をターゲットにした運動習慣化支援プログラムの開発」(筑波大学)

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

茨城県「健康づくり教室」講師. 楽しく動いて生活習慣病～ウォーキングのススメ～. (12月, 延べ2日間)

つくば学園ロータリークラブ例会「卓話」講師. 健康増進のための運動・食事の在り方～最新の研究報告より～. (12月10日)

阿見町健康づくり課「食生活改善推進員養成講習会」講師. 講話・実技「日常生活における運動」. (10

月 27 日)

阿見町健康づくり課「骨粗しょう症予防教室」講師. おうちでできるかんたん 10 分間運動. (9 月 30 日)

阿見町健康づくり課「2015 年度特定保健指導：動機付け支援」講師. 講話・実技「しっかり動いてメタボ解消!」. (9 月 14 日)

茨城県西退職女性校長会「研修会」講師. さわやかいきいき健康寿命. (7 月 21 日)

阿見町健康づくり課「運動普及推進員養成講習会」講師. (6・7 月, 延べ 7 日間)

## 特任助教 藁科侑希

### 研究業績

#### 1. 学会発表

藤尾 司, 眞下苑子, 藁科侑希, 白木 仁: 体幹トレーニングにおける体幹および下肢筋活動. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015. 09.

可西泰修, 眞下苑子, 藁科侑希, 白木 仁: 2014 年度茨城県 T 市内の小学校児童における運動器検診の結果. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015. 09.

長濱雄二, 眞下苑子, 藁科侑希, 白木 仁: 大学野球投手の指屈曲筋力の特性. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015. 09.

#### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

藁科侑希, 笹井浩行, 中田由夫, 白木 仁: バドミントン競技者における肩関節痛に関する記述疫学的研究. 運動疫学研究 17(1): 29-36, 2015. 03.

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学 Tsukuba Sports Association 「TSA トレーナー養成チーム」関連教員 (年間)

### 競技活動

#### 1. 自身の競技業績

第 36 回全日本大学院生バドミントン大会 オープン男子ダブルス 第 3 位

#### 2. 指導業績

バドミントン部 障害者部門コーチ兼アスレティックトレーナー

2015 年インドネシアパラバドミントン国際 (日本代表) SL3 男子シングルス 準優勝 藤原大輔 (体育 4 年) コーチ兼トレーナー

2015 年インドネシアパラバドミントン国際 (日本代表) SL3-4 男子ダブルス 準優勝 藤原大輔 (体育 4 年)・Ukun (インドネシア) コーチ兼トレーナー

2015 年パラバドミントン世界選手権 (日本代表) SL3 男子シングルス ベスト 8 藤原大輔 (体育 4 年) コーチ兼トレーナー

2015 年パラバドミントン世界選手権 (日本代表) SL3-4 男子ダブルス ベスト 16 藤原大輔 (体育 4 年)・Nils (ドイツ) コーチ兼トレーナー

2015 年関東大学バドミントン春季リーグ戦 女子 1 部団体 優勝 トレーナー

- 第 28 回ユニバーシアード競技大会（日本代表） バドミントン 女子シングルス ベスト 8 加藤美幸  
（体育 2 年） トレーナー
- 第 28 回ユニバーシアード競技大会（日本代表） バドミントン 女子ダブルス 3 位 柏原みき・加藤  
美幸（体育 2 年） トレーナー
- 第 64 回関東甲信越大学体育大会 バドミントン 男子団体 優勝 トレーナー
- 第 64 回関東甲信越大学体育大会 バドミントン 女子団体 優勝 トレーナー
- 第 58 回東日本学生バドミントン選手権大会 女子団体 優勝 トレーナー
- 第 58 回東日本学生バドミントン選手権大会 女子ダブルス 柏原みき・加藤美幸（体育 2 年） 優勝  
トレーナー
- 2015 年関東大学バドミントン秋季リーグ戦 女子 1 部団体 優勝 トレーナー
- 2015 年関東大学バドミントン秋季リーグ戦 男子 2 部団体 優勝（1 部昇格） トレーナー
- 第 66 回全日本学生バドミントン選手権大会 女子団体 優勝（2 連覇） トレーナー
- 第 66 回全日本学生バドミントン選手権大会 女子ダブルス 柏原みき・加藤美幸（体育 2 年） 優勝  
トレーナー
- 第 66 回全日本学生バドミントン選手権大会 女子シングルス 大久保敦美（体育 3 年） 3 位 トレー  
ナー
- 第 5 回全日本教育系学生バドミントン選手権大会 男子シングルス 馬場湧生（体育 2 年） 優勝 ト  
レーナー
- 第 5 回全日本教育系学生バドミントン選手権大会 女子シングルス 大久保敦美（体育 3 年） 優勝  
トレーナー
- 第 5 回全日本教育系学生バドミントン選手権大会 男子ダブルス 馬場湧生（体育 2 年）・下川大樹（体  
育 1 年） 3 位 トレーナー
- 第 5 回全日本教育系学生バドミントン選手権大会 女子シングルス 綿矢汐里（体育 3 年）・柏原みき（体  
育 2 年） 優勝 トレーナー
- 第 5 回全日本教育系学生バドミントン選手権大会 女子シングルス 加藤美幸（体育 2 年）・山中芹里（体  
育 1 年） 3 位 トレーナー

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本障がい者バドミントン連盟医事委員（アスレティックトレーナー）（2015 年～）

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

バドミントンクラブコーチ：茨城県・つくば市：1 月から 12 月（毎月 1-2 回）

#### 2-b. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

第 36 回全日本大学院生バドミントン大会の運営および審判：宮城県・岩沼市：8 月

第 5 回全日本教育系学生バドミントン選手権大会の運営および審判：東京都・葛飾区：12 月

#### 2-d. その他のボランティア活動

茨城県国体強化練習会（バドミントン）コンディショニング指導：茨城県・つくば市：2 月



### 3. 競技会引率・帯同等

2015 年関東大学バドミントン春季リーグ戦：神奈川県・横浜市：トレーナー帯同

第 58 回東日本学生バドミントン選手権大会：山形・山形市：トレーナー帯同

2015 年関東大学バドミントン秋季リーグ戦：神奈川県・横浜市：トレーナー帯同

2015 年関東大学バドミントン秋季リーグ入替戦：千葉県・市川市：トレーナー帯同

第 66 回全日本学生バドミントン選手権大会：大阪府・大阪市：トレーナー帯同

第 69 回全日本総合バドミントン選手権大会：東京都・渋谷区：トレーナー帯同

### 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

「NTID 種目最適型タレント発掘プログラム(筑波大学)」におけるアスレティックトレーナーサポート(独立行政法人日本スポーツ振興センター)

# コーチング学分野

## 研究業績

### 1. 学会発表

- 永野翔大・會田 宏：ハンドボール競技における一貫指導プログラムの構築に関する基礎的研究. 日本ハンドボール学会第3回大会, 東京, 2015.2.
- 佐藤奏吉, 藤本 元, 會田 宏：ハンドボールにおける左サイドのシュートプレーに関する一考察—世界レベル, 日本レベル, 学生レベルの男子選手を対象に—. 日本ハンドボール学会第3回大会, 東京, 2015.2.
- 吉兼 練, 藤本 元, 會田 宏：世界トップレベルの男子ハンドボール競技における速攻の発展傾向. 日本ハンドボール学会第3回大会, 東京, 2015.2. (日本ハンドボール学会大会賞受賞)
- 船木浩斗, 下嶽進一郎, 會田 宏：ハンドボールにおける1対1の突破阻止に関する質的研究. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.
- 永野翔大, Nemes Roland, 藤本 元, 會田 宏：デンマークにおけるハンドボールの一貫指導プログラム. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.
- 田代智紀, 會田 宏：卓越したハンドボール指導者の熟達化に関する事例研究. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- 中原麻衣子, 山田永子, 藤本 元, 會田 宏：ハンドボール競技におけるセンタープレーヤーの攻撃プレーの特徴：国内大学女子トップレベル選手を対象に. ハンドボールリサーチ, 4：1-10, 2015.
- 楠本繁生, 田代智紀, 會田 宏：ハンドボールにおける卓越した指導者の指導力の熟達化に関する事例研究：高校・大学において全国大会で17回優勝している監督の語りを手がかりに. ハンドボールリサーチ, 4：11-19, 2015.
- 井上元輝, 橋本真一, 下拂 翔, 吉兼 練, 佐藤奏吉, 仙波慎平, 伊東裕希, 加納明帆, 福田 丈, 永野翔大, ネメシュ ローランド, 山田永子, 藤本 元, 會田 宏, 三輪一義：Jクイックハンドボールの導入が小学生のゲームパフォーマンスに及ぼした影響：量的分析を用いて. ハンドボールリサーチ, 4：47-54, 2015.

### 5. 受賞

- 日本ハンドボール学会大会賞：吉兼 練, 藤本 元, 會田 宏：世界トップレベルの男子ハンドボール競技における速攻の発展傾向. 日本ハンドボール学会第3回大会, 東京, 2015.2.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

- 會田 宏：コーチングの現場から 第12回 ハンドボールの一貫指導. JATI EXPRESS, 45：18-19, 2015.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

- 千葉県総合スポーツセンター平成26年度第4回健康づくり県民講座「わかりやすいスポーツ科学に基づく健康づくり運動入門2」・講師 (千葉, 1月25日)
- 公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会共通科目Ⅱ・Ⅲ集合講習会・講師 (福岡, 8

月3日；大阪，9月16日)

## 競技活動

関東学生ハンドボール春季リーグ戦 第4位 (男子ハンドボール部部長)  
関東学生ハンドボール秋季リーグ戦 優勝 (男子ハンドボール部部長)  
全日本学生ハンドボール選手権大会 第3位 (男子ハンドボール部部長)  
関東学生ハンドボール春季リーグ戦 優勝 (女子ハンドボール部部長)  
関東学生ハンドボール秋季リーグ戦 第2位 (女子ハンドボール部部長)  
全日本学生ハンドボール選手権大会 第3位 (女子ハンドボール部部長)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

つくば市ハンドボール協会 理事 (2010年4月～)  
日本スポーツ運動学会 理事 (1998年4月～)  
日本ハンドボール学会 理事長 (2012年11月～)  
日本コーチング学会 理事 (2013年4月～)  
日本体育学会「体育学研究」編集委員 (2013年4月～)

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

近隣小学校 (つくば市立松代小学校ほか) におけるハンドボール授業への指導者派遣 (2015年10月～，授業時)  
近隣中学校 (つくば市立手代木中学校ほか) ハンドボール部への指導者派遣 (通年，毎週)  
筑波学園クラブ (小学生ハンドボールチーム) への指導者派遣 (通年，毎週)

教授 浅井 武

## 研究業績

### 1. 学会発表

**Asai, T.**: Trying to understand soccer ball aerodynamics, 7<sup>th</sup> ASAI-Pacific Congress on Sports Technology, The Impact of Technology on Sports, Barcelona (Spain), 2015. 9. (招待講演)  
**Asai, T.**: Engineering and technology for sports, the 6<sup>th</sup> TSME-ICoME, Hua Hin (Thailand), 2015. 12. (招待講演)

### 2. 学術論文 (原著論文，総説，研究資料，実践研究等)

Hong, S., **Asai, T.** & Seo, K.: Visualization of air flow around soccer ball using a particle image velocimetry, Scientific Reports, 5: 10158, 2015.  
松竹貴大，實宝希祥，門岡 晋，菅生貴之，**浅井 武**：サッカー選手の判断に伴う中枢情報処理能力の評価—反応時間と事象関連電位を指標として—，スポーツ心理学研究，2015. (in press)  
夏原隆之，中山雅雄，加藤貴昭，永野智久，吉田拓矢，佐々木亮太，**浅井 武**：サッカーにおける戦術的判断を伴うパスの遂行を支える認知プロセス，体育学研究，60 (1)，71-85, 2015.

Hong, S., Asai, T., & Seo, K.: Flow visualization around panel shapes of soccer ball. Procedia Engineering, 112, 391-394, 2015.

## 教授 井村 仁

### 研究業績

#### 1. 学会発表

渡邊 仁, 井村 仁: 大学スキー実習が参加学生のヒューマンコミュニティ創成マインドに及ぼす影響.  
日本スキー学会 2015 年度研究会, 東京, 2015. 9.

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

独立行政法人国立青少年教育振興機構・子どもゆめ基金審査委員会委員 (2011 年～)

日本野外教育学会副理事長 (2012 年～)

日本スキー学会監事 (2012 年～)

## 教授 内山 治 樹

### 研究業績

#### 1. 学会発表

池田英治・内山治樹・岩井浩一, バスケットボールにおける“Collective Efficacy for Defense”尺度の予備的検討. 日本体育学会, 東京, 2015.8.

土肥崇史・福田有利子・内山治樹, バスケットボールの1対1におけるドライブ動作の分析. 日本体育学会, 東京, 2015.8.

池田英治・橘 香織・内山治樹・岩井浩一・和田野安良, 車椅子バスケットボールにおける「流れ」と勝敗の関係—時間と得失点差に着目して—. 日本コーチング学会, 大阪, 2015.3.

福田有利子・内山治樹, バスケットボール競技のディフェンスにおける方向転換技術. 日本コーチング学会, 大阪, 2015.3.

韓 超・内山治樹, バスケットボール競技における低身長チームの戦術に関する研究—ペイントエリアに着目して—. 日本コーチング学会, 大阪, 2015.3.

町田洋介・内山治樹・吉田健司, バスケットボールにおけるフローター・シュートのメカニズムと指導のポイント. 日本コーチング学会, 大阪, 2015.3.

#### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

内山治樹, チーム・パフォーマンスの生成にかかわる前提要件の検討—「チームの感性」究明に向けた予備的考察. 体育・スポーツ哲学研究, 37 (2): 115-131.

内山治樹, 阿江通良, 中川 昭, 真田 久, 佐野 淳, 西嶋尚彦, 有田祐二, 本谷 聡, 斎藤 卓, クラリク アンドレア, 荻山 靖, 椿本昇三, 渡邊 仁, 仙石泰雄, 古屋朝映子, 寺山由美, 大山圭吾, 木越清信, 金谷麻理子, 中西康己, 秋山 央, 吉田健司, 藤本 元, 山田永子, 中山雅雄, 古川拓生, 三橋大輔, 川村 卓, 吹田真土, 安藤真太郎, 奈良隆章, 岡田弘隆, 増地克之, 香田郡秀,

森 俊男, 池田英治, 「実技検定」の運用とその評価—「標準」モデルの検証—. 筑波大学体育系紀要, 38: 93-109, 2015.

Ikeda, E., Iwai, K., Yoshida, K., **Uchiyama, H.** Longitudinal validation on factors affecting the Collective Efficacy Scale for Basketball. Proceedings of the 1st Asia-Pacific Conference on Coaching Science, 1: 99-100. doi: proceed.apcocs2014.org/2014/p099.html. Epud 2015 Feb 16.

佐々木 瑛, **内山治樹**, 吉田健司, バスケットボール競技におけるピックプレイのメカニズムに関する記述分析的研究. コーチング学研究, 28 (2): 115-127, 2015.

池田英治, 橘 香織, **内山治樹**, 岩井浩一, 堀田和司, 六崎裕高, 和田野安良, 車椅子バスケットボールにおける「流れ」と勝敗の関係—時間と得失点差に着目して—. コーチング学研究, 28 (2): 225-229, 2015.

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

**内山治樹**, バスケットボール. 中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則編, 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店: 東京, 1192-1200, 2015.

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

茨城体育学会理事 (編集委員長, 2015年~)

## 教授 大高敏弘

### 研究業績

#### 3. その他論文 (報告書等)

大高敏弘: 平成 26 年度筑波大学重点公開講座 スポーツ科学をバスケットボールのスキルアップに活かそう 岩手県大船渡市でのバスケットボール教室, 大学体育研究, 37: 72-73, 2015

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学重点公開講座 スポーツ教室「バスケットボール」(2月, 2日間)

### 競技活動

#### 2. 指導業績

女子バスケットボール部監督として

全日本大学バスケットボール選手権 優勝 (6年ぶり 10度目)

関東大学女子バスケットボール選手権 2位

関東大学女子バスケットボール新人戦 5位

関東大学女子バスケットボールリーグ戦 5位

### 社会貢献活動

茨城県バスケットボール協会副会長 (平成 27年~)

日本バスケットボール学会会長 (平成 26年~)

## 研究業績

### 1. 学会発表

中野美沙, 大山下圭悟, 尾縣 貢: 女子やり投げ競技者における下肢のトレーニングがやり投げ動作に与える影響. 第26回日本コーチング学会大会, 大阪, 2015.3.

Ikebukuro H, Ogata M: The relationships between Qualitative and Quantitative Factors Affecting Performance during Table Tennis Competitions. The 14th ITTF Sports Science Congress and 5th World Racquet Sports Congress, China, 2015.5.

Hirose K, Ohyama Byun K, and Ogata M: Kinematic analysis of cable during hammer throws with heavier implements. 33rd Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, France, 2015.7.

山元康平, 関慶太郎, 宮代賢治, 梶谷亮輔, 内藤 景, 木越清信, 尾縣 貢. 陸上競技400m走におけるレースパターンタイプの異なる競技者の疾走動態. 日本スプリント学会第26回大会, 鹿児島, 2015.11.

前田 奎, 大山下圭悟, 尾縣 貢: 円盤投における国内下位競技者に求められる技術要因—脚の振込動作に着目して—. 日本体育学会第66回大会, 鹿児島, 2015.8.

中野美沙, 大山下圭悟, 尾縣 貢: 女子やり投げ競技者の体力水準. 第14回日本陸上競技学会大会, 東京, 2015.11.

山元康平, 関慶太郎, 宮代賢治, 梶谷亮輔, 内藤 景, 木越清信, 尾縣 貢: 女子400m走におけるモデルレースパターンの作成と活用. 日本陸上競技学会第14回大会, 東京, 2015.11.

前田 奎, 大山下圭悟, 尾縣 貢: 男子円盤投の記録と体力との関係. 日本陸上競技学会第14回大会, 東京, 2015.11.

広瀬健一・大山下圭悟・尾縣 貢: ハンマー投におけるレジスティッドトレーニングの事例的研究. 日本陸上競技学会第14回大会, 2015.11.

尾縣 貢: ランチョンシンポジウム スポーツ選手のトレーニングと栄養面に関するニーズ及び課題. 第2回日本スポーツ栄養学会, 滋賀, 2015.7.

### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

尾縣 貢: スポーツ科学からの暴力を用いない方法論の紹介. 体育学研究, 60 (体罰暴力根絶のための提案), 2015.

尾縣 貢, 木越清信, 遠藤俊典, 森 健一: 高強度ジャンプエクササイズ後の回復過程: 筋肉痛とパフォーマンスとの関連に焦点を当てて. 体力科学, 64: 117-124, 2015.

比留間浩介, 渡邊信晃, 森 健一, 尾縣 貢: 一般生徒におけるスターティングブロックの設置方法の違いが疾走パフォーマンスに及ぼす影響: 男女差に着目して. 体育学研究, 60: 651-665, 2015.

山元康平, 内藤 景, 木越清信, 尾縣 貢: 陸上競技女子ロングスプリント競技者のパフォーマンス変化に伴うレースパターンおよび技術・体力的要因の変化に関する実践的事例研究. コーチング学研究, 28: 213-217, 2015.

広瀬健一, 大山下圭悟, 藤井宏明, 青木和浩, 尾縣 貢: ハンマー投におけるレジスティッドトレーニングの負荷特性—高重量ハンマーによる投てきに着目して—. コーチング学研究, 29: 31-40, 2015.

尾縣 貢: 2020東京オリンピック・パラリンピックを契機とする日本陸上競技界のグランドデザイン.

陸上競技学会誌, 13: 92-95, 2015.

渡邊将司, 森丘保典, 伊藤静夫, 三宅 聡, 森 泰夫, 山崎一彦, 榎本靖士, 遠藤俊典, 木越清信, 繁田 進,  
尾縣 貢: 日本代表選手におけるスポーツ・種目転向(トランスファー)の特徴 —日本代表選手  
に対する意識調査—. 陸上競技紀要, 10: 13-21, 2015.

尾縣 貢: 生涯スポーツにつなぐ持久走・長距離走の未来図. 体育科教育, 64(1): 14-17, 2015.

### 3. その他論文(報告書等)

尾縣 貢: 全てに通ずる陸上競技(陸上運動)巻頭エッセイ. 体育科教育, 63(3): 9, 2015.

尾縣 貢: 2015年を迎えて. 陸連時報, 65(5): 182, 2014.

尾縣 貢: 専務理事3期目就任にあたり. 陸連時報, 65(13): 200, 2015.

尾縣 貢: 第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)を終えて. 陸連時報, 65(18): 198, 2015.

尾縣 貢: コーチの立場から見る効果的な連携とは. 食育, 15(175): 32-33, 2015.

### 4. 専門家, 学生向け著書(事典, 翻訳書等を含む)

尾縣 貢: 第1章 競技者育成プログラムを作成するにあたり, 第13章 コーチングにおける体罰, 暴力の根絶. 日本陸上競技連盟競技者育成プログラム 尾縣 貢 監修. 公益財団法人日本陸上競技連盟, 6-10, 2015.

尾縣 貢: マラソン, 駅伝(競走), 競歩, クロスカントリー(競走) 中村俊雄, 高橋健夫, 寒川恒夫, 友添秀則編 21世紀スポーツ大辞典. 大修館書店, 1306-1311, 2015.

## 教育活動

### 3. 一般向け教室講演

「文部科学省 運動部指導者サミット シンポジスト」(東京, 2月4日)

「練馬区光が丘春の風小学校 道徳授業地区公開講座講演会:心を鍛えることの大切さ, オリンピック選手に学ぶ」(東京, 2月14日)

「香川県高校保健体育研究発表大会特別講演:心技体から競技力向上を考える」(高松市, 10月14日)

「平成27年度石川県高等学校保健体育研究部会研究協議会研究発表会・研修会特別講演:生徒の最大力を引き出すコーチング」(金沢市, 12月3日)

「白紙撤回続く五輪準備 どう進める:効率だけで測れぬ(解説スペシャル)(読売新聞)」9月11日掲載

「高校駅伝 京都開催50回(論ステーション)(毎日新聞)」11月27日掲載

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学陸上競技部部長(平成23年~)

第21回アジア陸上競技選手権大会:中国・武漢:団長

第15回世界陸上競技選手権大会:中国・北京:団長

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

Association of International Marathons and Distance Races, Board Member (2014年~)

Asia Athletic Association, member of Youth and school commission (2015年~)



公益財団法人日本陸上競技連盟専務理事（2011年～）  
公益財団法人日本オリンピック委員会理事（2013年～）  
スポーツ庁コーチング推進コンソーシアム委員（2014年～）  
スポーツ庁競技スポーツ課等技術審査委員会委員（2015年～）  
国土交通省 アスリートと観客に優しい道の検討会委員会委員（2015年～）  
公益財団法人日本オリンピック委員会アンチドーピング委員会委員長（2013年～）公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団理事（2011年～）  
一般法人東京マラソン財団理事（2011年～）  
公益財団法人日本サッカー協会裁定委員会委員（2014年～）  
独立行政法人日本スポーツ振興センター コーチング・イノベーション推進事業プロジェクト委員会委員（2015年～）  
独立行政法人日本スポーツ振興センター ナショナルトレーニングセンター運営委員会委員（2014年～）  
国立スポーツ科学センター発行 Japanese Journal of Elite Sports Support, Vice Editor（2015年～）  
公益財団法人日本体育学会発行 International Journal of Sport and Health Science, Editorial Board Member（2013年～）  
日本陸上競技学会副会長（2010年～）  
日本スポーツ運動学会理事（2003年～）  
日本コーチング学会理事（2013年～）

## 教授 木内敦詞

### 研究業績

#### 1. 学会発表

- 西田順一，橋本公雄，**木内敦詞**，山本浩二，谷本英彰：大学体育授業の主観的恩恵尺度の作成．第3回大学体育研究フォーラム，東京，2015.2.9
- 西田順一，橋本公雄，**木内敦詞**，山本浩二，谷本英彰：大学体育授業における学修成果の可視化—学生の主観的恩恵に基づいたプロフィール化の提案—．体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議，大分，2015.3.14
- 壺阪圭祐，島本好平，**木内敦詞**，石井源信：ライフスキル獲得を促すスポーツコーチングスキルの検討—謙虚な心の育成を促すコーチングについて—．兵庫体育・スポーツ科学学会第26回大会，兵庫，2015.6.6
- Kiuchi A**，Nakagawa A，Shiraki H，Takagi H，Nabekura Y，Zushi M: University of Tsukuba and NIFS to Launch a Specialized PhD Programme to Advance Physical Education Instructors in Higher Education Institutions. International Conference of AIESEP 2015 (International Association for Physical Education in Higher Education), Madrid (Spain), 2015.7.11
- 木内敦詞**：疫学研究フィールドとしての大学体育：教育と研究の効果的な循環へ向けて．日本スポーツ体育健康科学学術連合第1回大会シンポジウム，日本運動疫学会企画「スポーツ体育研究における疫学的研究手法の使い方」，東京，2015.8.24
- 壺阪圭祐，島本好平，**木内敦詞**，石井源信：ライフスキル獲得を促すスポーツコーチングスキルの検討—考える力を育成するコーチングに着目して—．日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.26
- 壺阪圭祐，島本好平，**木内敦詞**，石井源信：ライフスキル獲得を促すスポーツコーチングスキルの因子

構造の検討．日本スポーツ心理学会第 42 回大会，福岡，2015.11.22

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

西田順一，橋本公雄，木内敦詞，山本浩二，谷本英彰，福地豊樹，上條 隆，鬼澤陽子，中雄勇人，木山慶子，新井淑弘，小川正行：テキストマイニングによる大学体育授業の主観的恩恵の抽出：性および運動・スポーツ習慣の歳による検討．体育学研究，60: 27-39，2015.6

## 3. その他論文（報告書等）

木内敦詞：ライフスキルトレーニングとしての大学体育授業プログラムの開発：4つのスポーツ経験に着目したアプローチ．平成 24-26 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 研究成果最終報告書「行動科学に基づく大学生の自己成長を促す独創的体育プログラムの開発と検証（研究代表：橋本公雄），pp.38-41，2015.3

## 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

木内敦詞：12 講 骨代謝と運動．運動生理学 20 講（勝田 茂・征矢英昭 編）朝倉書店，pp.96-102，2015.4

## 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

東北大学高度教養教育開発推進事業「体育の授業を通じた自主的な身体作りと 5 段階評価への取り組み」の共同開発（平成 27～29 年度）

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

木内敦詞：平成 27 年度からの共同学位プログラムの内容．高度大学体育スポーツ指導者養成共同学位プログラムシンポジウム．東京，2015.2.8

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学硬式野球部部長

2015 年首都大学野球連盟一部 春季リーグ戦 4 位，秋季リーグ戦 3 位

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体力医学会評議員（1999 年～）

「大学体育学」編集委員長（2015 年～）

大学体育研究フォーラム実行委員長（2014～）

全国大学体育連合：常務理事（2015～），総務部委員（2014～），大学体育関連情報調査チーム研究員（2011～），大学体育学編集委員（2011～）

首都大学野球連盟：評議員（2015～）

## 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

日本学術振興会の特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員（社会科学

## 教授 香田郡秀

### 研究業績

#### 1. 学会発表

木村悠生, 香田郡秀, 鍋山隆弘, 有田祐二, 川井良介: 大学剣道選手の正面打突動作に関する研究—個人差や指導ポイントとなる身体部位に着目して—. 日本武道学会第48回大会, 東京, 2015.9.

渡邊孝士郎, 香田郡秀, 鍋山隆弘, 有田祐二: 中華人民共和国における剣道の普及過程と現状について. 日本武道学会第48回大会, 東京, 2015.9.

川井良介, 香田郡秀, 鍋山隆弘, 有田祐二, 木村悠生: 剣道競技者の構えから打突に至る過程の神経生理学的研究—室内モデル実験を用いて—. 日本武道学会第48回大会, 東京, 2015.9.

柴山久美, 鍋山隆弘, 有田祐二, 香田郡秀, 木塚朝博: 剣道における下肢の踏み切り動作の違いが打突時間に及ぼす影響. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.

#### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

川井良介, 香田郡秀, 鍋山隆弘, 有田祐二, 木村悠生: 剣道競技者の脳内情報処理過程に関する研究: 剣道を模したS1-S2選択反応課題時のP300に着目して. 武道学研究, 48-2: 79-88, 2015.

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学公開講座 スポーツ教室「剣道」(春季・秋季, 延べ16日間)

世界剣道大会 国際審判員 (5月29日~5月31日)

中国剣道連盟 剣道国際セミナー講師 (11月13日~11月15日)

世界剣道選手権男子強化合宿講師 (1月3月5月7月9月11月延べ24日)

世界剣道選手権女子強化合宿講師 (2月4月6月8月10月12月延べ24日)

全日本剣道連盟審判講習会講師 (延べ6日)

日本武道館派遣授業 青森 1月

栃木国体剣道アドバイザー 9月

### 競技活動

#### 1. 自身の競技業績

第13回全日本選抜剣道八段選手権大会 出場

第15回寛仁親王杯剣道八段選抜大会 出場

#### 2. 指導業績

第16回世界剣道選手権大会, 男子団体戦; 優勝・竹ノ内佑也(日本). 日本武道館, 2015.5.29-31.

第16回世界剣道選手権大会, 男子個人戦; 準優勝・竹ノ内佑也(日本). 日本武道館, 2015.5.29-31.

第63回全日本学生剣道優勝大会, 優勝. 日本武道館, 2015.10.25.

第34回全日本女子学生剣道優勝大会, 第3位. 春日井市総合体育館, 2015.11.8.

第64回関東学生剣道優勝大会, 準優勝. 日本武道館, 2015.9.13.

第 41 回関東女子学生剣道優勝大会，準優勝．東京武道館，2015.9.19.

第 62 回全日本学生剣道選手権大会，優勝・林田匡平（4 年）．大阪府立体育会館，2015.6.28.

第 62 回全日本学生剣道選手権大会，第 3 位・竹ノ内佑也（4 年）．大阪府立体育会館，2015.6.28.

第 47 回関東女子学生剣道選手権大会，準優勝・佐々木奈緒（4 年）．東京武道館，2015.5.16.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本オリンピック委員会強化スタッフ（平成 22 年～）

全日本剣道連盟強化委員会委員（平成 25 ～）

全日本剣道連盟試合・審判委員会委員（平成 22 年～）

全日本学校剣道連盟常務理事（平成 19 年～）

全日本学生剣道連盟理事（平成 24 ～）

全日本学生剣道連盟審判委員会委員（平成 24 年～）

関東学生剣道連盟副幹事長（平成 24 ～）

関東学生剣道連盟審判委員会委員長（平成 24 年～）

茨城県剣道連盟常任理事（平成 18 年～）

茨城国体アドバイザー（平成 27 年～）

### 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

栃木県教育庁 栃木国体アドバイザー

茨城県教育庁 茨城国体アドバイザー

## 教授 小 俣 幸 嗣

## 研究業績

### 1. 学会発表

窪田友樹，竹澤稔裕，増地克之，松井 崇，川端健司，法兼 真，小倉大輝，小俣幸嗣：男子大学柔道選手の打込における持久力トレーニングの検証．日本武道学会第 48 回大会，東京，2015.9.

### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

茗体会百周年記念誌編集委員会：東京教育大学体育学部の歩み．茗体会，68-69，158-159，190-191，2015

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

全日本柔道連盟形審査員研修会 講師（東京，1 月 31 - 2 月 1 日）

オランダ柔道連盟形講習会 講師（オランダ，3 月 20 - 28 日）

全日本柔道連盟形審査員試験 審査員（大阪，6 月 7 日）

講道館夏期講習会 1 部 講師（東京，7 月 20 日）

全日本柔道連盟形審査員研修会 講師（愛知，8 月 1 - 2 日）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

アジア柔道連盟形委員長（2008年～）  
全日本柔道連盟参与（2014年～）  
全日本柔道連盟形特別委員会委員長（2014年～）  
講道館評議員（2007年～）  
関東学生柔道連盟会長（2012年～）  
全日本学生柔道連盟顧問（2013年～）

### 2. ボランティア活動

#### 2-b. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

アジア形選手権大会運営 タイ（12月20日）

## 教授 坂本 昭裕

## 研究業績

### 1. 学会発表

坂本昭裕，向後佑香，渡邊 仁，吉松 梓，杉岡品子：野外教育における心理臨床的アプローチ事例に学ぶVI－思春期を生きる子どもの身体に学ぶ－. 日本野外教育学会第18回大会，熊本，2015.6.

日比野功宜，坂本昭裕：自然体験活動の行政による支援事業の継続性に関する研究. 日本野外教育学会第18回大会，熊本，2015.6.

向後佑香，坂本昭裕：大学キャンプ実習における自己概念の変容についての一考察. 日本野外教育学会第18回大会，熊本，2015.6.

大友あかね，坂本昭裕，黒田拓史：統合型キャンプにおける不登校児童生徒の自己イメージと被受容感に関する研究－個別事例に着目して－. 日本野外教育学会第18回大会，東京，2015.6.

**Akihiro Sakamoto**：Therapeutic factors in outdoor experiential therapy program of truant adolescents. 14th European Congress of Sport Psychology, Bern, 2015. 7.

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「平成26年度プログラム開発事業課題を抱える青少年を対象とした体験活動プログラムの展開」中部北陸ブロック次長プロジェクト，独立行政法人国立青少年教育振興機構.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等

坂本昭裕：‘We are crew, not passengers. 平成26年度 YES I CAN IN 信濃川 2014－この夏で会える輝く自分－，24-25，2015.

坂本昭裕：キャンプで配慮が必要な子に出会ったら・・・. 日本キャンプ協会，キャンピング 168，p4，2015.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

<実践・ワークショップ>

株式会社アスリートクラブ, 「ロアッソ熊本グループワーク研修」講師, (1月30日～31日)

医療法人仁正会, 「ウィンターグループワーク研修」講師, (3月12日)

北海道立函館工業高校, 「サッカー部グループワーク研修」講師, (3月26日)

学校法人酪農学園大学とわの森三愛高等学校, 「軟式庭球部グループワーク研修」講師, (3月31日)

日本サッカー協会, 「JFA アカデミー福島グループワーク研修」講師, (4月18日)

クーバー・コーチング・ジャパン, 「ASE研修」講師, (4月19日)

公益財団法人日本水泳連盟, 「競泳日本代表選手グループワーク」講師, (5月12日)

日本オリンピック委員会, 「ナショナルコーチアカデミー野外研修」講師, (6月10日)

筑波大学人間総合科学研究科, 「学生の集い」講師, (7月3日)

独立行政法人青少年教育振興機構: 国立妙高青少年自然の家, 「不登校児童生徒及び一般の児童生徒対象の長期キャンプ妙高チャレンジ2015」講師, (7月27日～8月9日)

茨城県立下妻第一高等学校, 「バスケットボール部チームビルド研修」講師, (8月23日)

株式会社パル, 「グループワーク研修」講師, (9月5日)

学校法人酪農学園とわの森三愛高等学校, スポーツ科「グループワーク研修」講師, (10月14日)

茨城県立土浦第二高等学校, 「陸上部チームビルド研修」講師, (10月31日)

NPO法人キャンピズ, 障がい児キャンプ「キッズキャンプ」講師, (11月7日～8日)

<講義・講演等>

独立行政法人国立青少年教育振興機構, 中部北陸ブロック次長プロジェクト「課題を抱える青少年の評価ーみたてと効果測定ー」講師, (5月13日)

独立行政法人青少年教育振興機構: 国立妙高青少年自然の家, 自然体験活動指導者養成研修試行事業ー自然体験活動総括指導者養成試行事業ー「参加者理解」講師, (12月1日～2日)

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本野外教育学会理事(事務局)(2003～)

日本スキー学会理事(1993～)

日本臨床心理身体運動学会理事(2006～)

茨城県臨床心理士会理事(事務局)(2010～)

茨城県教育委員会スクールカウンセラー(2001～)

独立行政法人青少年教育振興機構: 国立妙高青少年自然の家「新しい公共」運営協議会委員(2013～)

日本キャンプ協会「グリーンキャンプ実行委員会」委員(2013～)

日本スポーツ振興センター「スポーツ指導における暴力行為等に関する第三者相談・調査委員会」委員(2013～)

#### 公共機関, 企業等からの委託業務(研究以外)

「野外体験活動を活用したグループワーク施設に関する提案」(株式会社今治夢スポーツ)

## 教授 佐野 淳

### 研究業績

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

佐野 淳, 技術力の指導, 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店, 480-487, 2015

佐野 淳, 体操競技における芸術的要素, 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店, 857-859, 2015

佐野 淳, 科学技術のスポーツへの応用, 1) 固定施設 (器械・器具を含む) の開発とスポーツ, ①体操競技にみる科学技術の応用, 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店, 877-879, 2015

佐野 淳, 科学技術のスポーツへの応用, 2) 支援装置の開発とスポーツ, ①体操競技にみる科学技術の応用, 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店, 884-886, 2015

佐野 淳, 科学技術のスポーツへの応用, 3) 測定器具の開発とスポーツ, ①体操競技にみる科学技術の応用, 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店, 892-893, 2015

佐野 淳, 科学技術のスポーツへの応用, 4) 情報の利用とスポーツ, ①体操競技にみる科学技術の応用, 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店, 898-899, 2015

佐野 淳, ゆか, 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店, 1138-1140, 2015

### 競技活動

#### 2. 指導業績

2015 NHK 杯 (部長兼女子監督として), 男子 22, 23 位; 女子 9 位

2015 東日本学生体操競技選手権大会 (部長兼女子監督として), 男子団体 3 位, 種目別鉄棒 3 位; 女子団体 3 位, 種目別段違い平行棒 2 位

2015 全日本学生体操競技選手権大会 (部長兼女子監督として), 男子団体 6 位, 男子個人総合 5 位, 男子種目別鉄棒 1 位, 女子団体 4 位, 女子個人総合 3 位, 種目別ゆか 2 位

2015 全日本体操競技選手権大会 (部長兼女子監督として), 男子団体決勝 8 位, 女子団体予選 10 位

2015 関東甲信越大学体育大会 (体操競技) (部長兼女子監督として), 男子団体優勝, 男子個人総合・種目別 6 種目優勝, 女子団体優勝, 女子個人総合 2 位, 種目別跳馬 & 平均台優勝, 段違い平行棒 2 位, ゆか 3 位

2015 関東学生新人&交流大会 (体操競技) (部長兼女子監督として), 男子新人戦一団体 7 位, 種目別鉄棒 1 位; 女子交流戦一個人総合優勝, 3 位, 種目別跳馬 & 段違い平行棒 & 平均台優勝, ゆか 2 位

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本スポーツ運動学会常任理事兼編集委員会委員長 (平成 15 年~)

## 教授 関子 浩二

### 研究業績

#### 1. 学会発表

岩崎仁美, 北崎悦子, 関子浩二: 新人消防官の消火活動パフォーマンスに影響を与える効果的なリーダーシップ行動—スポーツコーチングの理論を応用して—. 日本体育学会第 66 回大会, 東京,

2015. 8.

- 高橋和孝, 吉田拓矢, 荻山 靖, 坂口将太, 林 陵平, 宮代賢治, **関子浩二**: 伸張 - 短縮サイクル運動を強調した体幹捻転トレーニングが各投・打運動の能力と体幹筋横断面積に及ぼす影響. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015. 8.
- 関子あまね, 荻山 靖, **関子浩二**: リバウンドジャンプにおけるパフォーマンス変数および下肢関節キネティクスの縦断的变化とそのアセスメント. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015. 8.
- 中 宗一郎, 吉田拓矢, 荻山 靖, 関子あまね, **関子浩二**: ドロップジャンプにおけるパフォーマンスに至る時系列的な運動連関の究明. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015. 8.
- 松尾眞以子, 林 陵平, 荻山 靖, 金井 瞳, **関子浩二**: 幼児のための新しい投能力テスト法の開発 - 体重と手の大きさによるボール選択の必要性に着目して -. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015. 8.
- 金井 瞳, 坂口将太, 林 陵平, 荻山 靖, **関子浩二**: 年少児から年長児までの 3 年間に渡るリバウンドジャンプ能力の縦断的变化. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015. 8.
- Yoshida, T., Kariyama, Y., Hayashi, R., Takahashi, K., Zushi, A. and **Zushi, K.** Development of multistep drop jump test by using different drop heights. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Zushi, A., Kariyama, Y., Yoshida, T., Hayashi, R., Takahashi, K. and **Zushi, K.** Development of a new assessment method for the rebound jump test. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Hayashi, R., Kariyama, Y., Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and **Zushi, K.** Comparison of pull and catch phases during clean exercise. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Kariyama, Y., Hayashi, R., Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and **Zushi, K.** The effect of increasing jump steps on the take-off leg in bounding. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Takahashi, K., Yamada, K., Kariyama, Y., Hayashi, R., Yoshida, T., Zushi, A. and **Zushi, K.** The characteristics of hitting motion using bats having different length and mass but equal moment of inertia. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Zushi, A., Kariyama, Y., Yoshida, T., Hayashi, R., Takahashi, K. and **Zushi, K.** A new assessment method using a combination of joint kinetics and performance variables during the rebound jump test. XX-th annual Congress of the European College SPORT SCIENCE, Malmö, Sweden: 2015. 6.
- Kariyama, Y., Hayashi, R., Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and **Zushi, K.** The effect of increasing jump steps on the take-off leg joint kinetics in bounding. XX-th annual Congress of the European College SPORT SCIENCE, Malmö, Sweden, 2015. 6.
- Takahashi, K., Yamada, K., Kariyama, Y., Hayashi, R., Yoshida, T., Zushi, A. and **Zushi, K.** Differences in trunk twist motion using long or heavy bats with equal moments of inertia. XX-th annual Congress of the European College SPORT SCIENCE, Malmö, Sweden, 2015. 6.
- Yoshida, T., Hayashi, R., Kariyama, Y., Takahashi, K., Zushi, A., Maruyama, A. and **Zushi, K.** Relationship between intracortical inhibition during preset and performance during drop jump. XX-th annual Congress of the European College SPORT SCIENCE, Malmö, Sweden, 2015. 6.



- 林 陵平, 関子浩二: “ある若手アシスタントコーチ” が経験した7ヶ月間に渡る大学跳躍チームでのコーチング事例. 日本コーチング学会第26回大会, 大阪, 2015. 3.
- 片岡悠妃, 中西康巳, 藤林献明, 関子浩二: 大学女子バレーボールチームの一般準備期におけるトレーニング実践とその効果に関するフィールドワーク. 日本コーチング学会第26回大会, 大阪, 2015. 3.
- 戸邊直人, 荻山 靖, 関子浩二: 3D キネティクスを用いた男子走高跳トップジャンパーの技術評価. 日本コーチング学会第26回大会, 大阪, 2015. 3.
- 関子あまね, 荻山 靖, 関子浩二: リバウンドジャンプテストによる下肢3関節の筋力・パワーアセスメント法. 日本コーチング学会第26回大会, 大阪, 2015. 3.
- 福田将司, 吉田拓矢, 荻山 靖, 関子浩二: 野球の2塁打走における合理的なベースランニング法. 日本コーチング学会第26回大会, 大阪, 2015. 3.
- 米澤宏明, 林 陵平, 関子浩二: “ある男子三段跳選手” における大学4年間のパフォーマンス変化とトレーニング事例に関するコーチング学的研究—15m92 まで記録を高めた男子三段跳選手の事例を手がかりにして—. 日本コーチング学会第26回大会, 大阪, 2015. 3.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- 関子浩二: 体罰・暴力根絶のためのコーチング学からのアプローチ法. 体育学研究, 60: R10\_1-R10\_14, 2015.
- Yoshida, T., Kariyama, Y., Hayashi, R., Takahashi, K., Zushi, A. and **Zushi, K.**: Development of multistep drop jump test by using different drop heights. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 238-241, 2015, 6.
- Zushi, A., Kariyama, Y., Yoshida, T., Hayashi, R., Takahashi, K. and **Zushi, K.**: Development of a new assessment method for the rebound jump test. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 277-280, 2015, 6.
- Hayashi, R., Kariyama, Y., Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and **Zushi, K.**: Comparison of pull and catch phases during clean exercise. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 346-349, 2015, 6.
- Kariyama, Y., Hayashi, R., Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and **Zushi, K.**: The effect of increasing jump steps on the take-off leg in bounding. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 694-697, 2015, 6.
- Takahashi, K., Yamada, K., Kariyama, Y., Hayashi, R., Yoshida, T., Zushi, A. and **Zushi, K.**: The characteristics of hitting motion using bats having different length and mass but equal moment of inertia. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 702-705, 2015, 6.
- 坂口将太, 藤林献明, 吉田拓矢, 林 陵平, 関子浩二: 4歳から5歳に至る幼児のリバウンドジャンプ能力および疾走能力に関する縦断的变化. 体育学研究, 60(1): 1-12, 2015.
- 荻山 靖, 関子浩二: バウンディングにおける Stiffness 特性へ影響する踏切脚の力およびパワー発揮: リバウンドジャンプとの比較から. 体育学研究, 60(1): 137-150, 2015.
- 藤林献明, 関子浩二: リバウンドロングジャンプテストを用いた水平跳躍能力の評価と技術トレーニングへの応用. 陸上競技研究, 100(1): 4-14, 2015.

### 3. その他論文（報告書等）

北崎悦子，荻山 靖，**関子浩二**：競技力と人間力から評価した高卒と大卒テニス競技者の特性．テニスの科学，23: 52-53，2015.

荻山 靖，**関子浩二**：コーチング学会に関連する各スポーツ分野の専門学術領域の最新動向．コーチング学研究，28(2): 230-234，2015.

### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

**関子浩二**（分担執筆）：運動生理学 20 講（第 3 版），トレーニングとコンディショニング．朝倉書店，170-179，2015.

### 5. 受賞

若手研究 奨励賞（共同）：**関子あまね**，荻山 靖，**関子浩二**：リバウンドジャンプにおけるパフォーマンス変数および下肢関節キネティクスの縦断的变化とそのアセスメント．日本体育学会第 66 回大会，東京，2015. 8.

学会賞（共同）：戸邊直人，荻山 靖，**関子浩二**：3D キネティクスを用いた男子走高跳トップジャンパーの技術評価．日本コーチング学会第 26 回大会，大阪，2015. 3.

### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「身体のはね能力開発」（株式会社ディケイエイチ）

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

「暴力行為根絶に向けた取組～スポーツ指導者は何を行っているのか～（公益財団法人高知県体育協会）」  
講師（12月12日）

## 競技活動

### 2. 指導業績

<陸上部 監督としての指導実績>

団体

天皇賜杯 第 84 回日本学生陸上競技対校選手権大会

女子 総合 第 2 位

女子 トラック種目 第 6 位

女子 フィールド種目 優勝

女子 混成競技 第 5 位

女子 多種目第 5 位

男子 男子総合 第 6 位

男子 フィールド種目 第 2 位

男子 多種目 第 4 位

男子 混成競技 第 7 位

第 94 回関東学生陸上競技対校選手権大会

女子 総合優勝

女子 トラック種目 第 8 位

女子 フィールド種目 優勝  
男子 総合 第4位  
男子 フィールド種目 第3位

<陸上部 跳躍のコーチとしての指導実績>

個人

国際大会

セイコーゴールデングランプリ陸上 2015 東京 (東京・日本)

男子走高跳 第5位 2m20 戸邊 直人

男子走高跳 第7位 2m20 平松 祐司

ダイヤモンドリーグ第2戦 上海大会 (上海・中国)

男子走高跳 第4位 2m29 戸邊 直人

ダイヤモンドリーグ第8戦 パリ大会 (パリ・フランス)

男子走高跳 第9位 2m24 戸邊 直人

ダイヤモンドリーグ第11戦 ロンドン大会 (ロンドン・イギリス)

男子走高跳 第6位 2m24 戸邊 直人

ダイヤモンドリーグ第12戦 スtockホルム大会 (ストックホルム・スウェーデン)

男子走高跳 第9位 2m20 戸邊 直人

Gyulai István memorial (ブダペスト・ハンガリー)

男子走高跳 第7位 2m27 戸邊 直人

Internationales Hochsprung-Meeting Eberstadt (エバーシュタット・ドイツ)

男子走高跳 第11位 2m20 戸邊 直人

Thailand Open track and field Championships (タイ)

男子走幅跳 第1位 7m76 嶺村 鴻汰

世界陸上 2015 北京 (北京・中国)

男子走高跳 予選A組 第15位 2m26 戸邊 直人

男子走高跳 予選B組 第16位 2m17 平松 祐司

第28回ユニバーシアード競技大会 (光州・中国)

男子走高跳 予選A組 第8位 2m10 平松 祐司

Banskobystricka latka (バンシュカ・スロバキア)

男子走高跳 第11位 2 m 25 戸邊 直人

国内大会

第99回日本陸上競技選手権大会

男子走高跳 第1位 2m26 戸邊 直人

男子走高跳 第3位 2m23 平松 祐司

女子走高跳 第6位 1m75 寺谷 諭美

女子棒高跳 第6位 3m90 榎本 優子

男子走幅跳 第2位 7m81 嶺村 鴻汰

女子走幅跳 第5位 5m96 山田 優

天皇賜杯 第84回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子走高跳 第2位 2m22 平松 祐司

女子走高跳 第3位 1m76 寺谷 諭美

女子走高跳	第7位	1m70	庄司	雪乃
男子棒高跳	第7位	5m10	米原	博章
男子棒高跳	第8位	5m10	植松	倫理
女子棒高跳	第1位	3m80	榎本	優子
男子三段跳	第2位	15m77	山下	航平

#### 2015年日本学生陸上競技個人選手権大会

男子走高跳	第1位	2m20	平松	祐司 (大会タイ記録)
女子走高跳	第4位	1m70	松井	紗希
女子走高跳	第4位	1m70	寺谷	諭美
男子棒高跳	第5位	5m10	米原	博章
女子棒高跳	第5位	3m70	榎本	優子
男子三段跳	第7位	15m55	米澤	宏明
女子三段跳	第5位	12m54	劔持	早紀

#### 第94回関東学生陸上競技対校選手権大会

男子走高跳	第1位	2m28	平松	祐司 (大会記録)
男子走高跳	第4位	2m13	村岡	健也
女子走高跳	第1位	1m74	寺谷	諭美
女子走高跳	第2位	1m73	松井	紗希
男子棒高跳	第4位	5m00	米原	博章
男子棒高跳	第4位	5m00	植松	倫理
女子棒高跳	第5位	3m60	若園	茜
女子走幅跳	第5位	5m94	山田	優
男子三段跳	第2位	15m78	犬井	亮介
男子三段跳	第3位	15m74	山下	航平
女子三段跳	第5位	12m26	劔持	早紀

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本マルチサポート事業 トレーニング部門主任 (文部科学省) 2010年07月～現在

関東学生陸上競技連盟評議委員 2012年12月～現在

チームいばらぎサポート事業 2013年9月～現在

「コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」の作成」ワーキングチーム委員 2014年6月～  
2016年3月

日本体育学会編集委員・体育方法専門分科会理事 2013年3月～現在

日本コーチング学会 理事 2010年～現在

日本トレーニング科学会 理事 2004年～現在

日本スポーツ運動学会 理事 2005年～現在

日本陸上競技学会・理事 2013年～現在

日本バイオメカニクス学会・理事 2010年～現在

茨城体育学会・理事 2015年4月～現在

Japanese Journal of Elite Sports Support (JJESS) 編集委員 2015年4月～現在

### 3. 競技会引率・帯同等

第 28 回ユニバーシアード競技大会：韓国・光州：コーチ

第 15 回世界陸上競技選手権大会：中国・北京：コーチ

## 教授 高木英樹

### 研究業績

#### 1. 学会発表

Kiuchi A, Nakagawa A, Shiraki H, **Takagi H**, Nabekura Y, Zushi M: University of Tsukuba and NIFS to Launch a Specialized PhD Programme to Advance Physical Education Instructors in Higher Education Institutions. International Conference of AIESEP 2015 (International Association for Physical Education in Higher Education), Madrid (Spain), 2015.7.11.

川合英介, 椿本昇三, **高木英樹**: 水球競技における巻足動作時の足部流体力発揮に関する研究. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.17.

角川隆明, 津野天兵, 成田健造, 萬久博敏, 荻田 太, 仙石泰雄, 椿本昇三, **高木英樹**: 水中モーションキャプチャシステムと圧力分布計測を用いたクロール上肢動作の分析. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.17.

修行雄大, 松田昭博, **高木英樹**: 競泳飛び込み動作における水着の筋骨格シミュレーションによる力学的影響評価. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.17.

高橋亜紀, 椿本昇三, **高木英樹**: 飛込競技におけるノースプラッシュ入水に関する研究—上半身のボディ・アライメントに着目して—. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.18.

村川 諒, 下門洋文, **高木英樹**: PIV による水中ドルフィンキック時の流れ場の 3 次元化. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.18.

小林啓介, 仙石泰雄, **高木英樹**, 椿本昇三: 水中ドルフィンキックにおける最大努力以上のキック頻度増加が筋活動与える影響. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.18.

中島きよ, **高木英樹**: 「けのび」動作の指導法の違いによる効果の多角的検証—壁に接地するまでの姿勢変換に注目して—. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.18.

小池関也, 酒井 紳, 永井悠樹, **高木英樹**: 競泳スタート台上動作における身体推進メカニズム. スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2015, 草津, 2015.10.30.

修行雄大, 松田昭博, **高木英樹**: 筋骨格シミュレーションを用いた飛び込み動作における競泳用水着の人体への影響. スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2015, 草津, 2015.11.1.

#### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

**Takagi, H.**, Nakashima, M., Sato, Y., Matsuuchi, K., and Sanders, R.: Numerical and experimental investigations of human swimming motions. *Journal of Sports Sciences*, DOI: 10.1080/02640414.2015.1123284, 2015.

**高木英樹**: 競泳用水着における先端繊維素材の活用. 繊維学会誌. 71(8): 398-402, 2015.

**Takagi, H.**: Competitive swimming and ergonomics. *Journal of Ergonomics*, 5, DOI: 10.4172/2165-7556.1000e138, 2015.

Motomu NAKASHIMA, Yutaka MINAMI, **Hideki TAKAGI**: Optimizing simulation for lower limb motion during throwing in water polo. *Mechanical Engineering Journal*, 2 (4): 1-12, 2015.

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

高木英樹: 陸上競技・水泳/ルールとテクニック (絵と DVD でわかるスポーツ). 学研教育みらい, pp.41-63, 2015.

#### 6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く) 「速く泳ぐ為の競泳用水着に関する研究」(株式会社デサント)

### 教育活動

#### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

高木英樹: 「水泳大活やくブック」, ベネッセコーポレーション, 2015.

#### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

スポサイ (5) 水泳【前編】泳ぎの科学, Youtube <https://www.youtube.com/watch?v=xa-4jgjS6sY>

スポサイ (5) 水泳【後編】用具の科学, Youtube <https://www.youtube.com/watch?v=A7AKHYdH8DU>

「リオ五輪向け新作 (織研新聞)」(11月18日掲載)

「ドルフィンキックの速度が上がる競技用水着を開発 (Yahoo ニュース)」(11月18日掲載)

### 競技活動

#### 2. 指導業績

2015年度日本学生選手権水泳競技 (水球) 3位 監督

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本水泳・水中運動学会運営委員 (1999年～)

日本体育学会誌「体育学研究」編集委員 (2011年～)

日本バイオメカニクス学会誌「バイオメカニクス研究」編集委員 (2012年～)

日本水泳連盟「上級コーチ」養成講習会講師 (2015年11月)

公益財団法人健康・体力づくり事業財団「健康運動指導士」養成講習会講師 (2015年1月, 5月)

## 教授 椿本昇三

### 研究業績

#### 1. 学会発表

小林啓介, 仙石泰雄, 吉岡利頁, 山田眞崇, **椿本昇三**: MRI画像を用いた泳運動における筋活動評価の試み—ドルフィンキック泳を対象として—. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015.9.

川合英介, **椿本昇三**, 高木英樹: 水球競技選手における巻き足動作時の足部流体力発揮に関する研究. 日本水泳水中運動学会 2015年次大会, 東京, 2015.10.

角川隆明, 津野天兵, 成田健造, 萬久博敏, 荻田 太, 仙石泰雄, **椿本昇三**, 高木英樹: 水中モーションキャプチャシステムと圧力分布計測を用いたクロールの上肢動作の分析. 日本水泳水中運動学会 2015年次大会, 東京, 2015.10.

高橋亜紀, **椿本昇三**, 高木英樹: 飛込競技におけるノースプラッシュ入水に関する研究—上半身のボ

ディ・アライメントに着目してー. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.  
仙石泰雄, 小林啓介, 角川隆明, 成田健造, **椿本昇三**: 大学選手における水中ドルフィンキックパフォーマンスの改善要因の分析. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.  
小林啓介, 仙石泰雄, 高木英樹, **椿本昇三**: 水中ドルフィンキックにおける最大努力以上のキック頻度増加が筋活動に与える影響. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.  
小林明日香, **椿本昇三**, 仙石泰雄: 女子競泳選手におけるトレーニング負荷とコンディショニングの関係性—心拍数の応答を分析した事例研究—. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

角川隆明, 仙石泰雄, **椿本昇三**, 高木英樹: 平泳ぎキック動作中に働く非定常流体力と足部表面の圧力分布の関係水. 体育学研究 60:165-175, 2015.

## 3. その他論文 (報告書等)

川合英介, **椿本昇三**, 高木英樹: 水球競技選手における巻き足動作時の足部流体力発揮に関する研究. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 14-19, 2015.  
角川隆明, 津野天兵, 成田健造, 萬久博敏, 荻田 太, 仙石泰雄, **椿本昇三**, 高木英樹: 水中モーションキャプチャシステムと圧力分布計測を用いたクロールの上肢動作の分析. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 34-39, 2015.  
高橋亜紀, **椿本昇三**, 高木英樹: 飛込競技におけるノースプラッシュ入水に関する研究—上半身のボディ・アライメントに着目して—. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 82-85, 2015.  
仙石泰雄, 小林啓介, 角川隆明, 成田健造, **椿本昇三**: 大学選手における水中ドルフィンキックパフォーマンスの改善要因の分析. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 88-91, 2015.  
小林啓介, 仙石泰雄, 高木英樹, **椿本昇三**: 水中ドルフィンキックにおける最大努力以上のキック頻度増加が筋活動に与える影響. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 98-103, 2015.  
小林明日香, **椿本昇三**, 仙石泰雄: 女子競泳選手におけるトレーニング負荷とコンディショニングの関係性—心拍数の応答を分析した事例研究—. 日本水泳水中運動学会 2015 年次大会, 144-149, 2015.

## 5. 受賞

日本水泳水中運動学会<発表奨励賞>

仙石泰雄 (筑波大学), 発表題目: 一流大学競泳選手における水中ドルフィンキックパフォーマンス改善要因の分析

角川隆明 (筑波大学), 発表題目: 水中モーションキャプチャシステムと圧力分布計測を用いたクロールの上肢動作の分析

小林啓介 (筑波大学大学院), 発表題目: 水中ドルフィンキックにおける最大努力以上のキック頻度増加が筋活動に与える影響

小林明日香 (筑波大学大学院), 発表題目: 女子競泳選手におけるトレーニング負荷とコンディショニングの関係性—心拍数の応答を分析した事例研究—.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

樫本昇三（監修）：「B&G 水辺の安全教室」プログラムホームページ作成，「<http://www.bgf.or.jp/safetyprogram/>」，2015.3.

樫本昇三（座長）：「水辺の安全教室」座談会 B&G，2015.3.

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

樫本昇三：「北京体育大学・日本の学校体育の水泳指導についての指導要領の解説について」北京体育大学，2015.3.TIAS 出張

樫本昇三：「黒竜江省水泳連盟・筑波大学水泳部のコーチングについて」ハルビン，2015.3.TIAS 出張

樫本昇三：「上海体育学院・日本の学校体育の水泳指導についての指導要領の解説について」上海体育学院，2015.11.TIAS 出張

樫本昇三：「北京体育大学・水泳の安全教育—着衣泳について—」北京体育大学，2015.11.TIAS 出張

## 競技活動

### 2. 指導業績

水泳部最高顧問

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊 専門委員

茨城県水泳連盟 理事

茨城県水泳連盟 競技力向上アドバイザー

ジョイフルアスレティッククラブ筑波スポーツ科学研究所 客員研究員

春季筑波記録会研筑波記録会，茨城県水泳連盟主催，2015. 4.

### 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

樫本昇三：平成 27 年度 安全な水泳指導のための中央講習会 講師，東京都教育委員会，2015.5.

樫本昇三：平成 27 年度「B&G 海洋性レクリエーション指導員」養成研修会，講師，沖縄県，2015.6.

## 教授 中川 昭

## 研究業績

### 1. 学会発表

中川 昭・松尾彰文・松村 勲・高井洋平・鍋倉賢治：新時代を先導する体育・スポーツにおける実践的研究の構築に向けて．高度大学体育指導者養成大学院共同学位プログラムシンポジウム，東京，2015.2.

Kiuchi A , Nakagawa A, Shiraki H, Takagi H, Nabekura Y and Zushi M : University of Tsukuba and NIFS to launch a specialized PhD program to advance physical education instructors in higher education institution. 2015 Madrid AIESEP International Conference, Madrid, Spain, 2015.7.



## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

関子美和・中川 昭：国立大学における教養科目としての体育の現状－履修方法および担当教員に着目して－. 大学体育研究, 37:27-35, 2015.

長谷川悦示・中川 昭・古川拓生・竹村雅裕・嵯峨 寿：小学校体育授業のためのタグラグビー教材の開発. 筑波大学体育系紀要, 38:123-128, 2015

内山治樹・阿江通良・中川 昭・真田 久・佐野 淳・西嶋尚彦・有田祐二・本谷 聡・斎藤 卓・クラリク アンドレア・荻山 靖・椿本昇三・渡邊 仁・仙石泰雄・古屋朝映子・寺山由美・大山卞圭悟・木越清信・金谷麻理子・中西康己・秋山 央・吉田健司・藤本 元・山田永子・中山雅雄・古川拓生・三橋大輔・川村 卓・吹田真士・安藤真太郎・奈良隆章・岡田弘隆・増地克之・香田郡秀・森 俊男・池田英治：「実技検定」の運用とその評価：「標準」モデルの検証. 筑波大学体育系紀要, 38:93-109, 2015.

## 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

中川 昭：定量的ゲーム分析. 中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則（編） 21世紀スポーツ大事典，大修館書店，493-497，2015

## 競技活動

### 2. 指導業績

第 52 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 ベスト 8（部長）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本コーチング学会副会長（2015 年～）

茨城体育学会副会長（2015 年～）

教 授 長谷川 聖 修

## 研究業績

### 1. 学会発表

長谷川聖修，古屋朝映子，檜皮貴子，鈴木王香：東日本大震災・支援活動としての「交流型」体操指導の事例～つくば市在住の福島県双葉町避難者との活動実践から～. 日本コーチング学会第 26 回大会，大阪，2015. 3

小島瑞貴，渡辺みどり，鈴木王香，古屋朝映子，長谷川聖修，本谷 聡：子どもの握力向上を目指したフィットネスプログラムの試案，日本体育学会第 66 回大会，東京，2015.8

檜皮貴子，菅原知昭，田村元延，鈴木王香，古屋朝映子，長谷川聖修：児童の危険な転倒を予防する「体づくり運動」の教材試案－「体のバランスをとる運動」の実践事例－. 日本体育学会第 66 回大会，東京，2015.8

田村元延，鈴木王香，高橋靖彦，古屋朝映子，檜皮貴子，長谷川聖修：G ボール運動の安全指導に関するプログラムの開発. 日本体育学会第 66 回大会，東京，2015.8

### 3. その他論文（報告書等）

長谷川聖修：平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））「PTSD 及びうつ病等の環境要因等の分析及び介入手法の開発と向上に資する研究」分担研究報告書，P85-91，2015.3

長谷川聖修，古屋朝映子：筑波大学社会貢献プロジェクト 2014-2015 「つくば市民と福島県避難住民の健康づくり運動による交流活動の支援」，P68-69，2015.9

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）  
「握力向上プログラム」（一般社団法人日本こどもフィットネス協会）

### 教育活動

#### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

長谷川聖修：低学年からの G ボールエクササイズ，小二教育技術，67 (15) 3-6，小学館，2015.1

#### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

第 46 回全国学校体育実技指導者講習会講師，「体づくり運動（G ボール）」（東京都千代田区，7 月 27 日）

厚労省：健康運動実践指導者養成講習会「ウォーミングアップとクーリングダウン」（埼玉県越谷市，7 月）

（公財）日本体操協会：一般体操指導者養成講習会「体操の特性」「体操の分類と各種体操」「対象別指導法」（東京都，8 月延べ 3 日）

（公財）日本スポーツクラブ協会：介護予防運動スペシャリスト養成講習会「調整力及び柔軟性の向上に関する運動の実践」（東京都，12 月）

「高速なわとび（NHK 教育 スイエンサー）」（3 月 31 日放送）

「つくば体操フェスティバル（ACCS・TV）」（3 月放映）

### 競技活動

#### 1. 自身の競技実績

第 15 回世界体操祭（主催：世界体操連盟）フィンランド・ヘルシンキ大会 グループパフォーマンス・日本の夕べ 演技発表

第 15 回全日本ちゃれん G ボール大会（主催：NPO 法人日本 G ボール協会）「シンクロナイズド部門」「オープン演技部門」出場

2015 日本体操祭（主催：（公財）日本体操協会）「ラートフレンズ」「オールドボーイズ」演技発表

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

（公財）日本体操協会一般体操委員（1995 年～）

（NPO 法人）日本 G ボール協会理事長（2003 年～）

日本ラート協会理事（1990 年～）

日本体育学会代議員（2012 年～）

日本体操学会副会長（2010 年～）

日本コーチング学会理事（2010 年～）

## 2. ボランティア活動

### 2-a. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

「う・つく (ば+ふく) しま体操教室」指導 (つくば市, 1月-12月毎週月曜日, 延べ37日)

「復興支援体操教室 (チーム・ハセガワ)」指導 (北茨城市, 6月13日, 7月4日, 8月29日, 12月5日)

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 茨城」(共催, つくば市・筑波大学) 指導, つくば市, 5月16日

## 3. 競技会引率・帯同等

第15回世界体操祭, フィンランド・ヘルシンキ: 日本チーム団長

## 教授 本間三和子

### 研究業績

#### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

吉沢 剛, 金岡恒治, 松本高明, 成田崇矢, 江口隆夫, 田中基義, **本間三和子**, 馬場俊一: 膝蓋大腿関節障害を発症したシンクロナイズドスイミング選手の一例. 水と健康医学研究会誌, 17-1:29-32, 2015.

#### 3. その他論文 (報告書等)

嵯峨 寿, 秋山 央, 福田 崇, 奈良隆章, 朴 京眞, **本間三和子**: 体育センターによる平成26年度筑波大学重点公開講座の計画に当たって. 大学体育研究, 59-61, 2015

**本間三和子**: 平成26年度筑波大学重点公開講座 筑波大学移動キャンパス『出前公開講座』. 大学体育研究, 66-67, 2015

嵯峨 寿, **本間三和子**: 体育センターによる平成26年度筑波大学重点公開講座の振り返りと総括. 大学体育研究, 74, 2015

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

**本間三和子**: シンクロナイズドスイミングにおける芸術的要素. 編集主幹中村敏雄/高橋健夫/寒川恒夫/友添秀則, 21世紀スポーツ大事典, 大修館書店, 0862-0864, 2015

**本間三和子**: シンクロナイズドスイミング. 編集主幹中村敏雄/高橋健夫/寒川恒夫/友添秀則, 21世紀スポーツ大事典, 大修館書店, 1073-1076, 2015

**Miwako Homma**: Interim Report, Ad Hoc Committee On Degrees of Difficulty, FINA TECHNICAL SYNCHRONIZED SWIMMING COMMITTEE, 1-25, 2015.

### 教育活動

#### 1. 受賞

平成27年度筑波大学教員業績評価SS評価教員「社会貢献・学内運営領域」認定

#### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

**本間三和子**: 2015年度上期シンクロ日本代表派遣選手選考会総括. 月刊水泳, 3 (vol.464): 8-10, 2015

本間三和子：第16回世界水泳選手権大会シンクロ競技。月刊水泳，9（vol.470）：20-22，2015

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

第91回日本選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技（NHKテレビ解説）（5月4日放送）

「ザ・データマン「復活！シンクロ日本」」（NHK BS-1テレビ）（7月12日放送）

「香川県丸亀市講演会「逆境に感謝」」（丸亀市，4月4日）

国際水泳連盟（FINA）シンクロナイズドスイミング ジャッジスクール講師（マカオ，3月26-29日）

国際水泳連盟（FINA）シンクロナイズドスイミング ジャッジスクール講師（シンガポール，11月19-22日）

国際水泳連盟（FINA）シンクロナイズドスイミング エバリュエーターセミナー講師（カザン，7月29-30日）

国際水泳連盟（FINA）シンクロナイズドスイミング コーチ・ジャッジセミナー講師（カザン，7月31日）

公益財団法人日本オリンピック委員会ナショナルコーチアカデミー講師（東京，8月27日）

公益財団法人日本水泳連盟コーチ養成講習会講師（東京，11月28日）

公益財団法人日本水泳連盟上級コーチ養成講習会講師（東京，10月25日）

公益財団法人日本水泳連盟シンクロ公認審判員ABC級研修会講師（東京，2月21-22日）

公益財団法人日本水泳連盟シンクロ公認審判員AB級研修会講師（東京，8月5日）

公益財団法人日本水泳連盟シンクロ公認審判員BC級研修会講師（長野，8月21日）

公益財団法人日本水泳連盟シンクロ公認国際審判員研修会講師（東京，12月23日）

公益財団法人日本水泳連盟シンクロコーチキャンプ講師（東京，11月7日）

第3回 Diana Cup（新体操）審査員（つくば，12月26-27日）

JEATEC2015（国立スポーツ科学センター先端情報技術展示会）芸術系スポーツパネリスト（東京，1月30日）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本コーチング学会理事（2010～2012，2015～2016）

日本スポーツ運動学会理事（2009年～）

国際水泳連盟（FINA）シンクロ委員会委員（2000年～）

国際水泳連盟（FINA）シンクロナイズドスイミング難易率特別委員会委員長（2014年～）

アジア水泳連盟（AASF）シンクロ委員長（2000年～）

公益財団法人日本水泳連盟理事（2009年～）

公益財団法人日本水泳連盟シンクロ委員長（2009年～）

公益財団法人日本水泳連盟シンクロ委員会委員（1987年～）

公益財団法人日本オリンピック委員会選手強化本部「情報・医・科学専門部会」部会員（2013年～2015年6月）

公益財団法人日本オリンピック委員会専任コーチングディレクター（ジュニアアスリート担当）（2010年～）

公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ（医・科学スタッフ）（2002年～）

公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ（情報・戦略スタッフ）（2003年～）

公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ（コーチングスタッフ）（2005年～）

公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ（マネージメントスタッフ）（2009年～）

公益財団法人日本体育協会スポーツ医・科学専門委員（2003年～2015年3月）

公益財団法人日本体育協会国際交流専門委員（2015年4月～現在）

NPO 法人日本オリンピックズ協会代議員（2003年～）

茨城県水泳連盟理事（1996年～）

公益財団法人本田記念財団評議員

香川県丸亀市観光文化大使（2015年8月～）

追手門学院客員教授（2014年～）

学習院大学文学部教育学科特別講師（2014年～）

### 3. 競技会引率・帯同等（部活顧問としての活動は除く）

第16回FINA世界選手権シンクロナイズドスイミング競技：エバリュエーター（ロシア・カザン，7月）

スペインオープンシンクロ国際大会2015：審判員（スペイン・サバデル，6月）

第4回ブラジルオープンシンクロ大会：レフリー（ブラジル・リオデジャネイロ，4月）

第28回東南アジア大会シンクロナイズドスイミング競技：テクニカルデレゲート，レフリーおよびエバリュエーター（シンガポール，6月）

第8回AASFアジアエイジグループ選手権シンクロナイズドスイミング競技：テクニカルデレゲート（タイ・バンコク，10月）

第70回国民体育大会シンクロナイズドスイミング競技：レフリー（和歌山，9月）

第91回日本学生選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技（第7回学生シンクロ競技大会マーメイドカップ）：レフリー（名古屋，8月）

全国JOCジュニアオリンピックシンクロナイズドスイミング競技中四国ブロック予選大会：レフリー（高知，7月）

公益財団法人日本水泳連盟2015年度シンクロ日本代表派遣選手選考会：審判員（東京，9月・10月・11月）

## 教授 村田 芳子

### 研究業績

#### 1. 学会発表

朴 京眞，村田芳子：教員養成課程の大学におけるダンス授業の課題。日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

中島由梨，村田芳子：創作ダンスの「ものを使った表現」における動きの創出に関する一考察—「新聞紙」と「椅子」から引き出される動きを中心に。日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

山崎朱音，村田芳子，朴 京眞：創作ダンスの「即興表現」における学習者の動きを引き出す指導—「ひと流れの動き」に着目して—。日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

伊藤茉野，村田芳子：ダンスの学習における「他者との関わり」に関する研究—2人組の関係性に着目して—。日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

朴 京眞，村田芳子，山崎朱音：大学の教員養成課程におけるダンス授業の実態調査—2014年度シラバスの検討を通して—。日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会，東京，2015.9.

山崎朱音，村田芳子，朴 京眞：「ひと流れの動き」に着目した創作ダンスの指導。日本スポーツ教育学会第35回記念国際大会，東京，2015.9.

鈴木 純，村田芳子：ダンス必修化による中学校の授業の実態—創作ダンスと現代的なリズムのダンス

に着目してー。第 67 回舞踊学会大会，福島，2015.12.

村田芳子：「ダンスの学び」をみんなのものにー私の授業を変えた 4 つのこと。第 35 回全国創作舞踊研究発表会，静岡，2015.12.

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

朴 京眞，村田芳子，山崎朱音：日韓の新ナショナルカリキュラムにおけるダンスに関する内容の具体化と比較検討：韓国の「体育」の教科書を用いて。体育学研究，60(2015)：715-736，2015.

## 3. その他論文（報告書等）

村田芳子：今こそ「ダンスの学び」をすべての子どもたちにーダンス必修化を機に求められる教師の指導力の向上ー。舞踊教育学研究，16：1-2，2015.

村田芳子：「現代的なリズムのダンス」の特性を押さえた指導。舞踊教育学研究，16：63-64，2015.

## 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

村田芳子：今，ダンスが面白い！。こどもと体育，光文書院，pp.3，2015.

村田芳子，朴 京眞：＜中学・高等学校＞多様なテーマからの即興表現。保存版！ダンス指導ハンドブックⅥダンス指導実践集，女子体育，57(8・9)：50-55，2015.

村田芳子，朴 京眞：＜中学・高等学校＞ロックやヒップホップのリズムに乗って。保存版！ダンス指導ハンドブックⅥダンス指導実践集，女子体育，57(8・9)：62-67，2015.

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）  
「テーマ 4: 指導成果の検証: 「ダンス」領域の必修化に対応した指導の工夫改善とモデル授業事例の検討」  
（文部科学省 平成 27 年度委託研究 武道等指導充実・資質向上支援事業）

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

村田芳子：私の教師人生を変えたあの夏休み<sup>⑮</sup> 教師の醍醐味を教えてくれた言葉 - 「踊る旅人」として歩んだ私の夏休み。小学館総合教育技術 2015. 8：38-39，2015.

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

東京都幼稚園 身体表現講習会講師（6 月 3 日）

習志野市立屋敷小学校「体育授業研究会及び公開研究会」全体講師（6 月から 9 月事前指導 2 回，公開 10 月 8 日）

東京私立中学高等学校協会「第 40 回創作ダンス発表会」創作コンクール審査（6 月 21 日）

草加市小学校体育研究会「表現運動の指導力向上実技研修」講師（7 月 3 日）

岡山県小学校「第 52 回体育指導者研修会（表現リズム遊び，表現運動領域）講師（7 月 24 日）

仙台市教育委員会「学校体育実技研修会「表現運動・ダンス」講師（7 月 29 日）

第 28 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）大会役員（8 月 5 日～ 8 日）

（公社）日本女子体育連盟「サマーセミナー 2015（教員免許更新講習を含む）」ダンス実技講習「ダンス必修化に対応した指導」講師（8 月 20 日）

（公社）日本女子体育連盟「ダンスムーブメント指導員資格認定講習及び試験」講師及び検定委員（9 月 11・12・13 日）

広島県教育委員会 学校体育実技・指導実践講座「表現運動系・ダンス」講師（10月2日）  
第35回全国創作舞踊研究発表会（静岡）ダンス・ワークショップ講師（12月20日）

## 競技活動

### 2. 指導業績

第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）創作コンクール部門 文部科学大臣賞受賞  
作品指導 顧問（8月23日NHK教育全国放映）  
第18回アーティスティックムーブメント in トヤマ 松本千代栄賞受賞（優秀賞） 作品指導

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

（公財）日本スポーツ安全協会 副会長（平成22年～）  
（公財）日本体育協会 監事（平成23年～）  
（公社）日本女子体育連盟 顧問（平成25年4月～）  
第49回全国女子体育研究大会（東京大会）小学校分科会・助言者（事前授業7月14日，大会11月6・7日）  
日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門 舞踊研究会 会長（平成26年4月～）  
第34回全国創作舞踊研究発表会（つくば大会），大会実行委員長（2月7・8日筑波大学）  
舞踊学会理事（平成17年～） 第67回舞踊学会大会・担当理事（12月5・6日福島大学にて開催）  
第74回国民体育大会茨城県準備委員会 式典専門委員会委員（副委員長）（平成25年12月～）

## 教授 山田幸雄

## 研究業績

### 1. 学会発表

野中由紀，安藤真太郎，山田幸雄：卓球競技のカット主戦型の攻撃に関するゲーム分析．第66回日本体育学会大会，東京，2015.8.  
松尾博一，松元 剛，山田幸雄，増地克之：小学校高学年におけるゴール型球技種目に共通するゲームパフォーマンスに関する研究．第66回日本体育学会大会，東京，2015.8.  
花木大樹，三橋大輔，山田幸雄，窪田辰政：テニスのレッドボールでの指導がフォアハンドストロークに及ぼす影響．第66回日本体育学会大会，東京，2015.8.

### 3. その他の論文（報告書等）

窪田辰政，井上愛美，亀川かすみ，山田幸雄：運動とメンタルヘルス—心の健康に運動はどう関わるか—．大学体育研究（筑波大学体育センター），37，75-76，2015.  
山田幸雄：タイ，ラオスでのテニスを通じた国際交流．大学体育研究（筑波大学体育センター），37，45-46，2015.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

山田幸雄：魔球の科学．Newton，35-5，24-51，2015.3.26.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

山田幸雄: テニスとバドミントンのラケットについて (ZIP!). 日本テレビ, 2015.1.22.

山田幸雄: 錦織圭, 強さの秘密. ザ・データマン~スポーツの真実は数字にあり~, NHK BS, 2015.6.22.

山田幸雄: ストロークの科学【テニス】. サイエンスチャンネル, 科学技術振興機構, 2015.9.

山田幸雄: 上達の科学【テニス】. サイエンスチャンネル, 科学技術振興機構, 2015.9.

山田幸雄: メンタルと用具の科学【テニス】. サイエンスチャンネル, 科学技術振興機構, 2015.9.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

筑波大学国際テニストーナメント (ITF). 実行委員会委員長

日本スポーツ運動学会常任理事

日本スポーツ運動学会大会実行委員会副委員長

つくばスポーツフェスティバル 2015 実行委員会委員長

つくばスポーツフェスティバルパネルディスカッションパネリスト

茨城県体育協会競技力向上委員会副委員長

第74回国民体育大会茨城県競技力向上対策本部普及強化委員会委員

つくばマラソン運営委員会委員

教授 渡辺良夫

## 研究業績

### 2. 学術論文 (総説論文)

渡辺良夫: 個別運動学と一般運動学の架橋性. 伝承, 15: 1-26, 2015.

准教授 有田祐二

## 研究業績

### 1. 学会発表

竹中健太郎, 下川美佳, 有田祐二, 前阪茂樹, 前田 明: 剣道選手の打突と踏み込みの時間差について. 日本武道学会第48回大会, 東京, 2015.9.

木村悠生, 香田郡秀, 鍋山隆弘, 有田祐二, 川井良介: 大学剣道選手の正面打突動作に関する研究—個人差や指導ポイントとなる身体部位に着目して—. 日本武道学会第48回大会, 東京, 2015.9.

渡邊孝士郎, 香田郡秀, 鍋山隆弘, 有田祐二: 中華人民共和国における剣道の普及過程と現状について. 日本武道学会第48回大会, 東京, 2015. 9.

川井良介, 香田郡秀, 鍋山隆弘, 有田祐二, 木村悠生: 剣道競技者の構えから打突に至る過程の神経生理学的研究—室内モデル実験を用いて—. 日本武道学会第48回大会, 東京, 2015.9.

柴山久美, 鍋山隆弘, 有田祐二, 香田郡秀, 木塚朝博: 剣道における下肢の踏み切り動作の違いが打突時間に及ぼす影響. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015.8.



## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

川井良介，香田郡秀，鍋山隆弘，**有田祐二**，木村悠生：剣道競技者の脳内情報処理過程に関する研究：剣道を模した S1-S2 選択反応課題時の P300 に着目して．武道学研究，48-2：79-88，2015.

## 3. その他論文（報告書等）

松永政美，福本修二，百鬼史訓，**有田祐二**，氏家道男，軽米満世，楠 英人，堀山健治，蒔田 実，増田知幸，山中茂樹，吉村哲夫：文部科学省委託事業「平成 25・26 年度武道等指導推進事業」成果報告書．全日本剣道連盟，共著，2015.3.

## 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

**有田祐二**：絵と DVD でわかるスポーツルールとテクニック 6 柔道・剣道・相撲．学研教育出版，29-45，2015.

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

平成 27 年度第 5 回全国剣道指導者研修会－中学校武道必修化に伴う指導法－(近畿ブロック)講師．主催；日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援；文部科学省，大津，2015. 12.

平成 27 年度中央コーチ招聘事業 講師．一般財団法人茨城県剣道連盟・茨城県高体連剣道専門部，茨城県境町，2015. 12.

平成 27 年度第 5 回全国剣道指導者研修会－中学校武道必修化に伴う指導法－(中国ブロック)講師．主催；日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援；文部科学省，松江，2015. 11.

平成 27 年度第 5 回全国剣道指導者研修会－中学校武道必修化に伴う指導法－(関東ブロック)講師．主催；日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援；文部科学省，前橋，2015. 10.

文部科学省委託事業「平成 27 年度武道等指導充実・資質向上支援事業」講師中央オリエンテーション並びにコーディネーターオリエンテーション；講師．全日本剣道連盟，大阪，2015. 7.

平成 26 年度第 4 回全国剣道指導者研修会－中学校武道必修化に伴う指導法－(近畿ブロック)講師．主催；日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援；文部科学省，姫路，2015. 1.

筑波大学公開講座 スポーツ教室「剣道」(春季・秋季，延べ 16 回)

## 競技活動

### 1. 自身の競技業績

第 61 回全日本東西対抗剣道大会，東軍 22 将．熊本市総合体育館，2015.9.6.

第 57 回全国教職員剣道大会，高校・大学・教委の部個人戦 ベスト 16，2015.8.9.

### 2. 指導業績

第 16 回世界剣道選手権大会，男子団体戦；優勝・竹ノ内佑也（日本）．日本武道館，2015.5.29-31.

第 16 回世界剣道選手権大会，男子個人戦；準優勝・竹ノ内佑也（日本）．日本武道館，2015.5.29-31.

第 63 回全日本学生剣道優勝大会，優勝．日本武道館，2015.10.25.

第 34 回全日本女子学生剣道優勝大会，第 3 位．春日井市総合体育館，2015.11.8.

第 64 回関東学生剣道優勝大会，準優勝．日本武道館，2015.9.13.

第 41 回関東女子学生剣道優勝大会，準優勝．東京武道館，2015.9.19.

第 62 回全日本学生剣道選手権大会，優勝・林田匡平（4 年）．大阪府立体育会館，2015.6.28.

第 62 回全日本学生剣道選手権大会，第 3 位・竹ノ内佑也（4 年）．大阪府立体育会館，2015.6.28.

第 47 回関東女子学生剣道選手権大会，準優勝・佐々木奈緒（4 年）．東京武道館，2015.5.16.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本武道学会評議員（2011 年～）

身体運動文化学会常任理事（2009 年～）・編集委員（2009 年～）

全日本剣道連盟普及委員会学校教育部会委員（2009 年～）

文部科学省委託事業（武道等指導充実・資質向上支援事業）；全日本剣道連盟平成 27 年度武道等指導支援強化委員会委員（2015 年度）

### 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

公益財団法人日本武道館 武道学園・剣道 講師.

准教授 大山下 圭 悟

## 研究業績

### 1. 学会発表

Kenichi Hirose, **Keigo Ohyama Byun** and Mitsugi Ogata. Kinematic analysis of cable force during hammer throws with heavier implements. 33rd International Conference on Biomechanics in Sports. Poitiers, 2015, July.

河合郁実，前田 奎，水島 淳，**大山下圭悟**．円盤投における成功試技と失敗試技の比較．日本陸上競技学会第 14 回大会．東京，2015.11.

広瀬健一，**大山下圭悟**，尾縣 貢．ハンマー投におけるレジスティッドトレーニングの事例的研究．日本陸上競技学会第 14 回大会．東京，2015.11.

前田 奎，**大山下圭悟**．円盤投における国内下位競技者に求められる技術要因．日本体育学会第 66 回大会．東京，2015.8.

眞里谷健司，**大山下圭悟**，木塚朝博．男子やり投競技者を対象とした体幹部筋パワーの測定．日本体育学会第 66 回大会．東京，2015.8.

前田 奎，**大山下圭悟**，尾縣 貢．男子円盤投の記録と体力との関係．日本陸上競技学会第 14 回大会．東京，2015.11.

水島 淳，柴田篤志，小山宏之，**大山下圭悟**．運動会ではだして走るべきか．日本発育発達学会第 13 回大会．東京，2015.3.

中野美沙，**大山下圭悟**，尾縣 貢：女子やり投げ競技者における下肢のトレーニングがやり投げ動作に与える影響．第 26 回日本コーチング学会大会，大阪，2015.3.

中野美沙，**大山下圭悟**，尾縣 貢：女子やり投げ競技者の体力水準．第 14 回日本陸上競技学会大会，東京，2015.11.

Hoang The Nguyen, 前田 奎，廣瀬健一，中野美沙，**大山下圭悟**：シーズンを通じた身体意識の変化が投てき動作に与える影響．第 14 回日本陸上競技学会大会，東京，2015.11.

**Keigo OHYAMA BYUN**, Keita AKIMOTO, Shigeo HATAKEYAMA and Toshikatsu MIYAZAKI: Electromyographic analysis of propulsive leg motion in the national top-class discus thrower.

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

広瀬健一，大山下圭悟，藤井宏明，青木和浩，尾縣 貢：ハンマー投におけるレジスティッドトレーニングの負荷特性－高重量ハンマーによる投てきに着目して－. コーチング学研究 29, 31-40, 2015

## 4. 著書（事典，翻訳書等を含む）

大山下圭悟 共著：ステップアップ高校スポーツ 2015（陸上競技），大修館書店，pp. 54-83, 2015

大山下圭悟 共著：ステップアップ中学体育 2015（陸上競技），大修館書店，pp. 61-86, 2015

## 5. 受賞

優秀発表賞. Hoang The Nguyen, 前田 奎, 広瀬健一, 中野美沙, 大山下圭悟. シーズンを通じた身体意識の変化が投てき動作に与える影響. 日本陸上競技学会第 14 回大会.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

大山下圭悟：現場で使える機能解剖学「インナーマッスルの話（その 1）」JATI EXPRESS 46, 26-27. 2015

大山下圭悟：現場で使える機能解剖学「インナーマッスルの話（その 2）」JATI EXPRESS 47, 34-35. 2015

大山下圭悟：現場で使える機能解剖学「内転筋の話（その 1）」JATI EXPRESS 48, 34-35. 2015

大山下圭悟：現場で使える機能解剖学「内転筋の話（その 2）」JATI EXPRESS 49, 42-43. 2015

大山下圭悟：現場で使える機能解剖学「内転筋の話（その 3）～スプリントと内転筋～」JATI EXPRESS 50, 48-49. 2015

大山下圭悟：日本陸上競技連盟トレーナーセミナーテキスト バイオメカニクス：58-64, 2015

大山下圭悟：日本陸上競技連盟トレーナーセミナーテキスト コンディショニング：80-91, 2015

## 競技活動

### 2. 指導業績

<陸上競技 コーチとしての指導実績>

第 99 回日本陸上競技選手権大会

男子

ハンマー投 6 位 保坂雄志郎

女子

円盤投 優勝 坂口亜弓

ハンマー投 2 位 勝山眸美

やり投 7 位 久世生宝

第 69 回国民体育大会

成年女子ハンマー投 5 位 勝山眸美

成年女子やり投 4 位 久世生宝

天皇賜杯 第 83 回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子

砲丸投 3位 森下大地  
5位 赤間祐一  
ハンマー投 1位 保坂雄志郎  
やり投 8位 村澤裕雄平  
男子総合得点 6位

女子

円盤投 2位 辻川美乃利  
8位 知念莉子  
ハンマー投 3位 勝山眸美  
4位 江原宇宙  
やり投 3位 久世生宝  
女子総合得点 2位

#### 2015 日本学生陸上競技個人選手権大会

男子

やり投 5位 眞里谷健司  
8位 村澤雄平

女子

円盤投 3位 辻川美乃利  
8位 知念莉子

#### 第 31 回日本ジュニア陸上競技選手権大会

男子

やり投 4位 村澤雄平  
6位 猿渡裕貴

女子

ハンマー投 2位 江原宇宙

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員、役員

日本陸上競技連盟トレーナー部 委員（平成 11 年～）

関東学生陸上競技連盟 評議員（平成 23 年～）

関東学生陸上競技連盟 強化委員（平成 23 年～）

日本学生陸上競技連合 医事副委員長・トレーナー部長（平成 22 年～）

日本陸上競技学会 理事（平成 21 年～）

JOC 強化スタッフ（医科学スタッフ）

茨城陸上競技協会 理事（平成 24 年～）

#### 公共機関、企業等からの委託業務（研究以外）

ジュニア選手育成強化プログラム事業における体力測定・分析等に関する学術指導：茨城県教育委員会

## 研究業績

### 1. 学会発表

山口 香, 松田基子, 小林好信, **岡田弘隆**, 橋本佐由理: 大学男子柔道選手の競技成績の変化と自己イメージや心理的要因との関連. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

松田基子, 山口 香, 小林好信, **岡田弘隆**, 橋本佐由理: 大学女子柔道選手の競技成績の変化と自己イメージや心理的要因との関連. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

小林好信, 山口 香, 松田基子, **岡田弘隆**, 橋本佐由理: 大学柔道選手のスポーツ傷害と自己イメージやレジリエンス, 心理的競技能力の変化との関連について. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

金丸雄介, 小野卓志, **岡田弘隆**, 増地克之, 山口 香: 高校柔道選手の指導者に対する信頼感の競技レベルによる差異. 日本武道学会第 48 回大会, 東京, 2015.9.

齊藤昌幸, 柳澤 久, 増地千代里, **岡田弘隆**, 木村昌彦, 射手矢岬: ドスコイバーを用いた押し動作の運動学的研究. 日本武道学会第 48 回大会, 東京, 2015.9.

### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

**岡田弘隆**, 山口 香, 金丸雄介, 市村操一: 高校柔道部員の感じているコーチに対する信頼感. 筑波大学体育系紀要, 38: 69-76, 2015.3

山口 香, **岡田弘隆**, 増地克之, 市村操一: 日本における高校柔道部員とコーチ間の人間関係の検討 — CART-Q を用いて —. 筑波大学体育系紀要, 38: 59-67, 2015.3

齊藤昌幸, 射手矢岬, 岡田英孝, 柳澤 久, 齊藤 悟, 増地千代里, **岡田弘隆**, 木村昌彦: 柔道選手の押し動作におけるパワー発揮. 講道館柔道科学研究会紀要, 15: 83-93, 2015.3

### 4. 専門家, 学生向け著書(事典, 翻訳書等を含む)

**岡田弘隆**: 私の指導法. 月刊武道, 日本武道館, 42-51, 2015.11

## 教育活動

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

つくばユナイテッド柔道代表として少年柔道教室における指導(原則週 2 日, 延べ約 60 日)

東海ブロック少年(小学生)柔道強化合宿 講師(豊田市, 7 月 18 ~ 20 日)

茨城県柔道連盟審判講習会 講師(土浦市, 5 月 10 日)

茨城県柔道連盟審判講習会 講師(下館市, 9 月 20 日)

全日本柔道連盟新潟柔道教室 講師(新潟市新津武道館, 10 月 10 日)

全国少年柔道協議会少年柔道教室 講師(福岡武道館, 10 月 31 日)

平成 27 年度サウジアラビア王国派遣日本武道代表团 柔道団員(サウジアラビア王国, 11 月 10 ~ 16 日)

筑波大学とボルドー大学の交流(ボルドー, 2 月 6 ~ 13 日)

筑波大学とロシア国立体育大学等との交流(モスクワ, 5 月 25 ~ 30 日)

コーチセミナー 講師(イスラエル, 3 月 8 ~ 10 日)

コーチセミナー 講師(チェチェン, 3 月 12 ~ 13 日)

EJU エキスパートミーティングに参加(トルコ・アンタリヤ, 5 月 14 ~ 19 日)

## 競技活動

### 2. 指導業績

以下、柔道部総監督として指導した学生の主な競技成績

平成 27 年度全日本学生柔道団体優勝大会（男子）優勝

平成 27 年度全日本学生柔道団体優勝大会（女子）3 位

全日本選抜柔道体重別選手権大会 男子 81kg 級優勝（永瀬貴規）

アスタナ世界柔道選手権大会 柔道男子 81kg 級優勝（永瀬貴規），男子団体優勝（永瀬貴規）

柔道グランドスラム東京 男子 81kg 級 3 位（永瀬貴規）

全日本学生柔道体重別選手権大会 女子 52kg 級優勝（内尾真子）

光州ユニバーシアード大会 柔道女子 52kg 級優勝（内尾真子），女子 63kg 級優勝（津金恵），女子団体優勝（内尾真子，津金恵）

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 女子 63kg 級優勝（能智亜衣美）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

全日本柔道連盟国際委員会特別委員（2010 年～）

茨城県柔道連盟強化部長・副理事長（2015 年～）

関東学生柔道連盟理事（1998 年～）

ヨーロッパ柔道連盟エキスパート（2013 年～）

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

つくばユナイテッド柔道代表として少年柔道教室における指導（原則週 2 日，延べ約 60 日），および各種少年柔道大会（小学生，中学生）引率

#### 2-b. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

各種大会における審判，審判長等

#### 2-d. その他のボランティア活動

常総市水害被害の救援活動：茨城県・常総市：9 月

准教授 金 谷 麻理子

## 研究業績

### 3. その他論文（報告書等）

金谷麻理子：第 45 回世界体操競技選手権大会に参加して．大学体育研究，37:47-53，2015.

金谷麻理子：女性競技者の抱える問題，女性指導者増加のための具体的方策．体育学研究，Vol.60 No. Report. p.R15\_1-R15\_11, p.R15\_E, 2015

### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

金谷麻理子（分担執筆）：21 世紀スポーツ大事典：中村敏雄，高橋健夫，寒川恒夫，友添秀則 編，大

修館書店，平均台（分担執筆：p1150-1151），2015.1.

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）  
文部科学省委託事業 マルチサポート事業 研究開発担当者（平成 22 年～）

## 競技活動

### 2. 指導実績

第 28 回夏季ユニバーシアード競技大会（日本代表）女子団体総合第 2 位 日本 井上和佳奈（コーチ）  
第 68 回全日本学生体操競技選手権大会 団体総合第 4 位，個人総合第 3 位 井上和佳奈，跳馬 5 位  
井上和佳奈，段違い平行棒第 5 位 井上和佳奈，平均台第 5 位 井上和佳奈，ゆか第 2 位 井上  
和佳奈（コーチ）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育学会理事（平成 25 年～）

日本体操競技・器械運動学会常務理事（平成 24 年～）

茨城県教育委員会体育学習アドバイザー（平成 23 年～）

つくば市スポーツ振興審議会委員（平成 21 年～）

日本オリンピック委員会強化スタッフ（コーチングスタッフ）（平成 26 年～）

## 准教授 河合季信

## 研究業績

### 1. 学会発表

河合季信：ハイパフォーマンススポーツにおける世界の競争構造と材料科学への期待．第 25 回日本  
MRS 年次大会，横浜市，2015.12.

### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

河合季信：ショートトラックスピードスケート．中村敏夫ほか編，21 世紀スポーツ大辞典，大修館書  
店，1111-1112，2015

河合季信：アスリートライフスタイルの必要性．平成 26 年度文部科学省委託事業「2020 ターゲットエ  
イジ育成・強化プロジェクト（タレント発掘・育成コンソーシアム）」編，アスリートライフス  
タイルガイドブック，日本スポーツ振興センター，3-7，10，2015

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

公益財団法人日本オリンピック委員会 科学サポート部門委員（2013 年～）

公益財団法人日本オリンピック委員会 強化スタッフ（1999 年～）

独立行政法人日本スポーツ振興センター スポーツ開発事業推進部 アドバイザー（2015 年～）

一般社団法人 Non-Violence Project アドバイザー（2015 年～）

## 研究業績

### 1. 学会発表

- 岡本嘉一, 前原 淳, 金堀哲也, 南 学, 川村 卓: 低磁場四肢関節用 MRI を用いた野球肘検診の試み. 第 26 回日本骨軟部放射線研究会, 東京, 2015-1
- 梶田和宏, 川村 卓, 奈良隆章: 投手のバント処理に関する一考察バント時のセカンド送球における異なる捕球方法の比較. 日本コーチング学会第 26 回大会, 大阪体育大学 (大阪), 2015-3
- 野本堯希, 川村 卓: 野球球技におけるチームづくりに関する事例研究. 日本コーチング学会第 26 回大会, 大阪体育大学 (大阪), 2015-3
- 小倉 圭, 川村 卓: 内野手のゴロ処理におけるアプローチ局面に着目した指導に関する事例研究. 日本コーチング学会第 26 回大会, 大阪体育大学 (大阪), 2015-3
- 川村 卓: 私の考えるコーチング論: 野球のコーチング. ”私のコーチング” から ”私たちのコーチングへ” — 競技横断的なコーチング実践知の一般化・体系化に向けて — (シンポジウム). 日本体育学会第 66 回大会, 国士舘大学 (東京), 2015-8
- 川村 卓, 片山知博, 奈良隆章, 金堀哲也: 野球の制球力におけるパラボリックスロードリルのトレーニング効果. 日本体育学会第 66 回大会, 国士舘大学 (東京), 2015-8
- 小倉 圭, 野本堯希, 川村 卓: 技能水準の異なる野球内野手におけるゴロ処理動作の比較 — 上肢の動作に着目して —. 日本体育学会第 66 回大会, 国士舘大学 (東京), 2015-8
- 野本堯希, 小倉 圭, 川村 卓: 野球競技の打撃における個人戦術の実践知. 日本体育学会第 66 回大会, 国士舘大学 (東京), 2015-8
- 梶田和宏, 川村 卓, 島田一志, 八木 快: プロ野球捕手における二塁送球動作の特徴について. 日本体育学会第 66 回大会, 国士舘大学 (東京), 2015-8
- 平山大作, 川村 卓: 高校野球選手におけるバットヘッドスピードと体力特性の関係. 日本野球科学研究会第 3 回大会, 中京大学 (愛知), 2015-12
- 吉井理人, 川村 卓, 島田一志, 金堀哲也, 小倉 圭: プロ野球投手におけるクイックモーションの特徴について. 日本野球科学研究会第 3 回大会, 中京大学 (愛知), 2015-12
- 早津寛史, 川村 卓, 川口啓太, 金堀哲也: 投球動作改善ドリルの開発 ~ ベルトホールドスロー ~. 日本野球科学研究会第 3 回大会, 中京大学 (愛知), 2015-12
- 梶田和宏, 川村 卓, 島田一志, 金堀哲也, 八木 快: プロ野球捕手における二塁送球動作の特徴について. 日本野球科学研究会第 3 回大会, 中京大学 (愛知), 2015-12
- 小倉 圭, 川村 卓: 技能レベルの異なる内野手のゴロ捕球について ~ 捕球位置および上肢に着目して ~. 日本野球科学研究会第 3 回大会, 中京大学 (愛知), 2015-12
- 中田真之, 川村 卓, 島田一志, 松尾知之, 田中ゆふ, 平野裕一: 第 27 回 WBSC U-18 ベースボールワールドカップにおける内野併殺の時間分析. 日本野球科学研究会第 3 回大会, 中京大学 (愛知), 2015-12
- 八木 快, 川村 卓: 野球における後方飛球に対する外野手の背走について. 日本野球科学研究会第 3 回大会, 中京大学 (愛知), 2015-12
- 横山勇大, 川村 卓, 島田一志, 金堀哲也, 野本堯希: 野球の走塁における状況判断力テストの開発 ~ 1 死 2 塁の状況を例に ~. 日本野球科学研究会第 3 回大会, 中京大学 (愛知), 2015-12
- 壺内浩紀, 川村 卓, 島田一志, 松尾知之, 田中ゆふ, 高田義弘: 2015 年高校野球日本代表の各ケースにおける走塁タイムの分析. 日本野球科学研究会第 3 回大会, 中京大学 (愛知), 2015-12



- 大島 健, 奈良隆章, 川村 卓, 川口啓太, 伊藤栄治: アマチュア野球におけるジュニア期指導の現状～北海道地区に着目して～. 日本野球科学研究会第3回大会, 中京大学(愛知), 2015-12
- 吉井理人, 川村 卓, 島田一志, 金堀哲也, 小倉 圭: プロ野球投手におけるクイックモーションの特徴について. 第10回つくば野球研究会, つくば国際会議場(茨城), 2015-12
- 早津寛史, 川村 卓, 川口啓太, 金堀哲也: 投球動作改善ドリルの開発～ベルトホールドスロー～. 第10回つくば野球研究会, つくば国際会議場(茨城), 2015-12
- 梶田和宏, 川村 卓, 島田一志, 金堀哲也, 八木快: プロ野球捕手における二塁送球動作の特徴について. 第10回つくば野球研究会, つくば国際会議場(茨城), 2015-12
- 小倉 圭, 川村 卓: 技能レベルの異なる内野手のゴロ捕球について～捕球位置および上肢に着目して～. 第10回つくば野球研究会, つくば国際会議場(茨城), 2015-12
- 中田真之, 川村 卓, 島田一志, 松尾知之, 田中ゆふ, 平野裕一: 第27回WBSC U-18ベースボールワールドカップにおける投球傾向. 第10回つくば野球研究会, つくば国際会議場(茨城), 2015-12
- 八木 快, 川村 卓: 野球における後方飛球に対する外野手の背走について. 第10回つくば野球研究会, つくば国際会議場(茨城), 2015-12
- 壺内浩紀, 川村 卓, 島田一志, 松尾知之, 田中ゆふ, 高田義弘: 2015年高校野球日本代表の各ケースにおける走塁タイムの分析. 第10回つくば野球研究会, つくば国際会議場(茨城), 2015-12
- 大島 健, 奈良隆章, 川村 卓, 川口啓太, 伊藤栄治: アマチュア野球におけるジュニア期指導の現状～北海道地区に着目して～. 第10回つくば野球研究会, つくば国際会議場(茨城), 2015-12

## 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- 金堀哲也, 川村 卓, 岡本嘉一, 小倉 圭: 大学野球選手の内野ノック守備における動作パターン. コーチング学研究, 29(1): 23-29, 2015
- 内山治樹, 阿江通良, 中川 昭, 真田 久, 佐野 淳, 西嶋尚彦, 有田祐二, 本谷 聡, 斎藤 卓, クラリク アンドレア, 苅山 靖, 椿本昇三, 渡邊 仁, 仙石泰雄, 古屋朝映子, 寺山由美, 大山 卞圭吾, 木越清信, 金谷麻理子, 中西康己, 秋山 央, 吉田健司, 藤本 元, 山田永子, 中山雅雄, 古川拓生, 三橋大輔, 川村 卓, 吹田真士, 安藤真太郎, 奈良隆章, 岡田弘隆, 増地克之, 香田郡秀, 森俊男, 池田英治: 「実技検定」の運用とその評価ー「標準」モデルの検証ー: 筑波大学体育系紀要, 38: 93-109, 2015
- 阿江数通, 小池関也, 川村 卓: 打点高の異なる野球ティー打撃動作における体幹のキネティクスの分析. 体育学研究, 60(2): 635-649, 2015

## 4. 専門家, 学生向け著書(事典, 翻訳書等を含む)

- 川村 卓: 投球動作解析と野球指導. 野球の医学, 臨床スポーツ医学 2015年臨時増刊号(32巻), 文光堂, 東京, 2015
- 川村 卓: 監督・コーチ養成講座. 洋泉社, 東京, pp240, 2015
- 川村 卓: キャッチャーの科学. 洋泉社 MOOK, 洋泉社, 東京, pp128, 2015
- 川村 卓: 高校球児の「教科書」(DVD). ジャパンライム, 東京, 2015
- 川村 卓: 野球監督の『365日』～座学で学ぶ「チームマネジメント」と「選手育成」～(DVD). ジャパンライム, 東京, 2015
- 川村 卓: プロ野球選手になるために小学生のうちにやっておくべき練習～動作分析のスペシャリストが教える「22のバッティングドリル」～(DVD). リアルスタイル, 奈良, 2015
- 川村 卓: プロ野球選手になるために中学生のうちにやっておくべき練習～動作分析のスペシャリスト

が教える「24のバッティングドリル」～(DVD). リアルスタイル, 奈良, 2015

## 教育活動

### 2. 一般向け著書

- 川村 卓:「男が惚れる男キミは黒田を見たか」. 週間現代 16号(4月18日号), pp193-200, 講談社, 東京, 2015
- 川村 卓:「大谷翔平 3年目の進化を全角度解析する」. 週間フライデー 17号(4月24日号), pp5-9, 講談社, 東京, 2015
- 川村 卓:「動作解析 筒香嘉智」. 週間現代 24号(6月12日号), pp25-31, 講談社, 東京, 2015
- 川村 卓:「松井裕樹 この『高速スライダー』を見よ!」. 週間現代 27号(7月4日号), pp181-188, 講談社, 東京, 2015
- 川村 卓:「プロ野球『一流の男たち』肉体の秘密」. 週間現代増刊 Special (10月号), pp45-51, 講談社, 東京, 2015

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

TSA 星空野球教室 (小中学生向け野球教室・週2回通年)

投球分析・球辞苑『アンダースロー』(NHK - BS1) (8月23日放送), 2015

「野球のバイオメカニクス (講演)」. 全日本野球指導者講習会, 全日本野球協会, 幕張メッセ国際会議場 (千葉), 2015-1-17

「野球の打撃動作とコーチング」(講演). 野球力指導アカデミー③, BSIP 事務局, 電通本社ビル (東京), 2015-1-21

「科学の眼から見た野球のコーチング」(実技指導・講演). 奥州市水沢地区野球指導者講習会, 水沢高校 (岩手), 2015-1-25

「科学の眼から見た野球の動作」(講演). 東邦ガス野球部講習会, 邦和スポーツランド (愛知), 2015-1-29

「これからの野球指導」(講演). 野球力指導アカデミー④, BSIP 事務局, 電通本社ビル (東京), 2015-2-18

「小学生の野球指導」(講演). IBA 茨城野球指導者講習会. IBA 茨城事務所 (茨城), 2015-2-21

投球分析・解説監修・プロ野球ニューウェーブ 新時代のスーパースターを探せ. NHK - BS1 (3月6日放送), 2015

打撃分析監修・ザ・データマン「時速192.2キロ 大リーグ・驚異のホームラン」. NHK - BS1 (3月26日放送), 2015

「大谷翔平 右ふくらはぎ『つり』は肉体進化」. 週間フライデー 20・21号(5月15日号), pp82-83, 講談社, 東京, 2015

「イチローが激賞『大谷翔平は文句なしヤンキースの4番』」. 週間フライデー 24号(6月12日号), pp22-23, 講談社, 東京, 2015

「野球の歴史とコーチング」(講演). 野球力指導アカデミー①, 株式会社ベースボールラボラトリー (東京), 2015-7-15

「投球の科学とコーチング」(講演). 野球力指導アカデミー②, 株式会社ベースボールラボラトリー (東京), 2015-8-19

「打撃の科学とコーチング」(講演). 野球力指導アカデミー③, 株式会社ベースボールラボラトリー (東京), 2015-9-16

「メジャーにも進撃の巨人」. 朝日新聞社（10月24日紙面），北海道新聞社，2015  
「守備および走塁の科学とコーチング」（講演）. 野球力指導アカデミー④，株式会社ベースボールラボ  
ラトリー（東京），2015-11-18  
「初心者から成人まで発育発達に応じた野球のコーチング」（講演）. 野球力指導アカデミー⑤，株式会  
社ベースボールラボラトリー（東京），2015-12-16  
「野球のバイオメカニクスと指導」（実技指導・講演）. 体協野球指導者資格講習会，全日本軟式野球連盟，  
日本体育大学（神奈川），2015-11-21  
「科学の眼でみた野球のコーチング」（実技指導・講演）. 北海道高等学校野球連盟小樽支部講習会，小  
樽水産高校（北海道），2015-11-28  
「大谷翔平3年目の二刀流（上）」. 北海道新聞（12月10日紙面），北海道新聞社，2015  
「科学の眼でみた野球のコーチング」（実技指導・講演）. 北海道高等学校野球連盟名寄支部講習会，士  
別市民文化センター（北海道），2015-12-19  
「スポーツ科学の眼から見た野球のコーチング」（講演）. 愛知県茗友会「若手の会」，アイリス愛知（愛知），  
2015-12-23

## 競技活動

### 2. 指導業績

2015年首都大学野球春季リーグ4位（監督）  
2015年首都大学野球秋季リーグ戦3位（監督）  
2015年横浜市長杯関東地区大学野球選手権大会出場（監督）  
2015年関東甲信越国立大会（野球・優勝）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本コーチング学会編集委員  
全日本大学野球連盟監督会常任委員  
首都大学野球連盟理事・評議員  
首都大学野球連盟監督会会長  
日本野球科学研究会運営委員  
つくば野球研究会幹事  
星空野球教室（週2回，通年）主催  
BSIP 野球力測定監修

### 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

動作分析測定・ゲームアナライズ（東京ガス野球部）  
動作分析測定・ゲームアナライズ（東邦ガス野球部）  
動作分析・体力測定・ゲームアナライズ（日立製作所野球部）  
BSIP 野球力測定（Fクレスト）  
株式会社ベースボールラボラトリー

## 研究業績

### 1. 学会発表

**Satoru Tanigawa**, Kenichi Okano, Hikari Naito, Nakaba Akiyama, David H. Fukuda, Jeffrey R. Stout, Jay R. Hoffman Effect of age on peak jump performance in volleyball players. 62th American College of Sports Medicine, San Diego, CA, USA, 2015, 5.

**Satoru Tanigawa**, Ran Wang, Amelia Miramonti, Mattan W. Hoffman, David Fukuda, Jeffrey Stout, Jay Hoffman. Evaluation of Performance Measures between Field Tests and GPS Tracking in College Rugby Players. 38<sup>th</sup> National Strength & Conditioning Association Conference, Orlando, FL, USA. 2015, 7.

David Fukuda, Amelia Miramonti, Mattan W. Hoffman, Ran Wang, Michael B. La Monica, Kyle S. Beyer, Josh Riffe, **Satoru Tanigawa**, Jeffrey Stout, Jay Hoffman. ASSOCIATION BETWEEN SPATIAL AWARENESS AND MEDIUM INTENSITY CRUISING/STRIDING DURING A COLLEGIATE RUGBY UNION MATCH. 38<sup>th</sup> National Strength & Conditioning Association Conference, Orlando, FL, USA, 2015, 7

Ran Wang, Jay Hoffman, David Fukuda, **Satoru Tanigawa**, Amelia Miramonti, Jeffrey Stout. ISOMETRIC MID-THIGH PULL IS CORRELATED WITH AGILITY AND SHORT SPRINT PERFORMANCE IN COLLEGIATE RUGBY PLAYERS. 38<sup>th</sup> National Strength & Conditioning Association Conference, Orlando, FL, USA. 2015, 7.

Mattan W. Hoffman, Jeffrey Stout, Amelia Miramonti, Michael B. La Monica, Ran Wang, Kyle S. Beyer, **Satoru Tanigawa**, David Fukuda, Jay Hoffman. A 30-Sec All-Out Test Using a Non-Motorized Treadmill Correlates to Power and Quickness in Collegiate Rugby Players. 38<sup>th</sup> National Strength & Conditioning Association Conference, Orlando, FL, USA. 2015, 7.

Michael B. La Monica, David Fukuda, Kyle S. Beyer, Mattan W. Hoffman, **Satoru Tanigawa**, Jeffrey Stout, Jay Hoffman. Performance Profiles of Championship-Level Collegiate Rugby Players: Comparison between Athletes of Different Position Groups. 38<sup>th</sup> National Strength & Conditioning Association Conference, Orlando, FL, USA. 2015, 7.

Alyssa N. Varanoske, David Fukuda, Carleigh H. Boone, Ran Wang, Amelia Miramonti, Michael B. La Monica, Mattan W. Hoffman, Joshua J. Riffe, **Satoru Tanigawa**, Jeffrey Stout, Jay Hoffman. EVALUATION OF BILATERAL DIFFERENCES IN LOWER BODY MUSCLE MORPHOLOGY AND POWER PRODUCTION IN COLLEGIATE RUGBY PLAYERS. 38<sup>th</sup> National Strength & Conditioning Association Conference, Orlando, FL, USA. 2015, 7.

Hikari Naito, Yasushi Kariyama, Kohei Yamamoto, **Satoru Tanigawa**. Sprint Step-Type Specific Characteristics of Anthropometric and Kinematic Variables in Sprinting Acceleration International Sports Biomechanics Society, Poitiers, France, 2015, 6.

宮代賢治, 山元康平, 谷川 聡, 西嶋尚弘. 女子スプリンターにおける走力・身長別の標準ステップ変数. 陸上競技学会, 東京, 2015, 11.

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

**Satoru Tanigawa**, Shinosuke Hattori, Hikari Naito, Seita Kuki, Kenichi Okano, Kenichi Yoshida : Long-Term Training-Induced Changes in Jump and Sprint Performance in CollegeBasketball

Players. Conference Papers 9<sup>th</sup> Annual Coaches and Sport Science College, 9, 6-8, 2014.

岡野憲一, 内藤 景, 谷川 聡: 天皇杯全日本バレーボール選手権大会優勝チーム選手における形態, 柔軟性及び跳躍能力の特徴. コーチング学研究, 28(2): 141-150, 2015

岡野憲一, 谷川 聡: コンプレックス・トレーニングが大学男子バレーボール選手の跳躍力および筋力, パワーに及ぼす影響. バレーボール研究, 17(1): 12-18, 2015.

岡野憲一, 谷川 聡: 男子バレーボール選手の身長に関する研究. バレーボール研究, 17(1): 37-41, 2015.

宮代賢治, 山元康平, 内藤 景, 谷川 聡, 西嶋尚彦. 男子 100m 走における記録・身長・風速別の標準通過時間および標準区間時間. スポーツパフォーマンス研究, 7: 356-369, 2015.

## 競技活動

### 2. 指導業績

本学陸上競技部コーチ

### 3. 競技会等の解説

第 15 回世界陸上競技選手権北京大会 TBS 世界陸上解説, 北京, 2015, 8.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本陸上競技連盟強化委員・ハードル部長 (2013 年～)

JOC スポーツ指導者海外研修 2014 年 8 月～2015 年 7 月 アメリカ合衆国フロリダ州オーランドにて  
オリンピック・世界選手権金メダリスト 3 名のコーチの元でコーチング・トレーニング研修

### 3. 競技会引率・帯同等

本学陸上競技部の競技会引率・帯同 年間 10 回以上.

准教授 寺山由美

## 研究業績

### 1. 学会発表

Yumi Terayama: Consideration of the “movement with the intention” for dance in Japanese Physical Education Curriculum. The 2015 International Association for the Philosophy of Sport Conference, United Kingdom (Cardiff, Wales), 2015.9.

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

成瀬麻美, 寺山由美, 宗宮悠子: 表現遊びの即興時に現れる「模倣」の種類: - 4 校の小学校 2 年生を対象に-. スポーツ教育学研究, 34 (1): 1-11

内山治樹, 阿江通良, 中川 昭, 真田 久, 佐野 淳, 西嶋尚彦, 有田祐二, 本谷 聡, 斎藤 卓, クラリク アンドレア, 苅山 靖, 椿本昇三, 渡邊 仁, 仙石泰雄, 古屋朝映子, 寺山由美, 大山圭吾, 木越清信, 金谷麻理子, 中西康己, 秋山 央, 吉田健司, 藤本 元, 山田永子, 中山雅雄, 古川拓生, 三橋大輔, 川村 卓, 吹田真士, 安藤真太郎, 奈良隆章, 岡田弘隆, 増地克之, 香田郡秀,

森 俊男, 池田英治, 「実技検定」の運用とその評価—「標準」モデルの検証—. 筑波大学体育系紀要, 38: 93-109, 2015.

### 3. その他論文 (報告書等)

古川拓生, 寺山由美: インタビュー 扉を開く: 無理と言われた国立大学ラグビー部が決勝に進む. 女子体育: 57 (4) 6-11

寺山由美: 小学校 中学年 リズムダンス「リズムと友だち!」: リズムが変わると動きが変わるね. 女子体育: 57 (8) 26-31

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学ダンス部 全日本高校・大学ダンスフェスティバル (神戸) 文部科学大臣賞 顧問

筑波大学ダンス部 アーティスティック・ムーブメント in 富山 松本千代栄賞 顧問

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本女子体育連盟理事 (2008 年～)

舞踊研究会理事 (2002 年～)

舞踊学会監事・編集委員 (2013 ～)

准教授 中西康己

## 研究業績

### 3. その他論文 (報告書等)

内山治樹, 阿江通良, 中川 昭, 真田 久, 佐野 淳, 西嶋尚彦, 有田祐二, 本谷 聡, 斎藤 卓, クラリク アンドレア, 荻山 靖, 椿本昇三, 渡邊 仁, 仙石泰雄, 古屋朝映子, 寺山由美, 大山圭吾, 木越清信, 金谷麻理子, 中西康己, 秋山 央, 吉田健司, 藤本 元, 山田永子, 中山雅雄, 古川拓生, 三橋大輔, 川村 卓, 吹田真士, 安藤真太郎, 奈良隆章, 岡田弘隆, 増地克之, 香田郡秀, 森 俊男, 池田英治, 「実技検定」の運用とその評価—「標準」モデルの検証—. 筑波大学体育系紀要, 38: 93-109, 2015.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

第 28 回ユニバーシアード光州大会: 韓国・光州: Technical Sub-Committee for Volleyball Jurors

## 准教授 中 村 剛

### 研究業績

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

Nakamura, T., Sato, M.: Die Lehrmethode zur Förderung des Herausbekommens des „Kniffs“. Schriften der Deutschen Vereinigung für Sportwissenschaft, 242 (Dimensionen des Bewegungslernens im Turnen): 35-43, 2015.

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

埼玉県立総合教育センター平成 27 年度体育・スポーツサポート講座「やったね，できたね教室」講師（行田市，6 月 21 日）

平成 27 年度茨城県学校体育実技指導者講習会 中学校・中等教育学校・高等学校【器械運動】講師（笠間市，8 月 3 日）

東京都教職員研修センター専門性向上研修体育ⅡA「体育指導の充実のための授業改善の視点」講師（世田谷区，8 月 18 日）

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本スポーツ運動学会 常任理事（2010 年～），編集委員（2015 年～）

日本体操競技・器械運動学会 常務理事（2009 年～）

## 准教授 中 山 雅 雄

### 研究業績

#### 1. 学会発表

森 政憲，田村達也，堀野博幸，小井土正亮，**中山雅雄**，浅井 武：皇后杯全日本女子サッカー選手権大会のシュート傾向に関する事例研究，日本コーチング学会 第 26 回大会，大阪，2015.3.

Yusuke Tabei, **M Nakayama**, T Asai ; Preventing athlete burnout among Japanese adolescent soccer players, 8th World Congress on Science and Football, Copenhagen, 2015.5.

Masanori Mori, Midori Haranaka, Tatsuya Tamura, Hiroyuki Horino, Masaaki Koido, **Masao Nakayama**, Takeshi Asai ; Case study on offensive tactics in top-level women's football in Japan, 8th World Congress on Science and Football, Copenhagen, 2015.5.

Takayuki Natsuhara, **Masao Nakayama**, Takaaki Kato, Tomohisa Nagano, Takeshi Asai ; Visual search behaviors of soccer players in a simulated decision-making task, 8th World Congress on Science and Football, Copenhagen, 2015.5.

Midori Haranaka, Masanori Mori, Masaaki Koido, **Masao Nakayama**, Takeshi Asai ; Life stories of practical wisdom coaching methods used by youth team coaches at a J. League Academy who train players (former J. League soccer players), 8th World Congress on Science and Football, Copenhagen, 2015.5.

夏原隆之，**中山雅雄**，加藤貴昭，永野智久，浅井 武；サッカーのパス遂行場面における熟練選手の視

覚探索特性. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

松竹貴大, 夏原隆之, 田部井祐介, **中山雅雄**, 浅井 武; サッカー選手の判断時における脳内情報処理過程, 日本スポーツ心理学会第 42 回大会, 北九州, 2015.11.

**中山雅雄**; トレーニングをデザインする, 学会企画シンポジウム「感性学のスポーツ心理学への応用・展開を考える」, 日本スポーツ心理学会第 42 回大会, 北九州, 2015.11.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

**Masao Nakayama**, Midori Haranaka, Ryouta Sasaki, Yusuke Tabei, Teppei Kuwabara and Yusuke Hirashima : Comparative Analysis of Attack-related Game Aspects in the Japanese University Football League, Japanese J-League, and UEFA Champions League. *Football Science*,12, 58-66, 2015

原仲 碧, **中山雅雄**. 小井土正亮, 桑原鉄平, 森 政憲, 浅井 武; 育成年代サッカーコーチ (元 J リーガー) のコーチング実践知に関するライフストーリー研究. *コーチング学研究*, 28 (2) : 163-173. 2015.

夏原隆之, **中山雅雄**, 加藤貴昭, 永野智久, 吉田拓矢, 佐々木亮太, 浅井 武; サッカーにおける戦術的判断を伴うパスの遂行を支える認知プロセス. *体育学研究*, 60 (1) : 71-85. 2015

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

**中山雅雄**, サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. *JFA news* 2月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2015

**中山雅雄**, サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. *JFA news* 4月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2015

**中山雅雄**, サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. *JFA news* 6月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2015

**中山雅雄**, サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. *JFA news* 8月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2015

**中山雅雄**, サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. *JFA news* 10月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2015

**中山雅雄**, サッカー心育論 たくましい心を育むコーチング. *JFA news* 12月号, 公益財団法人日本サッカー協会, 2015

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

サイエンス チャンネル サッカー「後編」メンタルと用具の科学 科学技術振興機構 (公財) 日本サッカー協会 JFA フットボールフューチャープログラム トレセン研修会 U-12 「自立する子どもを育てるには」 (御殿場市 8月1日)

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学蹴球部 総監督



## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本サッカー協会 指導者養成サブダイレクター  
青年海外協力協会（JOCA）技術専門委員

准教授 鍋山隆弘

## 研究業績

### 1. 学会発表

木村悠生，香田郡秀，鍋山隆弘，有田祐二，川井良介：大学剣道選手の正面打突動作に関する研究－個人差や指導ポイントとなる身体部位に着目して－. 日本武道学会第 48 回大会，東京，2015.9.  
渡邊孝士郎，香田郡秀，鍋山隆弘，有田祐二：中華人民共和国における剣道の普及過程と現状について. 日本武道学会第 48 回大会，東京，2015.9.  
川井良介，香田郡秀，鍋山隆弘，有田祐二，木村悠生：剣道競技者の構えから打突に至る過程の神経生理学的研究－室内モデル実験を用いて－. 日本武道学会第 48 回大会，東京，2015.9.  
柴山久美，鍋山隆弘，有田祐二，香田郡秀，木塚朝博：剣道における下肢の踏み切り動作の違いが打突時間に及ぼす影響. 日本体育学会第 66 回大会，東京，2015.8.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

川井良介，香田郡秀，鍋山隆弘，有田祐二，木村悠生：剣道競技者の脳内情報処理過程に関する研究：剣道を模した S1-S2 選択反応課題時の P300 に着目して. 武道学研究，48-2：79-88，2015.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

新・剣道の技術大 2 弾. 完全なる面を打つ. 月刊剣道時代 2015.12. 44-49

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

いばらきスポーツアカデミー「剣道競技体験教室」. 古河市立総和中学校 .2015.1.17  
第 10 回関東学生剣道セミナー. シンポジウム. 国立オリンピック記念青少年総合センター 2015.1.24  
タイナショナルチーム剣道セミナー 2015.7.8  
バンコク日本人学校剣道教室 2015.7.11.  
オランダ剣道連盟主催剣道サマーセミナー 2015.8.14-16  
筑波大学公開講座 スポーツ教室「剣道」（春季・秋季，延べ 16 回）  
石川県教育委員会主催中学校における剣道指導法. 小松市立松陰中学校 .2015.12.3

## 競技活動

### 1. 自身の競技業績

剣道八段審査合格. (受審者 1046 名合格者 5 名 合格率 0.5%. 46 才最年少) 東京武道館. 2015.11.27.  
茨城県剣道強化指定選手

## 2. 指導業績

- 第16回世界剣道選手権大会, 男子団体戦; 優勝・竹ノ内佑也(日本). 日本武道館, 2015.5.29-31.  
第16回世界剣道選手権大会, 男子個人戦; 準優勝・竹ノ内佑也(日本). 日本武道館, 2015.5.29-31.  
第63回全日本学生剣道優勝大会, 優勝. 日本武道館, 2015.10.25.  
第34回全日本女子学生剣道優勝大会, 第3位. 春日井市総合体育館, 2015.11.8.  
第64回関東学生剣道優勝大会, 準優勝. 日本武道館, 2015.9.13.  
第41回関東女子学生剣道優勝大会, 準優勝. 東京武道館, 2015.9.19.  
第62回全日本学生剣道選手権大会, 優勝・林田匡平(4年). 大阪府立体育会館, 2015.6.28.  
第62回全日本学生剣道選手権大会, 第3位・竹ノ内佑也(4年). 大阪府立体育会館, 2015.6.28.  
第47回関東女子学生剣道選手権大会, 準優勝・佐々木奈緒(4年). 東京武道館, 2015.5.16.

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

- 身体運動文化学会常任理事.  
茨城県剣道連盟強化委員  
オランダ剣道連盟外部講師  
関東学生剣道連盟審判委員  
関東学生剣道連盟指導委員

准教授 平山素子

## 研究業績

### 1. 学会発表

- Yuho Yazaki, Asako Soga, Bin Umino, **Motoko Hirayama**, Automatic Composition by Body-part Motion Synthesis for Supporting Dance Creation, Proc. of International Conference on Cyberworlds 2015, pp.200-203 (Gotland, Sweden), Oct. 2015  
Bin Umino, Asako Soga, Yuho Yazaki, **Motoko Hirayama**, Choreographic Education for Contemporary Dance Using 3D Motion Data, Abstracts of the International Symposium on Performance Science 2015, pp.151-152 (Kyoto, Japan), Sep.2015

### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- 海野 敏, 曾我麻佐子, 矢崎雄帆, **平山素子**, モーションデータを用いた舞踊動作の合成原理とその応用: 現代舞踊の振付学習における有用性, 情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム論文集, vol.2015, no.2, pp.277-282, 2015.  
矢崎雄帆, 曾我麻佐子, 海野 敏, **平山素子**, 身体部位動作の自動合成システムを用いた現代舞踊の創作支援, NICOGRAPH2015 論文集, 8 pages, 2015.

## 競技活動

### 1. 自身の競技業績

[振付・出演]

- 舞踊作品「POISON シェイクスピアを喰らう」 振付・出演 (豊橋芸術劇場), 2015.

舞踊作品「HAGOROMO」振付・出演（清水市文化会館）2015.  
舞踊作品「Femme Fatale,」演出・振付・出演（アサヒアートスクエア）2015.  
舞踊作品「二つの扉」振付・出演（愛知県芸術劇場）2015.  
舞踊作品「やおよろず」振付・出演（青島大劇場）2015.  
舞踊作品「Horizontal Episode」振付・出演（神奈川県民ホール）2015.

## 2. 指導業績

全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）筑波大学ダンス部作品「裸密一写真「A Sence of Detachment」より一」指導 神戸文化ホール，2015.  
世界水泳大会（シンクロ日本代表）ミックスデュエット（足立,安部組）テクニカルルーティン,フリールーティーン 表現力指導，2014.  
日本スケート連盟指定強化選手合宿 ジュニア & シニア表現力指導，2015.  
新国立劇場バレエ団「Dance to the future」アドヴァイザー，2015

## 准教授 古川 拓生

### 研究業績

#### 1. 学会発表

花岡裕吉，鷺谷浩輔，竹村雅裕，古川拓生，赤間高雄：MG2809 乳酸菌の摂取が強化練習期間におけるアスリートの唾液中の分泌型免疫グロブリン A に及ぼす影響．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.  
柴田 麗，花岡裕吉，鷺谷浩輔，竹村雅裕，古川拓生，赤間高雄：学生アスリートにおける栄養介入のコンディション維持への有用性．第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

花岡裕吉，清水和弘，鷺谷浩輔，田村 明，竹村雅裕，古川拓生，宮本俊和，渡部厚一，赤間高雄：MG2809 乳酸菌の摂取が大学ラグビー選手の口腔内免疫能に及ぼす影響．体力科学，64(3)：315-322，2015  
長谷川悦示，中川 昭，古川拓生，竹村雅裕，嵯峨 寿：小学校体育授業のためのタグラグビー教材の開発．筑波大学体育系紀要，38：123-128，2015  
内山治樹，阿江通良，中川 昭，真田 久，佐野 淳，西嶋尚彦，有田祐二，本谷 聡，斎藤 卓，クラリアアンドレア，荻山 靖，椿本昇三，渡邊 仁，仙石泰雄，古屋朝映子，寺山由美，大山圭悟，木越清信，金谷麻理子，中西康己，秋山 央，吉田健司，藤本 元，山田永子，中山雅雄，古川拓生，三橋大輔，川村 卓，吹田真士，安藤真太郎，奈良隆章，岡田弘隆，増地克之，香田郡秀，森 俊男，池田英治：「実技検定」の運用とその評価ー「標準」モデルの検証ー．筑波大学体育系紀要，38：93-109，2015

#### 3. その他論文（報告書等）

古川拓生，寺山由美：扉を開く～無理と言われた国立大学ラグビー部が決勝に進む～．女子体育，57(4・5)：6-11，2015.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

古川拓生：筑波流体づくりへの取り組み．ラグビーマガジン，507：116-119，2015

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

鹿児島県内の指導者及び青少年に向けた指導（ラグビー指導）（7月17～20日）

第8回長門市議会議員研修会「失敗から学ぶ」（3月22日）

## 競技活動

### 2. 指導業績

第52回全国大学ラグビーフットボール選手権大会6位（監督）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本オリンピック委員会強化スタッフ（情報・戦略スタッフ）（2012年～）

日本ラグビーフットボール協会普及・競技力向上委員会委員（1995年～）

## 准教授 増地克之

## 研究業績

### 1. 学会発表

石井孝法，阿江通良，越田専太郎，**増地克之**：柔道背負投の技術的指標に関するバイオメカニクスの研究．日本武道学会第48回大会，東京，2015.9.

金丸雄介，小野卓志，岡田弘隆，**増地克之**，山口 香：高校柔道選手の指導者に対する信頼感の競技レベルによる差異．日本武道学会第48回大会，東京，2015.9.

窪田友樹，竹澤稔裕，**増地克之**，松井 崇，川端健司，法兼 真，小倉大輝，小俣幸嗣：男子大学柔道選手の打込における持久力トレーニングの検証—大内刈を対象として—．日本武道学会第48回大会，東京，2015.9.

松尾博一，松元 剛，山田幸雄，**増地克之**：小学生高学年におけるゴール型球技種目に共通するゲームパフォーマンスに関する研究．日本体育学会第66回大会，東京，2015.8.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

**増地克之**，小林優希，金丸雄介，小野卓志，秋本啓之，法兼 真，小倉大輝，松井 崇：大学男子柔道選手の合宿練習時における生理的および精神的コンディション．講道館柔道科学研究会紀要，15：103-114，2015.

山口 香，岡田弘隆，**増地克之**，市村操一：日本における高校柔道部員とコーチ間の人間関係の検討—CART-Qを用いて—．筑波大学体育系紀要，38：59-67，2015.

### 3. その他論文（報告書等）

内山治樹，阿江通良，中川昭，真田 久，佐野 淳，西嶋尚彦，有田祐二，本谷 聡，齋藤 卓，クラリクアンドレア，荻山 靖，椿本昇三，渡邊 仁，仙石泰雄，古屋朝映子，寺山由美，大山下圭悟，

木越清信, 金谷麻理子, 中西康己, 秋山 央, 吉田健司, 藤本 元, 山田永子, 中山雅雄, 古川拓生, 三橋大輔, 川村 卓, 吹田真士, 安藤真太郎, 奈良隆章, 岡田弘隆, 増地克之, 香田郡秀, 森 俊男, 池田英治:「実技検定」の運用とその評価ー「標準」モデルの検証ー. 筑波大学体育系紀要, 37: 1-3, 2014

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

増地克之: 21世紀版柔道技の大百科Ⅰ. ベースボールマガジン社, 144-149, 2015

増地克之: 21世紀版柔道技の大百科Ⅱ. ベースボールマガジン社, 66-71, 2015

### 競技活動

#### 1. 自身の競技実績

平成 27 年全日本柔道形競技大会 五の形 優勝

#### 2. 指導実績

平成 27 年全日本学生柔道優勝大会 優勝 (監督)

平成 27 年全日本柔道選抜体重別選手権大会 81kg 級 永瀬貴規 優勝 (監督)

世界柔道選手権大会 81kg 級 永瀬貴規 優勝 (監督)

ユニバーシアード柔道競技 52kg 級 内尾真子 優勝 (監督)

ユニバーシアード柔道競技 63kg 級 津金恵 優勝 (監督)

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 63kg 級 能智亜衣美 優勝 (監督)

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本武道学会評議委員 (2011 年～)

日本オリンピック委員会強化スタッフ (柔道競技コーチングスタッフ): 7 月～

#### 2. ボランティア活動

##### 2-a. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

筑波大学社会貢献プロジェクト:「柔道の再興と武道必修化を支援する東北 3 県柔道指導キャラバン」(平成 24 年度～)

##### 2-d. その他のボランティア活動

常総市水害被害の救援活動: 茨城県・常総市: 9 月

准教授 松 元 剛

### 研究業績

#### 1. 学会発表

松尾博一, 松元 剛, 山田幸雄, 増地克之: 小学校高学年におけるゴール型球技種目に共通するゲームパフォーマンスに関する研究. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

青山彰吾, 松元 剛: 侵入型球技種目における「ボールをもたない動き」の戦術的知識に関する研究.

日本コーチング学会第26回大会，大阪，2015.3.

**松元 剛**：ショートステイプログラムとしての大学体育に関する事例研究 筑波大学体育センター自由科目「日本の体育・スポーツ文化」．第3回大学体育研究フォーラム，東京，2015.2.

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

**松元 剛**：フラッグフットボールの教育的価値と学校体育への普及について．フットボールの科学 10(1):8-13, 2015. (査読なし)

**松元 剛**，松尾博一，青山彰吾：ゴール型ボールゲームにおける戦術的知識とパフォーマンスについて．コーチング学研究 29(1):1-9, 2015. (査読あり)

寺岡英晋，**松元 剛**：中学校運動部活動における教師の指導実態に関する研究．体育学研究 60(1):315-325, 2015. (査読あり)

福田 崇，宮川俊平，**松元 剛**，山元勇樹：アメリカンフットボールにおける装具が走力に及ぼす影響－2年間の縦断的研究－．筑波大学体育系紀要 38：33-41, 2015. (査読あり)

## 3. その他論文（報告書等）

桐生習作，市村さやか，川戸湧也，武井嘉恵，山本小百合，**松元 剛**，三木ひろみ：Tsukuba Summer Institute for Physical Education and Sport 2014における柔道実習報告．大学体育研究 37：19-25, 2015.

小林勝法，中里浩一，**松元 剛**，村本和世，阿江美恵子：教養体育インターンシップの試行．大学体育研究 37：37-43, 2015.

## 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

**松元 剛**：アメリカンフットボールにおける情報活用の実例．中村敏雄，高橋健夫，他編集 21世紀スポーツ大事典，大修館書店：東京，497-500, 2015.

**松元 剛**：フラッグフットボール，『中学体育実技』，164-165, 学習研究社，2014.

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

財団法人競馬共助会主催 「騎手者の身体のケア」講演（JRA 美浦トレーニングセンター 11月4日）

財団法人競馬共助会主催 「騎手者の身体のケア」講演（JRA 栗東トレーニングセンター 10月28日）

海老名市教育委員会主催 平成27年度海老名市体育実技講座「これからの体育授業とフラッグフットボール」（海老名運動公園 総合体育館大体育室 7月29日）

「毎秒1.272ヤード アメフト・超人たちの瞬間勝負（NHK ザ・データマン）」（1月11日放送）

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学アメリカンフットボール部 部長 （関東大学アメリカンフットボール連盟・リーグ戦2部）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本フットボール学会理事（平成21年～）

公益財団法人日本フラッグフットボール協会理事（平成22年～）

## 准教授 三橋大輔

### 研究業績

#### 1. 学会発表

花木大樹，三橋大輔：テニスのレッドボールでの指導がフォアハンドストロークに及ぼす影響－大学生初級者を対象に－. 日本体育学会第 66 回大会，東京，2015.8.

岡村麻人，神藤隆志，三橋大輔：プレー頻度別に見た中年・高齢テニス愛好家のテニスに対する認識. 日本体育学会第 66 回大会，東京，2015.8.

平田大輔，佐藤周平，村上貴聡，森井大治，柴原健太郎，三橋大輔，佐藤淳一，佐藤雅幸，西條修光：女子テニス選手におけるアンフォースドエラーに関する研究－選手と指導者の原因の差異について－. 第 27 回日本テニス学会，鹿児島，2015.12.

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

内山治樹，阿江通良，中川 昭，真田 久，佐野 淳，西嶋尚彦，有田祐二，本谷 聡，斎藤 卓，クラリク アンドレア，荻山 靖，椿本昇三，渡邊 仁，仙石泰雄，古屋朝映子，寺山由美，大山下圭悟，木越清信，金谷麻理子，中西康己，秋山 央，吉田健司，藤本 元，山田永子，中山雅雄，古川拓生，三橋大輔，川村 卓，吹田真士，安藤真太郎，奈良隆章，岡田弘隆，増地克之，香田郡秀，森 俊男，池田英治：「実技検定」の運用とその評価－「標準」モデルの検証－，筑波大学体育系紀要，38：93-109，2015

#### 3. その他論文（報告書等）

三橋大輔：The 1<sup>st</sup> SWU Tennis Invitation Relationship 2014 に参加して. 大学体育研究(体育センター)，37, 55-57, 2015

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

関東テニス協会関東ジュニア強化合宿 I（つくば市，12 月 12 日～13 日）

筑波大学国際テニストーナメントイベント「シニア・ベテランテニス講座」（つくば市，4 月 4 日）

国分寺市テニス連盟シニアテニス講習会（国分寺市，1 月 24 日）

茨城放送「スマイル・スマイル plus」出演（つくば市，3 月 6 日）

### 競技活動

#### 2. 指導業績

2015 ITF（国際テニス連盟）有明国際女子オープンテニス 女子シングルス優勝 牛島里咲 監督

2015 ITF（国際テニス連盟）ユアサ国際女子オープンテニス 女子シングルス優勝 石津幸恵 監督

2015 全日本学生テニス選手権 女子シングルスベスト 8 森崎可奈子 監督

2015 関東学生テニス選手権 女子シングルス準優勝 米原実令 監督

2015 国民体育大会 成年女子 第 3 位 牛島里咲・森崎可奈子 監督

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本オリンピック委員会強化スタッフ（テニス）（平成 27 年 4 月～）

日本テニス協会強化本部情報科学委員（平成 27 年 4 月～）

筑波大学国際テニストーナメント トーナメントディレクター（平成 25 年 4 月～）

スポーツ運動学会理事（平成 24 年～）

全日本学生テニス連盟部長監督会理事（平成 26 年～）

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

タイ，ミャンマー，ラオスにおけるテニス普及活動：3 月

大学高校合同練習会：茨城県・つくば市：4，5，6，10，12 月

## 准教授 山口 香

## 研究業績

### 1. 学会発表

山口 香，松田基子，小林好信，橋本佐由理，岡田弘隆：大学男子柔道選手の競技成績の変化と自己イメージや心理的要因との関連，日本体育学会，2015.8.27

松田基子，山口 香，小林好信，橋本佐由理，岡田弘隆：大学女子柔道選手の競技成績の変化と自己イメージや心理的要因との関連，日本体育学会，2015.8.27

小林好信，山口 香，松田基子，橋本佐由理，岡田弘隆：大学柔道選手のスポーツ障害と自己イメージやレジリエンス，心理的競技能力の変化との関連について．日本体育学会．2015.8.27

桐生習作，福見友子，鍋山隆弘，山口 香（2015）：正課体育柔道の授業における大学生の武道に対するイメージ変化：通年型と半期型の比較．日本武道学会第 48 回大会，東京，2015.9.

Shoichi Ichimura, **Kaori Yamaguchi**: The coach-athlete interpersonal relationship in Japanese judo's youth.14<sup>th</sup> European Congress of Sport Psychology(Bern, Switzerland), 2015.7.16

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

山口 香，橋本佐由理，小林好信：柔道選手の自己イメージやレジリエンスが心理的競技能力に与える影響．バイオメカニクス研究 Vol.19, No.2, 65-68. 2015.8

### 3. その他論文（報告書等）

山口 香：女性アスリートの育成・支援，産婦人科医に期待されること．産婦人科の実際，女性ヘルスケア集中講義，次世代の女性医学の可能性を求めて．金原出版株式会社．vol.64 No11,193-200, 2015.10

山口 香：女性スポーツを多角的に捉える・指導者からの視点．臨床スポーツ医学 第 32 巻第 6 号，578-583. 2015.6



## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

山口 香：残念なメダリスト，中央公論新社，2015.9

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

千代田区男女共同参画センター講演「五輪メダリストが語る女性とスポーツ」2015.6.18

堺市女性センターのつどい講演「今こそ強くやさしい社会を実現するために」2015.9.12

教職員等中央研修（教員研修センター主催）特別講義「嘉納治五郎が目指した柔道と人間教育」  
2015.9.30

平成 27 年度東京都教育実践発表会（東京都教育委員会主催）特別講演「世界へ羽ばたく力」，2015.10.1  
第 26 回日本臨床スポーツ医学会特別講演「2020 東京オリンピック・パラリンピックに期待するもの」

2015.11.7

<テレビ・ラジオ出演>

NHK ラジオ「午後のマリアージュ」月曜レギュラーパーソナリティー 2015.4～12

NHK ラジオ「ラジオ深夜便—ミッドナイトトーク」2015.5.7,7.2,9.3,11.5

BS11「報道ライブ 21」2015.12.23

<新聞・雑誌掲載>

女子スポーツ選手の健康を守る：毎日新聞朝刊（全国紙）2015.3.5

柔の道しるべ：日本経済新聞（全国紙）2015.8.22

柔の道しるべ：日本経済新聞（全国紙）2015.8.25

柔の道しるべ：日本経済新聞（全国紙）2015.8.29

柔の道しるべ：日本経済新聞（全国紙）2015.8.31

マイ・ヒーロー：読売新聞夕刊（全国紙）2015.8.31

中央公論「われらオリンピック，2020 年への野望」対談：為末大・山口香 2015.11

## 競技活動

### 2. 指導実績

第 28 回ユニバーシアード競技大会 日本選手団総監督

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

株式会社ニッポン放送 番組審議委員（2009 年～）

一般財団法人上月財団 評議員（2010 年～）

公益財団法人日本オリンピック委員会 理事（2011 年～）

独立行政法人日本スポーツ振興センター・国立スポーツ科学センター業績評価委員会委員（2013 年～）

東京都教育会委員（2013 年～）

公益財団法人 全日本柔道連盟 監事（2013 年～）

公益財団法人 日本バレーボール協会 理事（2013 年～）

コナミ株式会社 社外取締役（2014 年～）

## 研究業績

### 2. 学術論文

内山治樹, 阿江通良, 中川 昭, 真田 久, 佐野 淳, 西嶋尚彦, 有田祐二, 本谷 聡, 斎藤 卓, ク  
ラリク アンドレア, 苅山 靖, 椿本昇三, 渡邊 仁, 仙石泰雄, 古屋朝映子, 寺山由美, 大山  
圭吾, 木越清信, 金谷麻理子, 中西康己, 秋山 央, 吉田健司, 藤本 元, 山田永子, 中山雅雄,  
古川拓生, 三橋大輔, 川村 卓, 吹田真士, 安藤真太郎, 奈良隆章, 岡田弘隆, 増地克之, 香田郡秀,  
森 俊男, 池田英治, 「実技検定」の運用とその評価—「標準」モデルの検証—. 筑波大学体育  
系紀要, 38:93-109, 2015.

## 教育活動

### 1. 受賞

つくばスポーツ大賞 常陽新聞賞「男子インカレ優勝」(つくば市, 3月8日)

学長賞「インカレ優勝」(筑波大学, 3月19日)

体育専門学群長賞「インカレ優勝」(筑波大学, 3月25日)

### 2. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

岩手県一関市バスケットボール協会指導者講習会」指導(一関市, 2月22日)

TSA コーチフォーラム「優勝までのコーチング」講演(筑波大学, 2月23日)

「和歌山県バスケットボール協会強化講習会」指導(和歌山市, 3月, 4月, 7月, 10月 延べ8日間)

「静岡県バスケットボール協会強化練習会」指導(つくば市, 3月14, 15日)

「岩手県バスケットボール協会指導者講習会」指導(盛岡市, 3月28, 29日)

Shu's Basketball Camp「トランジションオフENSE 他」指導(東京, 6月27, 28日)

京都府バスケットボール協会指導者講習会指導(京都市, 12月12, 13日)

## 競技活動

### 2. 指導業績

第64回関東大学バスケットボール選手権大会(監督) 2位

第91回関東大学バスケットボールリーグ戦(監督) 3位

第67回全日本大学バスケットボール選手権大会(監督) 優勝

台湾 BLIA UNIVERSITY BASKETBALL TOURNAMENT 2015(監督) 優勝

台湾 ASIAN TOP UNIVERSITY BASKETBALL TOURNAMET 2015(監督) 準優勝

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本バスケットボール協会 技術委員会(平成27年~)

日本バスケットボール協会 強化・育成部 エンデバー委員(平成22年~)

全日本大学バスケットボール連盟 理事・強化副部長(平成25年~)

関東大学バスケットボール連盟 副理事長(平成27年~)

関東大学バスケットボール連盟 強化部長(平成25年~)

### 3. 競技会引率・帯同等

第 19 回 日本男子学生選抜バスケットボール大会（大阪市，7 月 4，5 日）

第 18 回 関東実業団・関東大学オールスター対抗戦（東京，12 月 19 日）

## 講 師 安 藤 真 太 郎

### 研究業績

#### 1. 学会発表

野中由紀，安藤真太郎，山田幸雄：卓球競技のカット主戦型の攻撃に関するゲーム分析，日本体育学会  
第 66 回大会，東京，2015.8.

### 教育活動

「茨城県教育庁運動部活動指導者研修会（卓球の部）」講師（筑波大学，11 月 30 日）

### 競技活動

#### 2. 指導業績

筑波大学卓球部監督

2015 年度第 70 回国民体育大会卓球競技 成年男子ベスト 8 入賞 2 名，成年女子 3 位 1 名

2015 年度天皇杯・皇后杯全日本卓球選手権 ミックスダブルスベスト 8 入賞 2 組

## 講 師 本 谷 聡

### 研究業績

#### 1. 学会発表

小島瑞貴，渡辺みどり，鈴木王香，古屋朝映子，長谷川聖修，本谷 聡：子どもの握力向上を目指した  
フィットネスプログラムの試案，日本体育学会第 66 回大会，東京，331，2015.8

本谷 聡，高橋靖彦，小島瑞貴：伸縮ロープの用具特性を活用したペア体操の効果に関する研究，日本  
体育学会第 66 回大会，東京，332，2015.8

鈴木康裕，岩淵慎也，加藤秀典，田邊裕基，本谷 聡，羽田康司：体操部学生と一般健常者における動  
的バランス能力評価の比較，第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

内山治樹，阿江通良，中川 昭，真田 久，佐野 淳，西嶋尚彦，有田祐二，本谷 聡，斉藤 卓，ク  
ラリク アンドレア，苅山 靖，椿本昇三，渡邊 仁，仙石泰雄，古屋朝映子，寺山由美，大山下  
圭悟，木越清信，金谷麻理子，中西康己，秋山 央，吉田健司，藤本 元，山田永子，中山雅雄，  
古川拓生，三橋大輔，川村 卓，吹田真士，安藤真太郎，奈良隆章，岡田弘隆，増田克之，香田郡秀，  
森 俊男，池田英治：「実技検定」の運用とその評価—「標準」モデルの検証—，筑波大学体育  
科学系紀要，38：93-09，2015

#### 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

佐伯年詩雄ほか編, 本谷 聡ほか: 2015 中学体育実技 体づくり運動, 学習研究社, 5-28, 2015  
中村敏雄ほか編, 本谷 聡: 21 世紀スポーツ大辞典, 大修館書店, 1272, 2015  
大塚 隆, 本谷 聡編: ラート競技採点規則 2015, 日本ラート協会, 2015  
大塚 隆, 本谷 聡編: ラート競技難度表 (直転) 2015, 日本ラート協会, 2015  
大塚 隆, 本谷 聡編: ラート競技難度表 (斜転) 2015, 日本ラート協会, 2015

#### 教育活動

##### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学オープンキャンパス「ラート」指導, 茨城県中学生視察団, 2015.7.27  
平成 27 年度体育授業アドバイザー派遣事業「体づくり運動」指導, つくば市立柳橋小学校, 2015.8.17  
平成 27 年度体育授業アドバイザー派遣事業「体づくり運動」指導, 小美玉市立小川小学校, 2015.9.3  
筑波大学オープンキャンパス「ラート」指導, 北海道高校生視察団, 2015.11.9

#### 競技活動

##### 1. 自身の競技業績

牛久体操祭「トライビクス 20 歳の祭典」, 招待演技発表 (出演), 2015.5.30  
12th World Gymnaestrada 2015 (出演), Finland/ Helsinki, 2015.7.12-7.18

##### 2. 指導業績

牛久体操祭「トライビクス 20 歳の祭典」, 招待演技発表 (演技指導), 2015.5.30  
2015 一般体操ジャパン・チャレンジ 銀賞 (演技指導), 2015.6.28  
11th World Championships in Wheel Gymnastics 日本団体 2 位 (日本代表監督), Italy/ Lignano, 2015.7.8-7.13  
12th World Gymnaestrada 2015 (演技指導), Finland/ Helsinki, 2015.7.12-7.18  
日本体操祭 2015 (演技指導), 2015.11.7  
第 21 回全日本ラート競技選手権大会 (監督), 2015.12.12-12.13  
男子個人総合 2 位 田村元延 (院 2 年) 6 位 相原将之 (院 1 年)  
女子個人総合 優勝 松浦佑希 (院 1 年) 2 位 堀口文 (院 2 年) 6 位 渡辺理沙 (体専 2 年)  
つくば RG 新体操発表会, 招待演技発表 (演技指導), 2015.12.19  
全国こどもチャレンジカップ茨城県大会, 招待演技発表 (演技指導), 2015.12.20

#### 社会貢献活動

##### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

つくば体操フェスティバル 2015 (実行委員会委員), 2015.2.7  
11th World Championships in Wheel Gymnastics (Judges), Italy/ Lignano, 2015.6.8-6.13  
第 14 回全日本ちゃれん G ボール大会 (審判員), 2015.11.22  
第 21 回全日本ラート競技選手権大会 (審判員 (主審)), 2015.12.12-12.13  
日本体操学会・常任理事 (2002 年～), ジャーナル委員会委員長 (2013 年～)  
日本ラート協会・副会長 (2013 年～), 国際部部长 (2010 年～)

## 助 教 秋 山 央

### 研究業績

#### 1. 学会発表

秋山 央：バレーボール競技における勝敗に関わる技術項目—国内大学男子トップレベルを対象として—。日本バレーボール学会第 20 回記念大会，東京，2015.3.

秋山 央：バレーボールにおけるスパイクカバーに関する研究—国内大学男子トップレベルを対象として—。日本体育学会第 66 回大会，東京，2015.8.

#### 3. その他論文（報告書等）

嵯峨 寿，秋山 央，福田 崇，奈良隆章，朴 京眞，本間三和子：体育センターによる平成 26 年度筑波大学重点公開講座の計画に当って。大学体育研究，37：59-74，2015.

内山治樹，阿江通良，中川 昭，真田 久，佐野 淳，西嶋尚彦，有田祐二，本谷 聡，斎藤 卓，クラリク アンドレア，苅山 靖，椿本昇三，渡邊 仁，仙石泰雄，古谷朝映子，寺山由美，大山下圭悟，木越清信，金谷麻理子，中西康己，秋山 央，吉田健司，藤本 元，山田永子，中山雅雄，古川拓生，三橋大輔，川村 卓，吹田真士，安藤真太郎，奈良隆章，岡田弘隆，増地克之，香田郡秀，森 俊男，池田英治：「実技検定」の運用とその評価—「標準」モデルの検証—。筑波大学体育系紀要，38：93-109，2015.

### 競技活動

#### 2. 指導業績

2015 年度 春季関東大学男子 1 部バレーボールリーグ戦 6 位 監督

2015 年度 秋季関東大学男子 1 部バレーボールリーグ戦 5 位 監督

2015 年度 第 67 回秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 準優勝 監督

バレーボールワールドカップ 2015（日本代表）6 位 コーチ

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

全日本大学バレーボール連盟科学研究委員（平成 24 年～）

全日本大学バレーボール連盟男子強化委員（平成 26 年～）

茨城県バレーボール協会常任理事（平成 27 年～）

#### 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

全日本男子バレーボールチームコーチ（財団法人日本バレーボール協会）

## 助 教 木 越 清 信

### 研究業績

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

木越清信，山元康平，関慶太郎，中野美沙，尾縣 貢：短距離走における疾走速度と回復脚の動作との関係。陸上競技学会誌，13(1)：45-52，2015

尾縣貢, 木越清信, 遠藤俊典, 森健一, 高強度ジャンプ運動エクササイズ後の回復過程: 筋肉痛とパフォーマンスとの関連性に焦点を当てて. 体力科学, 64(1): 117-124, 2015

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)  
「疾走動作の修正を目指した補助具の開発」(ミズノ株式会社)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本陸上競技連盟強化委員 (2012~)

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

小学生向け陸上競技教室 (つくばツインピークス) 事務局

### 3. 競技会引率・帯同等

陸上競技世界選手権北京大会 総務および渉外

助 教 小井土 正 亮

## 研究業績

### 1. 学会発表

森 政憲, 田村達也, 堀野博幸, 小井土正亮, 中山雅雄, 浅井 武 (ポスター発表): 皇后杯全日本女子サッカー選手権大会のシュート傾向に関する事例研究. 日本コーチング学会 第26回大会 (兼) 日本体育学会体育方法専門領域研究会 第8回大会, 広島, 2015.3.

Masanori Mori, Midori Haranaka, Tatsuya Tamura, Hiroyuki Horino, Masaaki Koido, Masao Nakayama, Takeshi Asai (ポスター発表): Case study on offensive tactics in top-level women's football in Japan (P06. 03, Abstract: P. 214). 8th World Congress on Science and Football 2015, Copenhagen, 2015.8

Midori Haranaka, Masanori Mori, Masaaki Koido, Masao Nakayama, Takeshi Asai (ポスター発表): Life stories of practical wisdom coaching methods used by youth team coaches at a J. League Academy who train players (former J. League soccer players). 8th World Congress on Science and Football 2015, Copenhagen, 2015.8

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

原仲 碧, 中山雅雄, 小井土正亮, 桑原鉄平, 森 政憲, 浅井 武: 育成年代サッカーコーチ (元Jリーガー) のコーチング実践知に関するライフストーリー研究. コーチング学研究, 28 (2): 163-173, 2015

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学蹴球部監督 第39回総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント3位

## 助 教 齋 藤 卓

### 研究業績

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）：

齋藤 卓：平行棒における＜後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持＞の成立条件と理想像に関する構造分析的な研究，コーチング学研究，29号，101-107，2015

#### 4. 著書（事典，翻訳書等を含む）

齋藤 卓：21世紀スポーツ大事典，鉄棒，大修館書店，1146-1149，2015

### 競技活動

#### 2. 指導業績

筑波大学体操競技部男子コーチ

第67回全日本学生体操競技選手権大会：男子団体総合6位，個人総合5位，種目別鉄棒優勝，種目別平行棒2位

第67回全日本体操種目別選手権：ゆか7位

第67回全日本体操競技団体選手権大会：男子団体総合8位

クロアチアチャレンジカップ：平行棒3位，鉄棒6位，ゆか8位，あん馬8位，つり輪9位

### 社会貢献活動

日本体操協会オリンピック委員会強化スタッフ（U-21）（平成23年～）

## 助 教 嶋 崎 達 也

### 競技活動

#### 2. 指導業績

筑波大学ラグビー部

2015年度関東大学対抗戦3位（ヘッドコーチ）

第51回全国大学ラグビーフットボール選手権出場（ヘッドコーチ）

2015年 第8回ラグビーワールドカップ出場 福岡堅樹（4年）

2015年 7人制日本代表選出 福岡堅樹（4年）

2015年 U20日本代表選出 占部航典（2年），米村龍二（2年）

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

茨城県ラグビーフットボール協会理事（大学委員長）（2012年～）

#### 2. ボランティア活動

##### 2-a. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

ツクババリアンズ中学生への指導：茨城県・つくば市：12/5,12/12

## 公共機関、企業等からの委託業務（研究以外）

日本ラグビーフットボール協会リソースコーチ（2012年～）

日本ラグビーフットボール協会トップリーグ事業部「トップリーガー発掘プロジェクト」コーチとして参加（2015/4/8）

## 助 教 吹 田 真 士

### 研究業績

#### 3. その他論文（報告書等）

内山治樹，阿江通良，中川 昭，真田 久，佐野 淳，西嶋尚彦，有田祐二，本谷 聡，斎藤 卓，クラクアンドレア，荻山 靖，椿本昇三，渡邊 仁，仙石泰雄，古屋朝映子，寺山由美，大山下圭悟，木越清信，金谷麻理子，中西康己，秋山 央，吉田健司，藤本 元，山田永子，中山雅雄，古川拓生，三橋大輔，川村卓，吹田真士，安藤真太郎，奈良隆章，岡田弘隆，増地克之，香田郡秀，森俊男，池田英治：「実技検定」の運用とその評価－「標準」モデルの検証－，筑波大学体育系紀要，38:93-109，2015（審査なし）

#### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

吹田真士：バドミントン．ステップアップ中学体育 2015．大修館書店：216-227，2015

吹田真士：バドミントン．ステップアップ高校スポーツ 2015．大修館書店：236-247，2015

### 教育活動

#### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

日本バドミントン協会公認 資格更新のための義務研修会講師 2015年1月

日本バドミントン協会公認 平成26年度公認コーチ後期養成講習会講師 2015年1月

JFBC バドミントン・コーチング・キャンプ 2014つくば 講師 2015年2月

平成27年度第75回国民体育大会に向けた鹿児島県競技力向上対策事業（優秀指導者による継続的な指導）の講師 2015年7月

平成27年度公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会講師 2015年7月

第70回国民体育大会（鹿児島）バドミントン競技に向けた強化合宿講師 2015年7月

埼玉県バドミントン協会 4級指導員養成講習会講師 2015年10月

日本バドミントン協会公認 平成27年度公認コーチ前期養成講習会講師 2015年10～11月

鳥取県バドミントン協会 4級指導員養成講習会講師 2015年11月

佐賀県運動部活動指導者研修会講師 2015年11月

群馬県バドミントン協会 4級指導員養成講習会講師 2015年11月

### 競技活動

#### 2. 指導業績

筑波大学バドミントン部顧問・監督

2015年度関東大学バドミントン春季リーグ戦女子1部優勝

2015年度日本ランキングサーキット大会 女子ダブルス第5位 加藤・柏原組

第57回東日本学生バドミントン選手権大会（女子団体）優勝



第 57 回東日本学生バドミントン選手権大会（女子ダブルス：加藤・柏原組）  
2015 年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦女子 1 部優勝  
第 66 回全日本学生バドミントン選手権大会（女子団体）優勝  
第 66 回全日本学生バドミントン選手権大会（女子シングルス：大久保淳美）第 3 位  
第 66 回全日本学生バドミントン選手権大会（女子ダブルス：加藤・柏原組）優勝

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本バドミントン協会普及指導開発部部員（2003 年～）

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

茨城国体 2019 に向けた強化練習会（毎月 1 回）

鹿児島国体 2019 に向けた強化練習会（毎月 1 回）

#### 2-d. その他のボランティア活動

常総市水害被害の救援活動：茨城県・常総市：9 月

## 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

指導者のための Badminton Journal に対するコメント（味の素株式会社）

ザ・データマン「#5 495km/h 人類最速の闘い badminton 金メダルへの挑戦」への情報提供（NHK）

## 助 教 仙 石 泰 雄

## 研究業績

### 1. 学会発表

Park I, Kayaba M, Iwayama K, Ogata H, **Sengoku Y**, Tokuyama K, Satoh M: Relationship between metabolic rate and core body temperature during sleep in human. 6th World Congress on Sleep Medicine, Korea, 2015. 3.

小林啓介，**仙石泰雄**，吉岡利貢，山田眞崇，椿本昇三：MRI を用いた泳運動における筋活動評価の試みードルフィンキック泳を対象としてー. 第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

藤本知臣，渡辺和仁，佐々木洋輔，辻 文，若林 齊，**仙石泰雄**，西保 岳：冷水環境下におけるふるえ産熱反応の深部体温閾値：安静時と運動時の比較. 第 70 回日本体力医学会大会，和歌山，2015.9.

**仙石泰雄**，小林啓介，角川隆明，成田健造，椿本昇三：大学競泳選手における水中ドルフィンキックパフォーマンスの改善要因の分析. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会，東京，2015.10.

角川隆明，津野天兵，成田健造，萬久博敏，荻田 太，**仙石泰雄**，椿本昇三，高木英樹：水中モーションキャプチャーシステムと圧力分布計測を用いたクロールの上肢動作の分析. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会，東京，2015.10.

小林啓介，**仙石泰雄**，高木英樹，椿本昇三：水中ドルフィンキックにおける最大努力以上のキック頻度増加が筋活動に与える影響. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会，東京，2015.10.

大澤瑞樹, 若林 齊, **仙石泰雄**: 冷水浴による筋温低下がその後の運動に及ぼす影響～代謝様式に着目して～. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.

小林明日香, 椿本昇三, **仙石泰雄**: 女子競泳選手におけるトレーニング負荷とコンディショニングの関係性～心拍数の応答を分析した事例研究～. 日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会, 東京, 2015.10.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

**Sengoku Y**, Nakamura K, Ogata H, Nabekura Y, Nagasaka S, Tokuyama K: Continuous glucose monitoring during a 100 km race - A case study in an elite ultra-marathon runner. *International Journal of Sports Physiology and Performance*, 10: 124-127, 2015.

Sato D, Seko C, Hashitomi T, **Sengoku Y**, Nomura T: Differential effects of water based exercise on the cognitive function in independent elderly adults. *Aging Clinical and Experimental Research*, 27: 149-159, 2015.

Kobayashi K, Kaneoka K, **Sengoku Y**, Takagi H, Takemura M: Lumbar alignment and trunk muscle activity during the underwater streamline position. *Journal of Swimming Research*, 23: 33-43, 2015.

Nakamura K, **Sengoku Y**, Ogata H, Watanabe K, Shirai Y, Nabekura Y: Blood glucose threshold is not consistent with blood lactate threshold by different evaluation methods. *Advances in Exercise and Sports Physiology*, 21: 17-24, 2015.

角川隆明, **仙石泰雄**, 椿本昇三, 高木英樹: 平泳ぎキック動作中に働く非定常流体力と足部表面の圧力分布の関係. *体育学研究*, 60: 165-175, 2015.

## 3. その他論文 (報告書等)

**仙石泰雄**, 小林啓介, 今井智子, 渡部厚一, 宮川俊平: 競泳選手の競技パフォーマンスをサポートする e-コンディション管理システムの開発. *筑波大学体育系紀要*: 38, 143-148, 2015.

## 5. 受賞

日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会研究奨励賞「**仙石泰雄**, 小林啓介, 角川隆明, 成田健造, 椿本昇三: 大学競泳選手における水中ドルフィンキックパフォーマンスの改善要因の分析」2015.10.

6. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)  
「速く泳ぐための競泳用水着に関する研究」共同研究 (株式会社デサント)  
「競泳選手を対象とした L-シトルリンの運動パフォーマンス向上効果の検証」(協和発酵バイオ株式会社)

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等 (翻訳書等を含む)

**仙石泰雄**: 超トップスイマーの練習メニュー・金子雅紀を躍進させた筑波大の練習方針. *Swimming Magazine*, 39(8), 22-25, 2015.8.

**仙石泰雄**: 超トップスイマーの練習メニュー・金子雅紀を躍進させた筑波大の練習メニュー. *Swimming Magazine*, 39(9), 26-29, 2015.9.

野口智博・**仙石泰雄**: 高強度トレーニングとコーチングのいまむかし. *Top Swimmer's Technique* 2, 32-39, 2015.11.

仙石泰雄：筑波大発「高強度の反復でも持久力向上」の基本. *Swimming Magazine*, 40(1), 36-41, 2015.12.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

仙石泰雄：水泳技術講習会, 新日本スポーツ連盟東京都連盟東京水泳協議会, 東京, 2015.4.19

仙石泰雄：コーチングクリニック：競泳トレーニングを科学する, NPO 法人盛岡市水泳協会, 岩手, 2015.4.26

仙石泰雄：競泳競技における高強度トレーニング, 日本ボート協会医科学委員会 Dinner Meeting, 2015.8.21.

小林啓介, 仙石泰雄, 吉岡利貢：健康づくりのためのアクアフィットネス～リレープレゼンテーションによる最新知見の紹介「近代4泳法中の筋活動量の比較」, 体力医学会, 2015.9.19.

仙石泰雄, 金子雅紀：プールサイドセッション「一流背泳ぎ選手の泳ぎ」, 2015年日本水泳・水中運動学会年次大会, 東京, 2015.10.18.

## 競技活動

### 2. 指導業績

体育会水泳部競泳部門監督兼ヘッドコーチ

第91回日本選手権水泳競技大会・東京辰巳国際水泳場

男子100m背泳ぎ 金子雅紀 2位 (インターナショナル強化標準記録B突破)

男子200m背泳ぎ 金子雅紀 2位 (インターナショナル強化標準記録B突破)

男子400m個人メドレー 村川諒 8位

女子200m背泳ぎ 斎藤ゆり子 4位

女子200m背泳ぎ 西脇怜奈 6位

女子50mバタフライ 平山友貴奈 7位

女子50mバタフライ 小林明日香 5位

女子200mバタフライ 三輪彩奈 7位

女子50m平泳ぎ 小林明日香 5位

第16回世界水泳選手権大会・ロシア(カザン)

男子50m背泳ぎ 金子雅紀 予選23位

男子100m背泳ぎ 金子雅紀 予選17位

男子200m背泳ぎ 金子雅紀 準決勝10位

第66回日本実業団水泳競技大会・鴨池公園水泳プール

女子100m背泳ぎ 諸貫瑛美 優勝 (インターナショナル強化標準記録C突破)

第91回日本学生選手権水泳競技大会・古橋廣之進記念浜松市総合水泳場

男子200mバタフライ 渡会舜 5位

男子200m個人メドレー 瀬戸吟次 8位

女子200m背泳ぎ 斎藤ゆり子 優勝 (インターナショナル強化標準記録C突破)

女子200m背泳ぎ 西脇怜奈 6位

女子400m個人メドレー 渡辺彩 6位

女子800mリレー 斎藤・大西・山田・後藤 7位

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本水泳連盟科学委員（平成 24 年～）

日本スイミングクラブ協会理事（平成 25 年～）

日本水泳・水中運動学会運営委員（平成 25 年～）

日本オリンピック委員会強化スタッフ（コーチングスタッフ）（平成 26 年～）

茨城県水泳連盟水泳競技力向上アドバイザー（平成 23 年～）

## 助 教      奈 良 隆 章

## 研究業績

### 1. 学会発表

大島 建，奈良隆章，川村 卓，川口啓太，伊藤栄治：アマチュア野球におけるジュニア期指導の現状について～北海道地区に着目して．日本野球科学研究会第 3 回大会，愛知，2015.12.

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

嵯峨 寿，秋山 央，福田 崇，奈良隆章，朴 京眞，本間三和子：体育センターによる平成 26 年度筑波大学重点公開講座の計画に当って．大学体育研究，(37)：59-74，2015.

## 競技活動

### 2. 指導業績

2015 年首都大学野球秋季リーグ戦 3 位（助監督）

## 社会貢献活動

### 2. ボランティア活動

#### 2-d. その他のボランティア活動

平成 27 年度筑波大学社会貢献プロジェクト 復興作業およびスポーツ振興を通じた被災地での支援活動

## 助 教      ネメシュ ローランド

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

愛知県ハンドボール協会指導者講習会（1 月 24，25 日）

日本ハンドボール協会トップコーチセミナー（2 月 21，22 日）

Coaching challenge in Japan. JOC ナショナルコーチアカデミー（6 月 15，16 日）

沖縄県ハンドボール協会指導者講習会（11 月 28 日）

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学男子ハンドボール部コーチ

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本ハンドボール協会参事（2011年～）

### 3. 競技会引率・帯同等

国際ハンドボール連盟通常総会：日本ハンドボール協会国際副委員長

## 助教 藤本 元

## 研究業績

### 1. 学会発表

永野翔太，ネメシュ・ローランド，藤本 元，會田 宏：デンマークにおけるハンドボールの一貫指導プログラム．日本体育学会第66回大会，東京，2015

佐藤奏吉，藤本 元，會田 宏：ハンドボールにおける左サイドシュートプレーに関する一考察—世界レベル，日本レベル，学生レベルの男子選手を対象に—．日本ハンドボール学会第3回大会，東京，2015

吉兼練，藤本 元，會田 宏：世界トップレベルの男子ハンドボール競技における速攻の発展傾向．日本ハンドボール学会第3回大会，東京，2015

### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

Fujimoto H., Yabumoto T., Sugimori H., Shin S., Watanabe T., Matsuoka T.: Muscular Contraction Ability Develops in the Lower Trapezius Muscle of the Dominant Arm in Team Hand-Ball Players. *Advances in Bioscience and Biotechnology*, 6: pp. 368-374, 2015

内山治樹，阿江通良，中川 昭，真田 久，佐野 淳，西嶋尚彦，有田祐二，本谷 聡，斎藤 卓，クラリク・アンドレア，荻山 靖，椿本昇三，渡邊 仁，仙石泰雄，古屋朝映子，寺山由美，大山 卞圭悟，木越清信，金谷麻理子，中西康己，秋山 央，吉田健司，藤本 元，山田永子，中山雅雄，古川拓生，三橋大輔，川村 卓，吹田真士，安藤真太郎，奈良隆章，岡田弘隆，増地克之，香田郡秀，森 俊男，池田英治：「実技検定」の運用とその評価—「標準」モデルの検証—．筑波大学体育系紀要，38：pp. 93-109，2015

### 5. 受賞

平成26年度日本ハンドボール学会賞 男子ハンドボール競技における5対6の数的不利な状況での攻撃について：学生レベルと世界レベルとを比較して

平成27年体育方法専門領域奨励賞 男子ハンドボール競技における5対6の数的不利な状況での攻撃について

## 競技活動

### 2. 指導業績

関東学生ハンドボール春季リーグ 1部 第4位 監督

関東学生ハンドボール秋季リーグ 1部 優勝 監督

全日本学生ハンドボール選手権大会 3位 監督

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本ハンドボール協会 参事 (2015年～)

日本ハンドボール協会 指導委員長 (2015年～)

日本ハンドボール学会 理事 (2012年～)

## 助教 山田 永子

## 研究業績

### 1. 学会発表

山田永子：“私のコーチングから私たちのコーチングへ” 私の考えるコーチング論：ハンドボールのコーチング．日本体育学会第66回大会専門領域企画体育方法シンポジウム，東京，2015.8.

下拂 翔・山下純平・山田永子：ハンドボールにおけるゴールキーパーの「詰め」に関する一考察—実業団選手へのインタビューを基にして—．日本ハンドボール学会第3回大会，東京，2015.2.

### 4. 専門家，学生向け著書（事典，翻訳書等を含む）

山田永子・河野光星・関澤あすか・武田ひかり・服部友郎・濱谷奎介・日比敦史・廣實ゆかり・松本彩花・武蔵夏輝・下拂 翔：IHF ヤングスターと一緒にいきいきとしたプレーを学ぼう．イセブ，2015.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

山田永子：役割とシュートを極める『バックプレーヤー』Part1. 株式会社スポーツイベント・ハンドボール，37(5)，77-89，2015.

山田永子：役割とシュートを極める『バックプレーヤー』Part2. 株式会社スポーツイベント・ハンドボール，37(6)，86-101，2015.

山田永子：役割とシュートを極める『バックプレーヤー』Part3. 株式会社スポーツイベント・ハンドボール，37(7)，7-19，2015.

山田永子：役割とシュートを極める『バックプレーヤー』Part4. 株式会社スポーツイベント・ハンドボール，37(8)，45-59，2015.

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演など

茨城県ハンドボール協会 J級指導者講習会講師 (2015年1月)

常総市教育研究会体育・保健体育研究部員研究会講師 (2015年2月)

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学女子ハンドボール部

2015 全日本学生ハンドボール選手権大会 3位 監督

2015 年関東学生ハンドボール秋季大会 2位 監督

2015 年関東学生ハンドボール春季大会 1位 監督

茨城県成年女子ハンドボール

わかやま国体 5位 監督

日本代表女子 U-20 チーム コーチ

第3回東アジア U-22 選手権 2位 コーチ

第13回女子ジュニアアジア選手権 2位 コーチ

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本ハンドボール学会編集委員長 (2015年～)

日本ハンドボール学会理事 (2012年～)

日本コーチング学会理事 (2015年～)

公益財団法人日本体育協会モデル・コア・カリキュラム作成ワーキングメンバー (2014年～)

### 3. 競技会引率・帯同等

第3回東アジア U-22 選手権：台湾：コーチ

第13回女子ジュニアアジア選手権：カザフスタン：コーチ

文部科学省委託事業 H26 年度女性競技種目戦略的強化プログラム育成アスリート短期海外派遣兼育成スポーツ指導者研鑽活動：デンマーク：ヘッドコーチ

助 教 渡 邊 仁

## 研究業績

### 1. 学会発表

大友あかね, 佐藤冬果, 渡邊 仁：公園における親子を対象とした自然体験活動プログラムの可能性. 第19回日本キャンプ会議, 東京, 2015.5.

中村綱希, 渡邊 仁：キャンプ体験が参加児童の道徳性に与える影響. 第19回日本キャンプ会議, 東京, 2015.5.

水谷理, 渡邊 仁：工作体験（お箸づくり）を通じての安全で正しいナイフの使い方. 第19回日本キャンプ会議, 東京, 2015.5.

安齋麟太郎, 箱崎ひまり, 渡邊 仁：被災地域の子どものためのキャンプ—南会津アドベンチャーキャンプ—. 第19回日本キャンプ会議, 東京, 2015.5.

坂本昭裕, 杉岡品子, 吉松 梓, 渡邊 仁, 向後佑香：野外教育における心理臨床的アプローチ—思春期を生きる子どもの身体に学ぶ—. 日本野外教育学会第18回大会, 東京, 2015.6.

渡邊 仁, 井村 仁：大学スキー実習が参加学生のヒューマンコミュニティ創成マインドに及ぼす影響. 日本スキー学会 2015 年度研究会, 東京, 2015.9.

## 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

渡邊 仁，畠山陽美，佐藤冬果，向後佑香，東山昌央：キャンプ体験が被災地児童のメンタルヘルスと生きる力に及ぼす影響．キャンプ研究，18：13-19，2015.

高村直成，村井 剛，永嶋秀敏，渡邊 仁，福島邦男：ゲート滑走時のアルペンターンとテレマークターンの比較．中央大学保健体育研究所紀要，33：55-62，2015.

## 3. その他論文（報告書等）

渡邊 仁：スキーパトロール最前線．日本スキー学会シーハイル，84：8-10，2015.

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

大学スキー研究会「平成26年度大学体育スキー指導者研究集会 スノーボード」講師（長野，1月3～6日）

つくば市科学万博記念公園「親子で学ぶ野外活動体験学習」講師（茨城，3月1日）

立正大学サッカー部「野外研修プログラム」講師（筑波大学，3月10日）

クーベルタン・嘉納 ユースフォーラム「野外研修プログラム」講師（筑波大学，3月13日）

栃木 SC ジュニアユース「野外研修プログラム」講師（筑波大学，3月30日）

TOEL「南会津スキーキャンプ」実施責任者（福島，3月26日～29日）

下條整形外科「野外研修プログラム」講師（筑波大学，4月9日）

千葉県立八千代高等学校「野外研修プログラム」講師（筑波大学，4月23・30日）

公益財団法人日本サッカー協会「公認S級コーチ養成講習会野外研修」講師（筑波大学，5月9日）

公益財団法人日本水泳連盟「日本代表選手ASEプログラム」講師（筑波大学，5月12日）

一般財団法人全日本サッカー連盟「ユニバーシアード代表選手ASEプログラム」講師（静岡，6月23日）

TOEL「南会津アドベンチャーキャンプ」実施責任者（福島，8月2日～7日）

慶応義塾大学・福島大学女子バレーボール部「志田浜野外研修プログラム」講師（福島，8月24・25日）

テイエステック「野外研修プログラム」講師（筑波大学，8月26・27日）

公益社団法人日本キャンプ協会「キャンプディレクター1級養成講習会」講師（東京，11月13日）

茨城県ジュニア選手育成強化プログラム「チームワークコミュニケーションスキル」講師（筑波大学，11月14日）

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本野外教育学会理事（2012年～）

日本スキー学会理事（2012年～）

大学スキー研究会全国幹事（2011年～2015年／常任幹事（2015年～）

公益社団法人日本キャンプ協会運営委員（2012年～）

### 公共機関，企業等からの委託業務（研究以外）

公益社団法人日本キャンプ協会 Camp Meeting in Japan 2015 企画運営

日本スキー学会第25回大会組織委員

日本スキー学会2015年度研究会組織委員

第6回アジア・オセアニア・キャンプ会議2016研修・研究部会委員



## 研究業績

### 1. 学会発表

金丸雄介, 小野卓志, 岡田弘隆, 増地克之, 山口 香: 高校柔道選手の指導者に対する信頼感の競技レベルによる差異. 日本武道学会第48回大会, 東京, 2015.9.

### 2. 学術論文(原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

増地克之, 小林優希, 金丸雄介, 小野卓志, 秋本啓之, 法兼 真, 小倉大輝, 松井 崇: 大学男子柔道選手の合宿練習時における生理的および精神的コンディション. 講道館柔道科学研究会紀要, 15:103-114, 2015.

## 教育活動

### 2. 一般向け著書等(翻訳書等を含む)

小野卓志: 連載 第133回 入門!一流の技術. ベースボールマガジン社, 100-105, 2015 11月号

小野卓志: 連載 第134回 入門!一流の技術. ベースボールマガジン社, 92-97, 2015 12月号

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

虎ノ門スポーツ テレビ出演 (テレビ東京) 2015, 12, 6

柔道グランドスラム東京 テレビ解説 (テレビ東京) 2015, 12, 6

## 競技活動

### 2. 指導業績

平成27年全日本学生柔道優勝大会 優勝(男子コーチ)

平成27年全日本柔道選抜体重別選手権大会 81kg級 永瀬貴規 優勝(男子コーチ)

世界柔道選手権大会 81kg級 永瀬貴規 優勝(男子コーチ)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

全日本柔道連盟 アスリート委員 (2013~)

### 2. ボランティア活動

#### 2-d. その他のボランティア活動

常総市水害被害の救援活動: 茨城県・常総市: 9月

筑波大学社会貢献プロジェクト: 宮城県 登米市・福島県 南相馬市: 12月

## 特任助教 折 笠 愛

### 研究業績

#### 2. その他論文（報告書等）

松田裕雄，小俣よしのぶ，武田丈太郎，渡和由，高橋義雄，相原正道，岡田幸彦，濱崎元直，**折笠 愛**：  
スポーツ産業市場を活性化する起業家的人材育成プログラムの開発と実践．筑波大学リサーチグループ「スポーツ産業人育成プロジェクト」，2015．

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

茨城体育学会 編集委員（2015年～）

#### 2. ボランティア活動

##### 2-b. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

慶應義塾体育会バレーボール部女子 コーチ：2014年～2015年

## 特任助教 金 堀 哲 也

### 研究業績

#### 1. 学会発表

岡本嘉一，前原 淳，**金堀哲也**，南 学，川村 卓：低磁場四肢関節用 MRI を用いた野球肘検診の試み．  
第26回日本骨軟部放射線研究会，東京，2015.1.

馬見塚尚孝，川村 卓，**金堀哲也**：「素振りなし」ジュニア野球選手の長期育成介入研究・腰椎障害予防と競技力向上を目指して．第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会，兵庫，2015.11.

#### 2. 学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

**金堀哲也**，川村 卓，岡本嘉一，小倉 圭：大学野球選手の内野ノック守備における動作パターン．  
コーチング学研究 29 (1)，23-29.

### 教育活動

#### 2. 一般向け著書等（翻訳書等を含む）

立花龍司（監修），**金堀哲也**（協力）：プロ野球打者の共通フォーム&習得法．ベースボールマガジン社，  
2015.

**金堀哲也**：プロの一流打者の共通点&習得法．Hit & Run 3月号（ベースボールマガジン社），1月．

**金堀哲也**：ピッチングの正体 - 野球畑と指導畑の往来 -Vol.1. Hit & Run 5月号，ベースボールマガジン社，3月．

**金堀哲也**：ピッチングの正体 - 野球畑と指導畑の往来 -Vol.2. Hit & Run 7月号，ベースボールマガジン社，5月．

**金堀哲也**：ピッチングの正体 - 野球畑と指導畑の往来 -Vol.3. Hit & Run 9月号，ベースボールマガジン社，7月．

**金堀哲也**：ピッチングの正体 - 野球畑と指導畑の往来 -Vol.4. Hit & Run 1月号，ベースボールマガジン

社, 11月.

### 3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

第10回つくば野球研究会 野球の打撃コーチングの現場と科学 - ジュニアから大学生の指導事例から  
講演 (12月5日)

## 社会貢献活動

### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本コーチング学会幹事 (2015年~)

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

星空野球教室コーチ: 茨城県・つくば市: 毎週2回

#### 2-d. その他のボランティア活動

常総市水害被害の救援活動: 茨城県・常総市: 9月

## 公共機関, 企業等からの委託業務 (研究以外)

「スパイクのインソール」に対するコメント (ゼット株式会社)

特任助教 荻山 靖

## 研究業績

### 1. 学会発表

高橋和孝, 吉田拓矢, 荻山 靖, 坂口将太, 林 陵平, 宮代賢治, 関子浩二: 伸張・短縮サイクル運動を強調した体幹捻転トレーニングが各投・打運動の能力と体幹筋横断面積に及ぼす影響. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.

関子あまね, 荻山 靖, 関子浩二: リバウンドジャンプにおけるパフォーマンス変数および下肢関節キネティクスの縦断的变化とそのアセスメント. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.

中 宗一郎, 吉田拓矢, 荻山 靖, 関子あまね, 関子浩二: ドロップジャンプにおけるパフォーマンスに至る時系列的な運動連関の究明. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.

松尾真以子, 林 陵平, 荻山 靖, 金井 瞳, 関子浩二: 幼児のための新しい投能力テスト法の開発 - 体重と手の大きさによるボール選択の必要性に着目して -. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.

金井 瞳, 坂口将太, 林 陵平, 荻山 靖, 関子浩二: 年少児から年長児までの3年間に渡るリバウンドジャンプ能力の縦断的变化. 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015. 8.

Yoshida, T., Kariyama, Y., Hayashi, R., Takahashi, K., Zushi, A. and Zushi, K. Development of multistep drop jump test by using different drop heights. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.

Zushi, A., Kariyama, Y., Yoshida, T., Hayashi, R., Takahashi, K. and Zushi, K. Development of a new assessment method for the rebound jump test. XXXIII-th Congress of the International

- Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Naito, H., **Kariyama, Y.**, Yamamoto, K. and Tanigawa, S. Sprint step-type specific characteristics of anthropometric and kinematic variables in sprinting acceleration. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Hayashi, R., **Kariyama, Y.**, Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and Zushi, K. Comparison of pull and catch phases during clean exercise. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Kariyama, Y.**, Hayashi, R., Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and Zushi, K. The effect of increasing jump steps on the take-off leg in bounding. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Takahashi, K., Yamada, K., **Kariyama, Y.**, Hayashi, R., Yoshida, T., Zushi, A. and Zushi, K. The characteristics of hitting motion using bats having different length and mass but equal moment of inertia. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.
- Zushi, A., **Kariyama, Y.**, Yoshida, T., Hayashi, R., Takahashi, K. and Zushi, K. A new assessment method using a combination of joint kinetics and performance variables during the rebound jump test. XX-th annual Congress of the European College SPORT SCIENCE, Malmö, Sweden: 2015. 6.
- Kariyama, Y.**, Hayashi, R., Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and Zushi, K. The effect of increasing jump steps on the take-off leg joint kinetics in bounding. XX-th annual Congress of the European College SPORT SCIENCE, Malmö, Sweden, 2015. 6.
- Takahashi, K., Yamada, K., **Kariyama, Y.**, Hayashi, R., Yoshida, T., Zushi, A. and Zushi, K. Differences in trunk twist motion using long or heavy bats with equal moments of inertia. XX-th annual Congress of the European College SPORT SCIENCE, Malmö, Sweden, 2015. 6.
- Yoshida, T., Hayashi, R., **Kariyama, Y.**, Takahashi, K., Zushi, A., Maruyama, A. and Zushi, K. Relationship between intracortical inhibition during preset and performance during drop jump. XX-th annual Congress of the European College SPORT SCIENCE, Malmö, Sweden, 2015. 6.
- 戸邊直人, **荻山 靖**, 関子浩二: 3D キネティクスを用いた男子走高跳トップジャンパーの技術評価. 日本コーチング学会第 26 回大会, 大阪, 2015. 3.
- 関子あまね, **荻山 靖**, 関子浩二: リバウンドジャンプテストによる下肢 3 関節の筋力・パワーアセスメント法. 日本コーチング学会第 26 回大会, 大阪, 2015. 3.
- 福田将司, 吉田拓矢, **荻山 靖**, 関子浩二: 野球の 2 塁打走における合理的なベースランニング法. 日本コーチング学会第 26 回大会, 大阪, 2015. 3.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

- 荻山 靖**, 関子浩二: バウンディングにおける Stiffness 特性へ影響する踏切脚の力およびパワー発揮: リバウンドジャンプとの比較から. 体育学研究, 60(1): 137-150, 2015.
- 成相美紀, 白木 仁, 吉田成仁, **荻山 靖**, 宮川俊平: 台高の異なる片脚リバウンドジャンプのバイオメカニクスの分析. 臨床スポーツ医学, 23(2): 252-259, 2015.
- Yoshida, T., **Kariyama, Y.**, Hayashi, R., Takahashi, K., Zushi, A. and Zushi, K. : Development of multistep drop jump test by using different drop heights. Proceedings of the XXXIII-th

Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 238-241, 2015. 6.

Zushi, A., **Kariyama, Y.**, Yoshida, T., Hayashi, R., Takahashi, K. and Zushi, K. : Development of a new assessment method for the rebound jump test. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 277-280, 2015. 6.

Naito, H., **Kariyama, Y.**, Yamamoto, K. and Tanigawa, S. : Sprint step-type specific characteristics of anthropometric and kinematic variables in sprinting acceleration. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, 338-341, Poitiers, France. 2015. 6.

Hayashi, R., **Kariyama, Y.**, Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and Zushi, K. : Comparison of pull and catch phases during clean exercise. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 346-349, 2015. 6.

**Kariyama, Y.**, Hayashi, R., Yoshida, T., Takahashi, K., Zushi, A. and Zushi, K. : The effect of increasing jump steps on the take-off leg in bounding. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 694-697, 2015. 6.

Takahashi, K., Yamada, K., **Kariyama, Y.**, Hayashi, R., Yoshida, T., Zushi, A. and Zushi, K. : The characteristics of hitting motion using bats having different length and mass but equal moment of inertia. Proceedings of the XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 702-705, 2015. 6.

### 3. その他論文（報告書等）

内山治樹, 阿江通良, 中川 昭, 真田 久, 佐野 淳, 西嶋尚彦, 有田祐二, 本谷 聡, 齋藤 卓, KRALIK ANDREA, **蒔山 靖**, 椿本昇三, 渡邊 仁, 仙石泰雄, 古屋朝映子, 寺山由美, 大山 卞 圭悟, 木越清信, 金谷麻理子, 中西康己, 秋山 央, 吉田健司, 藤本 元, 山田永子, 中山雅雄, 古川拓生, 三橋大輔, 川村 卓, 吹田真士, 安藤真太郎, 奈良隆章, 岡田弘隆, 増地克之, 香田郡秀, 森 俊男:「実技検定」の運用とその評価ー「標準」モデルの検証ー. 筑波大学体育系紀要, 38: 93-109, 2015.

**蒔山 靖**, 関子浩二: コーチング学会に関連する各スポーツ分野の専門学術領域の最新動向. コーチング学研究, 28(2): 230-234, 2015.

### 5. 受賞

若手研究 奨励賞 (共同): 関子あまね, **蒔山 靖**, 関子浩二: リバウンドジャンプにおけるパフォーマンス変数および下肢関節キネティクスの縦断的变化とそのアセスメント. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015. 8.

New Investigator Award, Poster, 1st (共同): Naito, H., **Kariyama, Y.**, Yamamoto, K. and Tanigawa, S. : Sprint step-type specific characteristics of anthropometric and kinematic variables in sprinting acceleration. XXXIII-th Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, Poitiers, France. 2015. 7.

学会賞 (共同): 戸邊直人, **蒔山 靖**, 関子浩二: 3D キネティクスを用いた男子走高跳トップジャンパーの技術評価. 日本コーチング学会第 26 回大会, 大阪, 2015. 3.

特任助教 クラリク アンドレア

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

筑波大学公開講座 スポーツ教室「弓道」(春季 5-6月(8日間) 秋季 9-11月(8日間))

競技活動

1. 自身の競技業績

平成 27 年度 (第 129 回) 明治神宮奉納全国弓道大会 予選

2. 指導業績

第 39 回全日本大学生弓道女子王座決定戦 トーナメント ベスト 8 コーチ

特任助教 坂 谷 充

研究業績

1. 学会発表

中野友博, 坂谷 充: 幼少期の自然体験活動の取り組みーびわこちびっこキャンパー. 関西野外活動ミーティング 2015, 大阪, 2015.3.

清水史郎, 中野友博, 黒澤 毅, 坂谷 充: 膝関節と股関節の屈曲・伸展による能動型ターンモデルの開発. 日本スキー学会 2015 年度研究会, 東京, 2015.9.

2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

坂谷 充, 黒澤 毅: ASE を通じた家族内の新たな気づきに関する研究. びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要, 12: 83-92, 2015.

3. その他論文 (報告書等)

坂谷 充: 日本スキー学会第 25 回大会報告. 日本スキー学会シーハイル, 85: 6, 2015.

坂谷 充: スキー研究の最新事情「学校教育とスキー体験学習」. 日本スキー学会シーハイル, 86: 4-6, 2015.

教育活動

3. 一般向け教室, 講演, マスコミ出演等

茨城県ジュニア選手育成強化プログラム「チームワークコミュニケーションスキル」 講師 (11 月 14 日)  
とわの森三愛高校「野外研修」 講師 (10 月 14 日)

株式会社パル「グループワーク研修」 講師 (9 月 5 日)

TS TECH CO., LTD. 「Outdoor Training Program」 講師 (8 月 26 日~ 27 日)

慶応義塾大学体育会バレーボール部・福島大学バレーボール部 (女子) 「サマーキャンプ」 (野外活動 ASE プログラム) 講師 (8 月 24 日~ 25 日)

下妻第一高等学校バスケットボール部「チームビルディング」 講師 (8 月 23 日)

立命館守山中学校 (2 年生) 校外学習登山「比良山チャレンジ」 現場責任者 (4 月 24 日)

特任助教 田部井 祐 介

研究業績

1. 学会発表

- Tabei Y, Nakayama M, Asai T: Preventing athlete burnout among Japanese adolescent soccer players. 8<sup>th</sup> World Congress on Science and Football, Copenhagen, 2015. 5
- 松竹貴大, 夏原隆之, 田部井祐介, 中山雅雄, 浅井 武: サッカー選手の判断時における脳内情報処理過程. 日本スポーツ心理学会第42回大会, 福岡, 2015. 11

競技活動

2. 指導業績

- <筑波大学体育会女子サッカー部 ヘッドコーチとしての指導実績>
- 第29回 関東大学女子サッカーリーグ 10位
- 第21回 関東女子サッカーリーグ 7位
- 第37回 全日本女子サッカー選手権大会（皇后杯）出場

社会貢献活動

1. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

- 関東大学女子サッカー連盟理事（2014～）
- 大学女子サッカー地域対抗戦2015 西関東選抜 コーチ
- 第11回東西対抗戦 西関東選抜 コーチ

特任助教 角 川 隆 明

研究業績

1. 学会発表

- 角川隆明, 津野天兵, 成田健造, 萬久博敏, 荻田 太, 仙石泰雄, 椿本昇三, 高木英樹: 水中モーションキャプチャシステムと圧力分布計測を用いたクロールの上肢動作の分析. 日本水泳・水中運動学会2015年次大会, 東京, 2015.10.

2. 学術論文（原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等）

- 角川隆明, 仙石泰雄, 椿本昇三, 高木英樹: 平泳ぎキック動作中に働く非定常流体力と足部表面の圧力分布の関係. 体育学研究, 60: 165-175, 2015.
- Tsunokawa T, Nakashima M, Takagi H: Use of pressure distribution analysis to estimate fluid forces around a foot during breaststroke kicking. Sports Engineering, 18: 149-156, 2015.

5. 受賞

- 第29回筑波大学河本体育科学研究奨励賞「Use of pressure distribution analysis to estimate fluid

forces around a foot during breaststroke kicking」

日本水泳・水中運動学会 2015 年次大会研究奨励賞「水中モーションキャプチャシステムと圧力分布計測を用いたクロールの上肢動作の分析」

## 社会貢献活動

### 3. 競技会引率・帯同等

第 91 回日本選手権水泳競技大会：東京：コーチ

第 91 回日本学生選手権水泳競技大会：静岡：コーチ

特任助教 内 藤 景

## 研究業績

### 1. 学会発表

Naito H., Kariyama Y., Yamamoto K., Tanigawa S: Sprint step-type specific characteristics of anthropometric and kinematic variables in sprinting acceleration. The 33<sup>rd</sup> Congress of the International Society of Biomechanics in Sports, France, 2015. 7.

山元康平, 関慶太郎, 宮代賢治, 梶谷亮輔, 内藤 景, 木越清信, 尾縣 貢: 陸上競技 400m 走におけるレースパターンタイプの異なる競技者の疾走動態. 日本スプリント学会第 26 回大会, 鹿児島, 2015. 10.

### 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

谷川 聡, 内藤 景: スプリントハードルトレーニングのためのバイオメカニクス知見の活かし方. バイオメカニクス研究, 18(3): 157-169, 2015.

岡野憲一, 内藤 景, 谷川 聡: 天皇杯全日本バレーボール選手権大会優勝チーム選手における形態および跳躍能力の特徴. コーチング学研究, 28 (2): 141-150, 2015.

岡野憲一, 谷川 聡, 内藤 景, 奥本 正: コンプレックストレーニングが大学男子バレーボール選手の跳躍力および筋力, パワーに及ぼす影響. バレーボール研究, 17(1): 12-18, 2015.

Naito H., Kariyama Y., Yamamoto K., Tanigawa S: Sprint step-type specific characteristics of anthropometric and kinematic variables in sprinting acceleration. Proceedings of the 33<sup>rd</sup> Congress of the International Society of Biomechanics in Sports: 338-341, 2015.

宮代賢治, 山元康平, 内藤 景, 谷川 聡, 西嶋尚彦: 男子 100m 走における記録・身長・風速別の標準通過時間および標準区間時間. スポーツパフォーマンス研究, 7, 356-369, 2015.

### 3. その他論文 (報告書等)

山元康平, 内藤 景, 木越清信, 尾縣 貢: 陸上競技女子ロングスプリント競技者のパフォーマンス変化に伴うレースパターンおよび技術・体力要因の変化に関する実践的事例研究. コーチング学研究, 28(2): 213-217, 2015.

内藤 景, 山元康平, 宮代賢治, 谷川 聡: 100m レースの疾走速度向上に伴うピッチとストライドの変動. スプリント研究, 24: 143-146, 2015.



## 5. 受賞

New Investigator Award 1<sup>st</sup>, International Society of Biomechanics in Sports 2015. Sprint step-type specific characteristics of anthropometric and kinematic variables in sprinting acceleration.

## 競技活動

### 2. 指導業績

筑波大学陸上競技部アシスタントコーチ

## 社会貢献活動

### 2. ボランティア活動

#### 2-a. 日常的、定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

佼成学園女子高等学校ハンドボール部トレーニングコーチ：東京都・杉並区：2015年4月，7月，9月

特任助教      中 野 美 沙

## 研究業績

### 1. 学会発表

中野美沙，大山下圭悟，尾縣 貢：女子やり投げ競技者における下肢のトレーニングがやり投げ動作に与える影響．第26回日本コーチング学会大会，大阪，2015.3.

中野美沙，大山下圭悟，尾縣 貢：女子やり投げ競技者の体力水準．第14回日本陸上競技学会大会，東京，2015.11.

Hoang The Nguyen, 前田 奎，廣瀬健一，中野美沙，大山下圭悟：シーズンを通じた身体意識の変化が投てき動作に与える影響．第14回日本陸上競技学会大会，東京，2015.11.

## 教育活動

### 3. 一般向け教室，講演，マスコミ出演等

和歌山県立桐蔭高等学校「桐蔭総合大学」講師（3月16日）

## 競技活動

### 2. 指導業績

以下，筑波大学陸上競技部アシスタントコーチとしての指導業績

第99回日本陸上競技選手権大会

男子

ハンマー投      6位   保坂雄志郎

女子

ハンマー投      2位   勝山眸美

やり投            7位   久世生宝

第69回国民体育大会

成年女子ハンマー投   5位   勝山眸美

成年女子やり投        4位   久世生宝

天皇賜杯 第83回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子

砲丸投 3位 森下大地  
5位 赤間祐一  
ハンマー投 1位 保坂雄志郎  
やり投 8位 村澤裕雄平  
男子総合得点 6位

女子

円盤投 2位 辻川美乃利  
8位 知念莉子  
ハンマー投 3位 勝山眸美  
4位 江原宇宙  
やり投 3位 久世生宝  
女子総合得点 2位

#### 2015 日本学生陸上競技個人選手権大会

男子

やり投 5位 眞里谷健司  
8位 村澤雄平

女子

円盤投 3位 辻川美乃利  
8位 知念莉子

#### 第 31 回日本ジュニア陸上競技選手権大会

男子

やり投 4位 村澤雄平  
6位 猿渡裕貴

女子

ハンマー投 2位 江原宇宙

### 社会貢献活動

#### 1. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本陸上競技学会幹事（2014年～）

特任助教 朴 京 眞

### 研究業績

#### 1. 学会発表

Park K., Murata Y., Yamazaki A.: Background and significance of adopting rhythmic dance as curriculum of PE in Japan, 20th Annual Congress of the European College of Sport Science, Malmö, 2015. 6.

朴 京眞, 村田芳子, 山崎朱音, 伊藤茉野: 教員養成課程の大学におけるダンス授業の課題—受講学生の受け止めから—. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

山崎朱音, 村田芳子, 朴 京眞, 伊藤茉野: 創作ダンスの「即興表現」における学習者の動きを引き出す指導ー「ひと流れの動き」に着目してー. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

伊藤茉野, 村田芳子, 山崎朱音, 朴 京眞: ダンスの即興表現における「他者との関わり」に関する検討ー 2 人組の活動形態の違いに着目してー. 日本体育学会第 66 回大会, 東京, 2015.8.

朴 京眞, 村田芳子, 山崎朱音, 伊藤茉野: 大学の教員養成課程におけるダンス授業の実態調査ー 2014 年度シラバスの検討を通してー. 日本スポーツ教育学会第 35 回記念国際大会, 東京, 2015.9.

山崎朱音, 村田芳子, 朴 京眞: 「ひと流れの動き」に着目した創作ダンスの指導. 日本スポーツ教育学会第 35 回記念国際大会, 東京, 2015.9.

## 2. 学術論文 (原著論文, 総説, 研究資料, 実践研究等)

朴 京眞, 村田芳子, 山崎朱音: 日韓の新ナショナルカリキュラムにおけるダンスに関する内容の具体化と比較検討: 韓国の「体育」教科書を用いて. 体育学研究, 60 (2): 715-736, 2015.

## 3. その他論文 (報告書等)

嵯峨 寿, 秋山 央, 福田 崇, 奈良隆章, 朴 京眞, 本間三和子: 体育センターによる平成 26 年度筑波大学重点公開講座の計画に当って. 大学体育研究, 37: 59-61, 2015.

## 4. 専門家, 学生向け著書 (事典, 翻訳書等を含む)

村田芳子, 朴 京眞: 多様なテーマからの即興表現ー表現への【その気スイッチ】と【本気スイッチ】ー. 女子体育, 57 (8・9): 50-55.

村田芳子, 朴 京眞: ロックやヒップホップのリズムに乗ってー音楽のリズムを感じて自由に踊ろうー. 女子体育, 57 (8・9): 62-67.

## 社会貢献活動

日本女子体育連盟発刊雑誌「女子体育」編集委員 (平成 26 年～)

# 索引

## 体育・スポーツ学

氏名	頁
岡出美則	1
菊幸一	2
齋藤健司	5
酒井利信	6
坂入洋右	7
真田久	9
清水諭	11
清水紀宏	12
中込四郎	13
松村和則	15
柳沢和雄	16
ラクワールランディープ	17
大石純子	19
齊藤まゆみ	21
嵯峨寿	22
澤江幸則	23
高橋義雄	26
仲澤眞	27
長谷川悦示	28
深澤浩洋	29
三木ひろみ	30
三田部勇	31
宮崎明世	32
金子史弥	32
國部雅大	33
成瀬和弥	34
山口拓	34
李燦雨	35
荒牧亜衣	36
松畑尚子	37
村上祐介	37
笠野英弘	38

## 健康体力学

氏名	頁
阿江通良	41
大森肇	42
木塚朝博	46
久野譜也	47
白木仁	54
征矢英昭	55
田神一美	59
武田文	60
武政徹	62
田中喜代次	63
徳山薫平	69
鍋倉賢治	70
西嶋尚彦	73
西平賀昭	75
西保岳	75
野津有司	78
藤井範久	80
本田靖	82
前田清司	85
水上勝義	89
宮川俊平	91
足立和隆	93
榎本靖士	94
大藏倫博	96
小野誠司	100
麻見直美	101
小池関也	105
柴田愛	106
竹村雅裕	107
橋本佐由理	110
向井直樹	113
渡部厚一	114
赤澤暢彦	116
岡本正洋	118
片岡千恵	119

福田崇	120
松井崇	121
久保大輔	122
辻本健彦	123
藁科侑希	125

## コーチング学

氏名	頁
會田宏	129
浅井武	130
井村仁	131
内山治樹	131
大高敏弘	132
尾縣貢	133
木内敦詞	135
香田郡秀	137
小俣幸嗣	138
坂本昭裕	139
佐野淳	141
凵子浩二	141
高木英樹	147
椿本昇三	148
中川昭	150
長谷川聖修	151
本間三和子	153
村田芳子	155
山田幸雄	157
渡辺良夫	158
有田祐二	158
大山下圭悟	160
岡田弘隆	163
金谷麻理子	164
河合季信	165
川村卓	166
谷川聡	170
寺山由美	171
中西康己	172
中村剛	173

中山雅雄	173
鍋山隆弘	175
平山素子	176
古川拓生	177
増地克之	178
松元剛	179
三橋大輔	181
山口香	182
吉田健司	184
安藤真太郎	185
本谷聡	185
秋山央	187
木越清信	188
小井土正亮	189
斎藤卓	189
嶋崎達也	189
吹田真士	190
仙石泰雄	191
奈良隆章	194
ネメシュ ローランド	194
藤本元	195
山田永子	196
渡邊仁	197
小野卓志	199
折笠愛	200
金堀哲也	200
荻山靖	201
クラリク アンドレア	204
坂谷充	204
田部井祐介	205
角川隆明	205
内藤景	206
中野美沙	207
朴京眞	208

平成 28 年 3 月発行

発行者 筑波大学体育系長 中川 昭  
〒 305-8574 茨城県つくば市天王台 1-1-1  
電 話 029 - 853 - 2590

印 刷 前田印刷株式会社  
〒 305-0836 茨城県つくば市山中 152-4  
電 話 029 - 875 - 6696

